NEC

vDC Automation Standard Edition

ポータル利用者マニュアル(リソース管理編)
トポロジテンプレート
オーケストレータオプション

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複写することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- SigmaSystemCenter、WebSAM は日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows ロゴ、Windows Server、Internet Explorer、および SQL Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、Itanium は、Intel 社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apache、Apache Tomcat、Tomcat は、Apache SoftwareFoundation の登録商標または商標です。
- Firefox は Mozilla Foundation の登録商標または商標です。
- Google Chrome は Google Inc.の登録商標または商標です。
- OpenStack のワードマーク及びロゴは、OpenStack Foundation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- MySQL は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、®マーク、™マークは本書に明記しておりません。

改版履歴

表　マニュアル更新履歴

番号	章・項	改版内容
初版		
—	—	—
第 2 版		
1	全体	文書内イメージの修正

目次

第 1 編 はじめに 1

第 1 章 vDC Automation Standard Edition とは 2
1.1 vDCA SE ポータルで出来ること 3
1.1.1 サーバ利用申請（リクエスト）の管理 3
1.1.2 ネットワーク利用申請（リクエスト）の管理 4
1.1.3 リソース利用状況の確認 4
1.1.4 サーバの電源操作 4
1.1.5 ダッシュボード機能 4
1.1.6 ユーザ管理/テナント管理 5
1.1.7 リクエスト管理 5
1.1.8 ハイブリッドクラウド管理 5
1.1.9 マルチデータセンタ連携機能 6
1.1.10 カスタムオペレーション実行 6
1.1.11 スタック利用申請（リクエスト）の管理 6
1.1.12 スタック管理 7

第 2 編 ポータルを運用する 8

第 2 章 運用の概要 9
2.1 vDCA SE ポータルを運用するにあたっての注意・制限事項 9
2.2 vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションを運用するにあたっての注意・制限事項 10
2.3 リソース管理機能使用時の全体の流れ 10

第 3 章 運用の流れ 12
3.1 ポータルの運用設定をする 12
3.2 テナントを登録する 13
3.3 テナント管理組織を設定する 15
3.4 サービスカタログを新規契約する 15
3.5 サービスカタログを更新する 16
3.6 サービスカタログを解約する 17
3.7 サービスカタログを確認する 18
3.8 サービスを運用する 18
3.9 メンテナンスする 19
3.10 テナントを解約する 19

第 3 編 運用を開始する前に 21

第 4 章 冗長・クラスタ構成の運用設定 22
4.1 設定ファイルの管理方法 22
4.2 クラスタ共有ディスクの設定方法 23

第 5 章 シングルサインオン連携の設定 24
5.1 シングルサインオン機能とは 24
5.2 事前準備 24
5.3 パラメータの収集 25
5.4 入手した情報の設定 25
5.5 認証サーバ の設定 26
5.6 シングルサインオン連携の動作確認 27

5.7 シングルサインオン連携時に vDCA SE ポータル の独自認証機能を利用する 27
5.8 シングルサインオン連携時の vDCA SE ポータル の独自認証機能を無効化する 28
5.8.1 ユーザ定義 CSS ファイルの編集 28
5.8.2 アプリケーションサーバの設定ファイルの編集 28
第 6 章 マルチデータセンタ連携の設定....29
6.1 マルチデータセンタ連携とは 29
6.2 連携リージョン設定ファイルの編集....29
第 7 章 ログイン直後の設定....30
7.1 システム管理者ユーザの作成 30
7.2 ビルトインユーザの無効化 30
第 8 章 SigmaSystemCenter の設定....31
8.1 設定ファイルの編集....31
8.2 VM コンソールプロキシの設定 34
第 9 章 物理サーバの運用について 35
第 10 章 サーバサービスカタログの設定....39
10.1 プライベートクラウド用のサーバサービスカタログの設定....39
10.1.1 カタログ表示名とスペックの設定....39
10.1.2 カタログの公開制限設定 42
10.1.3 カタログのソート設定 44
10.1.4 ディスクタグの設定....44
10.1.4.1 ディスクタグ設定ファイルを作成する 46
10.1.4.2 ディスクタグを定義する 49
10.2 Amazon EC2 用のサーバサービスカタログの設定....54
10.3 Azure Virtual Machine 用のサーバサービスカタログの設定 58
10.4 Oracle Cloud 用の DB システムサービスカタログの設定....64
第 11 章 ネットワークサービスカタログの設定 75
11.1 ネットワーク設定....75
11.2 スイッチ設定....76
第 12 章 ハイブリッドクラウドの運用設定....78
12.1 パブリッククラウドリソースを取り込む場合の設定....78
12.1.1 パブリックリソース登録 79
12.1.2 パブリックリソースパスの設定....83
12.1.3 セキュリティグループの登録 84
12.2 パブリッククラウド上にサーバリソースを作成・削除する場合の設定 85
12.2.1 Amazon Elastic Compute Cloud にサーバリソースを作成・削除する場合の設定....85
12.2.2 Microsoft Azure にサーバリソースを作成・削除する場合の設定....86
12.3 パブリッククラウド上のサーバをカスタムオペレーション実行リクエストの対象にする 87
第 13 章 ウィジェット選択肢の設定 88
13.1 ウィジェット選択肢ファイルを作成する 88
13.1.1 widgets.properties を作成する 88
13.1.2 widgets_*[Locale]*.properties を作成する 89
13.1.3 置換パラメータについて 90
13.2 デフォルトウィジェット定義ファイルを編集する 91

13.3 プリセットのウィジェット選択肢ファイルを編集する.....91
第 14 章 簡易サイト連携の設定.....93
14.1 簡易サイト連携機能とは.....93
14.2 簡易サイト連携利用手順.....93
14.3 その他のオプション.....94
第 15 章 カスタムオペレーション設定.....95
15.1 JobCenter との接続設定.....96
15.2 カスタムオペレーション定義ファイルの作成.....96
第 16 章 拡張処理の設定.....105
16.1 リクエストの状態遷移前後処理の設定.....105
16.1.1 拡張処理の有効化.....105
16.1.2 置換パラメータ.....108
16.1.3 拡張パラメータ.....110
16.1.4 実行環境.....112
16.1.5 成功・失敗判定.....112
16.1.6 失敗時の動き.....115
16.1.7 拡張処理の実行ログ.....116
16.2 テナントの登録または削除前後の設定.....119
16.2.1 拡張処理の有効化.....119
16.2.2 置換パラメータ.....121
16.2.3 実行環境.....121
16.2.4 成功・失敗判定.....121
16.2.5 失敗時の動き.....123
16.2.6 拡張処理の実行ログ.....123
第 17 章 ロール設定.....126
第 18 章 API 設定について.....127
18.1 API キーの利用について.....127
18.2 リクエストテンプレート.....127
第 19 章 vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションの有効化.....129
19.1 設定方法.....129
第 20 章 vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションのサーバサービスカタログ設定.....131
20.1 サービスカタログのデフォルト値転記.....132
20.2 サービスカタログのカスタム値転記.....134
20.2.1 フレーバー設定.....135
20.2.2 イメージ設定.....137
20.2.3 ディスクプロファイル設定.....138
20.2.3.1 ディスクタグ設定を行っていない場合のディスクプロファイル設定.....139
20.2.3.2 ディスクタグ設定を行っている場合のディスクプロファイル設定.....141
第 21 章 スタック管理サーバの運用設定.....164
21.1 設定ファイルの配置.....164
21.2 SigmaSystemCenter との接続設定.....164
21.3 管理ネットワークの設定.....164
21.4 ネットワークの設定.....164
第 22 章 ビルトイントポロジテンプレートの設定.....165

22.1 ビルトイントポロジテンプレートの設定方法 165
22.2 ビルトイントポロジテンプレートの配置 166

第 4 編 基本操作編 167

第 23 章 ユーザ権限 168
23.1 ユーザ種別によるロール 168

第 24 章 ログイン 171
24.1 GUI に接続する 171
24.2 ログインする 171

第 25 章 画面構成 174

第 26 章 ログインユーザの操作 175
26.1 ログインユーザの詳細情報を確認する 175
26.2 ログインユーザ情報を変更する 176
26.3 ログインパスワードを変更する 177
26.4 テナントの代行（システム管理者のみ） 178
26.5 ログアウトする 179

第 5 編 管理者操作編 180

第 27 章 ダッシュボード 181
27.1 ウィジェットの表示 181
27.2 ウィジェットの追加 181
27.3 ウィジェットの削除 183
27.4 ウィジェットの表示順・サイズの変更 184
27.5 ウィジェットの設定の保存 186
27.6 ウィジェットの設定の破棄 186
27.7 ダッシュボード(デフォルト) 187
27.7.1 お知らせ 188
27.7.2 未承認リクエスト（管理者） 188

第 28 章 リクエスト（管理者） 189
28.1 リクエスト管理（管理者） 189
28.1.1 リクエスト一覧 189
28.1.2 リクエストの詳細情報を確認する 190
28.1.3 リクエストを承認する 194
28.1.4 リクエストを却下する 195
28.1.5 リクエストのエラー解除 195
28.2 承認フロー設定 196
28.2.1 承認フロー設定の承認パターン 197
28.2.2 システム用承認フロー設定 198

第 29 章 テナント情報（管理者） 201
29.1 テナント管理（管理者） 201
29.1.1 テナント一覧（管理者） 201
29.1.2 テナントを追加する 202
29.1.3 テナントの詳細情報を確認する 203
29.1.4 テナントを編集する 203
29.1.5 テナントを削除する 205
29.2 ユーザ管理 205
29.2.1 ユーザ一覧（管理者） 205
29.2.2 ユーザを登録する（管理者） 207

29.2.3 ユーザの詳細情報を確認する（管理者）.....210
29.2.4 ユーザの情報を変更する.....211
29.2.5 パスワードを変更する.....212
29.2.6 ユーザを削除する.....213
第 30 章 リソース管理.....214
30.1 リソース状況（管理者）.....214
30.1.1 リソース状況の確認（管理者）.....214
30.2 業務グループ管理（管理者）.....215
30.2.1 業務グループ一覧（管理者）.....216
30.2.2 業務グループ詳細.....217
30.3 サーバ管理（管理者）.....217
30.3.1 サーバ一覧.....218
30.3.2 サーバの詳細情報を確認する.....219
30.3.2.1 【システム】.....220
30.3.2.2 【ネットワーク】.....221
30.3.2.3 【ディスク】.....221
30.3.2.4 【スクリーンショット】.....222
30.3.2.5 【付加情報】.....222
30.4 ネットワーク管理（管理者）.....223
30.4.1 ネットワーク一覧（管理者）.....223
30.4.2 ネットワークの詳細情報を確認する（管理者）.....224
30.4.2.1 【情報】.....224
30.4.2.2 【アドレスプール(IPv4)】.....225
30.4.2.3 【アドレスプール(IPv6)】.....226
30.5 運用作業履歴（管理者）.....226
30.5.1 運用作業履歴一覧（管理者）.....227
30.5.2 運用作業履歴の詳細情報を確認する（管理者）.....228
第 31 章 サービス管理.....230
31.1 メンテナンス管理.....230
31.1.1 メンテナンス一覧.....230
31.1.2 メンテナンスを登録する.....231
31.1.3 メンテナンス中の動作.....233
31.1.4 メンテナンスの詳細情報を確認する.....233
31.1.5 メンテナンスを変更する.....234
31.1.6 メンテナンスを削除する.....235
31.2 お知らせ管理.....235
31.2.1 お知らせ一覧.....235
31.2.2 お知らせを登録する.....236
31.2.3 お知らせの詳細情報を確認する.....238
31.2.4 お知らせの内容を変更する.....239
31.2.5 お知らせを削除する.....239
第 32 章 スタック管理（管理者）.....241
32.1 スタック一覧.....241
32.2 スタックの詳細情報を確認する.....242
32.2.1 【詳細】.....242
32.2.2 【トポロジー】.....243
32.2.3 【リソース】.....243
32.2.3.1 【サーバ】.....244
32.2.3.2 【ネットワーク】.....245
32.2.4 【トポロジーテンプレート】.....246

第 33 章 設定 248
33.1 メール通知 248
33.1.1 メール通知で利用可能な置換文字列....248
33.1.2 メール内容の既定値(メールテンプレート) 250
33.1.3 メール通知用設定項目の編集 255
33.2 運用設定 255
33.2.1 運用設定情報を確認する 256
33.2.2 運用設定を編集する 257

第 6 編 利用者操作編....259

第 34 章 ダッシュボード....260
34.1 ウィジェットの表示....260
34.2 ウィジェットの追加....260
34.3 ウィジェットの削除....262
34.4 ウィジェットの表示順・サイズの変更....263
34.5 ウィジェットの設定の保存 264
34.6 ウィジェットの設定の破棄 265
34.7 ダッシュボード(デフォルト)....266
34.7.1 お知らせ 266
34.7.2 未承認リクエスト（利用者） 267

第 35 章 リクエスト（利用者） 268
35.1 リクエスト管理（利用者） 268
35.1.1 リクエスト一覧....268
35.1.2 リクエストを作成する 269
35.1.2.1 サーバ作成リクエスト 271
35.1.2.2 サーバ変更リクエスト 286
35.1.2.3 サーバ削除リクエスト 288
35.1.2.4 論理ネットワーク作成リクエスト....289
35.1.2.5 ネットワーク削除リクエスト....292
35.1.2.6 カスタムオペレーション実行リクエスト 293
35.1.3 スタックリクエストを作成する....297
35.1.3.1 スタック作成リクエスト 298
35.1.3.2 スタック削除リクエスト 303
35.1.4 リクエストの詳細情報を確認する....303
35.1.5 サーバ作成リクエストの変更 307
35.1.6 リクエストを承認する 308
35.1.7 リクエストを却下する 309
35.1.8 リクエストの実行....310
35.1.9 リクエストのキャンセル 311
35.1.10 リクエストを再申請する 312
35.2 承認フロー設定(利用者) 313
35.2.1 承認フローのパターン(利用者)....313
35.2.2 テナント用承認フロー設定 画面....314
35.3 メール通知設定....316
35.3.1 メール通知設定....316
35.3.2 メール通知設定変更(入力)....318

第 36 章 テナント情報（利用者） 320
36.1 テナント管理（利用者） 320
36.1.1 テナント一覧（利用者） 320
36.1.2 テナントの詳細情報を確認する（利用者） 320

36.1.3 テナントを編集する（利用者）.....321
36.2 ユーザ管理.....322
36.2.1 ユーザ一覧（利用者）.....322
36.2.2 ユーザを登録する（利用者）.....323
36.2.3 ユーザの詳細情報を確認する（利用者）.....325
36.2.4 ユーザの情報を変更する（利用者）.....326
36.2.5 パスワードを変更する.....328
36.2.6 ユーザを削除する.....328
第 37 章 リソース管理.....330
37.1 リソース状況（利用者）.....330
37.1.1 リソース状況の確認（利用者）.....330
37.2 業務グループ管理（利用者）.....331
37.2.1 業務グループ一覧.....332
37.2.2 業務グループ詳細.....333
37.2.3 業務グループを追加する.....335
37.2.4 業務グループの編集.....336
37.2.5 業務グループの削除.....336
37.3 トポロジー表示.....337
37.3.1 ネットワーク表示名の変更.....338
37.4 サーバ管理（利用者）.....340
37.4.1 サーバ一覧.....340
37.4.2 サーバを作成する.....342
37.4.3 サーバの詳細情報を確認する.....342
37.4.3.1 【システム】.....343
37.4.3.2 【ネットワーク】.....344
37.4.3.3 【ディスク】.....344
37.4.3.4 【スクリーンショット】.....345
37.4.3.5 【付加情報】.....346
37.4.3.6 【コンソール】.....346
37.4.4 サーバ構成を変更する.....348
37.4.5 サーバを削除する.....348
37.4.6 サーバの電源を操作する.....349
37.4.7 サーバ一覧を同期する.....350
37.4.8 サーバの監視設定について.....351
37.4.9 サーバに対してカスタムオペレーションを実行する.....351
37.5 ネットワーク管理（利用者）.....352
37.5.1 ネットワーク一覧（利用者）.....352
37.5.2 ネットワークの詳細情報を確認する（利用者）.....353
37.5.2.1 【情報】.....354
37.5.2.2 【アドレスプール(IPv4)】.....354
37.5.2.3 【アドレスプール(IPv6)】.....355
37.5.3 ネットワークを作成する.....356
37.5.4 ネットワークを削除する.....356
37.5.5 ネットワーク一覧を同期する.....356
37.6 運用作業履歴（利用者）.....357
37.6.1 運用作業履歴一覧（利用者）.....357
37.6.2 運用作業履歴の詳細情報を確認する（利用者）.....358
第 38 章 スタック管理（利用者）.....361
38.1 スタック一覧.....361
38.2 スタックを作成する.....361

38.3 スタックの詳細情報を確認する 362
38.3.1 【詳細】 362
38.3.2 【トポロジー】 363
38.3.3 【リソース】 364
38.3.3.1 【サーバ】 364
38.3.3.2 【ネットワーク】 365
38.3.4 【トポロジーテンプレート】 366
38.4 スタックを削除する 367
第 39 章 お知らせ管理（利用者） 368
39.1 お知らせ一覧（利用者） 368
39.2 お知らせを登録する(利用者） 369
39.3 お知らせの詳細情報を確認する（利用者） 370
39.4 お知らせの内容を変更する（利用者） 370
39.5 お知らせを削除する 371
第 7 編 保守情報 372
第 40 章 バックアップとリストア 373
第 41 章 ログの確認方法 374
第 42 章 メッセージ一覧 375
42.1 vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションエラーコード一覧 378
第 43 章 コマンド 380
43.1 リソース情報更新コマンド 380
43.1.1 テナント作成コマンド 381
43.1.2 ユーザ作成コマンド 382
43.1.3 リクエスト作成コマンド 383
43.1.4 サーバおよびネットワーク情報更新コマンド 383
43.2 リクエスト履歴出力コマンド 391
43.2.1 リクエスト履歴ファイル 393
43.2.2 リクエスト履歴出力コマンドのエラー一覧 400
43.3 スタックリクエスト履歴出力コマンド 401
43.3.1 スタックリクエスト履歴ファイル 403
43.3.2 リクエスト履歴出力コマンドのエラー一覧 405
付録 A カスタマイズ 406
A.1 テンプレートに付加情報を表示する 406
A.2 取り込まれたサーバに付加情報を表示する 406
A.3 GUI 表示のカスタマイズ方法 407
A.4 カスタムオペレーション実行時にテナントが所有するサーバで任意の処理を実行する 413
A.4.1 ジョブネットワークを定義する 414
A.4.2 カスタムオペレーション定義ファイルを設定する 416
A.4.3 OpenSSH をセットアップする 417
付録 B 権限 419
B.1 ビルトインロールが保有する権限 419
B.2 カスタムロールにて使用可能な権限 429

用語集..... 434

第 1 編
はじめに

本手順書は vDC Automation Standard Edition の設定および GUI 操作について説明しています。

第 1 章
vDC Automation Standard Edition とは

vDC Automation Standard Edition（以降、vDCA SE ポータル）は、SigmaSystemCenter の機能を利用するための Web ベースの GUI です。 vDCA SE ポータルを利用する事で以下の効果を期待できます。

- サービス利用者/テナントが自ら利用申請、仮想マシン操作、稼働状況（使用率等）の参照を行う事が可能になります。
- 上記に伴い、リソース払い出しが早く行えるようになり、かつサービスプロバイダの負担が軽減されます。
- サービスプロバイダは、データセンター全体の状況、利用者の申請状況を容易に把握する事が可能になります。

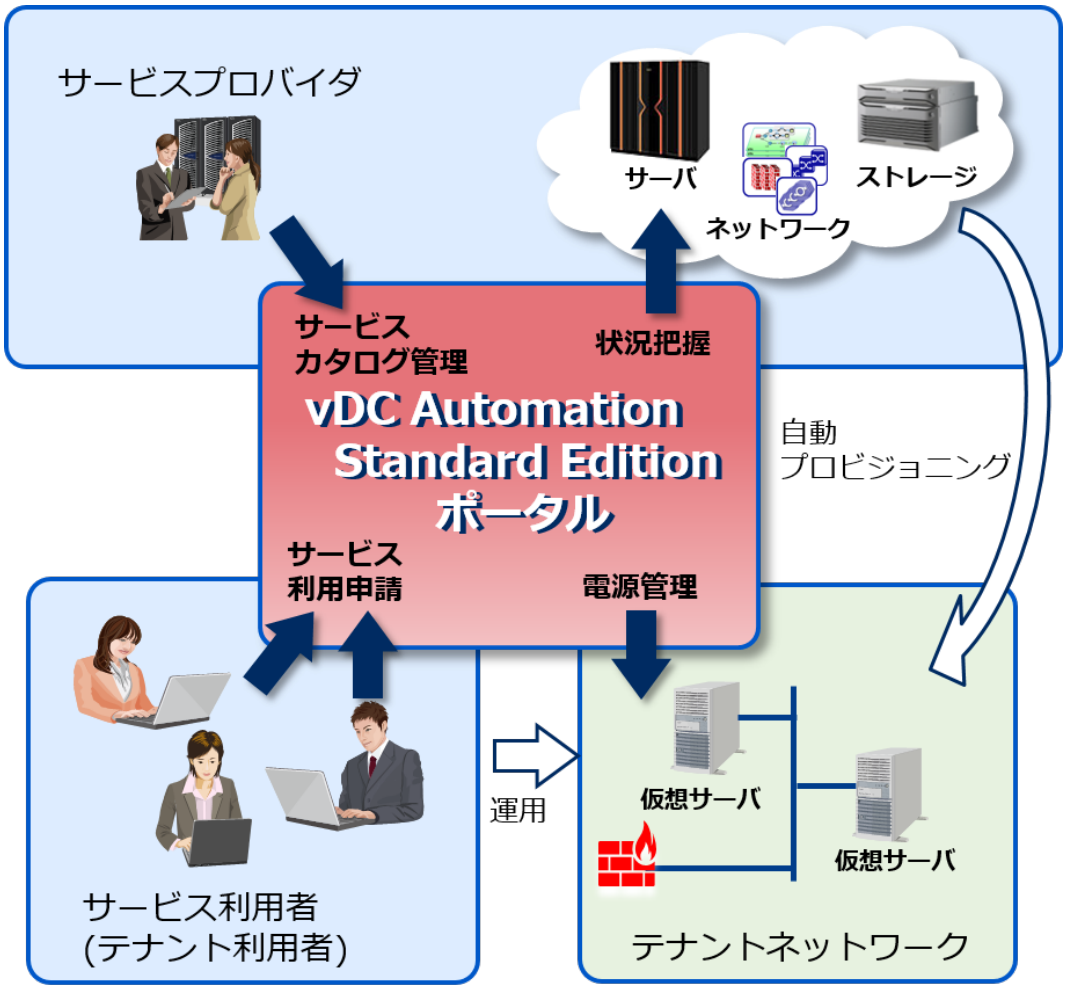

図 1-1　vDCA SE ポータルの利用イメージ

1.1　vDCA SE ポータルで出来ること

SigmaSystemCenter にはさまざまな機能があります。 vDCA SE ポータルは、SigmaSystemCenter が RESTful API で提供している機能の一部を利用して、典型的なユースケースに対応した GUI を提供します。

vDCA SE ポータルが対応するユースケースは以下となります。

- サーバ利用申請（リクエスト）の管理
- ネットワーク利用申請（リクエスト）の管理
- OracleDB システム利用申請（リクエスト）の管理
- リソース利用状況の確認
- サーバの電源操作
- サービスプロバイダからテナントへの通知(ダッシュボード機能)
- テナント/ユーザの管理機能
- ハイブリッドクラウドの管理
- マルチデータセンタ連携機能
- カスタムオペレーション(コマンド)の実行

JobCenter を利用することで以下のユースケースもサポートされます。

- カスタムオペレーション(ジョブネットワーク)の実行

また、プラグインを開発することで、任意のサービスに関する利用申請（リクエスト）の管理、およびリクエストにて作成されたサービスのインスタンスの管理も可能です。

また、vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション（以下、vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプション）を利用することで、仮想マシン単体の利用申請(リクエスト)だけではなく、論理ネットワークを含む複数の仮想マシンの利用をシステムとしてまとめて申請することもできます。 作成されたリソース群は「スタック」という名前でグルーピングして管理されます。以下のユースケースがサポートされます。

- スタック利用申請（リクエスト）の管理
- スタック管理

それぞれの機能に対して以降で説明します。

1.1.1　サーバ利用申請（リクエスト）の管理

サーバ作成、更新、削除の申請はリクエストとして管理します。

SigmaSystemCenter が提供するサーバ作成/更新/削除機能を利用する事ができます。 必要なパラメータを画面から指定して申請し、あらかじめ設定した承認フロー設定に従って承認を経ることで、申請された処理を実行します。

また、過去に申請されたリクエストは履歴として保存され、後から確認することが可能です。

詳細は「28.1　リクエスト管理（管理者）（189 ページ）」 を参照してください。

1.1.2　ネットワーク利用申請（リクエスト）の管理

ネットワーク作成、削除の申請はリクエストとして管理します。

SigmaSystemCenter が提供するネットワーク作成/削除機能を利用する事ができます。 必要なパラメータを画面から指定して申請し、あらかじめ設定した承認フロー設定に従って承認を経ることで、申請された処理を実行します。

また、過去に申請されたリクエストは履歴として保存され、後から確認することが可能です。

詳細は「28.1　リクエスト管理（管理者）（189 ページ）」 を参照してください。

1.1.3　リソース利用状況の確認

作成したサーバ、ネットワークおよび作成に利用するリソースプールの状況を確認する事ができます。

リソースプールについては総量と現在の使用値が、作成したサーバ、ネットワークについては構成情報が確認できます。

詳細は「第 30 章　リソース管理（214 ページ）」を参照してください。

1.1.4　サーバの電源操作

作成したサーバの電源操作やスクリーンショット取得の操作を行う事が可能です。 操作可能な項目の詳細は、 「30.3　サーバ管理（管理者）（217 ページ）」および 「37.4　サーバ管理（利用者）（340 ページ）」 を参照してください。

1.1.5　ダッシュボード機能

ユーザがログインした際に、ウィジェットを表示します。 ウィジェットの配置は、ユーザ毎に保存することができます。

ウィジェットとして表示する内容については、事業者があらかじめ定義しておくことができます。

詳細は「第 27 章　ダッシュボード（181 ページ）」および 「第 34 章　ダッシュボード（260 ページ）」 を参照してください。

1.1.6　ユーザ管理/テナント管理

vDCA SE ポータルの利用者に対して、ID とパスワードを発行してユーザ管理を行う事が可能です。

ユーザはテナントの属性を持ち所属するテナントの範囲でサーバの作成や利用状況の確認、操作が可能です。 また、ユーザ毎にログインを制限する事も可能です。

詳細は「第 29 章　テナント情報（管理者）（201 ページ）」を参照してください。

1.1.7　リクエスト管理

サーバ作成、更新、削除やネットワーク作成、削除の申請はリクエストとして管理します。リクエストはテナント利用者が申請後、実行される前に管理者が確認、承認する事ができます。

また、過去に申請されたリクエストは履歴として保存され、後から確認することが可能です。 詳細は「28.1　リクエスト管理（管理者）（189 ページ）」 を参照してください。

1.1.8　ハイブリッドクラウド管理

パブリッククラウド上のサーバを取り込み、プライベートクラウド上のリソースと合わせて一元管理することができます。

連携可能なパブリッククラウドは以下です。

- NEC Cloud IaaS
- Amazon Elastic Compute Cloud
- Microsoft Azure

パブリッククラウドの対応機能は、下記の「表 1-1 サーバ管理機能対応表（5 ページ）」を参照してください。

表 1-1　サーバ管理機能対応表

機能	プライベート		NEC Cloud IaaS	Amazon Elastic Compute Cloud	Microsoft Azure
	VM サーバ	物理サーバ			
サーバ作成	○	-	- ※1	○	○
サーバ変更	○	-	- ※1	- ※2	- ※2
サーバ削除	○	○	- ※1	○	○
サーバ同期(取り込み)	○	○	○	○	○
サーバ電源操作	○	○※3	○	○	○
サーバ一覧表示	○	○	○	○	○
サーバ詳細表示	○	○	○	○	○
リソースプール取得	○	-	-	○	○

機能	プライベート		NEC Cloud IaaS	Amazon Elastic Compute Cloud	Microsoft Azure
	VM サーバ	物理サーバ			
運用作業履歴表示	○	○	○	○	○
リソース状況表示	○	-	-	○	○
トポロジー表示	○	-	○	○	○

※1NEC Cloud IaaS 上のサーバ作成・変更・削除操作は直接 NEC Cloud IaaS 上で実施し、vDCA SE ポータルに同期することで反映されます。

※2Amazon Elastic Compute Cloud、Microsoft Azure の変更操作は直接 AWS および Azure のマネジメントコンソール上で実施し、vDCA SE ポータルに同期することで反映されます。

ハイブリッドクラウドのサーバ管理の詳細は、「30.3　サーバ管理（管理者）（217 ページ）」および「37.4　サーバ管理（利用者）（340 ページ）」を参照してください。

1.1.9　マルチデータセンタ連携機能

マルチデータセンタ連携機能は、複数のデータセンタを統一的に管理する事が可能です。

また、シングルサインオン連携機能を利用することにより、複数のポータルをシームレスに移動することができます。

マルチデータセンタ連携機能の詳細は「第 6 章　マルチデータセンタ連携の設定（29 ページ）」を参照してください。

1.1.10　カスタムオペレーション実行

テナントユーザが任意のタイミングでシステム管理者が定義する任意の処理を実行することができます。実行先は管理サーバ、JobCenter を選択することが可能です。 設定手順については、「第 15 章　カスタムオペレーション設定（95 ページ）」を参照してください。 実行手順については「37.4.9　サーバに対してカスタムオペレーションを実行する（351 ページ）」、「35.1.2.6　カスタムオペレーション実行リクエスト（293 ページ）」を参照してください。

1.1.11　スタック利用申請（リクエスト）の管理

スタック作成、削除の申請をリクエストとして管理します。

スタックリクエストは、サーバ作成/変更/削除リクエストと同様の操作をサポートします。必要なパラメータを画面から指定して申請し、あらかじめ設定した承認フロー設定に従って承認を経ることで、申請された処理を実行します。

また、過去に申請されたリクエストは履歴として保存され、後から確認することが可能です。

詳細は「28.1　リクエスト管理（管理者）（189 ページ）」を参照してください。

1.1.12　スタック管理

vDCA SE ポータルから作成したスタックを管理する機能を提供します。 また、スタック一覧・詳細画面からリクエスト作成を行うことが可能です。 詳細は「第 32 章　スタック管理（管理者）（241 ページ）」を参照してください。

第 2 編
ポータルを運用する

vDCA SE ポータルを運用する流れを説明します。

第 2 章
運用の概要

vDCA SE ポータルを運用する流れを説明します。

2.1　vDCA SE ポータルを運用するにあたっての注意・制限事項

注意事項

- vDCA SE ポータルを利用してクラウド運用を行う場合、原則として vDCA SE ポータルを通して操作を行ってください。 vDCA SE ポータル以外を使用して以下の操作は行わないでください。
  - vDCA SE ポータルを使用して作成された運用グループの削除、名前変更
  - vDCA SE ポータルを使用して作成された VM の変更、削除
- vDCA SE ポータル以外から操作を行う場合、vDCA SE ポータルのメンテナンス機能を使用する等、変更作業期間中のポータル操作を行えないようにしてください。また、必要に応じて vDCA SE ポータルとの情報同期を行ってください。 例えば以下のような操作です。
  - vDCA SE ポータルで使用中の論理ネットワークやテンプレートの変更
  - vDCA SE ポータルで使用中のリソースプールやディスクの変更
- ブラウザの JavaScript を有効化してください。

制限事項

- ダイアログのボタンを何度もクリックすると画面が操作を受け付けなくなる場合があります。その場合はブラウザの機能で画面の再読み込みを行ってください。
- 極端に長い文字列を入力項目に入力した場合、表示が崩れることがあります。その場合、入力した文字列を短い文字列に変更してください。
- 検索条件にて、"["と"]"を条件に指定した場合、正常に検索できません。検索条件には"["と"]"は指定しないでください
- 正規表現で入力する箇所において、その正規表現が文法的に正しいかの確認機能はありません。利用者が正しい正規表現を入力してください
- 業務グループ名に以下の記号および末尾に半角スペースを使用しないでください。また、SigmaSystemCenter を直接操作してグループを作成する場合も使用しないでください。

  # \ / : . ; * ? " < > |
- 拡張ディスク付きの VM を SigmaSystemCenter 上で直接構成変更した場合、リソース情報更新コマンドでその変更を取り込むことはできますが、その VM に対してポータル上から構成変更はできません。構成変更が必要な場合には、一旦リソース情報更新コマン

ドでその VM を削除した後、再度リソース情報更新コマンドで取り込みなおしてください。

2.2　vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションを運用するにあたっての注意・制限事項

注意事項

vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションを運用するにあたっての注意・制限事項については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『第 6 章注意・制限事項』を参照してください。

2.3　リソース管理機能使用時の全体の流れ

vDCA SE ポータルにおけるリソース管理機能を使用時の運用の流れを説明します。

【vDCA SE ポータルを利用するユーザ】

システム管理者	テナント管理者	テナントユーザ
サービスプロバイダ側の管理者ユーザで、ポータルを操作してシステム運用する。	テナント側の管理者ユーザで、ポータルを操作してテナントの管理、サービスカタログの承認等を行う。	テナント側の一般ユーザで、ポータルを操作してサービスカタログの申請や利用をする。

図 2-1　ユーザ種別

ユーザ権限については「第 23 章　ユーザ権限（168 ページ）」を参照してください。

全体の流れは以下です。それぞれの手順については「第 3 章　運用の流れ（12 ページ）」を参照してください。

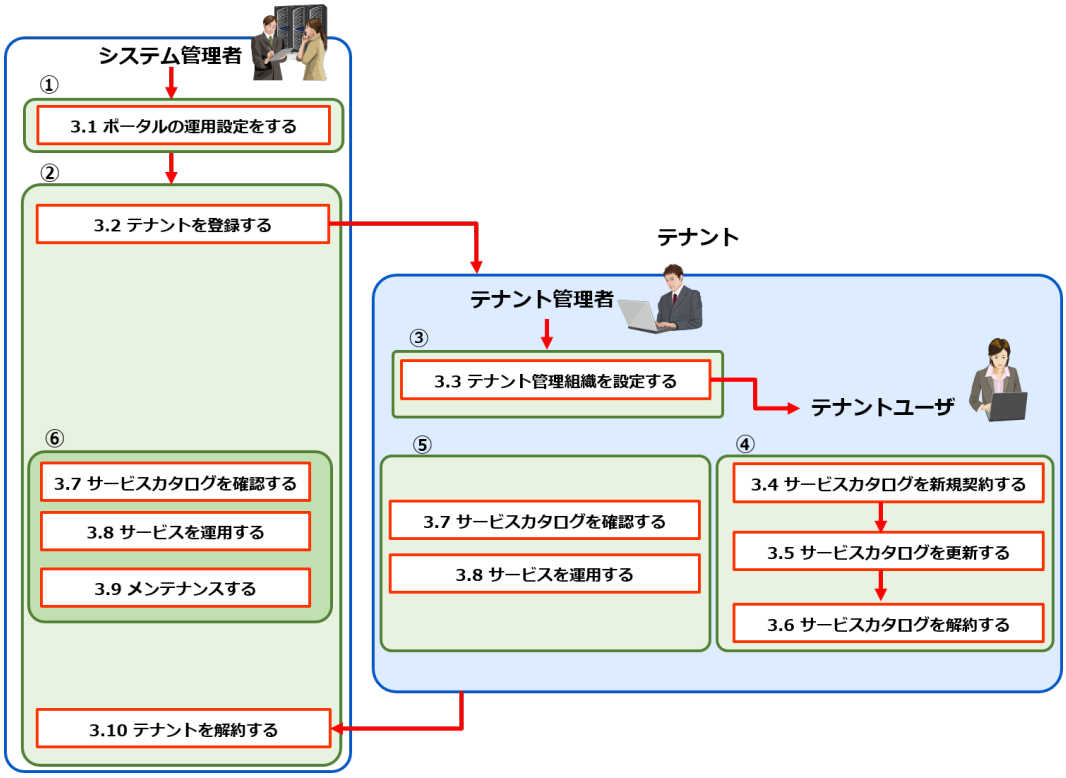

図 2-2　全体の流れ

- ① vDCA SE ポータルの運用設定について

  vDCA SE ポータルを運用する前に、システム管理者は vDCA SE ポータルの運用に関する設定を用途に応じて行います。

- ② テナントの管理サイクルについて

  テナントが vDCA SE ポータルを利用するために、システム管理者はテナントを登録する作業を行います。 また、vDCA SE ポータルの利用を終えるためには、テナントを解約する作業が発生します。

- ③ テナント登録直後の作業について

  登録されたテナントはまず、テナント組織の初期設定を行います。

- ④ サービスのライフサイクルについて

  登録されたテナントは、システム管理者が用意したサービスカタログをリクエストし、サービスカタログを登録することができます。 また、登録されたサービスカタログは、更新、解約することが可能です。

- ⑤ 運用時の操作について

  テナントはサービスカタログを登録することで、そのサービスを利用することができるようになります。

- ⑥ 運用中の操作について

  システム管理者は運用中にサービスカタログの契約情報の確認や、お知らせ情報の管理、基盤側のメンテナンスなどの業務を行います。

第 3 章
運用の流れ

本章では、テナント契約した情報を vDCA SE ポータルに登録する説明をします。 上記の項目を設定する作業者は、以下の通りです。

表 3-1　運用の流れ

	システム管理者	テナント管理者	テナントユーザ
vDCA SE ポータルの運用設定をする	○	－	－
テナントを登録する	○	－	－
テナント管理組織を設定する	－	○	－
サービスカタログを新規契約する	－	○	○
サービスカタログを更新する	－	○	○
サービスカタログを解約する	－	○	○
サービスカタログを確認する	－	○	○
サービスを運用する	－	○	○
メンテナンスする	○	－	－
テナントを解約する	○	－	－

3.1　ポータルの運用設定をする

vDCA SE ポータルを運用する前にサービスプロバイダ組織は vDCA SE ポータルの設定を行います。

- シングルサインオン連携の設定
- マルチデータセンター連携の設定
- ログイン直後の設定
- SigmaSystemCenter の設定
- 冗長・クラスタ構成の運用設定
- サーバサービスカタログの設定
- ネットワークサービスカタログの設定
- ハイブリッドクラウドの運用設定
- ウィジェット選択肢の設定
- 簡易サイト連携の設定
- カスタムオペレーション設定
- 拡張処理の設定
- ロール設定

なお、vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションを利用する場合には、以下も実施します。

- vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションの有効化
- vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションのサービスカタログ設定
- スタック管理サーバの運用設定
- ビルトイントポロジーテンプレートの設定

設定手順や方法については「第 3 編　運用を開始する前に（21 ページ）」を参照してください。

3.2　テナントを登録する

- テナント情報
  - テナント名
  - テナント ID
- テナント管理者ユーザ情報
  - ユーザ ID
  - 氏名
  - メールアドレス
  - ログインパスワード
- リソースプール情報（利用契約情報）
  - テナントが使用可能な論理ネットワーク（テナントネットワーク）
  - 専有するリソース量

テナント登録作業の流れは以下です。

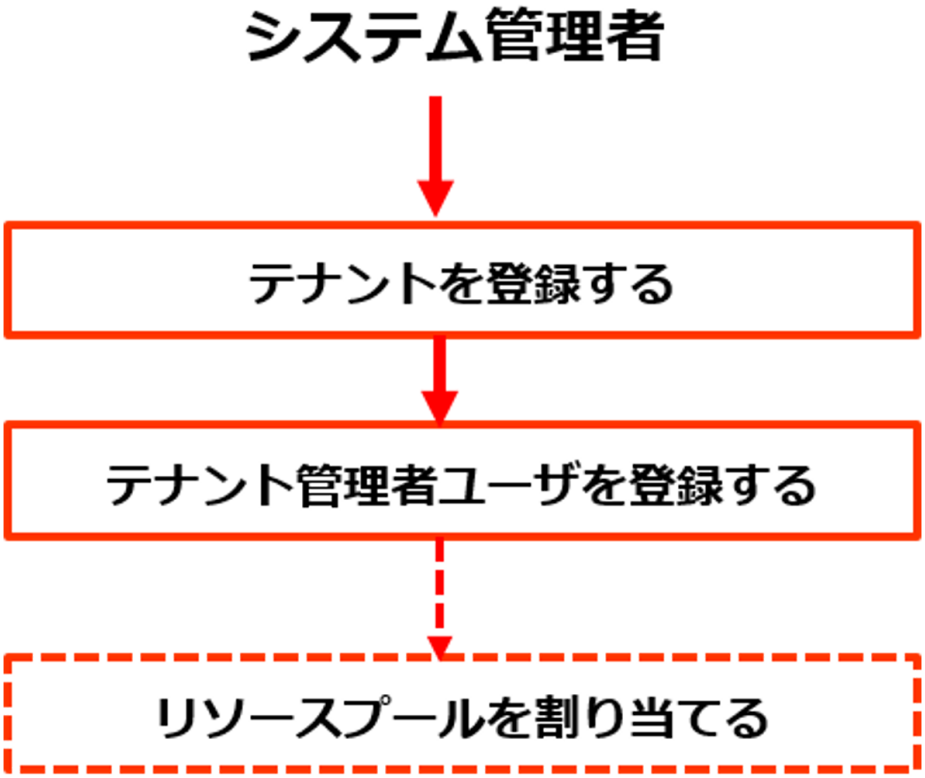

図 3-1　テナント登録の流れ

テナントの登録方法については「29.1.2　テナントを追加する（202 ページ）」を参照してください。

テナント管理者の登録方法については「29.2.2　ユーザを登録する（管理者）（207 ページ）」を参照してください。

テナントネットワークやリソースプールのテナントへの割り当ては、SigmaSystemCenter 上で行ってください。詳細は、『SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド』を参照してください。

上記の登録作業を完了後、テナント管理者に vDCA SE ポータルログイン URL とユーザ ID、ログインパスワードを通知します。

テナント利用者が vDCA SE ポータルを利用することが可能になります。

注

・vDCA SE ポータルで使用する論理ネットワークには、アドレスプールが設定されている必要があります。（未設定の場合、サーバ作成時の接続 LAN の選択肢に表示されません）

・vDCA SE ポータルで使用する論理ネットワークには、作成済みのポートグループが設定されている必要があります。（未設定の場合、サーバ作成時の接続 LAN の選択肢に表示されません）

・サブリソースプールを専有で切り出してテナントに割り当てる運用を行う場合は、切り出したリソースプールのルートリソースプールが vDCA SE ポータルから使用できなくなります。ルートのリソースプールを共有で利用する運用を行う場合は、サブリソースプールを専有で切り出さないでください。

3.3　テナント管理組織を設定する

サービスの利用を開始する前に、テナント管理者は利用者（テナントユーザ）の登録や承認フロー、メール通知の設定を行います。

設定に必要な情報は以下です。

- 利用者（テナントユーザ）の登録情報
  - ユーザに付与するロール
  - ユーザ ID
  - 氏名
  - メールアドレス
  - ログインパスワード
- 承認フロー設定
  - 承認フローの使用有無
  - 承認者およびその順番
- メール通知設定

テナントユーザの登録については「29.2.2　ユーザを登録する（管理者）（207 ページ）」を参照してください。

承認フローの設定方法については「35.2　承認フロー設定(利用者)（313 ページ）」を参照してください。

メール通知の設定方法については「33.1　メール通知（248 ページ）」を参照してください。

3.4　サービスカタログを新規契約する

テナント利用者はサービスプロバイダが提供するサービスを、サービスカタログから申請することができます。

申請したサービスは、承認フロー設定に従って承認され、プロビジョニング実行されることで利用することができます。

申請の流れは以下です。

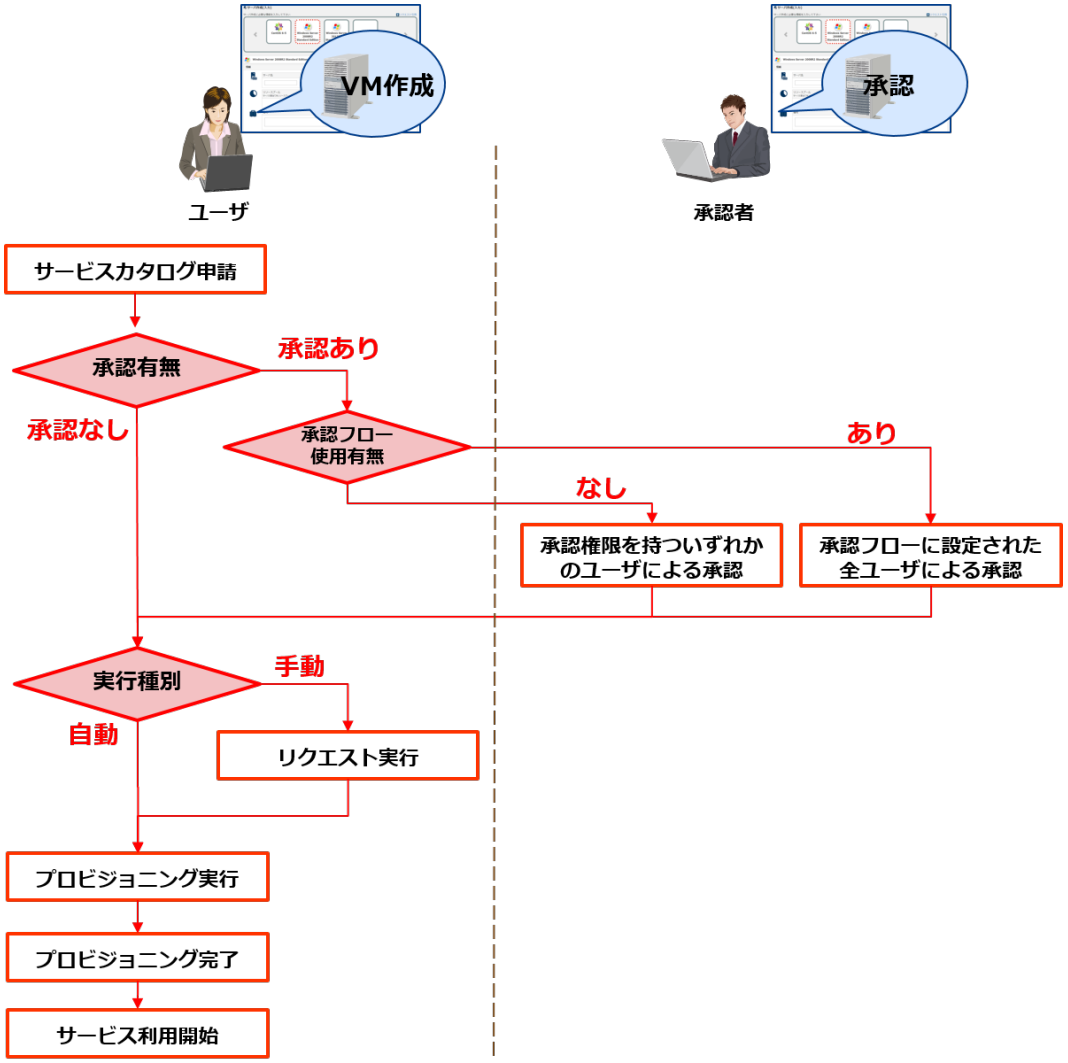

図 3-2　申請の流れ

各種サービスカタログの申請方法については「35.1.2　リクエストを作成する（269 ページ）」を参照してください。

3.5　サービスカタログを更新する

テナント利用者は契約中のサービス内容を変更したい場合に、対象のサービスカタログを選択して申請します。

申請したサービスは、承認フロー設定に従って承認され、プロビジョニング実行されることで変更されます。

更新申請の流れは以下です。

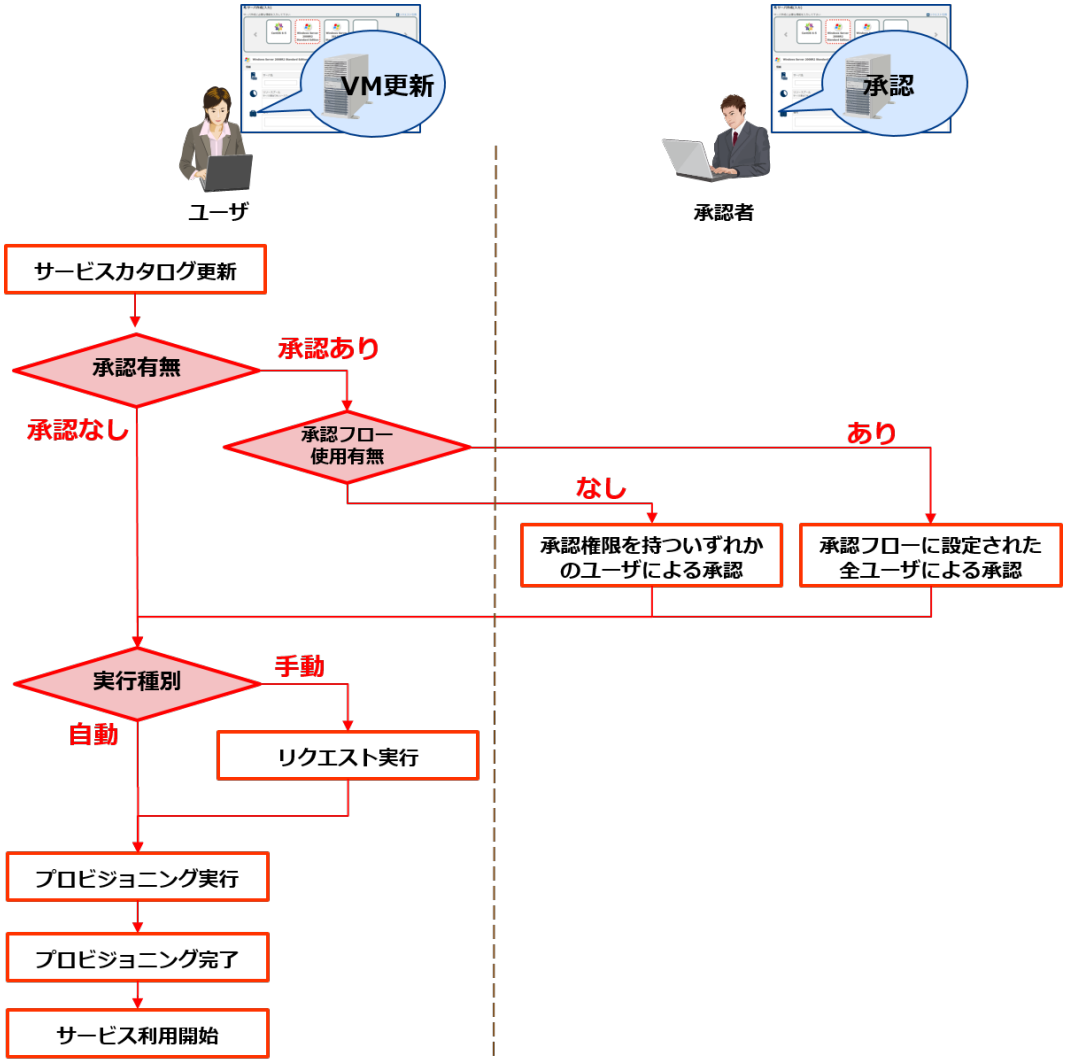

図 3-3　申請の流れ

申請方法については「35.1.2　リクエストを作成する（269 ページ）」を参照してください。

3.6　サービスカタログを解約する

テナント利用者は契約中のサービスを解約したい場合に、対象のサービスカタログを選択して削除申請します。

サービスの削除申請が、承認フロー設定に従って承認され、プロビジョニング実行されることでサービスが解約されます。

削除申請の流れは以下です。

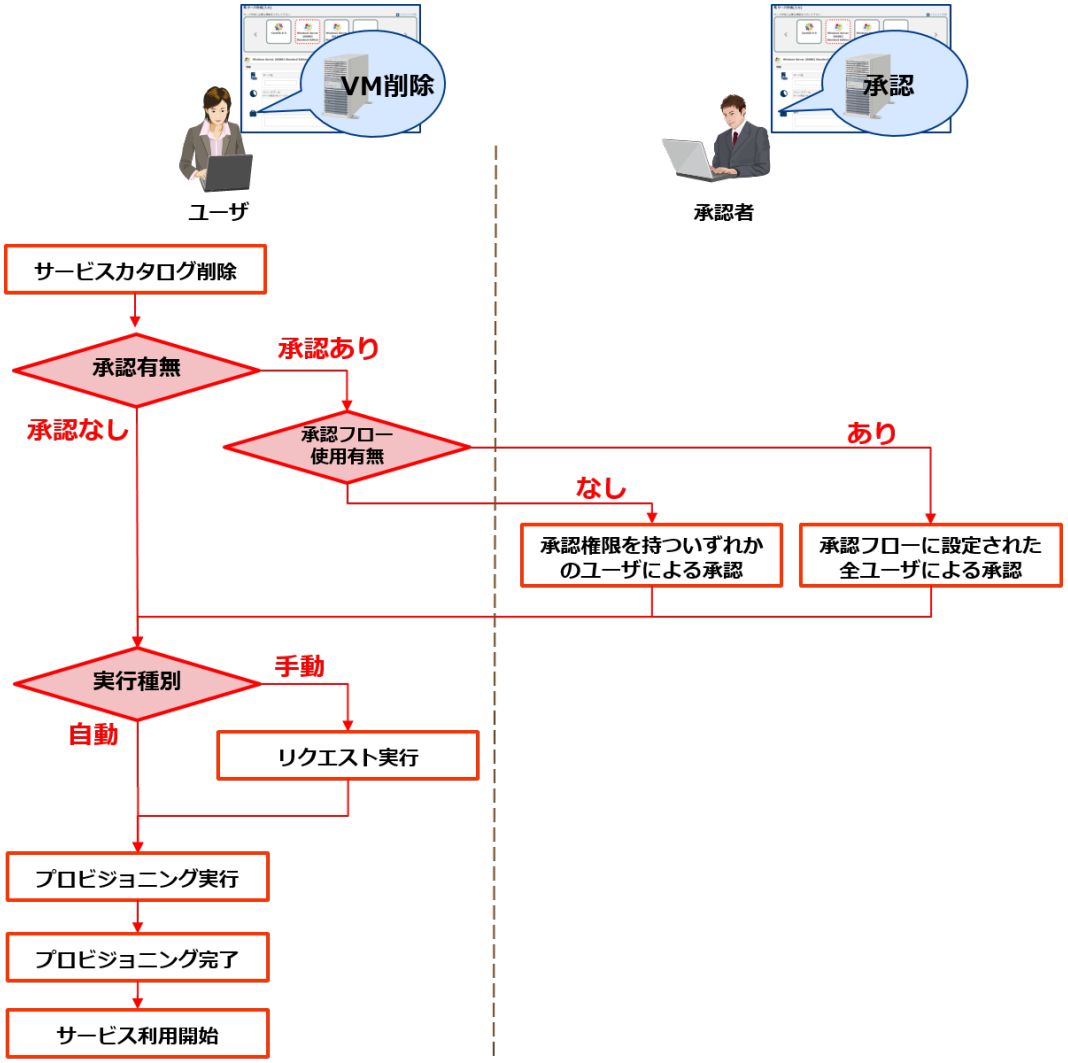

図 3-4　申請の流れ

申請方法については「35.1.2　リクエストを作成する（269 ページ）」を参照してください。

3.7　サービスカタログを確認する

サービスカタログの申請が完了し、サービス利用が開始されると、その内容を確認することができます。

契約中のサービスカタログ確認方法については「35.1.1　リクエスト一覧（268 ページ）」を参照してください。

3.8　サービスを運用する

サービスカタログの申請が完了すると、そのサービスを利用することができるようになります。

- リソース使用状況を表示する・・・「37.1　リソース状況（利用者）（330 ページ）」を参照してください。

- ネットワークトポロジーを表示する・・・「37.3　トポロジー表示（337 ページ）」を参照してください。
- サーバを管理する・・・「37.4　サーバ管理（利用者）（340 ページ）」を参照してください。
- 運用作業履歴を確認する・・・「37.6　運用作業履歴（利用者）（357 ページ）」を参照してください。
- スタックを管理する・・・「第 38 章　スタック管理（利用者）（361 ページ）」を参照してください。
- リクエスト履歴を確認する(システム管理者のみ)・・・「43.2　リクエスト履歴出力コマンド（391 ページ）」を参照してください。

3.9　メンテナンスする

サービスプロバイダはテナント利用中に、SigmaSystemCenter のメンテナンスなどを行うとき、テナントに対してメンテナンス画面を提供することで vDCA SE ポータルの操作を不可状態にできます。

- メンテナンス管理・・・「31.1　メンテナンス管理（230 ページ）」を参照してください。
- バックアップ・リストア・・・「第 40 章　バックアップとリストア（373 ページ）」を参照してください。

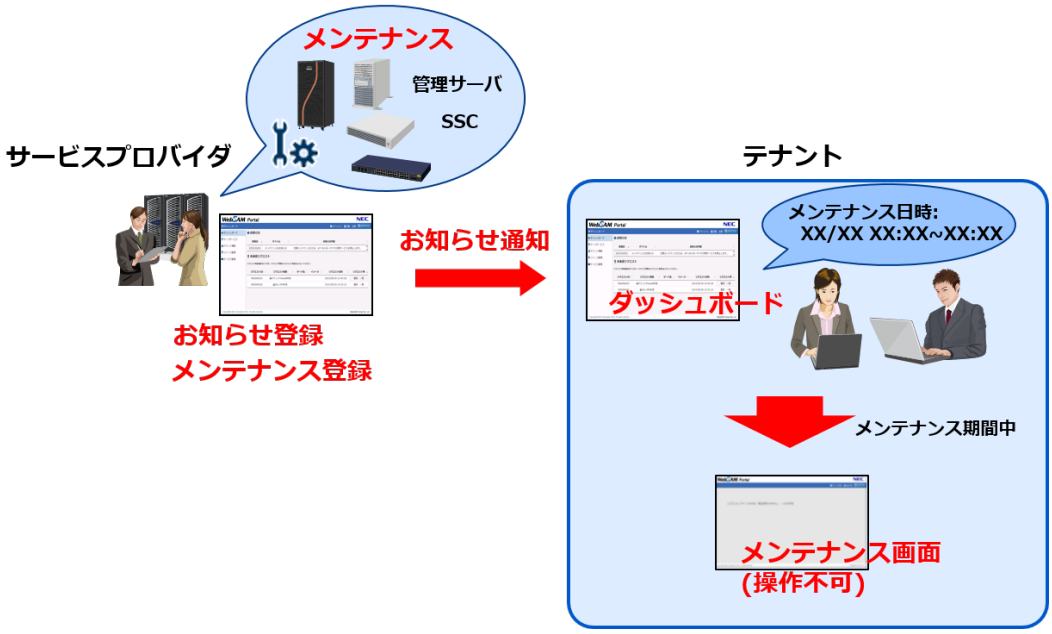

図 3-5　メンテナンスの利用イメージ

3.10　テナントを解約する

テナントが利用契約を解約する場合の流れは以下です。

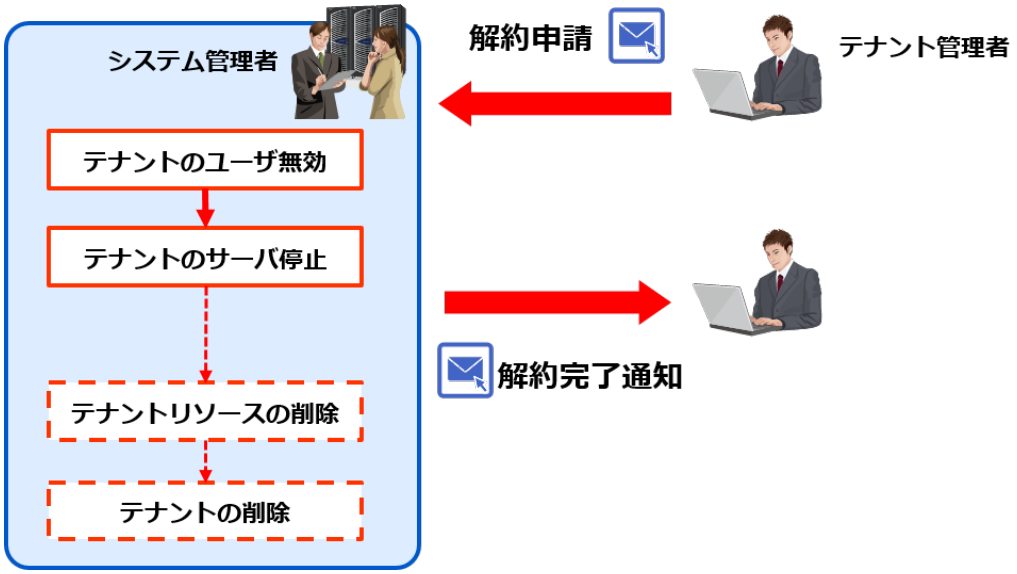

図 3-6　テナントの解約

ユーザの無効の設定方法については「29.2.6　ユーザを削除する（213 ページ）」を参照してください。

サーバの操作方法については「37.4.6　サーバの電源を操作する（349 ページ）」を参照してください。

テナントのリソースを削除する場合はシステム管理者がテナント代行をすることによってサービスカタログの解約を行ってください。 テナント代行の操作方法については「26.4　テナントの代行（システム管理者のみ）（178 ページ）」を参照してください。

テナントを削除する場合は、テナントの全てのリソースとユーザを削除してから行ってください。テナントを削除する方法については「29.1.5　テナントを削除する（205 ページ）」を参照してください。

第 3 編
運用を開始する前に

本編では、vDCA SE ポータルの運用を開始する前にシステム管理者が実施する設定について説明します。

第 4 章
冗長・クラスタ構成の運用設定

本章では、vDCA SE ポータルを冗長化やクラスタ構成にした場合の運用設定における注意点について説明します。

4.1　設定ファイルの管理方法

vDCA SE ポータルを冗長構成、もしくはクラスタ構成で運用する場合、設定ファイルは現用系と待機系の両方で管理されます。

そのため、設定ファイルを変更する場合は、現用系と待機系の両方に行う必要があります。なお、一部はクラスタ共有フォルダに置くことで両方で管理できるものもあります。

以下は、インストールパスを C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA として説明します。インストール時の設定に合わせ、適宜読み替えて設定してください。

表 4-1　両サーバに設定、管理が必要なファイル

設定ファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties
ディスクタグ設定ファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\diskTags.json
タイムゾーン設定ファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\timezones.json
ユーザ定義 CSS ファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\userdefined.css
カスタマイズ用外部リンク設定ファイル（任意） ※付録参照	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\extlinks.json
カスタマイズ用アイコン (任意) ※付録参照	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\webapps\images***
トポロジーテンプレート設定ファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\template.conf
トポロジーテンプレートファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\TopologyTemplate\＜任意のファイル名＞.yaml
SSC リソースプラグインの動作設定ファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_plugin.conf
SSC リソースプラグインのパラメータ設定ファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_parameter.conf
ウィジェット選択肢ファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\widgets.properties
デフォルトウィジェット設定ファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\default_widget.properties
連携リージョン設定ファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\region.properties

4.2　クラスタ共有ディスクの設定方法

冗長構成、もしくはクラスタ構成にした場合、『SigmaSystemCenter クラスタ構築手順』の「共有ディスク / ミラーディスクを設定する」にて設定したディスクを設定ファイルに追記する必要があります。

設定ファイル（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties）を開きます。以下を参照し、追記してください。

```
product.cloudportal.file.save.path=共有ディスク・ミラーディスクのパス
```

(設定例)

```
product.cloudportal.file.save.path=S\:\\Portal\\
```

ここで設定されたフォルダは以下に利用されます。

- お知らせ管理で登録した添付ファイル(「31.2.2　お知らせを登録する（236 ページ）」参照)

注

「:」と「\」は「\」を付加してエスケープして下さい。

第 5 章
シングルサインオン連携の設定

本章では、 vDCA SE ポータル をシングルサインオン連携させる方法について説明します。

シングルサインオン機能を利用しない場合は、本設定は不要です。

5.1　シングルサインオン機能とは

vDCA SE ポータル は、シングルサインオン認証の方式として、SAML (Security Assertion Markup Language) V2.0 の SP-Initiated SSO Redirect/POST Bindings に対応しています。

SAML V2.0 に対応している IdP (Identity Provider, 以降 認証サーバ と記載) に対し、 SP (Service Provider) として vDCA SE ポータル を連携させることにより、シングルサインオンを利用することができます。

本書では 認証サーバ と vDCA SE ポータル を関連付ける方法を説明します。

本書では 認証サーバ は既にインストール済みであることを前提に、 vDCA SE ポータル との連携設定のみを説明します。 認証サーバ のインストールおよび設定方法については、ご利用になる 認証サーバ のリファレンスをご参照してください。

注

シングルサインオン機能は前述した Active Directory 連携機能(Active Directory 連携の設定)と併用して使用することはできません。

5.2　事前準備

シングルサインオン連携を始める前にあらかじめ以下の準備をする必要があります。

1. シングルサインオンを行うには 認証サーバ と vDCA SE ポータル の両方で同じユーザ ID のユーザをあらかじめ登録しておく必要があります。
2. 認証サーバ と vDCA SE ポータル を別々のサーバに構築する場合、それぞれのサーバの設定時刻が一致している必要があります。

   これは、 認証サーバ で認証した時刻を vDCA SE ポータル 側でチェックしているためで、時刻が過度に広がりすぎている場合エラーとなります。

   同じ NTP サーバに接続するなどして時刻が一致するようにしてください。

注

シングルサインオンで認証する際は、 認証サーバ で設定したパスワードが利用されます。 vDCA SE ポータル にユーザを作成する際に指定するパスワードは無視されます。 登録するユーザのパスワードは 認証サーバ と vDCA SE ポータル で一致させる必要はありません。

5.3　パラメータの収集

vDCA SE ポータル をシングルサインオン連携させるにはまず以下のパラメータを調査し収集する必要があります。

- vDCA SE ポータル の動作する URL
- 認証サーバ からダウンロードしたメタデータファイルのパス
- 暗号化通信を行う際のキーストアファイルのパス
- 上記キーストアファイルのパスワード
- キーストアファイルのデフォルトエイリアス名
- キーストアファイル内にある秘密鍵のキーペアのエイリアス名
- キーストアファイル内にある秘密鍵のキーペアのパスワード

以下に収集方法を順に示します。

vDCA SE ポータル の動作する URL

vDCA SE ポータル が動作しているサーバのアドレスとコンテンツ名です。

例: http://vdcaseportal.nec.co.jp:12080/portal

認証サーバ からダウンロードしたメタデータファイルのパス

認証サーバ を設定した際にエクスポートした 認証サーバ のメタデータファイルを入手し、 vDCA SE ポータル が起動しているサーバ内のアクセス可能な場所に置きます。

そのパスを控えておきます。

例 : C:\tmp\saml-idp-metadata.xml

暗号化通信を行う際のキーストアファイルのパス

認証サーバ を設定した際に利用した署名鍵のキーストアファイルを入手し、 vDCA SE ポータル が起動しているサーバ内のアクセス可能な場所に置きます。

そのパスを控えておきます。

例 : C:\tmp\samlkeystore.jks

キーストアファイルのパスワード、デフォルトエイリアス名、秘密鍵のキーペアのエイリアス名、秘密鍵のキーペアのパスワード

キーストアファイル作成者にご確認ください。

5.4　入手した情報の設定

収集した情報は、webframework.properties に設定します。対応は以下のとおりです。

webframework.properties のパラメータ名	設定する内容
sso.sp.baseurl	vDCA SE ポータル の動作する URL
sso.idp.metadata.filepath	認証サーバからダウンロードしたメタデータファイルのパス※1 本節では仮パス※2 を設定し、「5.5　認証サーバ の設定 （26 ページ）」にてメタデータ作成後に書き換える
sso.idp.keystorefile.path	暗号化通信を行う際のキーストアファイルのパス※1※2
sso.idp.keystorefile.password	上記キーストアファイルのパスワード
sso.idp.keystorefile.default.alias	キーストアファイルのデフォルトエイリアス名
sso.idp.keystorefile.keypair.alias	キーストアファイル内にある秘密鍵のキーペアのエイリアス名
sso.idp.keystorefile.keypair.password	キーストアファイル内にある秘密鍵のキーペアのパスワード

※1 ファイルパスに\(バックスラッシュ)を含む場合には、\(バックスラッシュ)の直前にエスケープ文字(\)を追加してください。

※2 仮パスは有効なパスを暫定的に指定してください。

上記の設定を完了したら最後に、認証方式を指定します。パラメータは以下のとおりです。

webframework.properties のパラメータ名	設定する値
portal.login.authentication.mechanism	sso

上記を記載後、ファイルの文字コードを UTF-8 で保存し、アプリケーションサーバ(Tomcat)を再起動します。 サーバーマネージャー の左側のパネルからローカルサーバーを選択し、サービスから「 ServiceGovernor 」を 右クリック し、［サービスの再起動］を選択します。この時、 認証サーバ は起動している状態にしてください。

5.5　認証サーバ の設定

認証サーバ に、 vDCA SE ポータル を登録する手順を説明します。

注

本書では 認証サーバ は既にインストール済みであることを前提に、 vDCA SE ポータル との連携設定のみを説明します。 認証サーバ のインストールおよび設定方法については、ご利用になる 認証サーバ のリファレンスをご参照してください。

1. シングルサインオン設定を完了した vDCA SE ポータル が起動した状態で、以下の URL にアクセスし、 vDCA SE ポータル の SAML メタデータをダウンロードします。

   http://<サーバ名またはサーバ IP アドレス>:<ポート番号>(既定値 12080)/portal /saml/metadata

   https://<サーバ名またはサーバ IP アドレス>:<ポート番号>(既定値 12443)/portal /saml/metadata

2. シングルサインオン連携を行う 認証サーバ で、ダウンロードした SAML メタデータをインポートします。

3. Name ID Format は、"username" を指定します。

以上で 認証サーバ の設定は完了です。

5.6　シングルサインオン連携の動作確認

シングルサインオン連携の動作を確認する手順を説明します。

注

シングルサインオンを行うには 認証サーバ と vDCA SE ポータル の両方で同じユーザ ID のユーザをあらかじめ登録しておく必要があります。

シングルサインオンで認証する際は、 認証サーバ で設定したパスワードが利用されます。 vDCA SE ポータル にユーザを作成する際に指定するパスワードは無視されます。 登録するユーザのパスワードは 認証サーバ と vDCA SE ポータル で一致させる必要はありません。

1. シングルサインオン設定を完了した vDCA SE ポータル が起動した状態で、以下の URL にアクセスします。

   http://<サーバ名またはサーバ IP アドレス>:<ポート番号>(既定値 12080)/portal

   https://<サーバ名またはサーバ IP アドレス>:<ポート番号>(既定値 12443)/portal

2. 連携を設定した 認証サーバ の認証画面が表示されます。
3. 認証サーバ に登録したユーザ名とパスワードを入力し、認証が成功すると、 vDCA SE ポータル が表示されます。

以上でシングルサインオン連携動作の確認は完了です。

5.7　シングルサインオン連携時に vDCA SE ポータル の独自認証機能を利用する

vDCA SE ポータル がシングルサインオン連携している環境において、 vDCA SE ポータル の独自認証機能(以降 ローカル認証)を利用する手順を説明します。

1. シングルサインオン設定を完了した vDCA SE ポータル が起動した状態で、以下の URL にアクセスします。

   http://<サーバ名またはサーバ IP アドレス>:<ポート番号>(既定値 12080)/portal/login

   https://<サーバ名またはサーバ IP アドレス>:<ポート番号>(既定値 12443)/portal/login

2. vDCA SE ポータル のログイン画面が表示されます。
3. vDCA SE ポータル へのユーザ登録時に指定したパスワードを利用して、ログインします。

注

シングルサインオン連携時でも、ローカル認証を利用する場合は、 vDCA SE ポータル にユーザを作成する際に指定するパスワードが利用されます。 認証サーバ で設定したパスワードは無視され

ます。 登録するユーザのパスワードは 認証サーバ と vDCA SE ポータル で一致させる必要はありません。

5.8　シングルサインオン連携時の vDCA SE ポータル の独自認証機能を無効化する

vDCA SE ポータル がシングルサインオン連携している環境において、 vDCA SE ポータル の独自認証機能(以降 ローカル認証)を無効化する手順を説明します。

5.8.1　ユーザ定義 CSS ファイルの編集

ユーザ定義 CSS ファイル(C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\userdefined.css)を開きます。 ファイルが存在しない場合は、作成してください。

ユーザ定義 CSS ファイルに以下の内容を追記し、UTF-8 で保存します。

```
#login_form {
  display: none;
}
```

5.8.2　アプリケーションサーバの設定ファイルの編集

アプリケーションサーバの設定ファイル(C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\web.xml)を開きます。

以下の内容を、<web-app>要素内に追記し、UTF-8 で保存します。

```
<security-constraint>
  <web-resource-collection>
    <web-resource-name>portal local login</web-resource-name>
    <url-pattern>/resources/j_spring_security_check</url-pattern>
  </web-resource-collection>
  <auth-constraint>
  </auth-constraint>
</security-constraint>
```

アプリケーションサーバ(Tomcat)を再起動します。 サーバーマネージャー の左側のパネルからローカルサーバーを選択し、 サービスから「 ServiceGovernor 」を右クリックし、［サービスの再起動］を選択します。

第 6 章
マルチデータセンタ連携の設定

本章ではマルチデータセンタ連携に関する設定について説明します。

複数のデータセンタを利用しない場合は設定不要です。

6.1　マルチデータセンタ連携とは

マルチデータセンタ連携機能は、複数のリージョンに設置された vDCA SE ポータル 間を容易に移動するための機能です。

さらに、シングルサインオン機能を併用することにより、vDCA SE ポータル間を、 ログイン画面を表示することなくシームレスに移動することができるようになります。

6.2　連携リージョン設定ファイルの編集

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat \conf\NEC\region.properties を作成します。

region.properties はプロパティ形式のファイルで、UTF-8 で保存してください。

連携リージョン設定ファイルのフォーマットは以下のとおりです。

表 6-1　region.properties のフォーマット

プロパティキー	必須/省略可	説明
[リージョンキー].url	必須	連携するリージョンの vDCA SE ポータル の URL を設定します。 URL はエンコードされている必要があります。
[リージョンキー].name	必須	連携するリージョンの表示名を設定します。 ユーザの言語設定に合致する言語が見つからない場合、この文字列が使用されます。
[リージョンキー].name.*[Locale]*	省略可	連携するリージョンの表示名の設定します。 *[Locale]* は、言語ロケールです。 ユーザの設定に合致する言語が見つからない場合、*[リージョンキー]* .name の値が使用されます。

[リージョンキー] は、任意の文字列を設定できます。 連携リージョン選択肢には、 *[リージョンキー]* を昇順にソートした順番で連携先リージョン名が表示されます。

設定後はアプリケーションサーバ(Tomcat)の再起動を行ってください。

注

[リージョンキー] が一致する" *[リージョンキー]* .url"と" *[リージョンキー]* .name"が見つからない場合、 その連携リージョント設定は無効とみなされます。

同じ *[リージョンキー]* が複数定義されていた場合、どちらかの定義は無視されます。

第 7 章
ログイン直後の設定

本章では vDCA SE ポータルに初回ログインした直後に行う設定について説明します。

以下を設定します。

1. システム管理者ユーザの作成
2. ビルトインユーザの無効化

7.1　システム管理者ユーザの作成

ビルトインユーザでログインしてシステム管理者ユーザを作成します。 作成方法については、「29.2.2　ユーザを登録する（管理者）（207 ページ）」を参照してください。

7.2　ビルトインユーザの無効化

「7.1　システム管理者ユーザの作成（30 ページ）」 で作成したシステム管理者ユーザでログインし、ビルトインユーザを無効にしてください。 無効の設定方法については、「29.2.4　ユーザの情報を変更する（211 ページ）」を参照してください。

第 8 章
SigmaSystemCenter の設定

本章では SigmaSystemCenter に関する設定について説明します。

8.1　設定ファイルの編集

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。

1. 必要に応じて以下を修正してください。

   設定例

```
# - createhost
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.installmanually=fal
se
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.
share=normal
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.
reservation=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.
limit=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memo
ry.share=normal
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memo
ry.reservation=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memo
ry.limit=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.disktype=thin
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.account
=Administrator
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.domaint
ype=workgroup
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.network
name=workgroup
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.domaina
ccount=Administrator
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.license
mode=PerServer
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.maxconn
ection=5
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.domains
uffix=example.local
# - reconfigurehost
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile
.cpu.share=normal
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile
.cpu.reservation=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile
.cpu.limit=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile
.memory.share=normal
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile
```

```
.memory.reservation=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile
.memory.limit=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile
.disks.disktype=thin
# - deletehost
product.cloudportal.provider.ssc.request.deletehost.deletedisk=true
```

表 8-1　SigmaSystemCenter リクエスト設定

設定項目	設定内容
createhost	
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.installmanually	OS を手動でインストールする場合は true にする
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.share	CPU シェアを設定する lowest : 最低 low : 低 normal : 通常 high : 高 highest : 最高
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.reservation	CPU 予約を設定する 有効な値: 0-99999
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.limit	CPU リミットを設定する 有効な値: 0-99999 (0=無制限)
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memory.share	メモリシェアを設定する low : 低 normal : 通常 high : 高
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memory.reservation	メモリ予約を設定する 有効な値: 0-99999
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memory.limit	メモリリミットを設定する 有効な値: 0-99999 (0=無制限)
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disks.disktype	ディスクタイプを設定する thin : Thin ディスク thick : Thick ディスク
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.account	管理者アカウントを設定する
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.domaintype	※WindowsClient、WindowsServer の場合に設定 ワークグループかドメインかを設定する workgroup : ワークグループ domain : ドメイン
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.networkname	※WindowsClient、WindowsServer の場合に設定 ワークグループ名またはドメイン名を設定する

設定項目	設定内容
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.domainaccount	※WindowsClient、WindowsServer の場合に設定 ドメインアカウントを設定する
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.licensemode	※WindowsServer の場合に設定 ライセンスモードを設定する PerServer : 同時接続サーバ数 PerSeat : 接続クライアント
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.maxconnection	※WindowsServer の場合に設定 同時接続サーバ数を設定する 有効な値: 1-99999 LicenseMode=PerServer の場合のみ
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.domainsuffix	※Linux の場合に設定 ドメインサフィックスを設定する
reconfigurehost	
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile.cpu.share	CPU シェアを設定する lowest : 最低 low : 低 normal : 通常 high : 高 highest : 最高
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile.cpu.reservation	CPU 予約を設定する 有効な値: 0-99999
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile.cpu.limit	CPU リミットを設定する 有効な値: 0-99999 (0=無制限)
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile.memory.share	メモリシェアを設定する low : 低 normal : 通常 high : 高
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile.memory.reservation	メモリ予約を設定する 有効な値: 0-99999
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile.memory.limit	メモリリミットを設定する 有効な値: 0-99999 (0=無制限)
product.cloudportal.provider.ssc.request.reconfigurehost.machineprofile.disks.disktype	ディスクタイプを設定する thin : Thin ディスク thick : Thick ディスク
deletehost	
product.cloudportal.provider.ssc.request.deletehost.deletedisk	VM の仮想ディスクを削除するかどうかを設定する

注

・設定ファイル（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties）の各行の最後には空白を含めないでください。

上記を記載後、ファイルの文字コードを UTF-8 で保存し、アプリケーションサーバ(Tomcat)を再起動します。 サーバーマネージャー の左側のパネルからローカルサーバーを選択し、サービスから「ServiceGovernor」を右クリック し、「サービスの再起動」を選択します。

8.2 VM コンソールプロキシの設定

VM コンソール表示機能を利用するには SigmaSystemCenter から、ブラウザと仮想マシンがある ESXi の接続のための設定が必要です。 以下の手順で設定してください。

1. 仮想マシンコンソールプロキシをインストールする

   『SigmaSystemCenter インストレーションガイド』を参照し、仮想マシンコンソールプロキシをインストールしてください

2. プロキシ URL を設定する

   『SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド』を参照し、VMware VM コンソールのプロキシ URL を設定してください

ヒント

VM コンソール機能については、「37.4.3.6 【コンソール】(346 ページ)」を参照してください。

第 9 章
物理サーバの運用について

vDCA SE ポータルにて物理サーバを管理するために必要な設定について説明します。 本手順の実施にあたり、事前に DPM を SigmaSystemCenter と同じ環境に構築してください。DPM のインストール手順は SigmaSystemCenter インストレーションガイドの『DPM クライアントをインストールする』を参照してください。

設定手順は以下の通りです。

1. DeploymentManager にログインし、運用メニューから「マシン」を選択します。

図 9-1　「グループ一覧」画面

2. 「設定」の「グループ追加」にて新規マシングループを作成します。

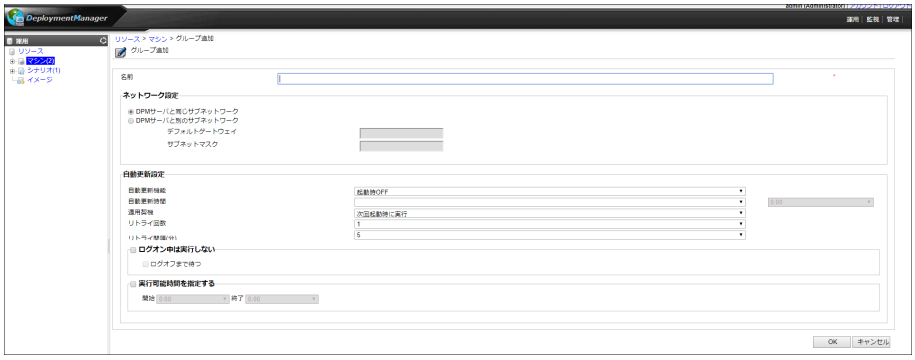

図 9-2　「グループ追加」画面

3. 新規マシン一覧から追加するマシンにチェックし、「マシン追加」をクリックします。

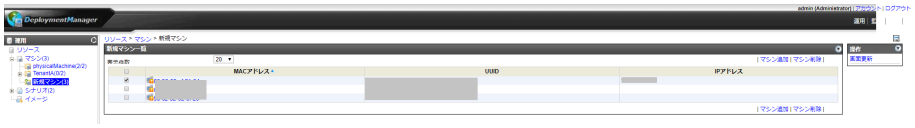

図 9-3　「新規マシン一覧」画面

4. 追加したマシングループにマシンを追加します。

   ※物理マシンを追加する場合は下記パラメータの指定が必須になります。

   - マシン名
   - MAC アドレス
   - UUID
   - IP アドレス
   - ネットワーク設定

図 9-4　「新規マシン追加」画面

5. SigmaSystemCenter のサブシステムに DPM を登録します。登録手順は SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイドの『DPM サーバをサブシステムに追加するには』を参照してください。

6. ターゲットライセンスを登録します。登録手順は SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイドの『ライセンスキーを登録する』を参照してください。

7. SigmaSystemCenter 上のテナント※1 に物理サーバのリソース割り当てを以下の手順で実施します。

   a. SigmaSystemCenter にログインし、「リソース」からマシン一覧を表示します。設定メニューから「グループ追加」をクリックします。

図 9-5　「マシン一覧」画面

   b. DeploymentManager に登録したマシンにチェックし、親のリソースを選択して登録します。

   ※a で作成したグループを親リソースとして指定してください。

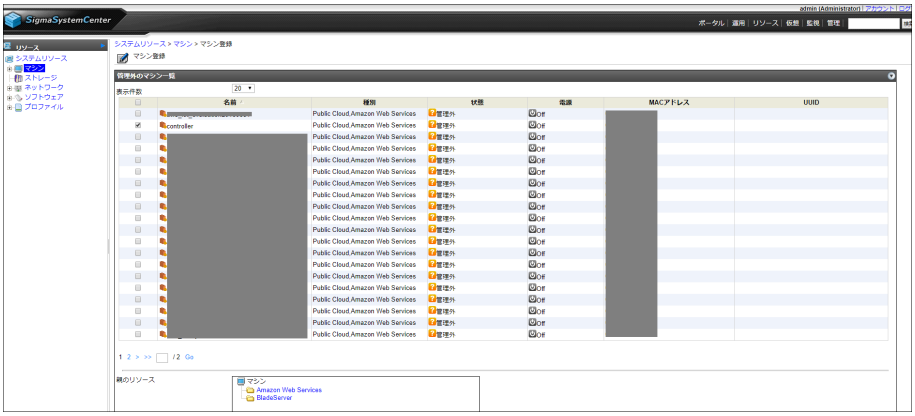

図 9-6　「マシン登録」画面

   c. b で登録したマシンに『アカウント情報』を以下の手順で設定します。※本手順は物理マシンに OOB 設定がされている場合に必要です。

      i. 「リソース」のマシン一覧から物理マシンを選択し、プロパティをクリックします。

図 9-7　「マシン情報」画面

ii.「アカウント情報」タブをクリックし、「追加」をクリックします。

図 9-8　「マシンプロパティ設定」画面

iii. OOB のアカウント情報を入力し「OK」をクリックします。

図 9-9　「アカウント追加 」画面

8. 運用グループから、マシン種別が「物理」のグループを選択し、「ホスト一覧」から「ホスト追加」をクリックします。

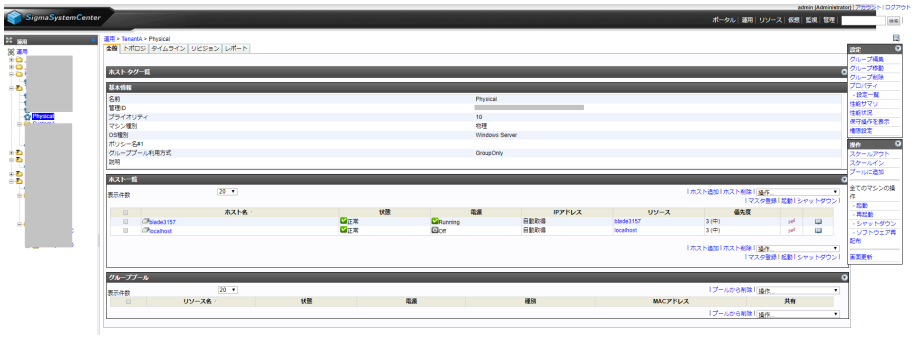

図 9-10　「ホスト一覧」画面

9.「ホスト追加」画面が表示されます。各項目に入力し、「OK」をクリックします。

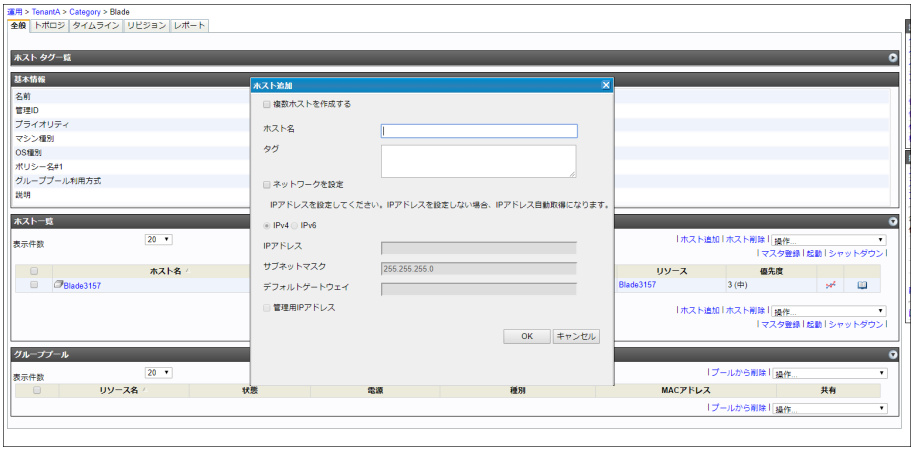

図 9-11　「ホスト追加」画面

10.「マスタ登録」をクリックします。

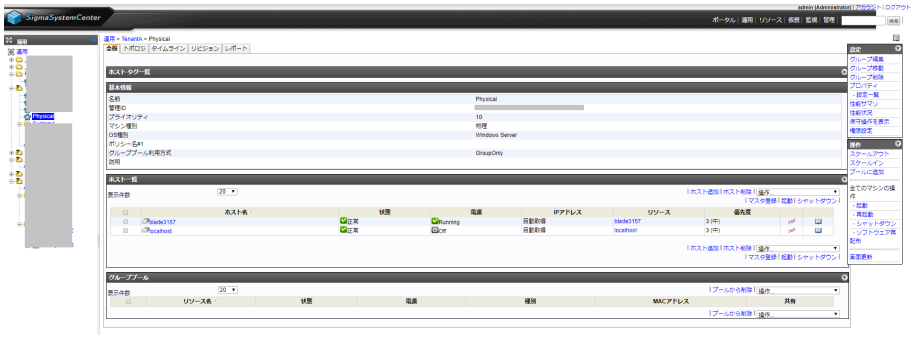

図 9-12　「ホスト一覧」画面

11.「マスタ登録」をクリックし、マスタマシン登録をします。

図 9-13　「マスタマシン登録」画面

12. vDCA SE ポータルで物理サーバを管理します。「37.4.7　サーバ一覧を同期する（350 ページ）」を参照し、同期することで物理サーバがポータル上に反映されます。

13. サーバ管理画面に物理サーバが追加されます。仮想サーバ同様、サーバ一覧画面からサーバ詳細情報を確認することが出来ます。

※1vDCA SE ポータルで管理するテナントのテナント ID と一致するようにしてください。

注

物理サーバの電源操作は設定およびインストールされているソフトウェアによって操作可否が異なります。

操作可否については下記表を参照してください。

表 9-1　物理サーバの電源操作可否

電源操作	ソフトウェア			
	Out Of Band 設定あり	Deployment Manager Client	ESMPRO/ ServerAgent	左記設定およびソフトウェアなし
電源 ON	○	○※1	○※1	○※1
電源 OFF	○	-	-	-
シャットダウン	-	○	-	-
再起動	-	○	-	-

※1Wake on LAN が設定されている場合のみ可能

第 10 章
サーバサービスカタログの設定

本章ではサーバ利用申請(リクエスト)に必要なカタログの運用設定について説明します。

サーバサービスカタログはプライベートクラウド用とパブリッククラウド用で設定内容が異なります。

プライベートクラウド用のサーバサービスカタログについては、「10.1　プライベートクラウド用のサーバサービスカタログの設定（39 ページ）」を参照し、設定を行います。

Amazon EC2 用のサーバサービスカタログについては、「10.2　Amazon EC2 用のサーバサービスカタログの設定（54 ページ）」を参照し、設定を行います。

Azure Virtual Machine 用のサーバサービスカタログについては、「10.3　Azure Virtual Machine 用のサーバサービスカタログの設定（58 ページ）」を参照し、設定を行います。

Oracle Cloud 用のサーバサービスカタログについては、「10.4　Oracle Cloud 用の DB システムサービスカタログの設定（64 ページ）」を参照し、設定を行います。

10.1　プライベートクラウド用のサーバサービスカタログの設定

本節では、プライベートクラウド用のサーバサービスカタログの設定手順について説明します。

vDCA SE ポータルでは、テナント利用者はカタログと、カタログに設定されたスペック及びディスクタグを選択して仮想マシンの払い出しサービスを受けることが出来ます。 本節ではサービスとしてテナントに提供するカタログに、VM テンプレートとスペック、ディスクタグを設定する方法について説明します。

10.1.1　カタログ表示名とスペックの設定

ここで設定した VM テンプレート表示名とスペックが、VM のリクエスト作成画面の選択肢として表示されます。

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。

1. VM テンプレートの表示名を指定します。VM テンプレートの数に応じて記載してください。

```
product.cloudportal.template.display.Template name=Display name
```

項目	説明
Template name	SigmaSystemCenter に登録されている VM テンプレートの名前
Display name	VM テンプレートの vDCA SE ポータル画面上での表示名

例：

```
product.cloudportal.template.display.Template-WindowsServer2012R2STD=Wi
ndows Server/2012R2/Standard Edition
```

※「/」は改行コードに変換されます。

2. その VM テンプレートから作成する VM のスペックの選択肢を指定します。選択肢は後述のスペックの定義で記載したものを使用します。

```
product.cloudportal.template.spec.Template name=Spec name,Spec name,...
```

項目	説明
Template name	SigmaSystemCenter に登録されている VM テンプレートの名前
Spec name	選択できるスペックの名前を任意の数列挙します。「,(カンマ)」区切り

例：

```
product.cloudportal.template.spec.Template-WindowsServer2012R2STD=specN
ame001,specName002,specName003,specName004
```

3. 作成する VM のスペックを定義します。様々なバリエーションで任意の数を作成することができます。

```
product.cloudportal.template.spec.detail.Spec name=number of CPU,Memory
 size(GB),System disk size(GB)
```

項目	説明
Spec name	選択できるスペックの名前
number of CPU	CPU の数(ソケット数)
Memory size(GB)	メモリサイズ(GB 単位)
System disk size(GB)	システムディスクのサイズ(GB 単位)

例：

```
product.cloudportal.template.spec.detail.specName001=1,1,100
product.cloudportal.template.spec.detail.specName002=1,2,100
product.cloudportal.template.spec.detail.specName003=2,3,100
product.cloudportal.template.spec.detail.specName004=2,4,100
```

4. 同期機能により取り込まれたサーバの構成変更用スペックを指定します。選択肢はスペックの定義で記載したものを使用します。

   取り込まれたサーバはテンプレート情報を持たないため、構成変更時にはテンプレートによらず以下で定義したスペックの選択肢が表示されます。

```
product.cloudportal.template.spec.default.parameter=Spec name,Spec name
,...
```

上記の設定は、vDCA SE ポータルの全テナント共通のデフォルトのスペックとして扱われます。

このデフォルト値ではなく、テナントに固有のスペックの選択肢を指定させる場合は、以下のように定義します。

```
product.cloudportal.template.spec.default.parameter.Tenant name=Spec name,Spec name,...
```

例：

```
product.cloudportal.template.spec.default.parameter=specName001,specName002
product.cloudportal.template.spec.default.TenantA=specName003,specName004
```

ヒント

同期したサーバのスペックを変更させない場合は、上記の値を空欄にします。

```
product.cloudportal.template.spec.default.parameter=
```

⚠ 注意

システムディスクのサイズは縮小することができないため、構成変更するサーバよりシステムディスクサイズの小さいスペックを選択するとエラーとなります。

上記を記載後、ファイルの文字コードを UTF-8 で保存します。アプリケーションサーバ(Tomcat)の再起動なしで反映されます。

ヒント

テンプレート毎に付加情報を設定することが可能です。付加情報の表示方法については、「A.1　テンプレートに付加情報を表示する（406 ページ）」を参照してください。

注

・SigmaSystemCenter でテンプレートの OS タイプ（OS 種別）および OS 名が正しく設定されていることを確認してください。（システムリソース>ソフトウェア>テンプレート>「テンプレート名」）設定が空の場合、vDCA SE ポータルはテンプレート情報を正しく認識できません。

・システムディスクサイズは、SigmaSystemCenter 上の VM テンプレートよりも小さいサイズは指定しないでください。

・システムディスクのサイズは縮小することができないため、1 つの VM テンプレート内で設定するディスクサイズは同じサイズにすることを推奨します。

・運用開始後は VM テンプレートの設定済みスペック定義を変更しないでください。新規に定義を追加することは可能です。

・運用開始後に VM テンプレートの変更が必要になった場合（新しい OS の追加など）は、上記の設定を変更した後に画面を再読み込みしてください。

10.1.2　カタログの公開制限設定

ここで設定したカタログを VM テンプレートごとに公開制限ができます。

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。

1. VM テンプレートの公開制限を指定します。VM テンプレートの数に応じて記載してください。

```
product.cloudportal.template.visible.Template name=Tenant ID
```

項目	説明
Template name	SigmaSystemCenter に登録されている VM テンプレートの名前
Template ID	VM テンプレートの vDCA SE ポータル画面上でのテナント ID

例：

```
product.cloudportal.template.visible.Template-WindowsServer2012R2STD=+Tena
ntA
```

webframework.properties にて「product.cloudportal.template.visible.VM テンプレート名」を下記のように設定します。設定前後にスペースが含まれないように記述してください。

```
product.cloudportal.template.visible.Template name=([+][-])テナントID1,([+]
[-])テナントID2,...,([+][-])テナントIDn
```

- テナントに公開する場合「+」

  省略可

- テナントに非公開にする場合「-」

  省略不可

- 複数のテナントを設定する場合は,(カンマ)区切りで列挙する。
- 「+」「-」「,」は半角
- product.cloudportal.template.display.(VM テンプレート) を設定して、product.cloudportal.template.visible.(VM テンプレート名) を設定しない場合には、全テナントに対して公開します。

以下が設定例になります。ポータルに TenantA、TenantB、TenantC、TenantD というテナントがあるとします。

・設定例 1

```
product.cloudportal.template.visible.Template-WindowsServer2012R2STD = +Te
nantA,+TenantB
```

この場合、TenantA と TenantB では明示的に公開になります。

TenantC,TenantD では暗黙的に非公開になります。

・設定例 2

```
product.cloudportal.template.visible.Template-WindowsServer2012R2STD = -Te
nantA,-TenantB
```

この場合、TenantA と TenantB では明示的に非公開になります。

TenantC,TenantD では暗黙的に公開になります。

・設定例 3

```
product.cloudportal.template.visible.Template-WindowsServer2012R2STD = -Te
nantA,-TenantB,TenantC,TenantD
```

この場合、TenantA と TenantB では明示的に非公開になります。

TenantC,TenantD では明示的に公開になります。

・設定例 4

```
product.cloudportal.template.visible.Template-WindowsServer2012R2STD = Ten
antA,TenantB,TenantC
```

この場合、TenantA と TenantB と TenantC では明示的に公開になります。

TenantD では暗黙的に非公開になります。

・設定例 5

```
product.cloudportal.template.visible.Template-WindowsServer2012R2STD = -Te
nantA,-TenantB,TenantC
```

この場合、TenantA と TenantB は明示的に非公開です。

TenantC では明示的に公開になります。

TenantD では暗黙的に公開になります。 ※+(符号なし)、-の混在の場合、記載なしのテナントは公開になります。

・設定例 6

```
product.cloudportal.template.visible.Template-WindowsServer2012R2STD = -Te
nantA,TenantB,+TenantC
```

この場合、TenantA では明示的に非公開になります。

TenantB,TenantC では明示的に公開になります。

TenantD では暗黙的に公開になります。 ※+(符号なし)、-の混在の場合、記載なしのテナントは公開になります。

注

・カタログの公開制限を行う場合は、必ず product.cloudportal.template.display.*Template name=Display name* を設定してください。

10.1.3　カタログのソート設定

ここで設定したカタログを VM テンプレートごとにソート順ができます。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. VM テンプレートのソート順を指定します。VM テンプレートの数に応じて記載してください。

```
product.cloudportal.template.sortkey.Template name=Sort Key
```

項目	説明
Template name	SigmaSystemCenter に登録されている VM テンプレートの名前
Sort Key	カタログソートキー 省略可 ※省略する場合、SigmaSystemCenter に登録されているテンプレート表示名を使用してソートする 半角記号・英数字のみ利用可能

3. 例：

```
product.cloudportal.template.sortkey.Template-WindowsServer2012R2STD=1
```

ヒント

ソートキー設定あり英字>ソートキー設定あり英字数字>ソートキー設定なし英字>ソートキー設定なし数字 の順にソートされます

重複したものがある場合は、テンプレート名の昇順になります。また、抜けている数値は無視されます

10.1.4　ディスクタグの設定

ディスクタグとは、プライベート・パブリッククラウド上でのサーバ作成時に、 システムディスクや拡張ディスクのディスクの種類や SigmaSystemCenter で設定されている作成先のデータストアタグ等といったディスクの性能を間接的に指定できるための仕組みです。 本設定を行うことで、ユーザは指定したカタログで利用可能なディスクタグの中からワークロードにおいて適切なものを選択することができるようになります。

サーバ作成時にディスクの性能を選択させる必要がない場合は本設定は不要です。 本設定を省略した場合、自動的に以下のパラメータがディスク性能として指定されます。 このパラメータの組み合わせを「デフォルトタグ」と呼びます。※1

表 10-1　デフォルトタグのパラメータ

項目	値
表示名	「なし」
ディスクタイプ	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties の "product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disks.disktype"で指定されている値。 インストール時のデフォルトでは、"thin"が指定されている。
データストアタグ	未指定 テナントで使用可能なすべてのデータストアを対象とする。
Azure ディスクタイプ	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties の "product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disks.azure.disktype"で指定されている値。 インストール時のデフォルトでは、""(空文字)が指定されている。
Azure ディスク形式	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties の "product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disks.azure.diskForm"で指定されている値。 インストール時のデフォルトでは、"Managed"が指定されている。
Azure ホストキャッシュ	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties の "product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disks.azure.hostCash"で指定されている値。 インストール時のデフォルトでは、""(空文字)が指定されている。
AWS ディスクタイプ	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties の "product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disks.aws.disktype"で指定されている値。 インストール時のデフォルトでは、""(空文字)が指定されている。
AWS プロビジョンド IOPS	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties の "product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disks.aws.iops"で指定されている値。 インストール時のデフォルトでは、400 が指定されている。
AWS EBS 暗号化	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties の "product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disks.aws.encrypt"で指定されている値。 インストール時のデフォルトでは、""(空文字)が指定されている。

ヒント

データストアタグや Azure ディスクタイプといったパラメータの詳細については、『SigmaSystemCenter リファレンスガイド』を参照してください。

⚠ 注意

※1 デフォルトタグは本設定を省略しない場合でも内部的に利用されており(例、サーバ引用時に引用対象のディスクタグが見つからなかった場合に割り当てられる等)、vDCA SE ポータルにおける予約語として扱われます。

サーバ作成・更新時にディスクの性能を選択させる場合は、以下の手順で設定を行います。

10.1.4.1　ディスクタグ設定ファイルを作成する

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\diskTags.json.sample を同じディレクトリ配下にコピーし、「diskTags.json」にリネームします。

ファイルには JSON 形式のテンプレートとしてタグの定義とカタログ選択時の表示に関する設定例が書かれており、これを運用に合わせて編集します。

ファイル内の各設定項目については、以下の「表 10-2 ディスクタグ設定項目一覧（46 ページ）」を参照してください。

表 10-2　ディスクタグ設定項目一覧

項目名		入力規則	説明
tags		―	入力画面に表示するタグ情報が設定された配列 後述の default_tags、catalogs の設定を省略することで、すべてのカタログに対し配列で定義されたすべてのタグが表示される
	name	1～64 文字 システムで一意とする マルチバイト文字指定可能	タグとして表示するタグ名(タグ情報を示す)
	diskType	以下のいずれかを指定する • 仮想ディスク用 　- thin 　- thick • ディスクボリュームマウント用 　- raw_physical 　- raw_virtual	タグに設定するディスクタイプを設定する
	datastoreTags	SigmaSystemCenter に設定されたデータストアタグ	タグに関連付けするデータストアタグを指定する 空配列を指定した場合、SigmaSystemCenter により自動的にデータストアが選択される 複数のデータストアタグを指定した場合は、指定したすべてのタグを設定してあるデータストアが選択される(AND 検索)
	visible	右記参照	ディスクタグの公開テナント制限

項目名		入力規則	説明
			ディスクタグを公開するテナントの ID を列挙する テナント ID をカンマ区切りで記述する ※特定のテナントのみ公開しないという設定も可能。記述ルールについては VM テンプレートの公開制限と同じとなるため、「10.1.2　カタログの公開制限設定（42 ページ）」を参照
default_tags		―	すべてのカタログにデフォルトで表示する、共通ディスクタグが設定された配列
	tags	1～64 文字 tags[].name で定義したタグ名を指定 マルチバイト文字指定可能	サーバ作成画面で、すべてのカタログに対して選択時に利用できるディスクタグの配列 何も指定しない場合、「表 10-1 デフォルトタグのパラメータ（45 ページ）」と同値を用いる
catalogs		―	カタログ指定時に表示されるディスクタグを個別に指定した、個別ディスクタグが設定された配列
	name	SigmaSystemCenter に登録されている VM テンプレートの名前	表示するディスクタグを個別に指定する、対象カタログのテンプレート名
	tags	1～64 文字 tags[].name で定義したタグ名を指定 マルチバイト文字指定可能	サーバ作成画面で、catalogs[].name で指定したカタログを選択した時に利用できるタグの配列 何も指定しない場合、「表 10-1 デフォルトタグのパラメータ（45 ページ）」と同値を用いる 対象のカタログについては、default_tags[].tags で指定した値を上書きする

設定ファイルにはディスクタグ自体を定義する項目と、作成したディスクタグがどのカタログにて利用可能かを定義する項目があります。 ディスクタグの定義は必須ですが、カタログ別の表示設定については任意です。

カタログ別の表示設定を行わない場合は、全てのディスクタグがどのカタログでも利用可能になります。 カタログ別の表示設定を行う場合には、以下の二つの定義に基づいて選択可能なディスクタグが制限されます。

- 共通ディスクタグ

  すべてのカタログに対して共通で表示されるディスクタグです。個別ディスクタグ設定があるカタログでは、設定が上書きされます。

- 個別ディスクタグ

  指定したカタログに対してのみ表示されるディスクタグです。対象カタログに関しては、共通ディスクタグの設定より優先して適用されます。

ただし、指定したカタログに対して個別ディスクタグの定義が存在しない場合や、VM テンプレートに対応するカタログ自体が存在しない場合には、共通ディスクタグの設定が適用されます。

カタログ別の表示設定の適用優先度は、以下の「図 10-1 ディスクタグ適用フロー（48 ページ）」のようになっています。

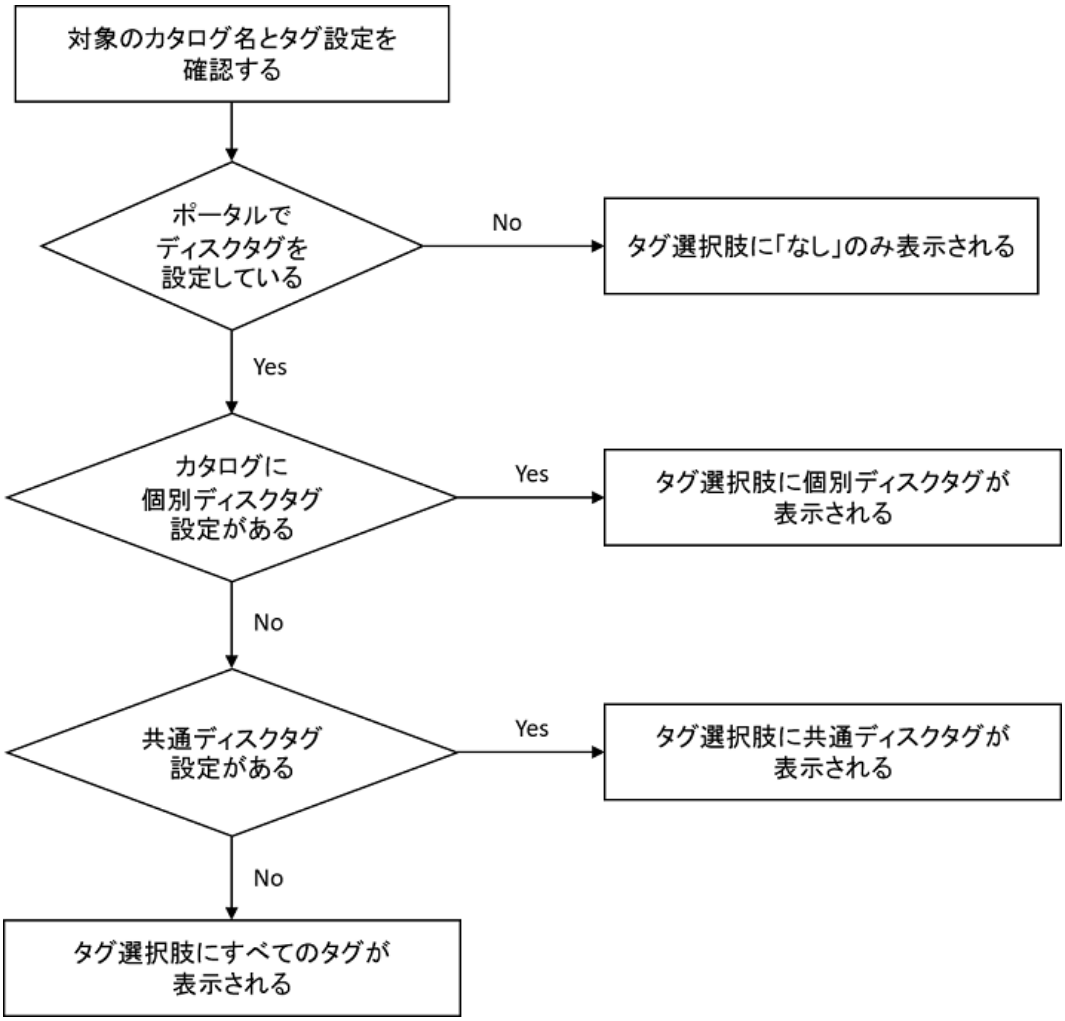

図 10-1　ディスクタグ適用フロー

diskTags.json の配置先ディレクトリやファイル名を変更したい場合には、C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties に以下を追記してください。

※「:」と「\」は「\」を付加してエスケープして下さい

product.cloudportal.disk.tags.json=*変更後のパス*

【設定例】

```
product.cloudportal.disk.tags.json=C\:\\tmp\\diskTags_updated.json
```

10.1.4.2　ディスクタグを定義する

ディスクタグ定義ファイルをテキストエディタで開き、ディスクタグの定義を行います。文字コードを UTF-8 で保存してください。

仮想ディスク用のディスクタグを作成する

サーバ作成・変更時に使用する仮想ディスク用のディスクタグを定義します。すべてのカタログで利用可能なディスクタグを定義する場合の設定例を以下に示します。

【設定例】

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "TagA",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": [
        "gold"
      ]
    },
    {
      "name": "TagB",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": [
        "silver"
      ]
    },
    {
      "name": "TagC",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "gold",
        "sla1"
      ]
    },
    {
      "name": "default",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": []
    }
  ]
}
```

上記の設定例では、TagA、TagB、TagC の 3 つのディスクタグを定義し、それぞれに対して仮想ディスク用のディスクタイプと作成先データストアのタグを指定しています。 なお、ディスクタグ定義ファイルを作成した場合、デフォルトタグが自動的に補完されなくなるため手動にて追加してください。

この設定を適用するとこれら 4 つのディスクタグは vDCA SE ポータルのすべてのカタログのディスクタグ選択肢に表示されます。

注

特定のカタログにのみ特定のディスクタグを表示したいといった使用制御をしたい場合には、カタログ別の表示設定を行います。 詳細は、同章後述の「共通ディスクタグを定義する」、「個別ディスクタグを定義する」をご参照ください。

ディスクボリュームマウント用のディスクタグを作成する

サーバ作成・変更時に使用するディスクボリュームマウント用のディスクタグを定義します。すべてのカタログで利用可能なディスクタグを定義する場合の設定例を以下に示します。

【設定例】

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "TagA",
      "diskType": "raw_physical",
      "datastoreTags": [
        "datastore"
      ],
      "visible": "+TenantA,-TenantB"
    },
    {
      "name": "TagB",
      "diskType": "raw_virtual",
      "datastoreTags": [
        "portal1"
      ],
      "visible": "+TenantA,TenantC"
    },
    {
      "name": "TagC",
      "diskType": "raw_virtual",
      "datastoreTags": [],
      "visible": "+TenantA,TenantC"
    }

  ]
}
```

上記の設定例では、TagA、TagB、TagC の 3 つのディスクタグを定義し、それぞれに対してディスクボリュームマウント用のディスクタイプと作成先データストアのタグを指定しています。

注

ディスクボリュームを利用するためには SigmaSystemCenter にて RDM 用の LAN を登録する必要があります。 詳細は『SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド』を参照してください。

共通ディスクタグを定義する

ディスクタグとして定義したタグの中で、すべてのカタログに対して表示されるタグを定義する例を以下に示します。

【設定例】

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "TagA",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": [
        "gold"
      ]
    },
    {
      "name": "TagB",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": [
        "silver"
      ]
    },
    {
      "name": "TagC",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "gold",
        "sla1"
      ]
    },
    {
      "name": "default",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": []
    }
  ],
  "default_tags": [
    {
      "tags": [
        "TagA",
        "TagB",
        "default"
      ]
    }
  ]
}
```

上記設定例では、4 つのタグのうち"TagA"と"TagB"、および"default"を共通ディスクタグとして指定しています。

この設定を適用するとすべてのカタログに対して"TagA"と"TagB"、"default"のみが選択肢に表示され、"TagC"は表示されなくなります。

個別ディスクタグを定義する

ディスクタグとして定義したタグの中で、特定のカタログに対してのみ表示されるタグを定義する例を以下に示します。

【設定例】

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "TagA",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": [
        "gold"
      ]
    },
    {
      "name": "TagB",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": [
        "silver"
      ]
    },
    {
      "name": "TagC",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "gold",
        "sla1"
      ]
    },
    {
      "name": "default",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": []
    }
  ],
  "default_tags": [
    {
      "tags": [
        "TagA",
        "TagB",
        "default"
      ]
    }
  ],
  "catalogs": [
    {
      "name": "CatalogA",
      "tags": [
        "TagC"
      ]
    }
  ]
}
```

上記設定例では、共通ディスクタグの設定に加え、CatalogA 向けの個別ディスクタグとして、"TagC"を指定しています。

この設定を適用することで、CatalogA に対しては"TagC"がその他のカタログには"TagA"と"TagB"、"default"が表示されます。

編集後はファイルの文字コードを UTF-8 で保存し、vDCA SE ポータルの画面を更新します。

注

webframework.properties ファイルの先頭コメント行は削除しないでください。

⚠ 注意

- ディスクタグ設定ファイルはサーバ同期時にも参照され、そのサーバのディスクのディスクタイプやデータストアタグに一致するディスクタグが割り当てられます。 サーバ同期の際、整合性を保つ為ポータルで使用していないタグはデフォルトタグに置き換えて設定されます。 この時、SigmaSystemCenter 上でのみ利用されているディスクタイプ/Azure ディスクタイプ/Azure ディスクフォーム/Azure ホストキャッシュ/AWS ディスクタイプ/AWS Encrypt/AWSIops は無視されます。 実際の設定とは異なるディスクタグが割り当てられる為、リクエストの情報を課金に利用したいケースにおいてはポータルで使用しているディスクタグを利用してください。
- デフォルトタグの設定は Private/AWS/Azure の区別がありません。 このため、例えば、AWS EC2 インスタンスを同期した際にそのディスクの設定がデフォルトタグの設定と一致してしまうと、 Private 用に作成したつもりのディスクタグが割り当てられてしまうおそれがあります。 Private/AWS/Azure を区別してディスクタグを運用したい場合、区別したいディスクタグに対してデフォルトタグの設定値とは異なる値を各々設定する必要があります。

  例：

```
{
    "tags": [
        {
            "name": "azure-disk",
            "diskType": "thin",
            "datastoreTags": [],
            "visible": "+TenantA,-TenantB",
            "azureDiskType": "StandardLRS",
            "azureDiskForm": "Managed",
            "azureHostCash": "ReadWrite"
        },
        {
            "name": "private-disk",
            "diskType": "thin",
            "datastoreTags": [],
            "visible": "+TenantA,-TenantB"
            "awsDiskType": "INVALID",
            "awsIops": -1,
            "awsEncrypt": "INVALID"
            "azureDiskType": "INVALID",
            "azureDiskForm": "INVALID",
            "azureHostCash": "INVALID"
        }
    ],
    "default_tags": {
        "name": "private-disk"
```

```
    }
}
```

10.2　Amazon EC2 用のサーバサービスカタログの設定

本節では、Amazon EC2 用のサーバサービスカタログの設定手順について説明します。

Amazon EC2 用のカタログ設定として、以下の三つの定義を設定ファイルに記載します。

- テナントユーザに対して公開する Amazon Machine Image に関する情報
- Amazon Machine Image にて指定可能なインスタンスタイプ
- ディスクタグのデフォルトパラメータの設定

これにより、本節で設定した Amazon Machine Image とインスタンスタイプが、VM のリクエスト作成画面の選択肢として表示されるようになります。

以下に手順を記載します。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. Amazon Machine Image の表示名、OS タイプ、OS 名、クラウドタイプを指定します。Amazon Machine Image の数に応じて記載してください。

```
product.cloudportal.template.display.Amazon Machine Image=Display name
product.cloudportal.template.ostype.Amazon Machine Image=OS type
product.cloudportal.template.osname.Amazon Machine Image=OS name
product.cloudportal.template.cloudtype.Amazon Machine Image=Cloud type
```

項目	説明
Amazon Machine Image	Amazon Machine Image の ID
Display name	Amazon Machine Image の vDCA SE ポータル画面上での表示名 「/」は改行コードに変換されます。
OS type	Amazon Machine Image の OS 種別 以下のいずれかで適切なものを記載してください。 • WindowsServer • WindowsClient • Linux
OS name	Amazon Machine Image の OS 名 SigmaSystemCenter のテンプレート設定の OS 名にて選択可能なものを記載してください。 詳細は SigmaSystemCenter のマニュアルを参照してください。
Cloud type	Amazon Machine Image のクラウド種別 AWS を記載してください。

例：

```
product.cloudportal.template.display.ami-ceafcba8=Amazon Linux/AMI 2017
.09.1 (HVM)/SSD Volume Type
```

```
product.cloudportal.template.ostype.ami-ceafcba8=Linux
product.cloudportal.template.osname.ami-ceafcba8=Red Hat Enterprise Lin
ux 7 (64bit)
product.cloudportal.template.cloudtype.ami-ceafcba8=AWS
```

3. 前手順で記載した Amazon Machine Image から作成する EC2 インスタンスのインスタンスタイプの選択肢を指定します。選択肢は後述のインスタンスタイプの定義で記載したものを使用します。

```
product.cloudportal.template.spec.Amazon Machine Image=Instance type,In
stance type,...
```

項目	説明
Amazon Machine Image	Amazon Machine Image の ID
Instance type	選択できるインスタンスタイプの名前を任意の数列挙します。「,(カンマ)」区切り

例：

```
product.cloudportal.template.spec.ami-ceafcba8=t2.micro,t2.small
```

4. 作成する EC2 インスタンスのインスタンスタイプを定義します。様々なバリエーションで任意の数を作成することができます。

```
product.cloudportal.template.spec.detail.Instance type=number of vCPU,M
emory size(GB),Instance storage(GB)
```

項目	説明
Instance type	選択できるインスタンスタイプの名前
number of vCPU	仮想 CPU の数
Memory size(GB)	メモリサイズ(GB 単位)
Instance storage(GB)	インスタンスストレージのサイズ(GB 単位)

例：

```
product.cloudportal.template.spec.detail.t2.micro=1,1,10
product.cloudportal.template.spec.detail.t2.small=1,2,30
```

ヒント

テンプレート毎に付加情報を設定することが可能です。付加情報の表示方法については、「A.1　テンプレートに付加情報を表示する（406 ページ）」を参照してください。

注

- インスタンスストレージのサイズは、Amazon Machine Image よりも小さいサイズは指定しないでください。

5. ディスクタグ設定ファイル（diskTags.json）に Amazon EC2 用のディスクタグを設定します。diskTags.json ファイルの作成方法については「10.1.4.1　ディスクタグ設定ファイルを作成する（46 ページ）」を参照してください。

   各パラメータの一覧は以下です。省略した場合は既定値が設定されます。既定値を変更したい場合は「表 10-4 ディスクタグ既定値設定項目一覧（57 ページ）」を参照し、webframework.properties に各値を設定してください。

表 10-3　ディスクタグ設定項目一覧

項目名		既定値	説明
tags		―	入力画面に表示するタグ情報が設定された配列 後述の default_tags、catalogs の設定を省略することで、すべてのカタログに対し配列で定義されたすべてのタグが表示される
	diskType	thin	必ず thin を指定すること
	datastoreTags	[]	必ず空配列にすること
	awsDiskType	空文字	ディスク種別として以下から定義する • Standard • GP2 • IO1 • ST1 • SC1 • 空文字※2
	awsIops	400	プロビジョンド IOPS の IOPS を指定する awsDiskType が"IO1"以外で指定されている場合は反映されない
	awsEncrypt	空文字	EBS 暗号化の有無を指定する • “true”(有効) • “false”(無効) • 空文字※2

例：

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "silver-disk",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": [],
      "visible": "+TenantA,-TenantB",
      "awsDiskType": "IO1",
      "awsIops" : "100",
      "awsEncrypt" : "false"
    }
```

```
    ],
  }
```

既定値を変更する場合は以下を設定します。

```
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.aws.disktype =disktype
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.aws.iops =iops
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.aws.encrypt =encrypt
```

表 10-4　ディスクタグ既定値設定項目一覧

項目	説明
disktype	AWS サーバのディスクタグで「なし」を利用する際に利用ディスク種別として以下から定義する • Standard • GP2 • IO1 • ST1 • SC1
iops	AWS サーバのディスクタグで「なし」を利用する際に利用プロビジョンド IOPS の IOPS を指定する
encrypt※1	AWS サーバのディスクタグで「なし」を利用する際に利用EBS 暗号化の有無を指定する • “true”(有効) • “false”(無効)

※1EBS 暗号化の有無が指定できるか否かは選択したインスタンスタイプによって異なります。詳細は Amazon EC2 の公式仕様をご確認ください。

※2 空文字を指定した場合、SigmaSystemCenter の規定値として扱われます。詳細は SigmaSystemCenter のドキュメントをご参照ください。

例：

```
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.aws.disktype =IO1
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.aws.iops =100
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.aws.encrypt =false
```

設定後、アプリケーションサーバ(Tomcat)の再起動を行うことで設定を反映します。

6. 手順 2 で指定した Amazom Machine Image に対して利用可能なディスクタグを設定します。「10.1.4.2　ディスクタグを定義する（49 ページ）」の「個別 ディスクタグを定義する」を参照し、手順 5 で作成したディスクタグを設定してください。
7. 登録したサービスカタログの公開テナントを設定します。詳細は「10.1.2　カタログの公開制限設定（42 ページ）」を参照してください。

⚠ 注意

- サーバ同期の際、整合性を保つ為ポータルで使用していないタグはデフォルトタグに置き換えて設定されます。 この時、SigmaSystemCenter 上でのみ利用されている AWS ディスクタイプ/AWS Encrypt/AWS Iops は無視されます。 実際の設定とは異なるディスクタグが割り当てられる為、リクエストの情報を課金に利用したいケースにおいてはポータルで使用しているディスクタグを利用してください。
- デフォルトタグの設定は Private/AWS の区別がありません。 このため、例えば、AWS EC2 インスタンスを同期した際にそのディスクの設定がデフォルトタグの設定と一致してしまうと、Private 用に作成したつもりのディスクタグが割り当てられてしまうおそれがあります。Private/AWS を区別してディスクタグを運用したい場合、区別したいディスクタグに対してデフォルトタグの設定値とは異なる値を各々設定する必要があります。

  例：

```
{
    "tags": [
        {
            "name": "aws-disk",
            "diskType": "thin",
            "datastoreTags": [],
            "visible": "+TenantA,-TenantB",
            "awsDiskType": "IO1",
            "awsIops": "100",
            "awsEncrypt": "false"
        },
        {
            "name": "private-disk",
            "diskType": "thin",
            "datastoreTags": [],
            "visible": "+TenantA,-TenantB",
            "awsDiskType": "INVALID",
            "awsIops": -1,
            "awsEncrypt": "INVALID"
        }
    ],
    "default_tags": {
        "name": "private-disk"
    }
}
```

10.3　Azure Virtual Machine 用のサーバサービスカタログの設定

本節では、Azure Virtual Machine 用のサーバサービスカタログの設定手順について説明します。

Azure 用のカタログ設定として、以下の三つの定義を設定ファイルに記載します。

- テナントユーザに対して公開する OS イメージに関する情報
- OS イメージにて指定可能な VM サイズタイプ
- ディスクタグのデフォルトパラメータの設定

これにより、本節で設定した OS イメージと VM サイズタイプが、VM のリクエスト作成画面の選択肢として表示されるようになります。

以下に手順を記載します。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. OS イメージの表示名、公開先、OS タイプ、OS 名、クラウドタイプを指定します。OS イメージの数に応じて記載してください。

```
product.cloudportal.template.display.OS Image=Display name
product.cloudportal.template.visible.OS Image=Tenant ID
product.cloudportal.template.ostype.OS Image=OS type
product.cloudportal.template.osname.OS Image=OS name
product.cloudportal.template.cloudtype.OS Image=Cloud type
```

項目	説明
OS Image	以下から OS イメージを指定する Windows で利用可能な OS イメージ • WindowsServer2008R2_SP1 • WindowsServer2012Datacenter • WindowsServer2012R2Datacenter • WindowsServer2016TechnicalPreviewWithContainers Linux で利用可能な OS イメージ • UbuntuServer14_04_Ltsc • UbuntuServer16_04_Lts • Debian8 • CentOS7_2 • OpenSuseLeap42_1 • Sles12Sp1
Display name	OS イメージの vDCA SE ポータル画面上での表示名 「/」は改行コードに変換されます。
Tenant ID	公開先のテナント ID を指定する 省略した場合は全テナントに公開する
OS type	OS イメージの OS 種別 以下のいずれかで適切なものを記載してください。 • WindowsServer • WindowsClient • Linux
OS name	OS イメージ OS 名 SigmaSystemCenter のテンプレート設定の OS 名にて選択可能なものを記載してください。 詳細は SigmaSystemCenter のマニュアルを参照してください。
Cloud type	OS イメージのクラウド種別 AZURE を記載してください。

例：

```
product.cloudportal.template.display.WindowsServer2008R2_SP1=Azure Win
product.cloudportal.template.ostype.WindowsServer2008R2_SP1=WindowsServ
er
product.cloudportal.template.osname.WindowsServer2008R2_SP1=Windows Ser
ver 2010
product.cloudportal.template.cloudtype.WindowsServer2008R2_SP1=AZURE
```

3. 前手順で記載した OS イメージから作成する VM のサイズタイプの選択肢を指定します。選択肢は後述の VM のサイズタイプの定義で記載したものを使用します。

```
product.cloudportal.template.spec.OS Image=Size type,Size type,...
```

項目	説明
OS Image	前手順で指定した OS イメージ
Size type	選択できる VM サイズタイプの名前を任意の数列挙します。「,(カンマ)」区切り

例：

```
product.cloudportal.template.spec.WindowsServer2008R2_SP1=Standard_D2s_
v3,Standard_D4s_v3
```

4. 作成する VM サイズタイプを定義します。様々なバリエーションで任意の数を作成することができます。

```
product.cloudportal.template.spec.detail.Size type=number of vCPU,Memor
y size(GB),Instance storage(GB)
```

項目	説明
Size type	選択できる VM サイズタイプの名前 以下のサイトを参照し、Azure にて利用可能なサイズタイプを指定 https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/virtual-machines/windows/sizes?toc=%2Fazure%2Fvirtual-machines%2Fwindows%2Ftoc.json
number of vCPU	仮想 CPU の数
Memory size(GB)	メモリサイズ(GB 単位)
Instance storage(GB)	インスタンスストレージのサイズ(GB 単位) サイズタイプで規定されているストレージより大きなサイズを指定

例：

```
product.cloudportal.template.spec.detail.Standard_D2s_v3=2,8,180
```

ヒント

テンプレート毎に付加情報を設定することが可能です。付加情報の表示方法については、「A.1　テンプレートに付加情報を表示する（406 ページ）」を参照してください。

注

- インスタンスストレージのサイズは、OS イメージ以下のサイズは指定しないでください。

5. ディスクタグ設定ファイル（diskTags.json）に Azure Virtual Machine 用のディスクタグを設定します。diskTags.json ファイルの作成方法については「10.1.4.1　ディスクタグ設定ファイルを作成する（46 ページ）」を参照してください。

   各パラメータの一覧は以下です。省略した場合は既定値が設定されます。既定値を変更したい場合は「表 10-6 ディスクタグ既定値設定項目一覧（62 ページ）」を参照し、webframework.properties に各値を設定してください。

表 10-5　ディスクタグ設定項目一覧

項目名		既定値	説明
tags		－	入力画面に表示するタグ情報が設定された配列 後述の default_tags、catalogs の設定を省略することで、すべてのカタログに対し配列で定義されたすべてのタグが表示される
	diskType	thin	必ず thin を指定すること
	datastoreTags	[]	必ず空配列にすること
	azureDiskType	PremiumLRS	ディスク種別として以下から定義する • StandardLRS • StandardSSDLRS • PremiumLRS サイズタイプによって指定可能なディスク種別は異なる。詳細はサイズタイプに記載したリンク先を参照
	azureDiskForm	Managed	ディスク形式を以下から指定する • Managed • UnManaged
	azureHostCash	ReadWrite	ディスクのホストキャッシュを以下から指定する • ReadWrite • ReadOnly • None サイズタイプによって指定できない場合がある。詳細はサイズタイプに記載したリンク先を参照

例：

```
  {
"tags": [
  {
    "name": "gold-disk",
    "diskType": "thin",
    "datastoreTags": [],
```

```
        "visible": "+TenantA,-TenantB",
        "azureDiskType": "StandardLRS",
        "azureDiskForm" : "Managed",
        "azureHostCash" : "ReadWrite"
      },
    }
```

既定値を変更する場合は以下を設定します。

```
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.azure.disktype =disktype
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.azure.diskForm =diskForm
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.azure.hostCash =hostCash
```

表 10-6　ディスクタグ既定値設定項目一覧

項目	説明
disktype	Azure Virtual Machine のディスクタグで「なし」を利用する際に利用 ディスク種別として以下から定義する • Standard • StandardSSDLRS • PremiumLRS
diskForm	Azure Virtual Machine のディスクタグで「なし」を利用する際に利用 ディスク形式を以下から指定する • Managed • UnManaged
hostCash	Azure Virtual Machine のディスクタグで「なし」を利用する際に利用 ディスクのホストキャッシュを以下から指定する • ReadWrite • ReadOnly • None

例：

```
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.azure.disktype=Standard
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.azure.diskForm=Managed
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disk
s.azure.hostCash=ReadWrite
```

設定後、アプリケーションサーバ(Tomcat)の再起動を行うことで設定を反映します。

6. 手順 2 で指定した OS イメージに対して利用可能なディスクタグを設定します。「10.1.4.2　ディスクタグを定義する（49 ページ）」の「個別ディスクタグを定義する」を参照し、手順 5 で作成したディスクタグを設定してください。

7. 登録したサービスカタログの公開テナントを設定します。詳細は「10.1.2　カタログの公開制限設定（42 ページ）」を参照してください。

続いてサーバが所属する Azure リソースグループの設定を行います。vDCA SE ポータルでは、「35.1.2.1　サーバ作成リクエスト（271 ページ）」にて Azure Virtual Machine 用のサーバサービスカタログを選択した場合、そのサーバが所属する Azure リソースグループを業務グループとして選択します。 Azure で選択された Azure リソースグループに所属するように Azure Virtual Machine の作成を行います。 このため、事前に Azure リソースグループと同名の業務グループを登録しておく必要があります。 「37.2.3　業務グループを追加する（335 ページ）」を参照し、Azure リソースグループと同名の業務グループを登録してください。

⚠ 注意

- サーバ同期の際、整合性を保つ為ポータルで使用していないタグはデフォルトタグに置き換えて設定されます。 この時、SigmaSystemCenter 上でのみ利用されている Azure ディスクタイプ/Azure ディスクフォーム/Azure ホストキャッシュは無視されます。 実際の設定とは異なるディスクタグが割り当てられる為、リクエストの情報を課金に利用したいケースにおいてはポータルで使用しているディスクタグを利用してください。
- デフォルトタグの設定は Private/Azure の区別がありません。 このため、例えば、Azure インスタンスを同期した際にそのディスクの設定がデフォルトタグの設定と一致してしまうと、Private 用に作成したつもりのディスクタグが割り当てられてしまうおそれがあります。 Private/Azure を区別してディスクタグを運用したい場合、区別したいディスクタグに対してデフォルトタグの設定値とは異なる値を各々設定する必要があります。

  例：

```
{
    "tags": [
        {
            "name": "azure-disk",
            "diskType": "thin",
            "datastoreTags": [],
            "visible": "+TenantA,-TenantB",
            "azureDiskType": "StandardLRS",
            "azureDiskForm": "Managed",
            "azureHostCash": "ReadWrite"
        },
        {
            "name": "private-disk",
            "diskType": "thin",
            "datastoreTags": [],
            "visible": "+TenantA,-TenantB",
            "azureDiskType": "INVALID",
            "azureDiskForm": "INVALID",
            "azureHostCash": "INVALID"
        }
    ],
    "default_tags": {
        "name": "private-disk"
    }
}
```

10.4　Oracle Cloud 用の DB システムサービスカタログの設定

本章では Oracle Cloud 用の DB システムサービスカタログ設定方法について説明します。OracleCloud 用の DB システムサービスカタログを利用しない場合には本章の設定は不要です。

Oracle Cloud プラグインを有効化・設定します。以下の手順では、インストールパスを C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA として説明します。インストール時の設定に合わせ、適宜読み替えて設定してください。

1. vDCA SE ポータルを NTP サーバに接続するなどして Oracle Cloud と時刻が一致するように設定してください。
2. Oracle Cloud プラグインはライセンスを有効化することで利用可能になります。C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開き、以下を設定してください。

```
license.cloudportal.ocdb=true
```

3. Oracle Cloud プラグインをデプロイします。 以下のパスに示されるプラグイン定義ディレクトリ配下に Oracle Cloud プラグインを配置してください。

```
C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\general
```

プラグイン定義ディレクトリに格納するプラグイン名はライセンスと同じ名前となるよう設定します。

```
C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\general\ocdb
```

インストールメディアに Oracle Cloud プラグインが格納されています。プラグイン定義ディレクトリ配下にコピーして展開してください。

```
{インストールメディア}/fw/Windows/Product/Portal/ocdb.zip
```

4. プラグインに含まれる以下のファイル群を環境に合わせ修正してください。

- create.json

  C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\general\ocdb 配下の「create.json」ファイルをテキストエディタで開き、OracleDB システム作成リクエスト申請画面に利用する設定項目を定義します。

表 10-7　create.json 設定項目

設定項目	型	省略可否	設定内容
templates[].name	string	必須	テンプレートの一意識別子
templates[].displayKey	string	必須	テンプレートの表示名 テンプレート一意識別子用の表示名を示すキーの JSON パスを記入します。

設定項目	型	省略可否	設定内容
templates[].cpuCoreCount	number	必須	ベアメタルまたは Exadata DB システムで有効にする CPU コアの数 指定された shape によって指定可能な cpuCoreCount の範囲が異なる cpuCoreCount と shape の値の関係は以下を参照してください。※2020 年 3 月当時 ・Bare Metal Shapes https://docs.cloud.oracle.com/en-us/iaas/Content/Compute/References/computeshapes.htm ・Exadata Shapes https://docs.cloud.oracle.com/en-us/iaas/Content/Database/Concepts/exaoverview.htm
templates[].dataStoragePercentage	number	必須	データボリューム割合 DATA ストレージに割り当てられた割合（ユーザデータおよびデータベースファイル）
templates[].domain	string	必須	DB システムに使用されるドメイン名 結合されたホスト名とドメインの最大長は 63 文字 ハイフン「-」は使用できない 事前に OracleCloud（https://console.us-ashburn-1.oraclecloud.com/）にアクセスし、 DBSystem の仮想ネットワークおよびサブネットを作成し、そのサブネットのドメイン名を記入する必要があります。 ネットワークの概要については、以下 OracleCloud ドキュメントを参照してください。※2020 年 3 月当時 https://docs.cloud.oracle.com/ja-jp/iaas/Content/Network/Concepts/overview.htm
templates[].initialDataStorageSizeInGB	number	必須	仮想マシンの DB システムに作成および接続される初期データボリュームのサイズ（GB 単位）
templates[].nodeCount	number	必須	2 ノードの RAC virtual マシン DB システムで起動するノードの数
templates[].shape	string	必須	DB システムの形状。 形状は、DB システムに割り当てられたリソースを決定する 仮想マシンの形状では、CPU コアとメモリの数 ベアメタルと Exadata shape の場合、CPU コア、メモリ、ストレージの数 指定可能な値は、以下を参照してください。※2020 年 3 月当時

設定項目	型	省略可否	設定内容
			・仮想マシン DB システムの形状 https://docs.cloud.oracle.com/ja-jp/iaas/Content/Database/Concepts/overview.htm
templates[].databaseEdition	string	必須	DB システム上のすべてのデータベースに適用される Oracle Database Edition ・STANDARD_EDITION ・ENTERPRISE_EDITION ・ENTERPRISE_EDITION_HIGH_PERFORMANCE ・ENTERPRISE_EDITION_EXTREME_PERFORMANCE Exadata DB システムと 2 ノードの RAC DB システムでは、ENTERPRISE_EDITION_EXTREME_PERFORMANCE が必要
templates[].diskRedundancy	string	任意	DB システム用に構成された冗長性のタイプ ・NORMAL:双方向の冗長性 ・HIGH:3 方向冗長性 省略時：HIGH
templates[].licenseModel	string	任意	DB システム上のすべてのデータベースに適用される Oracle ライセンスモデル ・LICENSE_INCLUDED（デフォルト） ・BRING_YOUR_OWN_LICENSE 省略時は、デフォルト値（LICENSE_INCLUDED）を設定
templates[].dbVersion	string	必須	有効な Oracle Database バージョン
templates[].displayName	string	任意	ユーザーが指定したデータベース・ホーム名
templates[].dbWorkload	string	任意	Database ワークロード タイプ ・OLTP（デフォルト値） ・DSS 省略時は、デフォルト値（OLTP）を設定
regions[].name	string	必須	DB システムの作成先候補となるリージョンの識別子 リージョンの識別子は以下を参照して設定してください。※2020 年 3 月当時 ・Regions and Availability Domains https://docs.cloud.oracle.com/en-us/iaas/Content/General/Concepts/regions.htm

設定項目	型	省略可否	設定内容
regions[].displayKey	string	必須	DB システムの作成先候補となるリージョンの表示名のキー DB システムの作成先候補となるリージョンの表示名を示すキーの JSON パスを記入します。
regions[].availabilityDomains[].name	string	必須	DB システムの作成先候補となるリージョン内の可用性ドメインの値 可用性ドメインの値は以下を参照して設定してください。※2020 年 3 月当時 ・Regions and Availability Domains https://docs.cloud.oracle.com/en-us/iaas/Content/General/Concepts/regions.htm
regions[].availabilityDomains[].displayKey	string	必須	DB システムの作成先候補となるリージョン内の可用性ドメインの表示名のキー DB システムの作成先候補となるリージョン内の可用性ドメインの表示名を示すキーの JSON パスを記入します。

以下、create.json の設定例となります。

```
{
  "templates":[
      {
          "name":"template1",
          "displayKey":"create.template1",
          "cpuCoreCount" : 2,
          "dataStoragePercentage":80,
          "domain" : "sub08210920030.testnet.oraclevcn.com",
          "initialDataStorageSizeInGB" :256,
          "nodeCount" : 1,
          "shape":"VM.Standard2.1",
          "databaseEdition" : "STANDARD_EDITION",
          "dbVersion" : "12.1.0.2"
      },
      {
          "name":"template",
          "displayKey":"create.template2",
          "cpuCoreCount" : 2,
          "dataStoragePercentage":80,
          "shape" : "VM.Standard2.4",
          "initialDataStorageSizeInGB" :"256",
          "nodeCount" : 1,
          "shape":"VM.Standard2.1",
          "databaseEdition" : "ENTERPRISE_EDITION",
          "licenseModel" : "LICENSE_INCLUDED",
          "dbWorkload" : "DSS",
          "dbVersion" : "12.1.0.2"
      }],
       "availabilityDomains" : [
        {
```

```
            "name": "lPWl:AP-TOKYO-1-AD-1",
            "displayKey": "create.content.availabilityDomain1"
        }],
    "characterSets" : [
    {
        "name":"AL32UTF8",
        "displayKey":"create.content.AL32UTF8"
    },
    {
        "name":"AR8ADOS710",
        "displayKey":"create.content.AR8ADOS710"
    },
    [省略]
    {
        "name":"UTF8",
        "displayKey":"create.content.UTF8"
    }]

}}
```

ヒント

- 用意したい DB システムのテンプレートの数だけ、templates[]配下にテンプレート定義を追加してください。
- messages.json（メッセージ定義ファイル）について

  事前に、プラグイン定義ディレクトリ配下の messages.json に、テンプレート一意識別子用の表示名を json 形式で定義してください。

  併せて、DB システムの作成先候補となるリージョンの表示名と、リージョン内の可用性ドメインの表示名を定義します。

  以下、templates[].displayKey に create.template1、 regions[].displayKey に create.regions、regions[].availabilityDomains[].displayKey に create.availabilityDomains をそれぞれ指定した場合の messages.json 例となります。

```
{
    "name": "Oracle DB System",
    "create": {
        "title" : "Oracle DB System",
        "template1" : "template1",
        "template2" : "template2",
        "regions" : "Japan East (Tokyo)",
        "availabilityDomains" : "Availability Domains",
        "content" : {
        [省略]
```

  日本語向けの表示名を設定したい場合には、日本語用メッセージ定義ファイルを開き、同様の JSON キーを定義し、値を記入してください。

- scriptConfig.json

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\general\ocdb 配下の「scriptConfig.json」ファイルをテキストエディタで開き、OracleCloud へ API 発行するために必要な設定項目を定義します。

表 10-8　scriptConfig 設定項目

設定項目	型	省略可否	設定内容
authArray[]	配列	必須	OracleCloud に接続する際に使用する認証情報 Oracle DB システムに関するリクエストを申請するテナント毎に authArray[]設定を定義してください。
authArray[].tenantIds	string	必須	Oracle DB システムに関するリクエストを申請するテナント毎のテナント ID DB システム作成・更新・削除リクエストの実行時にどの認証情報を使用するかのキーとなります。 複数のテナントが一つの認証情報を使用する場合には、カンマ(,)区切りでテナント ID を設定してください。
authArray[].authUserId	string	必須	認証時のユーザの OCID OracleCloud に接続する際に使用する認証情報の一つ 設定する OCID については、以下 OracleCloud ドキュメントを参照して各々の値を取得してください。※2020 年 3 月当時 https://docs.cloud.oracle.com/ja-jp/iaas/Content/API/Concepts/apisigningkey.htm
authArray[].keyFingerprint	string	必須	PEM 公開キーのフィンガープリント 事前に秘密鍵の作成が必要です。 以下 OracleCloud ドキュメントを参照して秘密鍵を生成し、keyFingerprint を取得してください。※2020 年 3 月当時 https://docs.cloud.oracle.com/ja-jp/iaas/Content/API/Concepts/apisigningkey.htm
authArray[].tenancyId	string	必須	認証時のテナンシの OCID OracleCloud に接続する際に使用する認証情報の一つ 設定する OCID については、以下 OracleCloud ドキュメントを参照して各々の値を取得してください。※2020 年 3 月当時 https://docs.cloud.oracle.com/ja-jp/iaas/Content/API/Concepts/apisigningkey.htm
authArray[].subnetId	string	必須	認証時のサブネットの OCID OracleCloud に接続する際に使用する認証情報の一つ 事前に OracleCloud（https://console.us-ashburn-1.oraclecloud.com/）にアクセスし、 作成した DBSystem の仮想ネットワークおよびサブネットの OCID を設定してください。 ネットワークの概要については、以下 OracleCloud ドキュメントを参照してください。※2020 年 3 月当時 https://docs.cloud.oracle.com/ja-jp/iaas/Content/Network/Concepts/overview.htm
authArray[].apiKeyFile	string	必須	秘密鍵のファイルパス（フルパス）を指定

設定項目	型	省略可否	設定内容
			事前に、以下 OracleCloud ドキュメントを参照して秘密鍵を生成し、ポータルのローカルに配置してください。※2020 年 3 月当時 https://docs.cloud.oracle.com/ja-jp/iaas/Content/API/Concepts/apisigningkey.htm
regions[].<リージョン識別子>	string	必須	リージョン識別子に対応する URL（"https"を除いた FQDN）を指定 <リージョン識別子>は、config.json の regions[].name の値を設定 対応する URL は以下の「API Endpoints」を参照して設定してください。※2020 年 3 月当時 https://docs.cloud.oracle.com/en-us/iaas/api/#/en/database/20160918/

以下、scriptConfig.json の設定例となります。

```
{
  "host":"database.ap-tokyo-1.oraclecloud.com",
  "url" : "/20160918/dbSystems",
  "nodeUrl" : "/20160918/dbNodes",
  "databaseUrl" : "/20160918/databases",
  "dbHomeUrl" : "/20160918/dbHomes",
  "authArray":
  [
      {
      "tenantIds" : "TenantA",
       "authUserId" : "ocid1.user.oc1..abcdefghcicpqp7a44jad24vinw3e
6x5ws5fsqsvtk7ntixmmweldevpq72a",
       "keyFingerprint" : "ab:cd:ef:e9:ab:95:9a:02:56:3e:26:01:5c:21
:02:57",
       "tenancyId" : "ocid1.tenancy.oc1..abcdefghrdfcwlyykcd3awtdyjd
iet6igwecgmowbbwgkwwu4vvrchr6vska",
       "subnetId" : "ocid1.subnet.oc1.ap-tokyo-1.abcdefghgrzxnsd6ydg
fizc3xh7wvvx6unb4xloglpk3rasasrngjcota2hq",
       "apiKeyFile" : "C:\\Program Files (x86)\\NEC\\vDCA\\Tomcat\\c
onf\\NEC\\general\\ocdb\\apikey.pem"
      }
  ],
  "regions": {
    "us-ashburn-1": "database.ap-ashburn-1.oraclecloud.com",
    "ap-tokyo-1": "database.ap-tokyo-1.oraclecloud.com"
  }
}
```

- userConfig.json

  C:\Program Files(x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\general\ocdb 配下の「userConfig.json」ファイルをテキストエディタで開き、OracleDB システム作成リクエスト申請画面にて選択可能なコンパートメントをユーザ毎に設定します。JSON フォーマットで定義してください。

JSON キーの最上位にテナント ID、その配下 にユーザ ID という構造でファイルを定義してください。 本項では例として、TenantA というテナントに所属する admin、admin2 というユーザが利用できるコンパートメントの選択肢を定義します。

表 10-9　userConfig 設定項目

設定項目	型	省略可否	設定内容
tenantID[].userID[].compartmentIds[].name	string	必須	選択肢の一意識別子
tenantID[].userID[].compartmentIds[].displayName	string	必須	選択肢の表示名 テンプレート一意識別子用の表示名を示すキーの JSON パスを記入します。

以下、userConfig.json の設定例となります。

```
{
    "TenantA": {
        "admin": {
            "compartmentIds" : [
                {
                     "name":"ocid1.compartment.oc1..aaaaaaaaobd7l6bu
vqlsyg477go23ts5qp7qz5ujimvo2yaxqmioy2nkrnla",
                    "displayKey":"create.content.compartmentId1"
                },
                {
                     "name":"ocid1.compartment.oc1..aaaaaaaaobd7l6bu
vqlsyg477go23ts5qp7qz5ujimvo2yaxqmioy2nkrnla",
                    "displayKey":"create.content.compartmentId2"
                }
            ]
        },
        "admin2": {
            "compartmentIds" : [
                {
                     "name":"ocid1.compartment.oc1..aaaaaaaaobd7l6bu
vqlsyg477go23ts5qp7qz5ujimvo2yaxqmioy2nkrnla",
                    "displayKey":"create.content.compartmentId1"
                }
            ]
        }
    }
}
```

ヒント

- userConfig.json は、テナント毎・ユーザ毎に設定が必要です。複数のテナント・ユーザが存在する場合、各々の選択肢を定義してください。
- messages.json（メッセージ定義ファイル）について

  事前に、プラグイン定義ディレクトリ配下の messages.json に、選択肢一意識別子用の表示名を json 形式で定義してください。

以下、templates[].displayKey に create.content.compartmentId1 を指定した場合の messages.json の例となります。

```
{
    "name": "Oracle DB System",
    "create": {
        "title" : "Oracle DB System",
        "template1" : "template1",
        "template2" : "template2",
        "content" : {
            "title": "Information",
            "displayName": "DB System Displayname",
            "compartmentId": "Compartment Id",
            "compartmentId1": "Compartment Id1",
            "compartmentId2": "Compartment Id2",
            [省略]
```

日本語向けの表示名を設定したい場合には、日本語用メッセージ定義ファイルを開き、同様の JSON キーを定義し、値を記入してください。

5. プラグイン権限を定義します。以下の設定を行ってください。

- C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\custom 配下に「application.json」という名前の空ファイルを作成します。
- 「application.json」ファイルをテキストエディタで開き、権限グループを定義します。

```
{
    "name": "Oracle DB System",
    "version": "V1.0",
    "description": "Oracle DBシステム",
    "authorities": [
        {
            "name": "ROLE_REQUEST_OCDB_CREATE",
            "displayNames" : {
                "ja" : "Oracle DBシステム作成",
                "en" : "Oracle DB System creation"
            },
            "roleSetting" : true
        },
        {
            "name": "ROLE_REQUEST_OCDB_UPDATE",
            "displayNames" : {
                "ja" : "Oracle DBシステム変更",
                "en" : "Oracle DB System change"
            },
            "roleSetting" : true
        },
        {
            "name": "ROLE_REQUEST_OCDB_DELETE",
            "displayNames" : {
                "ja" : "Oracle DBシステム削除",
                "en" : "Oracle DB System deletion"
            },
            "roleSetting" : true
```

```
        },
        {
            "name": "ROLE_OCDB_MENU_SHOW",
            "displayNames" : {
                "ja" : "DBシステム管理メニュー表示",
                "en" : "DB System Management menu display"
            },
            "roleSetting" : true
        },
        {
            "name": "ROLE_OCDB_LIST_SHOW",
            "displayNames" : {
                "ja" : "DBシステム管理一覧表示",
                "en" : "DB System Management list display"
            },
            "roleSetting" : true
        },
        {
            "name": "ROLE_OCDB_DETAIL_SHOW",
            "displayNames" : {
                "ja" : "DBシステム管理詳細表示",
                "en" : "DB System Management details display"
            },
            "roleSetting" : true
        },
        {
            "name": "ROLE_OCDB_STARTUP",
            "displayNames" : {
                "ja" : "起動",
                "en" : "DB System startup"
            },
            "roleSetting" : true
        },
        {
            "name": "ROLE_OCDB_SHUTDOWN",
            "displayNames" : {
                "ja" : "停止",
                "en" : "DB System shutdown"
            },
            "roleSetting" : true
        }
    ],
    "functions" : [
        {
            "name" : "Request",
            "displayNames" : {
                "ja" : "リクエスト管理",
                "en" : "Request management"
            },
            "authorities" : [
                "ROLE_REQUEST_OCDB_CREATE",
                "ROLE_REQUEST_OCDB_UPDATE",
                "ROLE_REQUEST_OCDB_DELETE"
            ],
            "hasScopes" : false,
            "displayRoot" : false
        },
        {
```

```
            "name" : "Resource",
            "displayNames" : {
                "ja" : "リソース管理",
                "en" : "Resource management"
            },
            "authorities" : [
                "ROLE_OCDB_MENU_SHOW",
                "ROLE_OCDB_LIST_SHOW",
                "ROLE_OCDB_DETAIL_SHOW",
                "ROLE_OCDB_STARTUP",
                "ROLE_OCDB_SHUTDOWN"
            ],
            "hasScopes" : false,
            "displayRoot" : false
        },
    ],
    "menus" : [
    ]
}
```

6. 設定を反映させるため Tomcat サービスをサービス一覧から再起動してください
7. プラグイン権限を有効にしたテナント固有ロールを作成します※1。
8. テナント固有ロールをユーザに割り当てます。

   ※ユーザ登録方法については、「29.2.2　ユーザを登録する（管理者）（207 ページ）」 を参照してください。

注

※1 テナント固有ロール作成時はプラグイン権限に加え、下記権限も有効にします。

リクエスト管理を利用する場合

- ROLE_SERVER_SERVICE_MENU_SHOW
- ROLE_REQUEST_MENU_SHOW
- ROLE_REQUEST_LIST_SHOW
- ROLE_REQUEST_DETAIL_SHOW
- ROLE_REQUEST_CREATE
- ROLE_REQUEST_REAPPLY
- ROLE_REQUEST_EXECUTE
- ROLE_REQUEST_CANCEL

リソース管理を利用する場合

- ROLE_RESOURCE_MENU_SHOW

テナント固有ロールの詳細は ロールについて を参照してください。

第 11 章
ネットワークサービスカタログの設定

本章ではネットワーク利用申請(リクエスト)に必要な運用設定について説明します。

vDCA SE ポータルでは、テナントユーザは作成先を指定してネットワークの払い出しサービスを受けることが出来ます。 ユーザによるネットワーク作成を許容しない場合は、本設定は不要です。

設定手順は以下の通りです。

1. vDCA SE ポータルでネットワーク利用申請およびネットワークリソースの管理ができるように設定を行います。 「11.1　ネットワーク設定（75 ページ）」を参照し、設定を行ってください。
2. ネットワーク利用申請時に選択可能なスイッチを定義します。 「11.2　スイッチ設定（76 ページ）」を参照し、設定を行ってください。

11.1　ネットワーク設定

vDCA SE ポータルのネットワーク管理機能を有効化・設定します。以下の手順に従って実施してください。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. ネットワーク利用申請やネットワークリソースの管理機能はデフォルトでは利用できません。 ライセンスを有効化することで利用可能になります。以下を設定します。

   ```
   license.cloudportal.networkprovisioning=true
   ```

3. SigmaSystemCenter にネットワーク作成を作成した場合、そのネットワークを構成するポートグループが自動的に作成されます。 ポートグループ名には自動的に 8 桁の数値を設定されます。

   vDCA SE ポータルから作成されたネットワークか否かを判別できるようにするため、8 桁の数値の先頭に文字列(プレフィックス)を付与することができます。
   ポートグループ名にプレフィックスを付与する場合には以下を設定します。付与しない場合には本設定は省略してください。

   ```
   product.cloudportal.network.portGroup.name=Prefix
   ```

   Prefix は 55 文字以内で設定してください。

4. SigmaSystemCenter にネットワーク作成を指示する際、タグ VLAN※1 を使用してネットワークを構成するか否かを指定します。 タグ VLAN を使用しない場合には本設定は省略してください。タグ VLAN を使用する場合には以下を設定します。

   ```
   product.cloudportal.network.vlanEnabled=true
   ```

5. SigmaSystemCenter にネットワーク作成を指示する際、デフォルトゲートウェイを設定するか否かを指定します。 デフォルトゲートウェイを設定しない場合には以下を設定します。

```
product.cloudportal.request.server.forcesingledefaultgateway=false
```

※「product.cloudportal.request.server.forcesingledefaultgateway=true」とした場合、デフォルトゲートウェイの指定が可能です。 またデフォルトゲートウェイの指定があるネットワークは一つしか選択できなくなります。

6. SigmaSystemCenter にネットワーク作成を指示する際、IP アドレスのレンジ名を指定します。省略時は「range1」となります。
7. 設定ファイルの文字コードを UTF-8 で保存してください。アプリケーションサーバ(Tomcat)を再起動します。 サーバーマネージャー の左側のパネルからローカルサーバーを選択し、サービスから「ServiceGovernor」を右クリック し、[サービスの再起動] を選択します。

ヒント

※1 タグ VLAN の VLANID は SigmaSystemCenter にて払い出されます。vDCA SE ポータルにて指定することはできません。

11.2　スイッチ設定

ネットワーク利用申請時に選択可能なスイッチを定義します。以下の手順に従って設定を行ってください。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. 選択可能なスイッチの数だけ下記の設定を記述します。

```
product.cloudportal.network.switch.display.Switch name=Display name
```

項目	説明
Switch name	SigmaSystemCenter に管理されている仮想マシンサーバに存在する仮想スイッチ※2
Display name	スイッチ名の vDCA SE ポータル画面上での表示名 マルチバイト文字は指定しないでください。

例：

```
product.cloudportal.network.switch.display.vSwitch1=Business LAN
```

3. 記述したスイッチについて公開するテナントを設定します。全テナントに公開する場合には本手順を省略してください。 公開制限を行いたい場合には、以下を記述してください。

```
product.cloudportal.network.switch.visible.Switch name=Tenant ID, Tenan
t ID, ...
```

項目	説明
Switch name	SigmaSystemCenter に管理されている仮想マシンサーバに存在する仮想スイッチ
Tenant ID	仮想スイッチを公開するテナントの ID を列挙します。テナント ID のカンマ区切りで記述してください。 特定のテナントのみ公開しないという設定も可能です。記述ルールについては VM テンプレートの公開制限と同じとなるため、「10.1.2　カタログの公開制限設定（42 ページ）」を参照し、設定してください。

4. 記述したスイッチについてテナントに提示する付加情報を設定します。付加情報を付与しない場合には本手順を省略してください。 付加情報を付与したい場合には、以下を記述してください。

```
product.cloudportal.network.switch.additionalInfo.Switch name=Additiona
l information
```

項目	説明
Switch name	SigmaSystemCenter に管理されている仮想マシンサーバに存在する仮想スイッチ
Additional information	仮想スイッチを付与する付加情報を設定します。 記述ルールについては VM テンプレートの付加情報と同じとなるため、「A.1　テンプレートに付加情報を表示する（406 ページ）」を参照し、設定を行ってください。

5. スイッチタイプを定義するプロパティを追加します。

```
product.cloudportal.network.switch.type.Switch name=Switch Type
```

項目	説明
Switch name	SigmaSystemCenter に管理されている仮想マシンサーバに存在する仮想スイッチ
Switch Type	スイッチタイプを以下から指定する ※スイッチタイプの設定がない場合、または無効な値が設定されていた場合は既定値（仮想スイッチ）となる • 仮想スイッチ:virtualswitch • 分散仮想スイッチ：distributedvirtualswitch

6. 記載後、ファイルの文字コードを UTF-8 で保存します。アプリケーションサーバ(Tomcat)の再起動なしで反映されます。※1

注

- ※1 設定ファイルの各行の後には空白を含めないでください。なお webframework.properties ファイルの先頭コメント行は削除しないでください。
- ※2 スイッチの種類は VirtualSwitch となっているスイッチのみ指定可能です。

第 12 章
ハイブリッドクラウドの運用設定

本章では、vDCA SE ポータルにてパブリッククラウドを利用するために必要な設定について説明します。パブリッククラウドを利用しない場合には本章の設定は不要です。

本手順の実施にあたり、事前に SigmaSystemCenter にて対象となるパブリッククラウドのサブシステムを登録したうえで作業を実施してください。

設定手順は以下の通りです。

1. 既にパブリッククラウド上に存在するサーバやネットワークリソースを vDCA SE ポータルに取り込みます。 vDCA SE ポータルのリクエスト管理よりパブリッククラウドに対してサーバ作成を行う際、接続先となるネットワークを選択する場合には本手順の実施が必要です。

   「12.1　パブリッククラウドリソースを取り込む場合の設定（78 ページ）」を参照し、設定を行ってください。

   パブリッククラウド上にサーバやネットワークが存在しない、または、存在しても vDCA SE ポータルにて管理する必要がない場合は本手順の実施は不要です。

2. vDCA SE ポータルのリクエスト管理よりパブリッククラウドに対してサーバ作成・削除を行うために必要な設定を行います。

   「12.2　パブリッククラウド上にサーバリソースを作成・削除する場合の設定（85 ページ）」を参照し、設定を行ってください。

   パブリッククラウドに対してサーバ作成・削除を行わない場合は、本手順の実施は不要です。

設定後はアプリケーションサーバ(Tomcat)の再起動を行ってください。

12.1　パブリッククラウドリソースを取り込む場合の設定

手順を以下に記載します。

1. パブリックリソースを SigmaSystemCenter の管理下に置きます。

   「12.1.1　パブリックリソース登録（79 ページ）」を参照し、実施してください。

2. SigmaSystemCenter の管理下に置かれたパブリックリソースを vDCA SE ポータルに取り込むため、取り込み先の設定を行います。

   「12.1.2　パブリックリソースパスの設定（83 ページ）」を参照し、設定を行ってください。

3. Azure Virtual Machine または EC2 用インスタンス作成時にネットワークに任意のセキュリティグループを指定したい場合 SigmaSystemCenter の管理下に置かれたパブリックリソース(論理ネットワーク)にセキュリティグループの設定を行います。「12.1.3　セキュリティグループの登録（84 ページ）」を参照し、設定を行ってください。

4. SigmaSystemCenter の管理下に置かれたパブリックリソースを vDCA SE ポータルに取り込みます。

   以下を参照し、実施してください。

   - 「37.4.7　サーバ一覧を同期する（350 ページ）」
   - 「37.5.5　ネットワーク一覧を同期する（356 ページ）」

12.1.1　パブリックリソース登録

vDCA SE ポータルと連携する SigmaSystemCenter で必要な事前設定について説明します。

パブリックリソースを vDCA SE ポータルに取り込むに先立ち、パブリックリソースを SigmaSystemCenter の管理下に置く必要があります。

パブリックリソースを管理下に置く手順については以下の 2 通りの方法があります。テナントの設定や用途に応じて使い分けてください。

- 自動割り当て
- 手動割り当て

自動割り当て

SigmaSystemCenter のコマンドを実行してパブリッククラウド上のサーバおよびネットワークを管理下に置きます。 既に SigmaSystemCenter で管理下におかれているサーバおよびネットワークは対象外となります。

SigmaSystemCenter がインストールされている管理サーバにログインし、以下のコマンドを実行してください。 このコマンド実行によりパブリッククラウド上のサーバとネットワークなどの構成情報が SigmaSystemCenter に取り込まれます。

```
ssc assign external-resource -type [TypeName]
```

NEC Cloud IaaS に対して実行する場合は以下になります。

(実行例)

```
ssc assign external-resource -type necci
```

Amazon Elastic Compute Cloud に対して実行する場合は以下になります。

(実行例)

```
ssc assign external-resource -type aws
```

なお、Azure Virtual Machine の取り込みはサポートされていません。

取り込まれたサーバは「図 12-1 ハイブリッド管理時の運用カテゴリ・グループの構成（80 ページ）」の構成で運用グループに割り当てられます。

図 12-1　ハイブリッド管理時の運用カテゴリ・グループの構成

作成された運用カテゴリ・グループの詳細は以下の「表 12-1 運用カテゴリ・グループ設定の詳細（80 ページ）」を参照してください。

表 12-1　運用カテゴリ・グループ設定の詳細

	名前	種別	説明
①	_Public	カテゴリ	パブリッククラウド用のカテゴリ
②	ロケーション名	カテゴリ	パブリッククラウドのロケーションを表すカテゴリ 「12.1.2　パブリックリソースパスの設定（83 ページ）」のパブリックリソースパスの指定時に使用します。
③	テナント ID	カテゴリ	パブリッククラウド上のテナント名 NEC Cloud IaaS から取り込んだ場合、コマンド実行直後はパブリッククラウド上のテナント名に設定されています。 Amazon Elastic Compute Cloud から取り込んだ場合、コマンド実行直後は Amazon Web

	名前	種別	説明
			Services のサブシステムのアドレスに設定されています。
④	_public	グループ	テナント毎にパブリックリソースを管理するためのグループ名 デフォルトでは"_public"が作成されます。
⑤	ホスト名	-	取り込まれたサーバのホスト名 ※ このホスト名が vDCA SE ポータルのサーバ一覧画面で「サーバ名」として表示されます。

後述する同期機能により取り込むことができるサーバは、vDCA SE ポータルが管理するテナントのテナント ID と一致する③カテゴリが対象となります。 このため、③カテゴリの名前を vDCA SE ポータルが管理するテナントのテナント ID と同値となるように変更してください。

注

- ※ NEC Cloud IaaS からサーバを取り込む場合、SigmaSystemCenter のホスト名には NEC Cloud IaaS のサーバ ID が登録されます。 このサーバ ID はサーバ作成時に自動的に採番・付与されるもので、NEC Cloud IaaS のサーバ管理画面から確認できます。
- ※ Amazon Elastic Compute Cloud からサーバを取り込む場合、SigmaSystemCenter のホスト名には Amazon Elastic Compute Cloud のインスタンス ID が登録されます。 このインスタンス ID はサーバ作成時に自動的に採番・付与されるもので、AWS マネジメントコンソールから確認できます。
- vDCA SE ポータルのサーバ一覧画面では、このサーバ ID が「サーバ名」列に表示されます。

管理下に置かれたネットワークは論理ネットワーク一覧から確認することができます。

図 12-2　管理下におかれた論理ネットワークの設定例

表 12-2　論理ネットワークの設定

	名前	説明
①	名前	Amazon Elastic Compute Cloud から取り込んだ場合、VPC の VPC ID が設定されます。
②	公開範囲	Public が設定されます。

	名前	説明
③	適用テナント	設定されません。
④	スイッチ	Amazon Elastic Compute Cloud から取り込んだ場合、VPC の名前が設定されます。
⑤	VLAN(ポートグループ名)	Amazon Elastic Compute Cloud から取り込んだ場合、サブネットの名前が設定されます。

後述する同期機能により取り込むことができるネットワークは、vDCA SE ポータルが管理するテナントのテナント ID と一致する③適用テナントが対象となります。 このため、②の値を private に変更し、③の値を vDCA SE ポータルが管理するテナントのテナント ID と同値となるように変更してください。

手動割り当て

SigmaSystemCenter のコマンドを使用しない場合は、システム管理者が手動操作で運用カテゴリ・グループを作成しサーバを割り当てます。 自動割り当ての時の運用グループ構成を参考にグループ、サーバの登録を実施してください。

なお、自動割り当ての時はパブリッククラウド用のカテゴリとパブリッククラウドのロケーションを表すカテゴリ配下にテナント ID の名前のカテゴリを作成しましたが、 手動割り当て時においては vDCA SE ポータルが管理するテナントのテナント ID と同名のテナント配下にマシン種別が「パブリッククラウド」となるグループを作成し、サーバを割り当てることも可能です。

図 12-3　手動割り当て時の設定例

サーバに紐づくネットワークも自動割り当ての時の設定を参考に手動で作成してください。なお、論理ネットワーク名にはどのパブリッククラウドで使用できるものかが判断できる名前に設定することを推奨します。

登録手順の詳細については『SigmaSystemCenter マニュアル』を参照してください。

12.1.2　パブリックリソースパスの設定

SigmaSystemCenter の管理下に置かれたサーバを vDCA SE ポータルに取り込むため、取り込み先(パブリックリソースパス)の設定を行います。 ネットワークについては取り込み先の設定は不要です。

本手順は「12.1.1　パブリックリソース登録（79 ページ）」にてサーバを自動割り当てした場合、または手動割り当てにてパブリッククラウドのカテゴリ配下にサーバを割り当てた場合のみ必要な手順です。 手動割り当てにてテナント配下にサーバを割り当てた場合は不要です。

パブリックリソースパスの設定手順を以下に示します。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. パブリックリソースパスを設定します。複数設定する場合は「,(カンマ)」でつなげてください。

```
product.cloudportal.provider.ssc.resource.public.path="パブリックリソースパス"
```

パブリックリソースパスには「12.1.1　パブリックリソース登録（79 ページ）」にて作成した運用グループパスのうち、ロケーション名を表すカテゴリまでのパスを指します。これにより、サーバ同期機能の対象として認識されます。

以下は"/_Public/NECCI1"、"/_Public/NECCI2"、"/_Public/AWS"の 3 つをパスに指定する場合の設定例です。

(設定例)

```
product.cloudportal.provider.ssc.resource.public.path=/_Public/NECCI1,/_Public/NECCI2,/_Public/AWS
```

12.1.3　セキュリティグループの登録

本作業は SigmaSystemCenter 環境上で実施します。 設定したセキュリティグループは「12.1.1　パブリックリソース登録（79 ページ）」にて選択可能になります。 設定したセキュリティグループの先頭がデフォルトで選択された状態となるため、先頭には最も使用頻度が高いセキュリティグループを設定してください。

1. SigmaSystemCenter 上で論理ネットワークを登録します。登録手順の詳細については『SigmaSystemCenter マニュアル』を参照してください。
2. コマンドプロンプトにて下記コマンドを実施します。

```
ssc customproperty add Network 論理ネットワーク名 -property パラメータ名 パラメータ値
```

表 12-3　セキュリティグループ設定項目一覧

項目名	説明
論理ネットワーク名	実際に登録されている論理ネットワークの名前を指定
パラメータ名	セキュリティグループのキーとして下記を指定 • Azure の場合 : azure.vnic.security_group • AWS の場合 : ec2.vnic.security_group
パラメータ値	利用可能なセキュリティグループを指定 ※利用可能なセキュリティグループは AWS または Azure を確認すること

ヒント

- パラメータ値に複数のセキュリティグループを設定したい場合には、セキュリティグループを,(カンマ)区切りで記述し、前後を"(ダブルクォーテーション)で囲んでください。

  例 :

```
ssc customproperty add Network LogicalNetork001 -property "azure.vnic.security_group" "security001,security002,security003"
```

- 「セキュリティグループを設定しない(接続するネットワークのセキュリティグループを優先する)」という選択肢を設定したい場合には、以下を設定してください。
  - AWS の場合、VPC の default セキュリティグループ
  - Azure の場合、送受信全許可のセキュリティ規則が設定されたセキュリティグループ(新設する必要有り)

12.2　パブリッククラウド上にサーバリソースを作成・削除する場合の設定

vDCA SE ポータルのリクエスト管理よりパブリッククラウドに対してサーバ作成・削除を行うにあたり必要な設定について説明します。

12.2.1　Amazon Elastic Compute Cloud にサーバリソースを作成・削除する場合の設定

以下に手順を記載します。

1. Amazon Elastic Compute Cloud に対してサーバ作成を行う場合、リクエスト時に指定するパブリッククラウド用のリソースプールを登録します。

   SigmaSystemCenter が稼動するマシンにログインし、コマンドラインよりパブリッククラウド用リソースプールの登録を行ってください。　詳細については、SigmaSystemCenter をマニュアルを参照してください。 vDCA SE ポータルではパブリッククラウド用リソースプールについて共有リソースプールを用いた運用をサポートしていません。専有にした上で必ずテナントに割り当ててください。

2. Amazon Elastic Compute Cloud に対してサーバ作成・削除を行う場合、リクエストしたテナントがどのテンプレートを使用して行うかを記載します。 C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開いて以下の設定を追記してください。

   ```
   product.cloudportal.template.aws.Tenant ID=Dummy template name
   ```

項目	説明
Tenant ID	テナントの ID
Dummy template name	作成先 AWS サブシステムに紐付くテンプレートの名前

   例：

   ```
   product.cloudportal.template.aws.TenantA=AWS-Template-52039472876
   ```

3. Amazon Elastic Compute Cloud に対して、OS 種別が WindowsServer と設定されている Amazon EC2 用のサーバサービスカタログを使用してサーバ作成を行う際、管理者初期パスワードも合わせて変更したい場合、以下の設定を記載します。 C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開いて以下の設

定を追記してください。 Amazon Elastic Compute Cloud にて管理者初期パスワードを自動生成させる場合は、本設定をスキップしてください。

```
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.aws.
iam.profile.Tenant ID=IAM Role name
```

表 12-4　テナント毎の IAM ロール設定

項目	説明
Tenant ID	テナントの ID
IAM Role name	作成先 AWS サブシステムで利用可能なプロファイル(IAM ロール)の名前 AWS のマネジメントコンソールから、[サービス]-[セキュリティ、ID、およびコンプライアンス]-[IAM]-[ロール]にて登録・参照可能 指定したプロファイル(IAM ロール)には、AmazonEC2RoleforSSM ポリシーに相当する権限が付与されていること

例：

```
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.aws.
iam.profile.TenantA=EnablePasswordChangeRole
```

4. 「28.2.2　システム用承認フロー設定（198 ページ）」を参照し、システム承認を有効化してください。 Amazon EC2 インスタンスを対象とするサーバ作成または削除リクエストの実行中に、Amazon EC2 インスタンスを対象とするサーバ作成の実行を平行して行うことはできません。 このためシステム承認フローを有効化し、システム承認時に実行中の Amazon EC2 インスタンスに関するリクエストの有無を確認してください。

12.2.2　Microsoft Azure にサーバリソースを作成・削除する場合の設定

以下に手順を記載します。

1. Microsoft Azure に対してサーバ作成を行う場合、リクエスト時に指定するパブリッククラウド用のリソースプールを登録します。

   SigmaSystemCenter が稼動するマシンにログインし、コマンドラインよりパブリッククラウド用リソースプールの登録を行ってください。　詳細については、SigmaSystemCenter をマニュアルを参照してください。 vDCA SE ポータルではパブリッククラウド用リソースプールについて共有リソースプールを用いた運用をサポートしていません。専有にした上で必ずテナントに割り当ててください。

   注

   パブリッククラウドのリソースプールを作成する際は、運用目的に合ったリソースプール名を指定してください。

2. Microsoft Azure に対してサーバ作成・削除を行う場合、リクエストしたテナントがどのテンプレートを使用して行うかを記載します。 C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開いて以下の設定を追記してください。

```
product.cloudportal.template.azure.Tenant ID=Dummy template name
```

項目	説明
Tenant ID	テナントの ID
Dummy template name	作成先 Azure サブシステムに紐付くテンプレートの名前

例：

```
product.cloudportal.template.azure.TenantA=azure-Template
```

12.3　パブリッククラウド上のサーバをカスタムオペレーション実行リクエストの対象にする

パブリッククラウド上のサーバをカスタムオペレーション実行リクエストの対象にする場合は、C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties に以下を設定します。

【Amazon EC2 インスタンスの場合】

```
product.cloudportal.approve.generic.operation.on.aws=true
```

true:Amazon EC2 インスタンスをカスタムオペレーション実行リクエストの対象にする

false:Amazon EC2 インスタンスをオペレーション実行リクエストの対象にしない

【Azure Virtual Machine の場合】

```
product.cloudportal.approve.generic.operation.on.azure=true
```

true:Azure Virtual Machine をカスタムオペレーション実行リクエストの対象にする

false:Azure Virtual Machine をカスタムオペレーション実行リクエストの対象にしない

【NEC Cloud IaaS の場合】

```
product.cloudportal.approve.generic.operation.on.necci=true
```

true:NEC Cloud IaaS をカスタムオペレーション実行リクエストの対象にする

false:NEC Cloud IaaS をカスタムオペレーション実行リクエストの対象にしない

第 13 章
ウィジェット選択肢の設定

本章では、 vDCA SE ポータル のダッシュボードに追加できるウィジェットの選択肢を設定する方法について説明します。

13.1　ウィジェット選択肢ファイルを作成する

ウィジェット選択肢ファイルの作成方法を説明します。

ウィジェット選択肢ファイルは、以下の 2 種類のファイルから構成されています。

表 13-1　ウィジェット選択肢ファイル

ファイル名	意味
C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\widgets.properties	ウィジェット選択肢のメイン設定ファイル。 URL、権限、デフォルト言語でのタイトルを設定します。
C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\widgets_*[Locale]*.properties	ウィジェット選択肢の言語ファイル。 *[Locale]*は、言語ロケールです。 複数の言語に対応する場合、複数の言語ファイルを作成できます。 例として、日本語の場合、widgets_ja.properties となります。 アメリカ英語とイギリス英語で表示を切り替えたい場合は、widgets_en_US.properties と widgets_en_UK.properties として個別に設定することができます。

13.1.1　widgets.properties を作成する

ウィジェット選択肢のメイン設定ファイルである、widgets.properties の作成方法を説明します。 プリインストールのウィジェット選択肢ファイルを編集する場合は、ファイル名を適宜読み替えてください。

widgets.properties は、以下の場所に配置されています。

```
C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC
```

widgets.properties を、テキストエディタで開き、ウィジェット選択肢を追加・編集・削除します。 widgets.properties はプロパティ形式のファイルです。

ウィジェット選択肢 1 つ分のフォーマットは以下のとおりです。

表 13-2　widgets.properties のフォーマット

プロパティキー	初期値	必須/省略可	説明
[ウィジェットキー].url	-	必須	ウィジェットの URL を設定します。 URL はエンコードされている必要があります。

プロパティキー	初期値	必須/省略可	説明
			URL 置換キーワードが使用できます。 詳しくは「13.1.3　置換パラメータについて（90 ページ）」を参照してください。
[ウィジェットキー].title	-	必須	ウィジェット選択肢として表示する文字列を設定します。 ユーザの設定に合致する言語が見つからない場合、この文字列が使用されます。 マルチバイト文字を設定する場合、ASCII もしくは Unicode のエスケープ文字を含む文字列にて記載されている必要があります。
[ウィジェットキー].auth	ALL	省略可	ウィジェット選択肢を表示するためのユーザ権限を設定します。 複数指定したい場合は、","(半角カンマ)区切りで記載してください。 設定しない場合、"ALL" が適用され、全てのユーザに対しウィジェット選択肢を表示します。

*[ウィジェットキー]*は、任意の文字列を設定できます。 ダッシュボードのウィジェット追加ダイアログには、*[ウィジェットキー]*を昇順にソートした順番で URL が表示されます。

注

*[ウィジェットキー]*が一致する"*[ウィジェットキー]*.url"と"*[ウィジェットキー]*.title"が見つからない場合、 そのウィジェット設定は無効とみなされます。

*[ウィジェットキー]*が重複する設定が複数存在した場合、いずれか 1 つの設定のみが有効となり、それ以外の設定は無効とみなされます。

widgets.properties の編集内容は、即時サーバに反映されます。ブラウザへの表示は、ダッシュボードを再読み込みしたタイミングで反映されます。

widgets.properties からウィジェット選択肢の削除を行った場合、ユーザが次回ダッシュボードを読み込んだタイミングで該当するウィジェットは削除されます。 ユーザに対しては、事前に「お知らせ」機能などで、該当ウィジェットを削除を通知することを推奨します。

widgets.properties からウィジェット選択肢の*[ウィジェットキー]*.url の変更を行った場合、 ユーザが次回ダッシュボードを読み込んだタイミングで該当するウィジェットが読み込む URL が変更されます。 ユーザに対しては、事前に「お知らせ」機能などで、該当ウィジェット設定の変更を通知することを推奨します。

13.1.2　widgets_*[Locale]*.properties を作成する

ウィジェット選択肢の言語設定ファイルである、widgets_*[Locale]*.properties の作成方法を説明します。 プリインストールのウィジェット選択肢ファイルを編集する場合は、ファイル名を適宜読み替えてください。

widgets_*[Locale]*.properties は、以下の場所に配置されています。

```
C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC
```

ここでは、日本語設定ファイルである widgets_ja.properties を例として説明します。 他言語の設定ファイルを作成する場合は、適宜読み替えてください。

widgets_ja.properties を、テキストエディタで開き、ウィジェット選択肢の言語設定を追加・編集・削除します。 widgets_ja.properties はプロパティ形式のファイルです。

ウィジェット選択肢 1 つ分のフォーマットは以下のとおりです。

表 13-3　widgets_ja.properties のフォーマット

プロパティキー	初期値	必須/省略可	説明
[ウィジェットキー].title	-	省略可	ウィジェット選択肢の国際化文字列として表示する文字列を設定します。 マルチバイト文字を設定する場合、ASCII もしくは Unicode のエスケープ文字を含む文字列にて記載されている必要があります。「UTF-8」の場合（BOM 無し）を使用してください。 本設定を省略した場合、widgets.properties に設定した*[ウィジェットキー]*.title の値が使用されます。

注

*[ウィジェットキー]*が一致する"*[ウィジェットキー]*.url"が、widgets.properties に見つからない場合、そのウィジェット設定は無効とみなされます。

*[ウィジェットキー]*が重複する設定が複数存在した場合、いずれか 1 つの設定のみが有効となり、それ以外の設定は無効とみなされます。

widgets_ja.properties の編集内容は、概ね 10 秒間隔でサーバに反映されます。ブラウザへの表示は、ダッシュボードを再読み込みしたタイミングで反映されます。

13.1.3　置換パラメータについて

ウィジェット選択肢の URL には、置換パラメータを設定することができます。

置換パラメータとは、vDCASE ポータルが置換するパラメータです。

ウィジェット選択肢の URL 設定で使用できる置換パラメータは以下のとおりです。

表 13-4　URL 置換キーワード

URL 置換キーワード	説明
%TENANTID%	ログインユーザのテナント ID に置換します。 システム管理者でログインしている場合は空文字列となります。 システム管理者がテナント代行している場合でも、代行しているテナントのテナント ID ではなく、空文字で置換されます。
%USERID%	ログインユーザのユーザ ID に置換します。

13.2　デフォルトウィジェット定義ファイルを編集する

初期表示するウィジェットを定義するファイルである、default_widget.properties を、運用に応じてカスタマイズすることができます。

default_widget.properties は、以下の場所に配置されています。

```
C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\default_widget.prop
erties
```

default_widget.properties をテキストエディタで開き、表示するウィジェットを追加・編集・削除します。 default_widget.properties はプロパティ形式のファイルです。

default_widget.properties に定義している内容は以下のとおりです。

表 13-5　default_widget.properties の定義内容

名称	キー	ウィジェット識別子	権限	高さ	幅
お知らせ	widget_1	__KEY_NOTICE__	ROLE_DASHBOARD_NOTIFY_SHOW	300	98
未承認リクエスト	widget_2	__KEY_APPROVAL__	ROLE_DASHBOARD_UNAPPROVED_REQUEST_SHOW	300	98

注

デフォルトウィジェットは設定後に作成したユーザに適用されます。デフォルトウィジェットの設定前に作成したユーザには適用されません。

13.3　プリセットのウィジェット選択肢ファイルを編集する

製品のプリセットとして用意されているウィジェット選択肢ファイルを、運用に応じてカスタマイズすることができます。

ウィジェット選択肢のプリセットファイルは、以下に配置されています。

```
C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC
```

製品として用意しているプリセットファイルには、以下の種類があります。

表 13-6　製品として用意しているプリセットファイル

ウィジェット選択肢メイン設定ファイル	ウィジェット選択肢言語設定ファイル	説明
cloudportal.common.properties	cloudportal.common_ja.properties	テナント管理など、基盤機能に関する画面をウィジェット選択肢として定義するファイルです。
cloudportal.vmprovisioning.properties	cloudportal.vmprovisioning_ja.properties	サーバ管理に関する画面をウィジェット選択肢として定義するファイルです。
cloudportal.networkprovisioning.properties	cloudportal.networkprovisioning_ja.properties	ネットワーク管理に関する画面をウィジェット選択肢として定義するファイルです。

ウィジェット選択肢メイン設定ファイルの編集方法は、widgets.properties と同様です。 詳細は「13.1.1　widgets.properties を作成する（88 ページ）」 を参照してください。

ウィジェット選択肢言語設定ファイルの編集方法は、widgets_*[Locale]*.properties と同様です。 詳細は「13.1.2　widgets_*[Locale]*.properties を作成する（89 ページ）」を参照してください。

第 14 章
簡易サイト連携の設定

本章では、 vDCA SE ポータル を簡易サイト連携させる方法について説明します。

簡易サイト連携機能を利用しない場合は、本設定は不要です。

14.1　簡易サイト連携機能とは

簡易サイト連携は、シングルサインオンサイトを開発することが困難だがサイト連携を行いたい場合に利用する機能です。

シングルサインオン連携していないウェブサイトなどに、vDCA SE ポータルの各種ページを iframe で表示する場合に利用します。

この機能はシングルサインオン連携サイトが用意できない場合のための機能であるため、シングルサインオン有効時は動作しません。

14.2　簡易サイト連携利用手順

ここでは簡易サイト連携の利用手順を順に説明します。

1. vDCA SE ポータルを表示するウェブサイトを作成します。ウェブサイトの一部に iframe で埋め込みを行います。

   例： <iframe src="http://vdcaseportal.nec.co.jp:12080/portal/cloudportal/servers/serverList" width="1000" height="300"></iframe>

2. 作成したウェブサイトの URL を控えておき、webframework.properties の simpleauth.timeout.loginurl に記入します。

   例: simpleauth.timeout.loginurl=/login?redirect=http://usersite.co.jp/top/index.html

3. vDCA SE ポータルを起動します。

この状態でウェブサイトを開くと、iframe で埋め込んだ場所に vDCA SE ポータルのページが表示されるようになります。

ただしこの時はログイン前の状態なので以下のページが表示されます。

「ここ」をクリックすることで vDCA SE ポータルのログイン画面に遷移します。

ユーザ名とパスワードを入力し、ログインすると simpleauth.timeout.loginurl の redirect=以後に指定したページにリダイレクトします。

リダイレクト後は認証済みであるため iframe で埋め込みを行ったページが正常に表示されます。

14.3　その他のオプション

未ログイン状態でのアクセス時、以下の画面が表示されますが、この時「ここ」を押して表示するログイン画面は別のウインドウに表示されます。

表示フレームの指定を変更したい場合は webframework.properties の以下のパラメータを変更してください。

設定値名	意味
simpleauth.timeout.targetwindow	ログインページを表示するフレームを指定します。

このパラメータは HTML の<a>タグの target 属性と同じになります。利用しているブラウザに合わせて指定してください。

注

simpleauth.timeout.targetwindow に空白は指定しないでください。

第 15 章
カスタムオペレーション設定

vDCA SE ポータルでは、テナントユーザが任意のタイミングでシステム管理者が定義する任意の処理を実行する機能をサポートしています。 本書ではこれをカスタムオペレーションと表記します。

本章ではカスタムオペレーションの設定方法について説明します。カスタムオペレーションを利用しない場合には本章の設定は不要です。

カスタムオペレーションの実行先は以下のいずれかを設定することができます。

- 管理サーバ
- JobCenter

実行先が管理サーバの場合、任意の処理はバッチファイルに記述します。実行先が JobCenter の場合、任意の処理はジョブネットワークに記述します。 カスタムオペレーションはユーザからのカスタムオペレーション実行指示の延長で実行されます。このため、時間がかかる処理を行う場合には実行先に JobCenter を選択してください。 JobCenter の場合には、カスタムオペレーション定義にてテナントが所有するサーバや汎用サービスのインスタンスを選択する設定を行うことで、カスタムオペレーション実行時にそのサーバや汎用サービスのインスタンスに関する情報をパラメータとして渡すこともできます。 これを利用することで、任意の処理をテナントが所有するサーバ※1 や汎用サービスのインスタンスで実行することも可能です。詳細は「A.4　カスタムオペレーション実行時にテナントが所有するサーバで任意の処理を実行する（413 ページ）」を参照してください。

設定手順は以下の通りです。

1. JobCenter にてカスタムオペレーションを実行する運用においては、JobCenter が構築されている必要があります。R15.3 以降を使用してください。 構築手順については『vDC Automation Standard Edition セットアップガイド』を参照してください。 なお、管理サーバにてカスタムオペレーションを実行する運用においては本手順は不要です。
2. vDCA SE ポータルと JobCenter の接続設定を行います。 「15.1　JobCenter との接続設定（96 ページ）」を参照してください。※2 なお、管理サーバにてカスタムオペレーションを実行する運用においては本手順は不要です。
3. JobCenter にてジョブネットワークを定義します。詳細は『JobCenter 基本操作ガイド』や『JobCenter 運用構築ガイド』を参照してください。 なお、管理サーバにてカスタムオペレーションを実行する運用においては本手順は不要です。
4. テナントユーザに対して公開するカスタムオペレーションをファイルに記載します。「15.2　カスタムオペレーション定義ファイルの作成（96 ページ）」を参照し、実施してください。

設定後はアプリケーションサーバ(Tomcat)の再起動を行ってください。

注

- ※1 サーバのプラットフォームは以下を対象とします。

  Linux

  - Red Hat Enterprise Linux 6(x64)
  - Red Hat Enterprise Linux 7

  Windows

  - Windows Server 2012
  - Windows Server 2012 R2
  - Windows Server 2016
  - Windows Server 2019

- ※2 カスタムオペレーションを実行するテナントユーザによりジョブネットワークを投入する際の実行ユーザを変更することはできません。 JobCenter へジョブネットワークを投入する際の実行ユーザはシステムでひとつとなります。

15.1　JobCenter との接続設定

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. JobCenter の接続情報を設定ファイルに記載します。

```
product.cloudportal.generic.operation.jobcenter.url=URL
product.cloudportal.generic.operation.jobcenter.accesskey=Aceess Key
```

表 15-1　JobCenter の接続設定

設定項目	設定内容
URL	アクセス先の JobCenter CL/Web の URL
Aceess Key	アクセス先の JobCenter のアクセスキー※

設定例を以下に示します。

```
product.cloudportal.generic.operation.jobcenter.url=https://192.168.111
.222:123
product.cloudportal.generic.operation.jobcenter.accesskey=1234567890qwe
rtyuiasdfghjklxcvbn
```

ヒント

※アクセスキーの取得手順は、『JobCenter Web 機能利用の手引き』をご参照してください。

15.2　カスタムオペレーション定義ファイルの作成

1. 任意のフォルダに「CustomOperation.json」という名前の空のファイルを作成します。

2. 「CustomOperation.json」ファイルをテキストエディタで開き、カスタムオペレーションを定義します。JSON フォーマットで入力を行います。

   本書では JSON キーを.(ピリオド)で連結した形で表現します。

   【設定例（"Example[n].Name"の場合）】

表 15-2　カスタムオペレーション定義ファイルの設定項目例

設定項目	型	省略可否	設定内容
GenericOperations[n].DisplayName	string	可	カスタムオペレーションの表示名

以下のようにファイル上の位置を読み替えて設定を確認・変更してください。

```
{
  "GenericOperations": [
    {
      "DisplayName" : "バックアップ",
      省略

    }
  }
```

表 15-3　カスタムオペレーション定義ファイルの設定項目

設定項目	型	省略可否	設定内容
GenericOperations[n].Type	string	可	カスタムオペレーションの実行先 • カスタムオペレーションの実行先として JobCenter を使用する場合には、WORKFLOW を指定 • カスタムオペレーションの実行先として管理サーバを使用する場合には、COMMAND 省略した場合は WORKFLOW として扱われます。
GenericOperations[n].WorkFlowId	string	不可	カスタムオペレーションの一意識別子 Type が WorkFlow の場合、ジョブネットワーク名を指定 最大：255 文字
GenericOperations[n].DisplayName	string	可	カスタムオペレーションの表示名 省略した場合は WorkFlowId が表示名として扱われる 最大：255 文字
GenericOperations[n].Visible	string	可	カスタムオペレーションを公開するテナントの ID 複数のテナントに公開する、特定のテナントのみ公開しないといった設定も可能 記述ルールについては「10.1.2　カタログの公開制限設定（42 ページ）」を参照
GenericOperations[n].ApprovalEnable	boolean	可	カスタムオペレーションの実行に承認が必要か否か • 承認が必要の場合には true を設定(リクエスト管理から実行可能になる)

設定項目	型	省略可否	設定内容
			• 承認が不要の場合には false を設定(サーバ管理の「その他の操作」から実行可能になる) 省略した場合は false として扱われる
GenericOperations[n].Description	string	可	カスタムオペレーションの説明 ApprovalEnable に true を指定した場合のみ有効 指定した場合、カスタムオペレーション選択時に説明が表示される 最大:140 文字
GenericOperations[n].WithServer	boolean	可	カスタムオペレーション実行にサーバの指定が必要か否か ApprovalEnable に true を指定した場合のみ有効 • サーバの指定が必要の場合、true を設定(リクエスト管理にてサーバの指定が必須となる) • サーバの指定が不要の場合、false を設定(リクエスト管理にてサーバの指定が不要となる) 省略した場合は true として扱われる
GenericOperations[n].WithServices	List	可	カスタムオペレーション実行に汎用サービスインスタンスの指定が必要か否か 省略した場合、空配列の場合は非表示
GenericOperations[].WithServices[].name	String	可 ただし GenericOperations[n].WithServices を指定した場合不可	汎用サービスの名前 config.json の"name"の値を設定する※4
GenericOperations[].WithServices[].properties[]	String	可 ただし GenericOperations[n].WithServices を指定した場合不可	汎用サービスインスタンスのプロパティ名 config.json の"properties[].key"の値を設定する※5 GenericOperations[n].Type=WORKFLOW の場合、実行先ワークフローには、GenericOperations[n].WithServices[n].name と GenericOperations[n].WithServices[m].properties[l] の値を.(ピリオド)で連結した値が、実行パラメータのキーとして渡されます。 GenericOperations[n].Type=COMMAND の場合、GenericOperations[n].COMMAND には、GenericOperations[n].WithServices[n].name と GenericOperations[n].WithServices[m].properties[l] の値を.(ピリオド)で連結し$(ダラー)で囲んだ値が実行時の置換パラメータとして使用できるようになります。
GenericOperations[n].Command	string	Type に COMMAND を指定した場合は指定必須 Type に WORKFLOW を指定した場合	実行するコマンドのパスとパラメータ パスの\（バックスラッシュ）は、\でエスケープ 指定するコマンドに User グループ(Local Service アカウントが所属するグループ)に対する読み取り・実行権限を付与してください。コマンドは Local Service アカウントで実行されます。 コマンド実行の延長でファイル・ディレクトリに対して読み取り、書き込みを行う場合には、そのファイル・ディレクトリに対しても適切な権限を付与

設定項目	型	省略可否	設定内容
		は指定不要	してください。 ファイル・ディレクトリへの権限設定は、対象のプロパティを開き、[セキュリティ]タブにて設定することができます。 コマンドの引数には Paramters[].key に指定されたキーを$で囲んで指定可能(実行時に値が展開) WithServer が true の場合、コマンドの引数には以下の置換パラメータも指定可能 • $CMTargetUUID$ … 実行対象となるサーバの UUID に置換されるパラメータ • $CMTargetNodeName$ … 実行対象となるサーバのサーバ名に置換されるパラメータ • $CMTenantID$ … 実行対象となるサーバを所有するテナントの ID に地価されるパラメータ • $CMTargetAddress$ … 実行対象となるサーバをテナント管理 LAN 上の IP アドレス WithServices を指定した場合、コマンドの引数には以下の置換パラメータも指定可能 • $汎用サービスの名前.汎用サービスインスタンスのプロパティ名$ … 実行対象となる汎用サービスインスタンスの指定されたプロパティの値に置換されるパラメータ • GenericOperations[n].WithServices[m].name に serviceA、GenericOperations[n].WithServices[m].properties[l]に propertyA と指定した場合、$serviceA.propertyA$ と書くことで実行対象となる汎用サービスインスタンスの propertyA プロパティの値に置換されます。
GenericOperations[n].Timeout	number	可	Type に COMMAND を指定した場合のみ有効 Command で指定したコマンドの実行タイムアウト(秒)を 0 から INT-MAX までの間で指定可能 省略した場合、タイムアウトはしない
GenericOperations[n].ExitCodes	number[]	可	Type に COMMAND を指定した場合のみ有効 Command で指定したコマンドの実行を成功と判断する終了コードを 0 から INT-MAX までの間で指定可能 複数指定されていた場合、いずれかに一致した場合、成功として扱う 省略した場合、終了コードが 0 を成功として扱う
GenericOperations[n].ConnectTimeout	number	可	Type に WORKFLOW を指定した場合のみ有効 サーバ接続時のコネクションタイムアウト(秒)を 0 から INT-MAX までの間で指定可能 省略した場合、300 秒が設定される
GenericOperations[n].KeepAlive	number	可	Type に WORKFLOW を指定した場合のみ有効 サーバ接続時の KeepAlive の間隔(秒)を 0 から INT-MAX までの間で指定可能 省略した場合、KeepAlive を行わない
GenericOperations[n].Charset	string	可	Type に COMMAND を指定した場合、実行するコマンドの標準出力および標準エラー出力時の文字コードを記述

設定項目	型	省略可否	設定内容
			以下で定義されているものから指定する https://www.iana.org/assignments/character-sets/character-sets.xhtml Type に WORKFLOW を指定した場合、SSH プロトコルにて実行した処理の実行結果を取得する際の文字コードを記述 以下で定義されているものから指定する UTF-8, SJIS, EUC
GenericOperations[n].KeyNameServerName	string	可	カスタムオペレーション実行時に渡されるサーバの名前が格納されるキーの名前 省略した場合、CMTargetNodeName という名前のキーとなる
GenericOperations[n].KeyNameUUID	string	可	カスタムオペレーション実行時に渡されるサーバの UUID が格納されるキーの名前 省略した場合、CMTargetUUID という名前のキーとなる ※1
GenericOperations[n].KeyNameTenantID	string	可	カスタムオペレーション実行に渡されるサーバを所有するテナントの ID が格納されるキーの名前 省略した場合、CMTenantID という名前のキーとなる
GenericOperations[n].Parameters[m].key	string	可 ただし GenericOperations[n].Parameters[m].key を指定した場合不可	カスタムオペレーション実行時に渡すパラメータの名前 最大：255 文字
GenericOperations[n].Parameters[m].DisplayKey	string	可	カスタムオペレーション実行時に入力画面に表示するパラメータの表示名 省略した場合、パラメータの名前を表示名として扱う 最大：255 文字
GenericOperations[n].Parameters[m].Value	string	可 ただし GenericOperations[n].Parameters[m].key を指定した場合不可	カスタムオペレーション実行時に入力画面に表示するパラメータの値の初期値 最大：1024 文字
GenericOperations[n].Parameters[m].isMasked	boolean	可	カスタムオペレーション実行時に入力画面に表示するパラメータをパスワード項目として扱うか否か ※2 ※3 • パスワード項目として扱う場合には、true を設定 • パスワード項目として扱わない場合には、false を設定 省略時には、パスワード項目として扱わない

入力後、文字コードを UTF-8 で指定して保存してください。

設定例を以下に示します。

```
{
 "GenericOperations": [
   {
     "DisplayName": "バックアップ",
     "WorkFlowId": "backup",
     "ApprovalEnable": true,
     "Visible" : "+TenantA, -TenantB",
     "Type": "WORKFLOW",
     "KeyNameUUID": "UUID",
     "KeyNameServerName" : "ServerName",
     "KeyNameTenantID" : "TenantID",
     "Description" : "バックアップのシナリオ",
     "Parameters": [
       {
         "Key": "key1",
         "Value": "value1"
       },
       {
         "Key": "key2",
         "Value": "value2",
         "isMasked": true
       },
       {
         "Key": "key3",
         "Value": "",
         "DisplayKey": "表示名"
       }
     ],
     "WithServer": true,
       "WithServices": [
         {
           "name": "ocdb",
           "properties" : ["availabilityDomain", "instanceId"]
         }
       ]
   },
   {
     "DisplayName": "コマンド",
     "WorkFlowId": "command1",
     "ApprovalEnable": true,
     "Visible" : "+TenantA",
     "Type" : "COMMAND",
     "Timeout" : 600,
     "Command": "C:\\tmp\\extensiontest.bat $PortalParameter1$ $PortalP
arameter2$ $CMTargetNodeName$",
     "Description" : "コマンド",
     "Parameters": [
        {
          "Key": "PortalParameter1",
          "DisplayKey": "パラメータ1",
          "Value": "CCC"
        },
        {
          "Key": "PortalParameter2",
```

```
          "DisplayKey": "パラメータ2",
          "Value": "ddd"
        }
      ]
    },
    {
      "DisplayName": "リストア",
      "WorkFlowId": "restore",
      "ApprovalEnable": true,
      "Visible" : "-TenantC",
      "Type": "WORKFLOW",
      "ConnectTimeout" : 60,
      "Charset" : "UTF-8",
      "KeepAlive" : 30,
      "KeyNameUUID": "UUID",
      "KeyNameServerName" : "ServerName",
      "KeyNameTenantID" : "TenantID",
      "Description" : "リストアのシナリオ",
      "Parameters": [
        {
          "Key": "UserName",
          "DisplayKey": "ユーザ名",
          "Value": "username"
        },
        {
          "Key": "Password",
          "DisplayKey": "パスワード",
          "Value": "password",
          "isMasked": true
        },
        {
          "Key": "Destination",
          "DisplayKey": "ファイルの転送先",
          "Value": "c:\tem.bat"
        },
        {
          "Key": "RestoreParameter1",
          "DisplayKey": "リストアパラメータ",
          "Value": "parameter",
          "isMasked": true
        }
      ]
     },
     {
      "DisplayName": "汎用サービスAのオペレーション",
      "WorkFlowId": "operation1",
      "ApprovalEnable": true,
      "Type": "COMMAND",
      "Description" : "汎用サービスA向けのオペレーション",
      "Command": "C:\\tmp\\extensiontest.bat $UserName$ $Password$ $serv
ivceA.propertyA$ $servivceA.propertyB$",
      "Parameters": [
        {
          "Key": "UserName",
          "DisplayKey": "ユーザ名",
          "Value": "username"
        },
        {
```

```
          "Key": "Password",
          "DisplayKey": "パスワード",
          "Value": "password",
          "isMasked": true
        }
      ],
      "WithServer" : false,
      "WithServices" : [
        {
          "name" : "servivceA",
          "properties" : ["propertyA", "propertyB"]
        }
      ]
    }
  ]
}
```

3. カスタムオペレーションの実行に承認を必要する定義を記載した場合には、カスタムオペレーション実行リクエストを有効化します。 C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開いて、以下を設定してください。承認を必要する定義がない場合には記載は不要です。

```
license.cloudportal.genericoperation=true
```

表 15-4　カスタムオペレーション実行リクエストの設定

設定項目	設定内容
license.cloudportal.genericoperation	• カスタムオペレーション実行リクエストを有効化する場合は true を設定 • カスタムオペレーション実行リクエストを有効化しない場合は false を設定 当該キーを設定しない場合は false として扱われます。

4. 作成したカスタムオペレーション定義ファイルのファイルパスを設定ファイルに記載します。 C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開いて、以下を設定してください。

```
product.cloudportal.generic.operation.json.path=File path
```

表 15-5　カスタムオペレーション定義ファイルの設定

設定項目	設定内容
product.cloudportal.generic.operation.json.path	カスタムオペレーション定義ファイルのファイルパス ファイルパスに\(バックスラッシュ)を含む場合には、\(バックスラッシュ)の直前にエスケープ文字(\)を追加してください。

設定例を以下に示します。

```
product.cloudportal.generic.operation.json.path=C:\\tmp\\CutomeOperation.json
```

注

- ※1 実行対象のサーバを特定する手段として、サーバが接続している管理ネットワークの IP アドレス(先頭の NIC の IP アドレスのみ)も *CMTargetAddress* という名前のキーでパラメータとして付与されます。 ただし、実行対象のサーバが物理サーバの場合には付与されません。
- ※2 ApprovalEnable が true かつ Type が WORKFLOW の場合、当該パラメータの値は暗号化され DBMS に保存されます。 ApprovalEnable が false かつ Type が WORKLOW の場合、当該パラメータの値は JobCenter では秘密情報として扱われません。 JobCenter にて当該パラメータを秘密情報として扱うためには、 *GenericOperations[n].Parameters[m].key* の値を *NSJNW_HIDDENDATA* から始まる文字列に設定してください。 詳細は JobCenter のマニュアルを参照してください。
- ※3 Type が COMMAND の場合、当該パラメータの値は暗号化されずに DBMS に保存されます。また、コマンドの実行時ログにも出力されます。扱いにご注意ください。
- ※4 カスタムオペレーション実行に際して汎用サービスインスタンスの指定させる設定を行う場合、カスタムオペレーション実行リクエストを申請するユーザは対象となる汎用サービスの一覧参照権限 (config.json ファイルの instanceManagement.summaryAuthorities で指定されている権限)を有している必要があります。
- ※5 カスタムオペレーション実行に際して汎用サービスインスタンスの指定させる設定を行う場合、対象とする汎用サービスインスタンスのプロパティの値にはカスタムオペレーション実行リクエストの申請画面にて入力をサポートしていない文字種別 (「表 35-12 パラメータ変更ダイアログ（295 ページ）」 の制限値)が含まれないように 汎用サービスを設定して(operations.js の get 関数の戻り値に注意を払って)ください。

第 16 章
拡張処理の設定

vDCA SE ポータルでは、以下のタイミングでシステム管理者が指定する任意のコマンドを呼び出す機能をサポートしています。

- リクエスト申請前後
- リクエスト承認前後
- リクエスト却下前後
- リクエストキャンセル前後
- リクエスト実行前後
- テナントの登録または削除前後

本書ではこれらを拡張処理と表記します。

本章では拡張処理の設定手順について説明します。拡張処理を行う必要がない場合には本章の設定は不要です。

本章にて行った設定は、アプリケーションサーバ(Tomcat)の再起動なしで反映されます。

16.1　リクエストの状態遷移前後処理の設定

リクエストの状態遷移前後に拡張処理を行う際の設定手順や運用設計時の注意点について説明します。

16.1.1　拡張処理の有効化

リクエスト状態遷移前後の拡張処理は設定ファイルに対象とする「リクエストの種類および実行タイミング」に対応するコマンドラインを定義することで有効化されます。以下に設定手順を記載します。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. 下記を参照し、設定を行いたい「リクエストの種類と実行タイミング」に対応する記述を追記してください。
   - リクエスト申請の前処理に拡張処理を行う場合

     ```
     product.cloudportal.extension.point.request.apply.pre.command=Command line※1※2
     ```

   - リクエスト申請の後処理に拡張処理を行う場合

     ```
     product.cloudportal.extension.point.request.apply.post.command=Command line※2
     ```

- リクエスト承認の前処理に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.approve.pre.command=Command line※1
```

- リクエスト承認の後処理に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.approve.post.command=Command line
```

- リクエスト却下の前処理に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.reject.pre.command=Command line※1
```

- リクエスト却下の後処理に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.reject.post.command=Command line
```

- リクエストキャンセルの前処理に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.cancel.pre.command=Command line※1
```

- リクエストキャンセルの後処理に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.cancel.post.command=Command line
```

- サーバ作成リクエストの実行前に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.create.pre.command=Command line※1
```

- サーバ作成リクエストの実行後に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.create.post.command=Command line※2
```

- サーバ変更リクエストの実行前に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.modify.pre.command=Command line※1
```

- サーバ変更リクエストの実行後に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.modify.post.command=Command line※2
```

- サーバ削除リクエストの実行前に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.delete.pre.command=Command line※1
```

- サーバ削除リクエストの実行後に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.delete.post.command=Command line※2
```

- ネットワーク作成リクエストの実行前に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.create.pre.command=Command line※1
```

- ネットワーク作成リクエストの実行後に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.create.post.command=Command line※2
```

- ネットワーク削除リクエストの実行前に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.delete.pre.command=Command line※1
```

- ネットワーク削除リクエストの実行後に拡張処理を行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.delete.post.command=Command line※2
```

Command line に記述するコマンドラインフォーマットを以下に示します。

コマンド
パラメータ

以下の詳細を記載します。

項目	説明
コマンド	実行したいコマンドのファイルパス(フルパス)を記述します。 コマンドに\(バックスラッシュ)を含む場合には、\(バックスラッシュ)の直前にエスケープ文字(\)を追加してください。 実行ユーザに対して実行権限がある実行可能ファイルを指定してください。また、終了コードが整数で返却されるコマンドを指定してください。 実行ユーザの PATH 環境変数が設定されているコマンドについてはフルパスで指定する必要はありません。 指定するコマンドに User グループ(Local Service アカウントが所属するグループ)に対する読み取り・実行権限を付与してください。コマンドは Local Service アカウントで実行されます。 コマンド実行の延長でファイル・ディレクトリに対して読み取り、書き込みを行う場合には、そのファイル・ディレクトリに対しても適切な権限を付与してください。 ファイル・ディレクトリへの権限設定は、対象のプロパティを開き、[セキュリティ]タブにて設定することができます。
パラメータ	実行したいコマンドに渡す引数を記述します。複数を指定したい場合には半角スペース区切りで記述してください。 半角スペースを含む文字列をパラメータに指定したい場合には、"(ダブルクォーテーション)で囲んでください。

項目	説明
	vDCA SE ポータル では、コマンドライン実行時に展開される置換パラメータを指定することもできます。 指定可能な置換パラメータは実行タイミングにより異なります。 詳細は「16.1.2　置換パラメータ（108 ページ）」 を参照してください。

記述例は以下の通りです。

```
product.cloudportal.extension.point.vm.create.pre.command=C:\\extention
\\notification.bat
$EXTENSION_POINT$ $EXTENSION_TIMING$ $TENANT_ID$ $SERVER_NAME$
```

ヒント

拡張処理の実行タイミングがリクエストの実行前の場合、リクエスト作成時に入力された拡張パラメータがコマンド実行時の最後尾に追加されます。

詳細は「16.1.3　拡張パラメータ（110 ページ）」 を参照してください。

⚠ 注意

- コマンド実行時の最大文字数は 8191 文字です。 コマンド、パラメータ、展開後の置換パラメータ、展開後の拡張パラメータの文字数合計が 8191 文字を超えないように設定してください。
- ※1 リクエストの実行前の拡張処理はブラウザでの操作の延長で実行されます。 コマンドの実行時間が長い場合、ユーザに対する操作のレスポンスが遅くなることがあります。
- ※2 拡張処理が実行されている間はリクエスト一覧を参照することができません。 このため、コマンドの実行時間は極力短いものとなるように設定してください。

16.1.2　置換パラメータ

置換パラメータとは、vDCA SE ポータルがコマンド実行時に展開するパラメータです。

サポートする置換パラメータを以下に記載します。

項目	説明
$UUID$	サーバ の「UUID」に置換されるパラメータ※1
$SERVER_NAME$	サーバ の「サーバ名」に置換されるパラメータ※1
$RESOURCE_POOL_NAME$	サーバ の「リソースプール」に置換されるパラメータ※1
$CATEGORY_NAME$	サーバ の「カテゴリ名(運用グループパス)」に置換されるパラメータ※1
$NETWORK_ID$	ネットワーク の「リソース ID」に置換されるパラメータ※2
$NETWORK_NAME$	ネットワーク の「ネットワーク名」に置換されるパラメータ※2
$TENANT_ID$	対象となるテナントの「テナント ID」に置換されるパラメータ
$TENANT_NAME$	対象となるテナントの「テナント名」に置換されるパラメータ
$EXTENSION_POINT$	拡張処理の対象となるリソースの種別番号に置換されるパラメータ • サーバ作成…1

項目	説明
	• サーバ変更…2 • サーバ削除…3 • ネットワーク作成…101 • ネットワーク削除…103 • リクエスト申請…304 • リクエスト承認…305 • リクエスト却下…306 • リクエストキャンセル…307
$EXTENSION_TIMING$	拡張処理の実行タイミングに置換されるパラメータ • 前処理…0 • 後処理…1
$REQUEST_ID$	対象となるリクエストの「リクエスト ID」に置換されるパラメータ
$TENANT_APPROVAL_COMPLETION_CONDITION_KIND$	対象となる申請リクエストの承認フローの完了条件に置換されるパラメータ 承認不要の場合は空文字 • 承認権限を持ついずれかのユーザが承認すること…1 • 承認フローに設定されている全ての承認者が承認すること…2
$TENANT_APPROVE_ROLE_USERS_ID$	対象となる申請リクエストのテナント承認フローに登録されたユーザの「ユーザ ID」に置換されるパラメータ
$TENANT_APPROVE_ROLE_USERS_NAME$	対象となる申請リクエストに対するテナント承認フローに登録されたユーザの「ユーザ名」に置換されるパラメータ
$TENANT_APPROVE_ROLE_USERS_API_KEY$	対象となる申請リクエストに対するテナント承認フローに登録されたユーザの「API キー」に置換されるパラメータ
$SYSTEM_APPROVAL_COMPLETION_CONDITION_KIND$	対象となる申請リクエストのシステム承認フローの完了条件 に置換されるパラメータ 承認不要の場合は空文字 • 承認権限を持ついずれかのユーザが承認すること…1 • 承認フローに設定されている全ての承認者が承認すること…2
$SYSTEM_APPROVE_ROLE_USERS_ID$	対象となる申請リクエストのシステム承認フローに登録されたユーザの「ユーザ ID」に置換されるパラメータ
$SYSTEM_APPROVE_ROLE_USERS_NAME$	対象となる申請リクエストのシステム承認フローに登録されたユーザの「ユーザ名」に置換されるパラメータ
$SYSTEM_APPROVE_ROLE_USERS_API_KEY$	対象となる申請リクエストのシステム承認フローに登録されたユーザの「API キー」に置換されるパラメータ
$USER_ID$	対象となる承認、却下、キャンセルリクエストのアクションを行うユーザの「ユーザ ID」に置換されるパラメータ
$USER_NAME$	対象となる承認、却下、キャンセルリクエストのアクションを行うユーザの「ユーザ名」に置換されるパラメータ

注

※1 リクエストの種類がサーバの場合のみ指定可能です。

※2 リクエストの種類がネットワークの場合のみ指定可能です。

利用できるタイミングは以下を参照してください。

置換文字	リクエストの種類	利用できるタイミング
$UUID$	サーバ	リクエスト実行前後
$SERVER_NAME$	サーバ	リクエスト実行前後
$RESOURCE_POOL_NAME$	サーバ	リクエスト実行前後
$CATEGORY_NAME$	サーバ	リクエスト実行前後
$NETWORK_ID$	ネットワーク	リクエスト実行前後
$NETWORK_NAME$	ネットワーク	リクエスト実行前後
$TENANT_ID$	共通	すべてのタイミング
$TENANT_NAME$	共通	すべてのタイミング
$EXTENSION_POINT$	共通	すべてのタイミング
$EXTENSION_TIMING$	共通	すべてのタイミング
$REQUEST_ID$	共通	リクエスト申請前後 リクエスト承認前後 リクエスト却下前後 リクエストキャンセル前後
$TENANT_APPROVAL_COMPLETION_CONDITION_KIND$	共通	リクエスト申請後※1
$TENANT_APPROVE_ROLE_USERS_ID$	共通	リクエスト申請前後
$TENANT_APPROVE_ROLE_USERS_NAME$	共通	リクエスト申請前後
$SYSTEM_APPROVAL_COMPLETION_CONDITION_KIND$	共通	リクエスト申請後※1
$SYSTEM_APPROVE_ROLE_USERS_ID$	共通	リクエスト申請前後
$SYSTEM_APPROVE_ROLE_USERS_NAME$	共通	リクエスト申請前後
$USER_ID$	共通	リクエスト承認前後 リクエスト却下前後 リクエストキャンセル前後
$USER_NAME$	共通	リクエスト承認前後 リクエスト却下前後 リクエストキャンセル前後

⚠ 注意

※1 リクエスト申請前については、承認フローが確定していない為、置換されません。

ただし、$SYSTEM_APPROVAL_COMPLETION_CONDITION_KIND$を指定し、承認不要の場合は、リクエスト申請前でも空文字に置換されます。

16.1.3　拡張パラメータ

拡張パラメータとは、拡張処理に渡すパラメータの値についてテナントユーザがリクエスト時に指定できるようにするための仕組みです。以下に設定手順を記載します。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. 下記を参照し、拡張パラメータを利用したい「リクエストの種類と実行タイミング」に対応する記述を追記してください。
   - サーバ作成リクエストの状態遷移前後に拡張パラメータを利用したい場合

     ```
     product.cloudportal.provider.vdc.workflow.id.create.vm.extended.par
     amXX.name=Display name
     product.cloudportal.provider.vdc.workflow.id.create.vm.extended.par
     amXX.key=Key name
     ```

   - サーバ変更リクエストの状態遷移前後に拡張パラメータを利用したい場合

     ```
     product.cloudportal.provider.vdc.workflow.id.edit.vm.extended.param
     XX.name=Display name
     product.cloudportal.provider.vdc.workflow.id.edit.vm.extended.param
     XX.key=Key name
     ```

   - ネットワーク作成リクエストの状態遷移前後に拡張パラメータを利用したい場合

     ```
     product.cloudportal.provider.vdc.workflow.id.create.network.extende
     d.paramXX.name=Display name
     product.cloudportal.provider.vdc.workflow.id.create.network.extende
     d.paramXX.key=Key name
     ```

   各項目の説明は以下の通りです。

項目	説明
XX	拡張パラメータの番号を設定します。設定可能な番号は 01～99 までです。
Display name	パラメータ名として画面に表示する表示名を設定します。設定可能な拡張パラメータ名(表示名)は 64 文字以内です。 表示名が指定されていない(空白のみも含む)、または、65 文字以上の表示名が指定された場合は、表示する拡張パラメータとみなされません(無視する)
Key name	拡張処理にオプションとして渡す際のキー名を設定します。設定可能なキー名は 64 文字以内です。※1 キー名が指定されていない(空白のみも含む)、または、65 文字以上の表示名が指定された場合は、表示する拡張パラメータとみなされません(無視する)

拡張パラメータはコマンドラインの最後尾に *Key name* とリクエスト時に入力された値※2 が:(コロン)で連結され、"(ダブルクォーテーション)で囲まれて渡されます。

実行時のコマンドラインのイメージの例を以下に記載します。(*Key name* が ExtendedParamKey01 の場合)

```
C:\extention\notification.bat $EXTENSION_POINT$ $EXTENSION_TIMING$ $TENANT
_ID$ $SERVER_NAME$ "ExtendedParamKey01:ExtendedParamValue01"
```

ヒント

- ※1 キーの値に:(コロン)が含まれる場合、:(コロン)の直前にエスケープ文字(\)が付与された状態でコマンドラインの最後尾に追加されます。
- ※2 リクエスト時に入力された値に:(コロン)が含まれる場合、:(コロン)の直前にエスケープ文字(\)が付与された状態でコマンドラインの最後尾に追加されます。

16.1.4　実行環境

拡張処理で定義されたコマンドラインの実行環境は以下の通りです。

項目	説明
実行ユーザ	ServiceGovernor サービスのログオンで指定されているアカウント デフォルトでは Local System(ビルトイン・アカウント)
実行ディレクトリ	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat

16.1.5　成功・失敗判定

vDCA SE ポータルでの拡張処理の成功・失敗を以下のように判定します。

判定	条件
成功	コマンドが返却する終了コードが「0」の場合
失敗	以下のいずれかに一致 • コマンドが返却する終了コードが「0」以外の場合 • コマンドの実行が 300 秒を超えた(タイムアウトが発生した)場合 ※1

成功とみなすコマンドの終了コードや、失敗と判断するタイムアウトはコマンドの実装にあわせてカスタマイズすることができます。以下に設定手順を記載します。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. 下記を参照し、設定を行いたい「リクエストの種類と実行タイミング」に対応する記述を追記してください。
   - リクエスト申請の前処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.apply.pre.command.exit.
code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.request.apply.pre.command.timeo
ut=Time out
```

   - リクエスト申請の後処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.apply.post.command.exit
.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.request.apply.post.command.time
out=Time out
```

- リクエスト承認の前処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.approve.pre.command.exi
t.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.request.approve.pre.command.tim
eout=Time out
```

- リクエスト承認の後処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.approve.post.command.ex
it.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.request.approve.post.command.ti
meout=Time out
```

- リクエスト却下の前処理時の実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.reject.pre.command.exit
.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.request.reject.pre.command.time
out=Time out
```

- リクエスト却下の後処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.reject.post.command.exi
t.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.request.reject.post.command.tim
eout=Time out
```

- リクエストキャンセルの前処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.cancel.pre.command.exit
.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.request.cancel.pre.command.time
out=Time out
```

- リクエストキャンセルの後処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.cancel.post.command.exi
t.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.request.cancel.post.command.tim
eout=Time out
```

- サーバ作成リクエストの実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.create.pre.command.exit.code
.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.vm.create.pre.command.timeout=T
ime out
```

- サーバ作成リクエストの実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.create.post.command.exit.cod
e.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.vm.create.post.command.timeout=
Time out
```

- サーバ変更リクエストの実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.modify.pre.command.exit.code
.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.vm.modify.pre.command.timeout=T
ime out
```

- サーバ変更リクエストの実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.modify.post.command.exit.cod
e.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.vm.modify.post.command.timeout=
Time out
```

- サーバ削除リクエストの実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.delete.pre.command.exit.code
.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.vm.delete.pre.command.timeout=T
ime out
```

- サーバ削除リクエストの実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.delete.post.command.exit.cod
e.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.vm.delete.post.command.timeout=
Time out
```

- ネットワーク作成リクエストの実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.create.pre.command.exit
.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.network.create.pre.command.time
out=Time out
```

- ネットワーク作成リクエストの実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.create.post.command.exi
t.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.network.create.post.command.tim
eout=Time out
```

- ネットワーク削除リクエストの実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.delete.pre.command.exit
.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.network.delete.post.command.tim
eout=Time out
```

- ネットワーク削除リクエストの実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.delete.post.command.exi
t.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.network.delete.post.command.tim
eout=Time out
```

各カスタマイズ項目の詳細を記載します。

項目	説明
Success exit status	コマンドが正常に終了したと判断する終了コード(整数)を指定する。 終了コードを複数指定したい場合には、,(カンマ)区切りで列挙する。いずれか一つに一致すれば正常に終了したと判断する。 設定を省略した場合、0 が設定される。
Time out	コマンド実行時のタイムアウト(秒)を指定する。 設定を省略した場合、300 が設定される。

記述例は以下の通りです。

```
product.cloudportal.extension.point.vm.create.pre.command.exit.code.succes
s=0,1,2
product.cloudportal.extension.point.vm.create.pre.command.timeout=600
```

⚠ 注意

※1 タイムアウトが発生した場合、拡張処理は失敗と判定されますがコマンドの実行自体は強制終了されません。 コマンドの実装においてタイムアウトが発生しないように考慮する、または、発生した場合、手動にて強制終了するといった対応を行ってください。

16.1.6　失敗時の動き

拡張処理が失敗した場合の扱いについて説明します。実行タイミングによって失敗の扱いは異なります。 以下に特定の実行タイミングで拡張処理が失敗した場合の動きについて記載します。

失敗のタイミング	失敗後の扱い
• サーバ作成リクエストの実行前 • サーバ変更リクエストの実行前 • サーバ削除リクエストの実行前 • ネットワーク作成リクエストの実行前 • ネットワーク作成リクエストの実行後	• リクエストの状態をエラーに遷移する • エラーメッセージ「リクエスト実行前処理に失敗しました」が設定される • メールにて実行エラーが通知される
• サーバ作成リクエストの実行後※1※2 • サーバ変更リクエストの実行後※1※2 • サーバ削除リクエストの実行後※1 • ネットワーク作成リクエストの実行後※1※2 • ネットワーク作成リクエストの実行後※1	• リクエストの状態を完了に遷移する

失敗のタイミング	失敗後の扱い
• リクエスト申請前※1	• リクエストは登録されない
• リクエスト申請後※1	•「正常」状態のまま以降の処理を継続する
• リクエスト承認前※1 • リクエスト却下前 • リクエストキャンセル前	• ダイアログにエラーメッセージを表示する
• リクエスト承認後※1 • リクエスト却下後 • リクエストキャンセル後	• 以降の処理を継続する

⚠ 注意

- ※1 リクエストの実行後の拡張処理にて失敗しても実行エラー通知が行われません。 拡張処理の実行ログを参照し、成否を確認のうえ、必要であれば対処を行ってください。
- ※2 リクエストの実行後の拡張処理にて失敗しても作成されたリソースはテナントに公開されます。

16.1.7　拡張処理の実行ログ

拡張処理が実行された場合、実行時のログが以下のファイルに出力されます。

```
C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\logs\extention.log
```

拡張処理の実行ログは 5 世代まで保存されます。ファイルサイズが 10 MB を超えた場合は、「extension-*1*-*5*.log.zip」に圧縮されてローテーションされます。

ログの出力フォーマットは以下の通りです。2 行に分けて出力されます。

```
Date time I cloudportal Thread name : Command line
Date time I cloudportal Thread name : Resource Method Timing Exit code Res
ult Standard output Standard error output
```

各項目の詳細は以下の通りです。

項目	説明
Date time	コマンドを実行した日時 yyyy-MM-dd’T’HH:mm:ss.SSSZ フォーマットで出力されます。
Thread name	コマンドを実行したスレッドの名前
Command line	実際に実行したコマンドライン 置換パラメータおよび拡張パラメータが展開された状態で出力されます
Resource	拡張処理を実行した対象のリソース 以下のいずれかが出力されます • SERVER • NETWORK • TENANT

項目	説明
	• REQUEST
Method	拡張処理を実行した対象の操作 以下のいずれかが出力されます • CREATE • MODIFY • DELETE • APPLY • APPROVE • REJECT • CANCEL
Timing	拡張処理を実行したタイミング 以下のいずれかが出力されます • PRE • POST
Exit code	拡張処理で指定したコマンドの終了コード
Result	拡張処理で指定したコマンドの終了コードから判定した実行結果 以下のいずれかが出力されます • OK • NG • TIMEOUT
Standard output	拡張処理で指定したコマンドの標準出力 UTF-8 にて出力を行います。
Standard error output	拡張処理で指定したコマンドの標準エラー出力 UTF-8 にて出力を行います。

出力例を以下に記載します。

```
2018-03-08T13:17:31.405+0900 I cloudportal [http-nio-12080-exec-8] : C:\ex
tention\notification.bat 3 0 TenantE Server01 422f38a2-8b94-262d-87e2-e437
c73b5058
2018-03-08T13:17:32.647+0900 I cloudportal [http-nio-12080-exec-8] : SERVE
R DELETE PRE 0 OK Output Test Error Out Test
```

拡張処理で指定されたコマンドの標準出力および標準エラーのログ出力時の文字コードはコマンドの実装にあわせてカスタマイズすることができます。以下に設定手順を記載します。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. 下記を参照し、設定を行いたい「リクエストの種類と実行タイミング」に対応する記述を追記してください。
   - リクエスト申請の前処理時のカスタマイズを行う場合

     ```
     product.cloudportal.extension.point.request.apply.pre.command.out.c
     harset=Charset
     ```

- リクエスト申請の後処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.apply.post.command.out.
charset=Charset
```

- リクエスト承認の前処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.approve.pre.command.out
.charset=Charset
```

- リクエスト承認の後処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.approve.post.command.ou
t.charset=Charset
```

- リクエスト却下の前処理時の実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.reject.pre.command.out.
charset=Charset
```

- リクエスト却下の後処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.reject.post.command.out
.charset=Charset
```

- リクエストキャンセルの前処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.cancel.pre.command.out.
charset=Charset
```

- リクエストキャンセルの後処理時のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.request.cancel.post.command.out
.charset=Charset
```

- サーバ作成リクエストの実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.create.pre.command.charset=C
harset
```

- サーバ作成リクエストの実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.create.post.command.charset=
Charset
```

- サーバ変更リクエストの実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.modify.pre.command.charset=C
harset
```

- サーバ変更リクエストの実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.modify.post.command.charset=
Charset
```

- サーバ削除リクエストの実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.delete.pre.command.charset=Charset
```

- サーバ削除リクエストの実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.vm.delete.post.command.charset=Charset
```

- ネットワーク作成リクエストの実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.create.pre.command.charset=Charset
```

- ネットワーク作成リクエストの実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.create.post.command.charset=Charset
```

- ネットワーク削除リクエストの実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.delete.pre.command.charset=Charset
```

- ネットワーク削除リクエストの実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.network.delete.post.command.charset=Charset
```

以下の詳細を記載します。

項目	説明
Charset	実行したいコマンドの標準出力および標準エラー出力の文字コード記述します。以下で定義されているものから指定してください。 https://www.iana.org/assignments/character-sets/character-sets.xhtml

記述例は以下の通りです。

```
product.cloudportal.extension.point.vm.create.pre.command.out.charset=Shift_JIS
```

16.2　テナントの登録または削除前後の設定

テナントの登録または削除前後に拡張処理を行う際の設定手順や運用設計時の注意点について説明します。

16.2.1　拡張処理の有効化

テナントの登録または削除前後の拡張処理は設定ファイルに実行タイミングに対応するコマンドラインを定義することで有効化されます。以下に設定手順を記載します。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. 下記を参照し、設定を行いたい実行のタイミングに対応する記述を追記してください。
   - テナント登録の実行前に拡張処理を行う場合

     ```
     product.cloudportal.extension.point.tenant.create.pre.command=Command line
     ```

   - テナント登録の実行後に拡張処理を行う場合

     ```
     product.cloudportal.extension.point.tenant.create.post.command=Command line※1
     ```

   - テナント削除の実行前に拡張処理を行う場合

     ```
     product.cloudportal.extension.point.tenant.delete.pre.command=Command line
     ```

   - テナント削除の実行後に拡張処理を行う場合

     ```
     product.cloudportal.extension.point.tenant.delete.post.command=Command line※1
     ```

   Command line に記述するコマンドラインフォーマットを以下に示します。

   ```
   コマンド
   パラメータ
   ```

   以下の詳細を記載します。

項目	説明
コマンド	実行したいコマンドのファイルパス(フルパス)を記述します。 コマンドに\(バックスラッシュ)を含む場合には、\(バックスラッシュ)の直前にエスケープ文字(\)を追加してください。 実行ユーザに対して実行権限がある実行可能ファイルを指定してください。また、終了コードが整数で返却されるコマンドを指定してください。 実行ユーザの PATH 環境変数が設定されているコマンドについてはフルパスで指定する必要はありません。 指定するコマンドに User グループ(Local Service アカウントが所属するグループ)に対する読み取り・実行権限を付与してください。コマンドは Local Service アカウントで実行されます。 コマンド実行の延長でファイル・ディレクトリに対して読み取り、書き込みを行う場合には、そのファイル・ディレクトリに対しても適切な権限を付与してください。 ファイル・ディレクトリへの権限設定は、対象のプロパティを開き、[セキュリティ]タブにて設定することができます。
パラメータ	実行したいコマンドに渡す引数を記述します。複数を指定したい場合には半角スペース区切りで記述してください。 半角スペースを含む文字列をパラメータに指定したい場合には、"(ダブルクォーテーション)で囲んでください。

項目	説明
	vDCA SE ポータル では、コマンドライン実行時に展開される置換パラメータを指定することもできます。 詳細は「16.2.2　置換パラメータ（121 ページ）」 を参照してください。

記述例は以下の通りです。

```
product.cloudportal.extension.point.tenant.create.post.command=C:\\exte
ntion\\notification.bat
$EXTENSION_POINT$ $EXTENSION_TIMING$ $TENANT_ID$ $TENANT_NAME$
```

⚠ 注意

- コマンド実行時の最大文字数は 8191 文字です。 コマンド、パラメータ、展開後の置換パラメータ、展開後の拡張パラメータの文字数合計が 8191 文字を超えないように設定してください。
- 拡張処理はブラウザでの操作の延長で実行されます。コマンドの実行時間が長い場合、ユーザに対する操作のレスポンスが遅くなることがあります。
- ※1 拡張処理が実行されている間はテナント一覧を参照することができません。 このため、コマンドの実行時間は極力短いものとなるように設定してください。

16.2.2　置換パラメータ

置換パラメータとは、vDCA SE ポータルがコマンド実行時に展開するパラメータです。

サポートする置換パラメータを以下に記載します。

項目	説明
$TENANT_ID$	対象となるテナントの「テナント ID」に置換されるパラメータ
$TENANT_NAME$	対象となるテナントの「テナント名」に置換されるパラメータ
$EXTENSION_POINT$	拡張処理の対象となるリソースの種別番号に置換されるパラメータ • テナント登録…201 • テナント削除…203
$EXTENSION_TIMING$	拡張処理の実行タイミングに置換されるパラメータ • 前処理…0 • 後処理…1

16.2.3　実行環境

「16.1.4　実行環境（112 ページ）」を参照してください。

16.2.4　成功・失敗判定

vDCA SE ポータルでの拡張処理の成功・失敗を以下のように判定します。

判定	条件
成功	コマンドが返却する終了コードが「0」の場合
失敗	以下のいずれかに一致 • コマンドが返却する終了コードが「0」以外の場合 • コマンドの実行が 300 秒を超えた(タイムアウトが発生した)場合 ※1

成功とみなすコマンドの終了コードや、失敗と判断するタイムアウトはコマンドの実装にあわせてカスタマイズすることができます。以下に設定手順を記載します。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. 下記を参照し、設定を行いたい実行のタイミングに対応する記述を追記してください。
   - テナント登録の実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.tenant.create.pre.command.exit.
code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.tenant.create.pre.command.timeo
ut=Time out
```

   - テナント登録の実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.tenant.create.post.command.exit
.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.tenant.create.post.command.time
out=Time out
```

   - テナント削除の実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.tenant.delete.pre.command.exit.
code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.tenant.delete.pre.command.timeo
ut=Time out
```

   - テナント削除の実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.tenant.delete.post.command.exit
.code.success=Success exit status
product.cloudportal.extension.point.tenant.delete.post.command.time
out=Time out
```

各カスタマイズ項目の詳細を記載します。

項目	説明
Success exit status	コマンドが正常に終了したと判断する終了コード(整数)を指定する。 終了コードを複数指定したい場合には、,(カンマ)区切りで列挙する。いずれか一つに一致すれば正常に終了したと判断する。 設定を省略した場合、0 が設定される。
Time out	コマンド実行時のタイムアウト(秒)を指定する。 設定を省略した場合、300 が設定される。

記述例は以下の通りです。

```
product.cloudportal.extension.point.tenant.create.pre.command.exit.code.su
ccess=0,1,2
product.cloudportal.extension.point.tenant.create.pre.command.timeout=600
```

⚠ 注意

※1 タイムアウトが発生した場合、拡張処理は失敗と判定されますがコマンドの実行自体は強制終了されません。 コマンドの実装においてタイムアウトが発生しないように考慮する、または、発生した場合、手動にて強制終了するといった対応を行ってください。

16.2.5　失敗時の動き

拡張処理が失敗した場合の扱いについて説明します。実行タイミングによって失敗の扱いは異なります。 以下に特定の実行タイミングで拡張処理が失敗した場合の動きについて記載します。

失敗のタイミング	失敗後の扱い
テナント登録の実行前	• vDCA SE ポータルのテナント登録処理を中断する。 • SigmaSystemCenter に対するテナント登録処理を中断する。
テナント登録の実行後	• vDCA SE ポータルに登録したテナントを削除(ロールバック)する。※1
テナント削除の実行前	• vDCA SE ポータルのテナント削除処理を中断する。 • SigmaSystemCenter に対するテナント削除処理を中断する。
テナント登録の実行後	• vDCA SE ポータルで削除したテナントを復活(ロールバック)する。※2

⚠ 注意

- ※1 テナント登録の実行後に失敗しても、SigmaSystemCenter には既に対象テナントが登録された状態となります。
- ※2 テナント削除の実行後に失敗しても、SigmaSystemCenter には既に対象テナントが削除された状態となります。

16.2.6　拡張処理の実行ログ

拡張処理が実行された場合、実行時のログが以下のファイルに出力されます。

```
C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\logs\extention.log
```

拡張処理の実行ログは 5 世代まで保存されます。ファイルサイズが 10 MB を超えた場合は、「extension-*1*-*5*.log.zip」に圧縮されてローテーションされます。

ログの出力フォーマットは以下の通りです。2 行に分けて出力されます。

```
Date time I cloudportal Thread name : Command line
Date time I cloudportal Thread name : Resource Method Timing Exit code Res
ult Standard output Standard error output
```

各項目の詳細は以下の通りです。

項目	説明
Date time	コマンドを実行した日時 yyyy-MM-dd’T’HH:mm:ss.SSSZ フォーマットで出力されます。
Thread name	コマンドを実行したスレッドの名前
Command line	実際に実行したコマンドライン 置換パラメータおよび拡張パラメータが展開された状態で出力されます
Resource	拡張処理を実行した対象のリソース Tenant が出力されます
Method	拡張処理を実行した対象の操作 以下のいずれかが出力されます • CREATE • DELETE
Timing	拡張処理を実行したタイミング 以下のいずれかが出力されます • PRE • POST
Exit code	拡張処理で指定したコマンドの終了コード
Result	拡張処理で指定したコマンドの終了コードから判定した実行結果 以下のいずれかが出力されます • OK • NG • TIMEOUT
Standard output	拡張処理で指定したコマンドの標準出力 UTF-8 にて出力を行います。
Standard error output	拡張処理で指定したコマンドの標準エラー出力 UTF-8 にて出力を行います。

拡張処理で指定されたコマンドの標準出力および標準エラーのログ出力時の文字コードはコマンドの実装にあわせてカスタマイズすることができます。以下に設定手順を記載します。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。
2. 下記を参照し、設定を行いたい実行のタイミングに対応する記述を追記してください。
   - テナント登録の実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.tenant.create.pre.command.chars
et=Charset
```

- テナント登録の実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.tenant.create.post.command.char
set=Charset
```

- テナント削除の実行前のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.tenant.delete.pre.command.chars
et=Charset
```

- テナント削除の実行後のカスタマイズを行う場合

```
product.cloudportal.extension.point.tenant.delete.post.command.char
set=Charset
```

項目	説明
Charset	実行したいコマンドの標準出力および標準エラー出力の文字コード記述します。以下で定義されているものから指定してください。 https://www.iana.org/assignments/character-sets/character-sets.xhtml

記述例は以下の通りです。

```
product.cloudportal.extension.point.tenant.create.pre.command.charset=Shif
t_JIS
```

第 17 章
ロール設定

第 18 章
API 設定について

本章では、API 設定について説明します。

18.1　API キーの利用について

WebAPI は各ユーザが払い出された API キーを設定し使用します。新規ユーザへの API キーの払い出しについては「29.2.2　ユーザを登録する（管理者）（207 ページ）」を参照してください。

既存のユーザに API キーを払い出す場合は、「26.2　ログインユーザ情報を変更する（176 ページ）」から API キーの設定をおこなってください。

18.2　リクエストテンプレート

リクエスト API を使用する際は、リクエストテンプレートを使用して設定します。

以下にリクエストテンプレートの設定内容を示します。

リクエストテンプレートが定義された serverRequestTemplate.json を、%TOMCAT_HOME%\conf\NEC\requestTemplates ディレクトリ配下に配置します。

serverRequestTemplate.json

JSON キー	説明
name	リクエストテンプレート名
tenants	リクエストテンプレートを利用できるテナント
request	Request オブジェクト

request オブジェクト JSON キー

キー	省略可否	説明
info	省略不可	リクエスト詳細情報
info.templateName	省略不可	作成元のテンプレート名
info.osName	省略不可	OS 名
info.resourcePool	省略不可	作成先のリソースプール名
info.specName	省略不可	スペック名
info.groupPath	省略可	業務グループ
hardware	省略可	申請のマシン情報
hardware.disks[]	省略可	ディスク設定の配列
hardware.disks[n].type	省略不可	ディスクの種類(systemdisk | extendeddisk)
hardware.disks[n].diskSize	省略不可	ディスクサイズ(GB)
hardware.disks[n].tag	省略可	ディスクタグ

キー	省略可否	説明
networks[]	省略不可	ネットワーク設定の配列
networks[n].name	省略不可	論理ネットワーク名
networks[n].networkProfile	省略可	DNS/WINS 情報
networks[n].networkProfile.primaryDNS	省略可	プライマリ DNS
networks[n].networkProfile.secondaryDNS	省略可	セカンダリ DNS
networks[n].networkProfile.tertiaryDNS	省略可	ターシャリ DNS。Linux 系場合設定のみ。
networks[n].networkProfile.primaryWINS	省略可	プライマリ WINS。Windows 系場合設定のみ。
networks[n].networkProfile.secondaryWINS	省略可	セカンダリ WINS。Windows 系場合設定のみ。
hostProfile	省略可	ホスト設定
hostProfile.timezone	省略不可	OS のタイムゾーン。Windows 系場合設定のみ。
hostProfile.account	省略不可	管理者アカウント
hostProfile.password	省略不可	管理者パスワード
hostProfile.organization	省略不可	OS に設定するユーザの所属。Windows 系場合設定のみ。
hostProfile.productKey	省略可	OS のプロダクトキー 。Windows 系場合設定のみ。
hostProfile.domainType	省略不可	ワークグループかドメインか (workgroup｜ domain)。Windows 系場合設定のみ。
hostProfile.domainAccount	省略不可	ドメインアカウント。Windows 系ドメインに参加する場合設定のみ。
hostProfile.domainPassword	省略不可	ドメインパスワード。Windows 系ドメインに参加する場合設定のみ。
hostProfile.domainSuffix	省略不可	ドメインサフィックス。Linux 系場合設定のみ。
extendedParams	省略可	作成拡張パラメータ設定
extendedParams[n].name	省略不可	作成拡張パラメータ表示名。拡張パラメータを設定する時省略不可。
extendedParams[n].parameterKey	省略不可	作成拡張パラメータのキー。拡張パラメータを設定する時省略不可。
extendedParams[n].parameterValue	省略不可	作成拡張パラメータの値。拡張パラメータを設定する時省略不可。

第 19 章
vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションの有効化

本章では、vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションを vDCA SE ポータルで使用できるようにする方法について説明します。

以下について設定を行います。

- vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプション使用の有効化
- スタック管理サーバ（OpenStack Identity(keystone)）との接続設定

19.1　設定方法

「第 8 章　SigmaSystemCenter の設定（31 ページ）」で設定した vDCA ポータルの設定ファイル（webframework.properties）を修正します。

1. C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。

   『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション利用ガイド』の『2.1.3.3 パラメータファイルの設定』にて設定した値を vDCA ポータルの設定ファイルに転記します。

   設定項目の詳細について以下の表に示します。

表 19-1　vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションの設定

設定項目	デフォルト値	設定内容
license.cloudportal		
license.cloudportal.templateprovisioning	false	vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションを使用する構成の場合は true にする 使用しない場合は false にする
product.tto.provider		
product.tto.provider.url	http://192.168.0.1:35357	OpenStack Identity(keystone)の接続先 URL 「http://<IDENTITY_HOST>:35357」を設定する • IDENTITY_HOST*1 : OpenStack Identity(keystone)をインストールしたスタック管理サーバのホスト名または IP アドレス [必須]
product.tto.provider.connection.timeout	0	OpenStack Identity(keystone)、OpenStack Orchestration(heat-api) の接続タイムアウト値(秒) ※値を設定しない場合はタイムアウトしません。 有効な値：0-3600
product.tto.provider.read.timeout	0	OpenStack Identity(keystone)、OpenStack Orchestration(heat-api)の読み取りタイムアウト値(秒)

設定項目	デフォルト値	設定内容
		※値を設定しない場合はタイムアウトしません。 有効な値：0-3600
product.tto.provider.creation.timeout	0	OpenStack Orchestration(heat-api)のスタック作成 API 時に指定するタイムアウト値(分) ※値を設定しない場合はタイムアウトしません。 有効な値：0-60
product.tto.provider.creation.rollback	true	OpenStack Orchestration(heat-api)のスタック作成 API に失敗した場合、自動的にロールバックを行う場合は true にする ロールバックを行わない場合は false にする ※ロールバックを行う場合には、作成に失敗したスタックを自動的に削除します。

*1『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』 の『2.1.3.3 パラメータファイルの設定』 『表 2-4 パラメータファイルの設定項目』の各設定項目です。

設定例

```
# - license.cloudportal
license.cloudportal.templateprovisioning=true

# - product.tto.provider
product.tto.provider.url=http://192.168.0.1:35357
```

注

・設定ファイル（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties）の各行の最後には空白を含めないでください。

上記を記載後、ファイルの文字コードを UTF-8(BOM 無し)で保存し、アプリケーションサーバ(Tomcat)を再起動します。 サーバーマネージャー の左側のパネルからローカルサーバーを選択し、サービスから「ServiceGovernor」を右クリックし、「サービスの再起動」を選択します。

第 20 章
vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションのサーバサービスカタログ設定

「第 10 章　サーバサービスカタログの設定（39 ページ）」では、テナント利用者が仮想サーバの利用申請時に選択可能な VM テンプレート(サービスカタログ)や、その VM テンプレートにて選択可能な CPU 数、メモリサイズ、システムディスクサイズの組み合わせから構成されるハードウェアのテンプレート(スペック)等を定義しましたが、同定義をスタックに含める仮想サーバでも選択できるように設定します。

vDCA SE ポータルと vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションにおける定義の対比とその設定先について一覧に示します。

表 20-1　サービスカタログとそれに関する設定一覧

定義対象	vDCA SE ポータル		vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプション	
	呼び方	定義対象の設定ファイル	呼び方	定義対象の設定ファイル
VM テンプレートとその表示名	サービスカタログ	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties	イメージ	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_parameter.conf
その VM テンプレートにて選択可能な CPU 数、メモリサイズ、システムディスクサイズの組み合わせから構成されるハードウェアのテンプレート	スペック	デフォルト値：C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties カスタム値：C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties	フレーバー	デフォルト値：C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_plugin.conf カスタム値：C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_parameter.conf
その VM テンプレートにて選択可能なシステムディスクのタイプとデータストアタグの組み合わせ	ディスクタグ	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\diskTags.json.sample	フレーバー	デフォルト値：C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_plugin.conf カスタム値：C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_parameter.conf
その VM テンプレートにて選択可能なデータディスクのタイプとデータストアタグの組み合わせ	ディスクタグ	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\diskTags.json.sample	ディスクプロファイル	C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_parameter.conf

20.1　サービスカタログのデフォルト値転記

フレーバーのデフォルト値がスペックのデフォルト値と同じ設定になるように、「第 10 章　サーバサービスカタログの設定（39 ページ）」にて設定した値を C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\TomcatC:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_plugin.conf に転記します。

文字コードは UTF-8（BOM 無し）です。

転記内容について以下に示します。

表 20-2　デフォルト設定の転記

転記元 webframework.properties	転記先 ssc_plugin.conf
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.share の値	ssc.defaults.flavor.cpu.share の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.reservation の値	ssc.defaults.flavor.cpu.reservation の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.limit の値	ssc.defaults.flavor.cpu.limit の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memory.share の値	ssc.defaults.flavor.ram.share の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memory.reservation の値	ssc.defaults.flavor.ram.reservation の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memory.limit の値	ssc.defaults.flavor.ram.limit の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disks.disktype の値	ssc.defaults.diskProfile.system.type の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disks.disktype の値	ssc.defaults.diskProfile.ext.type の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.account の値	ssc.defaults.hostProfile.adminAccountWindows の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.timezone の値	ssc.defaults.hostProfile.timeZone の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.domaintype の値	ssc.defaults.hostProfile.domainType の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.networkname の値	ssc.defaults.hostProfile.domainName の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.licensemode の値	ssc.defaults.hostProfile.licenseMode の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.maxconnection の値	ssc.defaults.hostProfile.maxConnection の値
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.domainsuffix の値	ssc.defaults.hostProfile.domainSuffix の値

設定例

vDCA SE ポータルに設定されているカタログと、ホストプロファイルのデフォルト値を転記する例を示します。

転記元：webframework.properties

```
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.sha
re=normal
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.res
ervation=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.cpu.lim
it=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memory.
share=normal
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memory.
reservation=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.memory.
limit=0
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.machineprofile.disks.d
isktype=thin
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.account=Ad
ministrator
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.domaintype
=workgroup
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.networknam
e=workgroup
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.licensemod
e=PerServer
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.maxconnect
ion=5
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.domainsuff
ix=example.local
product.cloudportal.provider.ssc.request.createhost.hostprofile.timezone=E
B
```

転記先：ssc_plugin.conf

```
{
    "heat": {
        "checkCompleteInterval": 0
    },
    "ssc": {

        ...（略）...

        "defaults": {
            "flavor": {
                "cpu": {
                    "share": "normal",
                    "reservation": 0,
                    "limit": 0
                },
                "ram": {
                    "share": "normal",
                    "reservation": 0,
                    "limit": 0
                }
            },
            "diskProfile": {
                "system": {
                    "type": "thin",
```

```
                    "datastoreTags": []
                },
                "ext": {
                    "type": "thin",
                    "datastoreTags": []
                }
            },
            "hostProfile": {
                "adminAccountWindows": "Administrator",
                "timeZone": "EB",
                "domainType": "workgroup",
                "domainName": "workgroup",
                "licenseMode": "PerServer",
                "maxConnection": 5,
                "domainSuffix": "example.local"
            }

        ...（略）...

        }
    }
}
```

注

- スタックの一部として作成されたサーバの仮想ディスクは、webframework.properties の設定に関係なくスタック削除時に削除されます。
- スタックの一部として作成されたサーバの管理者アカウントは、webframework.properties の設定に関係なくそのサーバのイメージプロパティにて指定される VM テンプレートの OS 種別によって決まります。詳細については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『B.3.2.2 リソースタイプ』を参照してください。

20.2　サービスカタログのカスタム値転記

「カタログ」と「イメージ」といった定義対象ごと同じ名前で設定することで、テナント利用者は「同じ名前の選択肢は同じ効能がある(例：トポロジーテンプレートのサーバのイメージに「RHEL7」という名前を指定した場合には、サーバのリクエストを作成する場合に指定する「RHEL7」というカタログと同じ VM テンプレートが使用される)」と判断できるようになります。

このため、以下の各定義対象が各々スペック、サービスカタログ、ディスクタグと同名になるように(1 対 1 で対応するように)、「第 10 章　サーバサービスカタログの設定（39 ページ）」にて設定した値を C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_parameter.conf に転記します。

- フレーバー設定
- イメージ設定
- ディスクプロファイル設定

なお、スペックはフレーバーと 1 対 1 ではありません。 フレーバーはスペック+システムディスクのディスクタグの組み合わせと対応します。 このため、スペックに対して複数のシステムディスクのディスクタグが使用可能である場合は、フレーバー名に「スペック名とシステムディスクのディスクタグ名」の組み合わせとなるように設定を行います。

文字コードは UTF-8（BOM 無し）です。

20.2.1　フレーバー設定

vDCA SE ポータルサーバの設定ファイル（webframework.properties）に指定されているスペック設定と、スタック管理サーバのパラメータ設定ファイルのフレーバー設定が一致するようにスペック毎の CPU 数、メモリサイズ、システムディスクのサイズの値をフレーバーとして転記します。

ただし、前述の通りフレーバーはスペック+システムディスクのディスクタグの組み合わせとなるため、本項ではスペックの名前と CPU 数、メモリサイズ、システムディスクのサイズの値のみ転記し、システムディスクのディスクタグを転記先となる ssc.flavor.<スペック名> 配下の systemdisk.profile にはキーを追加するだけで、値は null にしてください。 値の設定については、「20.2.3　ディスクプロファイル設定（138 ページ）」にて説明します。

フレーバー設定の転記内容について以下に示します。

表 20-3　フレーバー設定の転記

転記元 webframework.properties	転記先 ssc_parameter.conf
product.cloudportal.template.spec.detail.<スペック名>=<CPU 数>,<メモリサイズ(GB)>,<システムディスクサイズ(GB)>の<スペック名>	ssc.flavor.<スペック名>のキー
product.cloudportal.template.spec.detail.<スペック名>=<CPU 数>,<メモリサイズ(GB)>,<システムディスクサイズ(GB)>の<CPU 数>	ssc.flavor.<スペック名>.cpu.count の値
product.cloudportal.template.spec.detail.<スペック名>=<CPU 数>,<メモリサイズ(GB)>,<システムディスクサイズ(GB)>の<メモリサイズ(GB)>	ssc.flavor.<スペック名>.ram.size の値 1024 倍した値を設定する
product.cloudportal.template.spec.detail.<スペック名>=<CPU 数>,<メモリサイズ(GB)>,<システムディスクサイズ(GB)>の<システムディスクサイズ(GB)>	ssc.flavor.<スペック名>.systemdisk.size の値 1024 倍した値を設定する

設定例

- vDCA SE ポータルに設定されているスペック設定を ssc_parameter.conf のフレーバー設定に転記する例を示します。

  転記元：webframework.properties

```
# - product.cloudportal.template.spec.detail.<スペック名>=<CPU数>,<メモリサイズ(GB)>,<システムディスクサイズ(GB)>
product.cloudportal.template.spec.detail.specName001=1,1,100
product.cloudportal.template.spec.detail.specName002=1,2,100
product.cloudportal.template.spec.detail.specName003=2,3,100
```

```
product.cloudportal.template.spec.detail.specName004=2,4,100
```

- 転記先：ssc_parameter.conf

```
{
    "ssc": {
        "flavor": {
            "specName001": {
                "cpu": {
                    "count": 1
                },
                "ram": {
                    "size": 1024
                },
                "systemdisk": {
                    "size": 102400,
                    "profile": null
                }
            },
            "specName002": {
                "cpu": {
                    "count": 1
                },
                "ram": {
                    "size": 2048
                },
                "systemdisk": {
                    "size": 102400,
                    "profile": null
                }
            },
            "specName003": {
                "cpu": {
                    "count": 2
                },
                "ram": {
                    "size": 3072
                },
                "systemdisk": {
                    "size": 102400,
                    "profile": null
                }
            },
            "specName004": {
                "cpu": {
                    "count": 2
                },
                "ram": {
                    "size": 4096
                },
                "systemdisk": {
                    "size": 102400,
                    "profile": null
                }
            }
        },
```

```
...（略）...
```

注

- SSC リソースプラグインのパラメータ設定ファイルのフレーバーの値は半角英数字および半角空白で指定してください。
- SSC リソースプラグインのパラメータ設定ファイルのフレーバーの値は、『SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編』の『4.3.8.システムディスクの設定』を参照し、正しく設定してください。 値が正しく設定されていない場合、作成時にエラーが発生する、または設定値が反映されないことがあります。

20.2.2　イメージ設定

vDCA SE ポータルでは、VM テンプレートの名前とスペックの組み合わせをカタログと表記しています。 vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションでは、これをイメージと表記するため、 vDCA SE ポータルサーバの設定ファイル（webframework.properties）に指定されているカタログ設定と、スタック管理サーバのパラメータ設定ファイルのイメージ設定が一致するように、 カタログ毎の VM テンプレート名とスペックの値をイメージとして転記します。

イメージ設定の転記内容について以下に示します。

表 20-4　イメージ設定の転記

転記元 webframework.properties	転記先 ssc_parameter.conf
product.cloudportal.template.display.<テンプレート名>=<表示名>の<表示名>	ssc.image[]配下のキー名として追加
product.cloudportal.template.display.<テンプレート名>=<表示名>の<テンプレート名>	ssc.image[].<表示名>.vmTemplate の値
product.cloudportal.template.spec.<テンプレート名>=<スペック名 1>,<スペック名 2>,<スペック名 3>,<スペック名 4>,...の<スペック名 1>,<スペック名 2>,<スペック名 3>,<スペック名 4>,...	ssc.image[].<表示名>.flavors の値 配列で記載する

設定例

vDCA SE ポータルに設定されている Windows Server のテンプレート「TemplateA」のカタログ設定を ssc_parameter.conf のイメージ設定に転記する例を示します。

- 転記元：webframework.properties

```
# - product.cloudportal.template.display.<テンプレート名>=<表示名>
product.cloudportal.template.display.TemplateA = Windows Server/2012R2/
Standard Edition

# - product.cloudportal.template.spec.<テンプレート名>=<スペック名1>,<スペック名2>,<スペック名3>,<スペック名4>,...
product.cloudportal.template.spec.TemplateA=specName001,specName002,spe
```

```
cName003,specName004
```

- 転記先：ssc_parameter.conf

```
{
    "ssc": {
        "flavor": {

        ...（略）...

        "image": {
            "Windows Server 2012R2 Standard Edition": {
                "vmTemplate": "TemplateA",
                "flavors": [
                    "specName001", "specName002",
                    "specName003", "specName004"
                ]
            }
        },
        ...（略）...
```

注

- SSC リソースプラグインのパラメータ設定ファイルのイメージの値は半角英数字および半角空白で指定してください。
- SSC リソースプラグインのパラメータ設定ファイルのイメージの値は、『SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編』の『4.3.8.システムディスクの設定』を参照し、正しく設定してください。 値が正しく設定されていない場合、作成時にエラーが発生する、または設定値が反映されないことがあります。

20.2.3　ディスクプロファイル設定

vDCA SE ポータルでは、ディスクタイプと、SigmaSystemCenter に設定されたデータストアタグの組み合わせをディスクタグと表記しています。

vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションでは、これをディスクプロファイルと表記するため、vDCA SE ポータルサーバの diskTags.json で設定されているディスクタグ設定とスタック管理サーバのパラメータ設定ファイルに設定するディスクプロファイル設定が一致するように、ディスクタグ毎のディスクタイプ、データストアタグの値をディスクプロファイルとして転記します。

なお、vDCA SE ポータルでは、システムディスク用のディスクタグ、データディスク用のディスクタグを分けずに一律にディスクタグとして設定していますが、vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションサーバではこれを分けて設定します。このため、ディスクタグ設定を、システムディスクプロファイル、拡張ディスクプロファイルの両方に転記します。

ディスクプロファイル設定内容は、「10.1.4　ディスクタグの設定（44 ページ）」にてディスクタグ設定を行っているか(diskTags.json を作成しているか)否かにより異なります。

- ディスクタグ設定を行っていない場合、「20.2.3.1　ディスクタグ設定を行っていない場合のディスクプロファイル設定（139 ページ）」を参照し、設定を行います。
- ディスクタグ設定を行っている場合、を参照し、「20.2.3.2　ディスクタグ設定を行っている場合のディスクプロファイル設定（141 ページ）」を参照し、設定を行います。

注

- SSC リソースプラグインのパラメータ設定ファイルのディスクプロファイルの値は半角英数字および半角空白で指定してください。
- SSC リソースプラグインのパラメータ設定ファイルの「フレーバー」のシステムディスクの設定値は、VM テンプレートの種類および仮想化基盤の種類によって指定可能な範囲が異なります。

20.2.3.1　ディスクタグ設定を行っていない場合のディスクプロファイル設定

ディスクタグ設定を行っていない場合には、ssc_parameter.conf のディスクプロファイルに固定値を設定します。

表 20-5　ディスクタグ設定を行っていない場合のディスクプロファイル設定

転記内容	記載先 ssc_parameter.conf
none	ssc.diskProfile.system[]配下のキーとして追加
thin	ssc.diskProfile.system[].名前.type の値
[]	ssc.diskProfile.system[].名前.datastoreTags の値
none	ssc.diskProfile.ext[]配下のキーとして追加
thin	ssc.diskProfile.ext[].名前.type の値
[]	ssc.diskProfile.ext[].名前.datastoreTags の値

記載例を以下に示します。

```
{
  "ssc": {
      ...（略）...

    "diskProfile": {
      "system": {
        "none": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": [],
          "flavors": null
        }
      },
      "ext": {
        "none": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": []
        }
```

```
        }
      }
    }
```

ディスクプロファイルの記載が終えたら、保留にしていたフレーバーのシステムディスクのディスクプロファイルに関する設定を行います。

「20.2.1　フレーバー設定（135 ページ）」でキーのみ追加した ssc_parameters ファイルの ssc.flavor.<スペック名>.systemdisk.profile キーの値を設定します。

ssc_parameter.conf ファイルを開き、全てのフレーバー名のシステムディスクプロファイル(ssc.flavor.<フレーバー名>.systemdisk.profile キーの値)に、none という名前のディスクタグ名を設定します。

ssc_parameter.conf の設定例を以下に示します。

```
{
  "ssc": {
    "flavor": {
      "specName001": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 1024
        },
        "systemdisk": {
           "size": 102400,
           "profile": "none"
        }
      }
    },

    ... (略)...

    "image": {
      "Windows Server 2012R2 Standard Edition": {
        "vmTemplate": "TemplateA",
        "flavors": [
          "specName001"
        ]
      }
    },
    "diskProfile": {
      "system": {
        "none": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": [],
          "flavors": null
        }
      },
      ... (略)...
    }
  }
}
```

20.2.3.2　ディスクタグ設定を行っている場合のディスクプロファイル設定

ディスクタグ設定を行っている場合には、「10.1.4　ディスクタグの設定（44 ページ）」にて記載したディスクタグをディスクプロファイルに転記します。

表 20-6　ディスクタグ設定を行っている場合のディスクプロファイル設定

転記元 diskTags.json	転記先 ssc_parameter.conf
tags[].name キーの値	ssc.diskProfile.system[]配下のキーとして追加
tags[].diskType キーの値	ssc.diskProfile.system[].名前.type の値
tags[].datastoreTags キーの値	ssc.diskProfile.system[].名前.datastoreTags の値
tags[].name キーの値	ssc.diskProfile.ext[]配下のキーとして追加
tags[].diskType キーの値	ssc.diskProfile.ext[].名前.type の値
tags[].datastoreTags キーの値	ssc.diskProfile.ext[].名前.datastoreTags の値

転記例を以下に示します。

- 転記元：diskTags.json

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "gold-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "gold",
        "silver"
      ]
    },
    {
      "name": "silver-disk",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": [
        "silver",
        "bronze"
      ]
    },
    {
      "name": "bronze-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "bronze",
        "iron"
      ]
    },
    {
      "name": "iron-disk",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": [
        "iron"
      ]
```

```
  ],
  "catalogs": [
    {
      "name": "TemplateA",
      "tags": [
        "gold-disk"
      ]
    }
  ]

        ...（略）...
```

- 転記先：ssc_parameter.conf

```
{
  "ssc": {
      ...（略）...

    "diskProfile": {
      "system": {
        "gold-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["gold", "silver"],
          "flavors": null
        },
        "silver-disk": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": ["silver", "bronze"],
          "flavors": null
        },
        "bronze-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["bronze", "iron"],
          "flavors": null
        },
        "iron-disk": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": ["iron"],
          "flavors": null
        }
      },
      "ext": {
        "gold-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["gold", "silver"]
        },
        "silver-disk": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": ["silver", "bronze"]
        },
        "bronze-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["bronze", "iron"]
        },
        "iron-disk": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": ["iron"]
```

```
          }
        }
      }
    }
```

ディスクプロファイルの記載が終えたら、保留にしていたフレーバーのシステムディスクのディスクプロファイルに関する設定を行います。

「20.2.1　フレーバー設定（135 ページ）」でキーのみ追加した ssc_parameters ファイルの ssc.flavor.<スペック名>.systemdisk.profile キーの値を設定します。

フレーバーのシステムディスクのディスクプロファイルは、そのフレーバーが使用できるイメージと対になるカタログに対して個別ディスクタグが設定されているか否かによりその設定手順が異なります。

- 個別ディスクタグが設定されているカタログとは、「diskTags.json にて catalogs[].name キーの値が設定されている VM テンプレート」と対になる webframework.properties に設定されているカタログを示します。
- 個別ディスクタグが設定されていないカタログとは、「diskTags.json にて catalogs[].name キーの値に設定されていない VM テンプレート」と対になる webframework.properties に設定されているカタログを示します。

個別ディスクタグが設定されているカタログと個別ディスクタグが設定されていないカタログの例を以下に示します。

- diskTags.json の設定

  VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）は、「TemplateA」です。

  「TemplateA」で使用可能な個別ディスクタグ（catalogs[].tags キーの値）は、「gold-disk」です。

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "gold-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "gold",
        "silver"
      ]
    },
    {
      "name": "bronze-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "bronze",
        "iron"
      ]
    }
  ],
  "default_tags": [
  ],
  "catalogs": [
```

```
    {
      "name": "TemplateA",
      "tags": [
        "gold-disk"
      ]
    }
  ]
}
```

- webframework.properties の設定

  VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）に設定されていない VM テンプレートは「TemplateB」です。

```
# - product.cloudportal.template.display.<テンプレート名>=<表示名>
product.cloudportal.template.display.TemplateA = Windows Server/2012R2/
Standard Edition
product.cloudportal.template.display.TemplateB = RedHat Enterprise Linu
x 7.3

# - product.cloudportal.template.spec.<テンプレート名>=<スペック名1>,<スペッ
ク名2>,<スペック名3>,<スペック名4>,...
product.cloudportal.template.spec.TemplateA=specName001
product.cloudportal.template.spec.TemplateB=specName002

# - product.cloudportal.template.spec.detail.<スペック名>=<CPU数>,<メモリ
サイズ(GB)>,<システムディスクサイズ(GB)>
product.cloudportal.template.spec.detail.specName001=1,1,100
product.cloudportal.template.spec.detail.specName002=1,2,100
```

設定ファイルに上記のような設定を行っていた場合

- 「個別ディスクタグが設定されているカタログ」は、「TemplateA」に対応するカタログです。
- 「個別ディスクタグが設定されていないカタログ」は、「TemplateB」に対応するカタログです。

「個別ディスクタグが設定されているカタログ」と対になるイメージで使用可能なフレーバーに対するシステムディスクのディスクプロファイルは、「個別ディスクタグが設定されているカタログの設定（144 ページ）」を参照し、設定を行います。

「個別ディスクタグが設定されていないカタログ」と対になるイメージで使用可能なフレーバーに対するシステムディスクのディスクプロファイルは、「個別ディスクタグが設定されていないカタログの設定（150 ページ）」を参照し、設定を行います。

個別ディスクタグが設定されているカタログの設定

「個別ディスクタグが設定されているカタログ」と対になるイメージで使用可能なフレーバーに対するシステムディスクのディスクプロファイルの設定の手順を示します。

1. diskTags.json ファイルに設定されている以下の設定内容を控えます。
   a. VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）

b. VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）で使用可能な個別ディスクタグ（catalogs[].tags キーの値）

2. webframwork.properties ファイルを開き、1-a.で控えた VM テンプレートで使用可能なスペック（product.cloudportal.template.spec.<テンプレート名>の値）を控えます。

3. ssc_parameter.conf ファイルを開き、2.で控えたスペック名と同名のフレーバーのシステムディスクプロファイル（ssc.flavor.<フレーバー名>.systemdisk.profile キーの値）に、1-b.で控えた個別ディスクタグ（catalogs[].tags キーの値）を設定します。

VM テンプレート（"TemplateA"）に個別ディスクタグ（"gold-disk"）が設定されている場合の設定例を以下に示します。

- 転記元：diskTags.json

  VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）は、"TemplateA"です。

  VM テンプレート（"TemplateA"）で使用可能な個別ディスクタグ（catalogs[].tags キーの値）は、"gold-disk"です。

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "gold-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "gold",
        "silver"
      ]
    },
    {
      "name": "bronze-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "bronze",
        "iron"
      ]
    }
  ],
  "default_tags": [
  ],
  "catalogs": [
    {
      "name": "TemplateA",
      "tags": [
        "gold-disk"
      ]
    }
  ]
}
```

- 転記元：webframework.properties

  VM テンプレート（"TemplateA"）で使用可能なスペックは"specName001"です。

```
# - product.cloudportal.template.display.<テンプレート名>=<表示名>
product.cloudportal.template.display.TemplateA = Windows Server/2012R2/
Standard Edition
product.cloudportal.template.display.TemplateB = RedHat Enterprise Linu
x 7.3

# - product.cloudportal.template.spec.<テンプレート名>=<スペック名1>,<スペッ
ク名2>,<スペック名3>,<スペック名4>,...
product.cloudportal.template.spec.TemplateA=specName001
product.cloudportal.template.spec.TemplateB=specName002

# - product.cloudportal.template.spec.detail.<スペック名>=<CPU数>,<メモリ
サイズ(GB)>,<システムディスクサイズ(GB)>
product.cloudportal.template.spec.detail.specName001=1,1,100
product.cloudportal.template.spec.detail.specName002=1,2,100
```

- 転記先：ssc_parameter.conf

  スペック（"specName001"）と同名のフレーバーのシステムディスクプロファイル（ssc.flavor.<フレーバー名>.systemdisk.profile キーの値）に個別ディスクタグ（catalogs[].tags キーの値）を転記します。

```
{
  "ssc": {
    "flavor": {
      "specName001": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 1024
        },
        "systemdisk": {
           "size": 102400,
           "profile": "gold-disk"
        }
      },
       ...（略）...
    },
    "image": {
      "Windows Server 2012R2 Standard Edition": {
        "vmTemplate": "TemplateA",
        "flavors": [
          "specName001"
        ]
      },
      ...（略）...
    },
    "diskProfile": {
      "system": {
        "gold-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["gold", "silver"],
          "flavors": null
        },
        "bronze-disk": {
          "type": "thin",
```

```
          "datastoreTags": ["bronze", "iron"],
          "flavors": null
        }
      },
      ...（略）...
    }
  }
}
```

前述の通り、フレーバーはスペック+システムディスクのディスクタグの組み合わせとなるため、スペックに対して複数のシステムディスクの個別ディスクタグが設定されるケースもあります。 この場合は、diskTags.json ファイルの設定に合わせてフレーバー設定を複数行う必要があります。

VM テンプレート（"TemplateA"）に複数の個別ディスクタグ（"gold-disk","silver-disk"）が設定されている場合の設定例を示します。

- 転記元：diskTags.json

  VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）は、"TemplateA"です。

  VM テンプレート（"TemplateA"）で使用可能な個別ディスクタグ（catalogs[].tags キーの値）は"gold-disk"と"silver-disk"です。

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "gold-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "gold",
        "silver"
      ]
    },
    {
      "name": "silver-disk",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": [
        "silver",
        "bronze"
      ]
    },
    {
      "name": "bronze-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "bronze",
        "iron"
      ]
    }
  ],
  "catalogs": [
    {
      "name": "TemplateA",
      "tags": [
        "gold-disk",
        "silver-disk"
```

```
      ]
    }
  ]
}
```

- 転記元：webframework.properties

  VM テンプレート（"TemplateA"）で使用可能なスペックは"specName001"です。

```
# - product.cloudportal.template.display.<テンプレート名>=<表示名>
product.cloudportal.template.display.TemplateA = Windows Server/2012R2/
Standard Edition
product.cloudportal.template.display.TemplateB = RedHat Enterprise Linu
x 7.3

# - product.cloudportal.template.spec.<テンプレート名>=<スペック名1>,<スペッ
ク名2>,<スペック名3>,<スペック名4>,...
product.cloudportal.template.spec.TemplateA=specName001
product.cloudportal.template.spec.TemplateB=specName002

# - product.cloudportal.template.spec.detail.<スペック名>=<CPU数>,<メモリ
サイズ(GB)>,<システムディスクサイズ(GB)>
product.cloudportal.template.spec.detail.specName001=1,1,100
product.cloudportal.template.spec.detail.specName002=1,2,100
```

- 転記先：ssc_parameter.conf（ssc.flavor.<スペック名>.systemdisk.profile キー設定前）

```
{
  "ssc": {
    "flavor": {
      "specName001": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 1024
        },
        "systemdisk": {
          "size": 102400,
          "profile": null
        }
      },
      ... (略) ...
    },
     "image": {
      "Windows Server 2012R2 Standard Edition": {
        "vmTemplate": "TemplateA",
        "flavors": [
          "specName001"
        ]
      },
      ... (略) ...
    },
    "diskProfile": {
      "system": {
        "gold-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["gold", "silver"],
```

```
          "flavors": null
        },
        "silver-disk": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": ["silver", "bronze"],
          "flavors": null
        },
        "bronze-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["bronze", "iron"],
          "flavors": null
        }
      },
      ...（略）...
  }
```

- 転記先：ssc_parameter.conf（ssc.flavor.<スペック名>.systemdisk.profile キー設定後）
  - ssc_parameter.conf ファイルの ssc.flavor.specName001 をコピーし、それぞれの ssc.flavor.specName001.systemdisk.profile キーの値に"gold-disk"と"silver-disk"を設定します。
  - フレーバー名は ssc_parameter.conf ファイル内で一意になる名称に変更します。スペック名とシステムディスクの個別ディスクタグを連結して、各々"specName001-gold-disk"、"specName001-silver-disk"とします。
  - フレーバー名の変更が終わったら、そのフレーバーを使用しているイメージのフレーバー設定もあわせて変更します。

```
{
  "ssc": {
    "flavor": {
      "specName001-gold-disk": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 1024
        },
        "systemdisk": {
          "size": 102400,
          "profile": "gold-disk"
          }
        },
      "specName001-silver-disk": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 1024
        },
        "systemdisk": {
          "size": 102400,
          "profile": "silver-disk"
        }
      }
```

```
      ...（略）...
    },
     "image": {
      "Windows Server 2012R2 Standard Edition": {
        "vmTemplate": "TemplateA",
        "flavors": [
          "specName001-gold-disk", "specName001-silver-disk"
        ]
      },
      ...（略）...
    },
    "diskProfile": {
      "system": {
        "gold-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["gold", "silver"],
          "flavors": null
        },
        "silver-disk": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": ["silver", "bronze"],
          "flavors": null
        },
        "bronze-disk": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": ["bronze", "iron"],
          "flavors": null
        }
      },
      ...（略）...
    }
  }
```

個別ディスクタグが設定されていないカタログの設定

「個別ディスクタグが設定されていないカタログ」と対になるイメージで使用可能なフレーバーに対するシステムディスクのディスクプロファイルの設定の手順を示します。

フレーバーのシステムディスクのディスクプロファイルは、diskTags.json に共通ディスクタグ(default_tags.tags[] キーの値)が設定されているか否かによりその設定手順が異なります。

共通ディスクタグを設定している場合には、「共通ディスクタグが設定されている場合の設定（150 ページ）」を参照し、設定を行います。

共通ディスクタグを設定していない場合には、「個別ディスクタグが設定されていないカタログの設定（150 ページ）」を参照し、設定を行います。

共通ディスクタグが設定されている場合の設定

共通ディスクタグを設定している場合の「個別ディスクタグが設定されていないカタログ」と対になるイメージで使用可能なフレーバーに対するシステムディスクのディスクプロファイルの設定の手順を示します。

1. diskTags.json ファイルに設定されている以下の設定内容を控えます。
   a. VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）の集合
   b. 共通ディスクタグ（default_tags.tags[] キーの値）
2. webframwork.properties ファイルに設定されている以下の設定内容を控えます。
   a. 1-a.で控えた VM テンプレートの集合に含まれていない VM テンプレート
   b. 2-a. で控えた VM テンプレートで使用可能なスペック（product.cloudportal.template.spec.<テンプレート名>の値）
3. ssc_parameter.conf ファイルを開き、2-b.で控えたスペック名と同名のフレーバーのシステムディスクプロファイル（ssc.flavor.<フレーバー名>.systemdisk.profile キーの値）に、1-b.で控えた共通ディスクタグ（default_tags.tags[] キーの値）を設定します。

共通ディスクタグ（"bronze-disk"）が設定されている場合の設定例を以下に示します。

- 転記元：diskTags.json

  VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）の集合は、["TemplateA"]です。

  共通ディスクタグ（default_tags.tags[] キーの値）は、"bronze-disk"です。

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "gold-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "gold",
        "silver"
      ]
    },
    {
      "name": "bronze-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "bronze",
        "iron"
      ]
    }
  ],
  "default_tags": [
    {
      "tags": [
        "bronze-disk"
      ]
    }
  ],
  "catalogs": [
    {
      "name": "TemplateA",
      "tags": [
        "gold-disk"
      ]
    }
```

```
  ]
}
```

- 転記元：webframework.properties

  VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）の集合に含まれていない VM テンプレートは、"TemplateB"です。

  VM テンプレート（"TemplateB"）で使用可能なスペックは、"specName002"です。

```
# - product.cloudportal.template.display.<テンプレート名>=<表示名>
product.cloudportal.template.display.TemplateA = Windows Server/2012R2/
Standard Edition
product.cloudportal.template.display.TemplateB = RedHat Enterprise Linu
x 7.3

# - product.cloudportal.template.spec.<テンプレート名>=<スペック名1>,<スペッ
ク名2>,<スペック名3>,<スペック名4>,...
product.cloudportal.template.spec.TemplateA=specName001
product.cloudportal.template.spec.TemplateB=specName002

# - product.cloudportal.template.spec.detail.<スペック名>=<CPU数>,<メモリ
サイズ(GB)>,<システムディスクサイズ(GB)>
product.cloudportal.template.spec.detail.specName001=1,1,100
product.cloudportal.template.spec.detail.specName002=1,2,100
```

- 転記先：ssc_parameter.conf

  スペック（"specName002"）と同名のフレーバーのシステムディスクプロファイル（ssc.flavor.<フレーバー名>.systemdisk.profile キーの値）に共通ディスクタグ（default_tags.tags[] キーの値）を転記します。

```
{
  "ssc": {
    "flavor": {
      "specName001": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 1024
        },
        "systemdisk": {
           "size": 102400,
           "profile": null
        }
      },
      "specName002": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 2048
        },
        "systemdisk": {
           "size": 102400,
           "profile": "bronze-disk"
```

```
        }
      }
    },
    "image": {
      "Windows Server 2012R2 Standard Edition": {
        "vmTemplate": "TemplateA",
        "flavors": [
          "specName001"
        ]
      },
      "RedHat Enterprise Linux 7.3": {
        "vmTemplate": "TemplateB",
        "flavors": [
          "specName002"
        ]
      }
    },
    "diskProfile": {
      "system": {
        "gold-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["gold", "silver"],
          "flavors": null
        },
        "bronze-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["bronze", "iron"],
          "flavors": null
        }
      },
      ...（略）...
    }
  }
}
```

前述の通り、フレーバーはスペック+システムディスクのディスクタグの組み合わせとなるため、スペックに対して複数のシステムディスクの共通ディスクタグが設定されるケースもあります。 この場合は、diskTags.json ファイルの設定に合わせてフレーバー設定を複数行う必要があります。

複数の共通ディスクタグ（"bronze-disk","iron-disk"）が設定されている場合の設定例を以下に示します。

- 転記元：diskTags.json

  共通ディスクタグ（default_tags.tags[] キーの値）は、"bronze-disk"と"iron-disk"です。

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "gold-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "gold",
        "silver"
      ]
    },
```

```
    {
      "name": "bronze-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "bronze",
        "iron"
      ]
    },
    {
      "name": "iron-disk",
      "diskType": "thin",
      "datastoreTags": [
        "iron"
      ]
    }
  ],
  "default_tags": [
    {
      "tags": [
        "bronze-disk",
        "iron-disk"
      ]
    }
  ],
  "catalogs": [
    {
      "name": "TemplateA",
      "tags": [
        "gold-disk"
      ]
    }
  ]
}
```

- 転記先：ssc_parameter.conf（ssc.flavor.<スペック名>.systemdisk.profile キー設定前）

```
{
  "ssc": {
    "flavor": {
      "specName001": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 1024
        },
        "systemdisk": {
          "size": 102400,
          "profile": null
        }
      },
      "specName002": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 2048
        },
```

```
        "systemdisk": {
           "size": 102400,
           "profile": null
        }
      }
    },
    "image": {
      "Windows Server 2012R2 Standard Edition": {
        "vmTemplate": "TemplateA",
        "flavors": [
          "specName001"
        ]
      },
      "RedHat Enterprise Linux 7.3": {
        "vmTemplate": "TemplateB",
        "flavors": [
          "specName002"
        ]
      }
    },
    "diskProfile": {
      "system": {
        "gold-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["gold", "silver"],
          "flavors": null
        },
        "bronze-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["bronze", "iron"],
          "flavors": null
        },
        "iron-disk": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": ["iron"],
          "flavors": null
        }
    },
    ...（略）...
  }
```

- 転記先：ssc_parameter.conf（ssc.flavor.<スペック名>.systemdisk.profile キー設定後）
  - ssc_parameter.conf ファイルの ssc.flavor.specName002 をコピーし、それぞれの ssc.flavor.specName002.systemdisk.profile キーの値に"bronze-disk"と"iron-disk"を設定します。
  - フレーバー名は ssc_parameter.conf ファイル内で一意になる名称に変更します。スペック名とシステムディスクの共通ディスクタグを連結して、各々"specName002-bronze-disk"、"specName001-iron-disk"とします。
  - フレーバー名の変更が終わったら、そのフレーバーを使用しているイメージのフレーバー設定もあわせて変更します。

```
{
  "ssc": {
```

```
    "flavor": {
      "specName001": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 1024
        },
        "systemdisk": {
          "size": 102400,
          "profile": null
        }
      },
      "specName002-bronze-disk": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 2048
        },
        "systemdisk": {
          "size": 102400,
          "profile": "bronze-disk"
          }
        },
      "specName002-iron-disk": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 2048
        },
        "systemdisk": {
          "size": 102400,
          "profile": "iron-disk"
        }
      }
    },
    "image": {
      "Windows Server 2012R2 Standard Edition": {
        "vmTemplate": "TemplateA",
        "flavors": [
          "specName001"
        ]
      },
      "RedHat Enterprise Linux 7.3": {
        "vmTemplate": "TemplateB",
        "flavors": [
          "specName002-bronze-disk", "specName002-iron-disk"
        ]
      }
    },
    "diskProfile": {
      "system": {
        "gold-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["gold", "silver"],
          "flavors": null
```

```
        },
        "bronze-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["bronze", "iron"],
          "flavors": null
        },
        "iron-disk": {
          "type": "thin",
          "datastoreTags": ["iron"],
          "flavors": null
        }
      },
      ...（略）...
    }
  }
```

共通ディスクタグが設定されていない場合の設定

共通ディスクタグを設定していない場合の「個別ディスクタグが設定されていないカタログ」と対になるイメージで使用可能なフレーバーに対するシステムディスクのディスクプロファイルの設定の手順を示します。

1. diskTags.json ファイルに設定されている以下の設定内容を控えます。
   a. VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）の集合
   b. ディスクタグ（tags[].name[] キーの値）の集合
2. webframwork.properties ファイルに設定されている以下の設定内容を控えます。
   a. 1-a.で控えた VM テンプレートの集合に含まれていない VM テンプレート
   b. 2-a. で控えた VM テンプレートで使用可能なスペック（product.cloudportal.template.spec.<テンプレート名>の値）
3. ssc_parameter.conf ファイルを開き、2-b.で控えたスペック名と同名のフレーバーのシステムディスクプロファイル（ssc.flavor.<フレーバー名>.systemdisk.profile キーの値）に、1-b.で控えたディスクタグ（tags[].name[] キーの値）を設定します。

ディスクタグ（"gold-disk", "bronze-disk"）が設定されている場合の設定例について、1 つ目（"gold-disk"）の設定を以下に示します。

- 転記元：diskTags.json

  VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）の集合は、["TemplateA"]です。

  ディスクタグ（tags[].name[] キーの値）の集合は["gold-disk", "bronze-disk"]です。

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "gold-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "gold",
        "silver"
```

```
      ]
    },
    {
      "name": "bronze-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "bronze",
        "iron"
      ]
    }
  ],
  "default_tags": [
  ],
  "catalogs": [
    {
      "name": "TemplateA",
      "tags": [
        "gold-disk"
      ]
    }
  ]
}
```

- 転記元：webframework.properties

  VM テンプレート（catalogs[].name キーの値）の集合に含まれていない VM テンプレートは、"TemplateB"です。

  VM テンプレート（"TemplateB"）で使用可能なスペックは、"specName002"です。

```
# - product.cloudportal.template.display.<テンプレート名>=<表示名>
product.cloudportal.template.display.TemplateA = Windows Server/2012R2/
Standard Edition
product.cloudportal.template.display.TemplateB = RedHat Enterprise Linu
x 7.3

# - product.cloudportal.template.spec.<テンプレート名>=<スペック名1>,<スペッ
ク名2>,<スペック名3>,<スペック名4>,...
product.cloudportal.template.spec.TemplateA=specName001
product.cloudportal.template.spec.TemplateB=specName002

# - product.cloudportal.template.spec.detail.<スペック名>=<CPU数>,<メモリ
サイズ(GB)>,<システムディスクサイズ(GB)>
product.cloudportal.template.spec.detail.specName001=1,1,100
product.cloudportal.template.spec.detail.specName002=1,2,100
```

- 転記先：ssc_parameter.conf

  スペック（"specName002"）と同名のフレーバーのシステムディスクプロファイル（ssc.flavor.<フレーバー名>.systemdisk.profile キーの値）にディスクタグ（tags[].name[] キーの値）の 1 つ目を転記します。

```
{
  "ssc": {
    "flavor": {
      "specName001": {
        "cpu": {
```

```
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 1024
        },
        "systemdisk": {
           "size": 102400,
           "profile": null
        }
      },
      "specName002": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 2048
        },
        "systemdisk": {
           "size": 102400,
           "profile": "bronze-disk"
        }
      }
    },
    "image": {
      "Windows Server 2012R2 Standard Edition": {
        "vmTemplate": "TemplateA",
        "flavors": [
          "specName001"
        ]
      },
      "RedHat Enterprise Linux 7.3": {
        "vmTemplate": "TemplateB",
        "flavors": [
          "specName002"
        ]
      }
    },
    "diskProfile": {
      "system": {
        "gold-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["gold", "silver"],
          "flavors": null
        },
        "bronze-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["bronze", "iron"],
          "flavors": null
        },
        ...（略）...
      },
      ...（略）...
    }
  }
}
```

ディスクタグ（"gold-disk", "bronze-disk"）が設定されている場合の設定例について、2 つ目（"bronze-disk"）以降の設定を以下に示します。

- 転記元：diskTags.json

  ディスクタグ（tags[].name[] キーの値）の集合は["gold-disk", "bronze-disk"]です。

```
{
  "tags": [
    {
      "name": "gold-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "gold",
        "silver"
      ]
    },
    {
      "name": "bronze-disk",
      "diskType": "thick",
      "datastoreTags": [
        "bronze",
        "iron"
      ]
    }
  ],
  "default_tags": [
  ],
  "catalogs": [
    {
      "name": "TemplateA",
      "tags": [
        "gold-disk"
      ]
    }
  ]
}
```

- 転記先：ssc_parameter.conf（ssc.flavor.<スペック名>.systemdisk.profile キー設定前）

```
{
  "ssc": {
    "flavor": {
      "specName001": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 1024
        },
        "systemdisk": {
          "size": 102400,
          "profile": null
        }
      },
      "specName002": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
```

```
          "size": 2048
        },
        "systemdisk": {
           "size": 102400,
           "profile": "gold-disk"
        }
      }
    },
    "image": {
      "Windows Server 2012R2 Standard Edition": {
        "vmTemplate": "TemplateA",
        "flavors": [
          "specName001"
        ]
      },
      "RedHat Enterprise Linux 7.3": {
        "vmTemplate": "TemplateB",
        "flavors": [
          "specName002"
        ]
      }
    },
    "diskProfile": {
      "system": {
        "gold-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["gold", "silver"],
          "flavors": null
        },
        "bronze-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["bronze", "iron"],
          "flavors": null
        }
    },
    ...（略）...
  }
```

- 転記先：ssc_parameter.conf（ssc.flavor.<スペック名>.systemdisk.profile キー設定後）
  - ssc_parameter.conf ファイルの ssc.flavor.specName002 をコピーし、それぞれの ssc.flavor.specName002.systemdisk.profile キーの値に"gold-disk"と"bronze-disk"を設定します。
  - フレーバー名は ssc_parameter.conf ファイル内で一意になる名称に変更します。スペック名とシステムディスクのディスクタグを連結して、各々"specName002-gold-disk"、"specName002-bronze-disk"とします。
  - フレーバー名の変更が終わったら、そのフレーバーを使用しているイメージのフレーバー設定もあわせて変更します。

```
{
  "ssc": {
    "flavor": {
      "specName001": {
        "cpu": {
```

```
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 1024
        },
        "systemdisk": {
          "size": 102400,
          "profile": null
        }
      },
      "specName002-gold-disk": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 2048
        },
        "systemdisk": {
          "size": 102400,
          "profile": "gold-disk"
          }
        },
      "specName002-bronze-disk": {
        "cpu": {
          "count": 1
        },
        "ram": {
          "size": 2048
        },
        "systemdisk": {
          "size": 102400,
          "profile": "bronze-disk"
        }
      }
    },
    "image": {
      "Windows Server 2012R2 Standard Edition": {
        "vmTemplate": "TemplateA",
        "flavors": [
          "specName001"
        ]
      },
      "RedHat Enterprise Linux 7.3": {
        "vmTemplate": "TemplateB",
        "flavors": [
          "specName002-gold-disk", "specName002-bronze-disk"
        ]
      }
    },
    "diskProfile": {
      "system": {
        "gold-disk": {
          "type": "thick",
          "datastoreTags": ["gold", "silver"],
          "flavors": null
        },
        "bronze-disk": {
          "type": "thick",
```

```
          "datastoreTags": ["bronze", "iron"],
          "flavors": null
        }
      },
      ... (略) ...
    }
  }
```

第 21 章
スタック管理サーバの運用設定

本章では、「第 20 章　vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションのサーバサービスカタログ設定（131 ページ）」にて設定したサービスカタログおよびその関連設定をスタック管理サーバに反映させ、vDCA SE ポータルと同じ動作を行うように設定する手順について説明します。

21.1　設定ファイルの配置

以下のファイルをスタック管理サーバの<heat ユーザのホームディレクトリ>/.heat-ssc/配下にコピーします。

- C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_plugin.conf
- C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\ssc_parameter.conf

詳細については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『3.1 SSC リソースプラグインの設定ファイルの配置』を参照してください。

21.2　SigmaSystemCenter との接続設定

スタック管理サーバと SigmaSystemCenter との接続設定を行います。 なお、本節の設定はスタック管理サーバで行います。

詳細については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『3.2.1 SigmaSystemCenter との接続設定』を参照してください。

21.3　管理ネットワークの設定

テンプレートプロビジョニングで作成されるサーバが自動的に接続される管理ネットワークの設定をします。 なお、本節の設定はスタック管理サーバで行います。

詳細については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『3.2.2 管理ネットワークの設定』を参照してください。

21.4　ネットワークの設定

ユーザが vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションを使用してネットワークの作成を行えるようにする設定をします。 ユーザにネットワーク作成を行わせない場合には設定は不要です。 なお、本節の設定はスタック管理サーバで行います。

詳細については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『3.2.3 ネットワークの設定方法』を参照してください。

第 22 章
ビルトイントポロジテンプレートの設定

テナント利用者はスタックの利用申請を行う際、論理ネットワークを含む複数の仮想マシンから成るシステム構成を「トポロジーテンプレート」として定義し、それを用いて申請を行います。

vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションでは、テナント利用者が申請毎に「トポロジーテンプレート」を定義する手間を省くため、システム管理者が典型的なシステム構成を記述したトポロジーテンプレートをあらかじめ登録しておき、テナント利用者はそれを利用する仕組みをサポートしています。

システム管理者がユーザに公開するテンプレートをビルトイントポロジテンプレートと呼びます。 本章では、ビルトイントポロジテンプレートの定義方法について説明します。 テンプレートを公開しない場合は、以下の設定は不要です。

22.1　ビルトイントポロジテンプレートの設定方法

システム管理者がユーザに公開するテンプレートを定義します。定義したテンプレートは、スタック作成時に選択することができます。

文字コードは UTF-8(BOM 無し)、フォーマットは JSON 形式で設定します。

表 22-1　ビルトイントポロジテンプレート設定ファイルの設定項目

設定項目	設定内容
templates	
templates[].name	ビルトイントポロジテンプレートの表示名 32 文字まで ※32 文字を超えた値を設定した場合、32 文字までしか表示されません。 [必須]
templates[].description	ビルトイントポロジテンプレートの説明 256 文字まで ※256 文字を超えた値を設定した場合、256 文字までしか表示されません。 ※「/」は改行コードに変換されます。 [必須]
templates[].file	ビルトイントポロジテンプレートのファイル名 C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\Tomcat\conf\NEC\TTO\TopologyTemplate 配下に格納されているファイルを指定 [必須]

設定例

```
{
    "templates": [
        {
```

```
            "name": "MySQL構築用トポロジーテンプレート",
            "description": "MySQL構築用のトポロジーテンプレートです。",
            "file": "mysql.yaml"
        },
        {
            "name": "WordPress構築用トポロジーテンプレート",
            "description": "MySQL構築用のトポロジーテンプレートです。/AP・DB構成のため2台の仮想マシンが生成されます。",
            "file": "word_press.yaml"
        }
    ]
}
```

22.2　ビルトイントポロジテンプレートの配置

「22.1　ビルトイントポロジテンプレートの設定方法（165 ページ）」の templates[].file に設定したファイルを C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\TTO\TopologyTemplate 配下に置きます。

文字コードは UTF-8(BOM 無し)、フォーマットは YAML 形式で設定します。

ヒント

ビルトイントポロジテンプレートファイルの記述方法については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『付録 B トポロジーテンプレートの書式』を参照してください。

第 4 編
基本操作編

本編では、基本的な操作について説明します。

第 23 章
ユーザ権限

本章では、ユーザ権限について説明します。

23.1　ユーザ種別によるロール

本システムはユーザ種別によって機能および画面表示が制限されます。

以下の表を参照し、ユーザ作成・管理を行ってください。

表 23-1　ユーザ権限

機能	操作	システム管理者	テナント管理者	テナントユーザ
ダッシュボード	ダッシュボード(お知らせ)表示	○	○	○
リクエスト管理	リクエスト一覧・詳細表示	※1	※1	※1
リクエスト管理	リクエスト作成	× テナント代行することにより○	○	○
リクエスト管理	リクエスト実行・キャンセル・再申請	× テナント代行することにより○	○	○
リクエスト管理	サーバ作成・変更・削除・引用	× テナント代行することにより○	○	○
リクエスト管理	ネットワーク作成・変更・削除	× テナント代行することにより○	○	○
リクエスト管理	DB システム作成・変更・削除	× テナント代行することにより○	○	○
リクエスト管理	スタック作成・削除	× テナント代行することにより○	○	○
リクエスト管理	リクエスト代理承認・代理却下	× テナント代行することにより○	○	×
リクエスト管理	論理ネットワーク管理・一覧・詳細	○	○	○
リクエスト管理	論理ネットワーク管理の同期実行	×	○	○

機能	操作	システム管理者	テナント管理者	テナントユーザ
		テナント代行することにより○		
リクエスト管理	リクエストエラー状態解除	○	×	×
テナント管理	テナント一覧・詳細表示	○	○	×
テナント管理	テナント登録	○	×	×
テナント管理	テナント変更	○	○	×
テナント管理	テナント削除	○	×	×
ユーザ管理	ユーザ一覧・詳細表示	○	○	○
ユーザ管理	ユーザ登録・変更・削除	○	○	×
リソース状況	リソース状況表示	○	○	○
業務グループ管理	業務グループ一覧・詳細	○	○	○
業務グループ管理	業務グループ作成・編集・削除	× テナント代行することにより○	○	○
サーバ管理	サーバ一覧・詳細表示	○	○	○
サーバ管理	サーバ作成・変更・削除・電源操作・同期・その他の操作	× テナント代行することにより○	○	○
運用作業履歴	運用作業履歴一覧・詳細表示	○	○	○
トポロジー	トポロジー表示	×	○	○
トポロジー	ネットワーク表示名変更	×	○	×
スタック管理	スタック一覧・詳細表示	○	○	○
メンテナンス管理	メンテナンス一覧・詳細表示・登録・変更・削除	○	×	×
お知らせ管理	お知らせ一覧・詳細表示・登録・変更・削除	○	○	×
設定	運用設定一覧表示・設定変更	○	×	×
ログインユーザ操作	ログインユーザ詳細表示・ユーザ情報変更 パスワード変更	○	○	○
ログインユーザ操作	ログインユーザテナント代行	○	×	×
承認フロー	承認フロー一覧表示・設定変更	○	○	×
メール通知	メール通知一覧表示・設定変更	×	○	×

※1 リクエスト一覧・詳細表示のユーザ権限は以下です。

表 23-2　リクエスト一覧・詳細表示のユーザ権限

ユーザ種別	リクエスト承認権なし	リクエスト承認権あり
テナントユーザ	自分自身が申請したリクエスト	所属するテナントの全リクエスト

ユーザ種別	リクエスト承認権なし	リクエスト承認権あり
テナント管理者	所属するテナントの全リクエスト	所属するテナントの全リクエスト
システム管理者	全リクエスト	全リクエスト
システム管理者(テナント代行)	代行先テナントの全リクエスト	代行先テナントの全リクエスト

なお、以下はユーザ種別に限らず、ユーザ作成時にリクエスト承認を可能とした場合に操作できます。

- ダッシュボードへの未承認リクエストの表示
- リクエストの承認・却下

第 24 章
ログイン

本章では、GUI へのログイン方法について説明します。

24.1　GUI に接続する

ブラウザにて以下の URL にアクセスします。

http://<サーバ名またはサーバ IP アドレス>:<ポート番号>(既定値 12080)/portal

https://<サーバ名またはサーバ IP アドレス>:<ポート番号>(既定値 12443)/portal

24.2　ログインする

ログイン方法を以下に示します。

1. GUI を起動し、ビルトインユーザ名、パスワードを入力後、「ログイン」ボタンを押下します。

   ビルトインユーザ名：admin パスワード：admin

   注

   初回ログイン後、新しいシステム管理者ユーザを登録し、ビルトインユーザを無効にしてください。

   ユーザ登録方法については、「29.2.2　ユーザを登録する（管理者）（207 ページ）」を、ビルトインユーザを無効にする方法については「29.2.4　ユーザの情報を変更する（211 ページ）」を参照してください。

図 24-1　ログイン画面

2. ダッシュボード画面が表示されます。

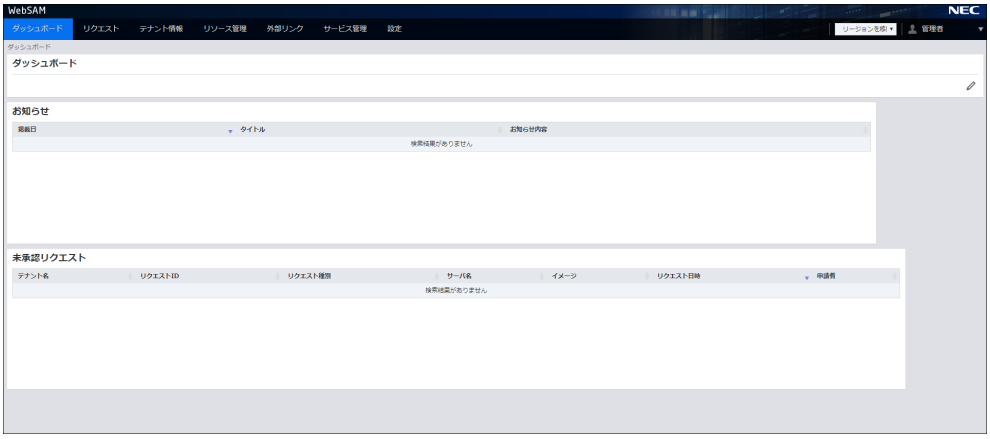

図 24-2　ダッシュボード画面

注

- ログインパスワード入力に 10 回失敗した場合、ロック状態になり、ログインできなくなります。

  ※入力失敗 9 回までは、10 分経過後に失敗回数がリセットされます。

  解除する場合は、システム管理者および所属するテナント管理者によって対象ユーザを有効にすることで解除できます。

- 管理者ユーザが全てロック状態または無効状態になり、ログインできなくなってしまった場合

  SQLServer を使用している場合、以下のコマンドを実行しビルトインユーザを有効にします。

```
>sqlcmd -E -S localhost\FWCMDB -i "C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\To
mcat\portal\sql\enable_admin.sql"
```

  ※SQL Server のインスタンス名（FWCMDB）、インストールパス（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA）が異なる場合は読み替えてください。

  PostgreSQL を使用している場合、以下のコマンドを実行しビルトインユーザを有効にします。

```
set PGPASSWORD=password
psql -h localhost -p 5432 -U postgres -d cloudportal -f "C:\Program Files (x
86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\portal\sql\enable_admin_Postgres.sql"
```

  PostgresSQL のホスト名（localhost）、ポート番号（5432）、管理者ユーザ名（postgres）、管理者パスワード（password）、インストールパス（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA）が異なる場合は読み替えてください。

- vDCA SE ポータルは設定されている認証メカニズムとログイン主体となるユーザの認証種別の組み合わせにより、認証先を切り替えます。 このため、以下の※1 の組み合わせにおいてはログインすることができません。 「29.2.4　ユーザの情報を変更する（211 ページ）」を参照し、対象ユーザの認証種別を Local に変更してください。

表 24-1　認証メカニズムとユーザの認証種別の組み合わせによる認証先

認証メカニズム	ログインの主体となるユーザの認証種別	認証先
vDCA SE ポータルの独自認証機能(ローカル認証)	Local	vDCA SE ポータル
	System LDAP※1	vDCA SE ポータル
シングルサインオン認証機能(ローカル)	Local	vDCA SE ポータル

認証メカニズム	ログインの主体となるユーザの認証種別	認証先
	System LDAP※1	vDCA SE ポータル
シングルサインオン認証機能(SSO)	Local	認証サーバ
	System LDAP※1	認証サーバ
Active Directory による LDAP 認証	Local	vDCA SE ポータル
	System LDAP	Active Directory

第 25 章
画面構成

本章では、画面の構成について説明します。

図 25-1　画面構成

①メニュー : 各機能メニューツリーです。クリックすることにより各機能の画面に遷移します。

②リージョン選択：プルダウンで選択することによりリージョンを移動します。

③テナント名：ログインしているユーザのテナント名を表示します。

④ログインユーザ名：ログインしているユーザ名を表示します。

第 26 章
ログインユーザの操作

ログインユーザ名をクリックすることにより、ログインユーザ操作ダイアログが表示されます。

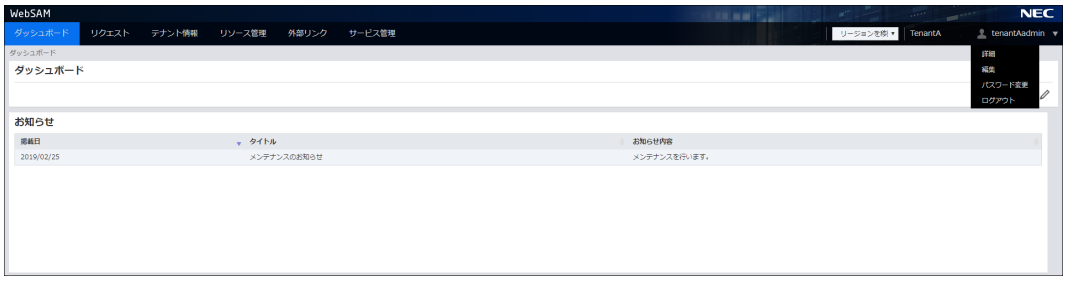

図 26-1　ログインユーザ操作ダイアログ

注

- 認証種別が System LDAP となっているユーザは、パスワード変更メニューが表示されません。
- シングルサインオンにてログインしているユーザは、パスワード変更メニューが表示されません。

26.1　ログインユーザの詳細情報を確認する

1. ログインユーザ操作ダイアログの「詳細」をクリックします。

図 26-2　ログインユーザ操作ダイアログ

2. ログインユーザ詳細画面が表示されます。

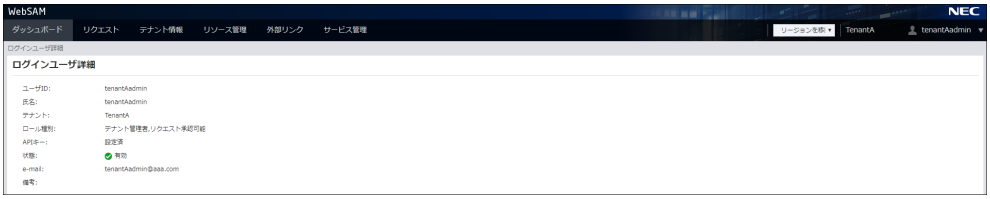

図 26-3　ログインユーザ情報詳細画面

表 26-1　項目一覧（ログインユーザ詳細）

項目名	説明
ユーザ ID	ログインユーザの ID
氏名	氏名(ユーザ名)
テナント	ログインユーザが所属するテナント名

項目名	説明
ロール	ログインユーザに割り当てられているロール名、リクエスト承認可否
API キー	「設定なし」 または 「設定済」と表示
状態	・有効 ・無効 ・ロック中 のいずれか
e-mail	ユーザのメールアドレス
認証種別	• ローカル認証：Local • LDAP 認証：System LDAP（Active Directory 連携時のみ表示）
備考	備考

26.2　ログインユーザ情報を変更する

ログインユーザ情報の変更方法を以下に示します。

1. ダッシュボード画面にてユーザ名をクリックし、「編集」をクリックします。

図 26-4　ログインユーザ操作ダイアログ

2. ログインユーザ変更（入力）画面が表示されます。下記の表を参照し、各項目を編集後「次へ」ボタンを押下します。

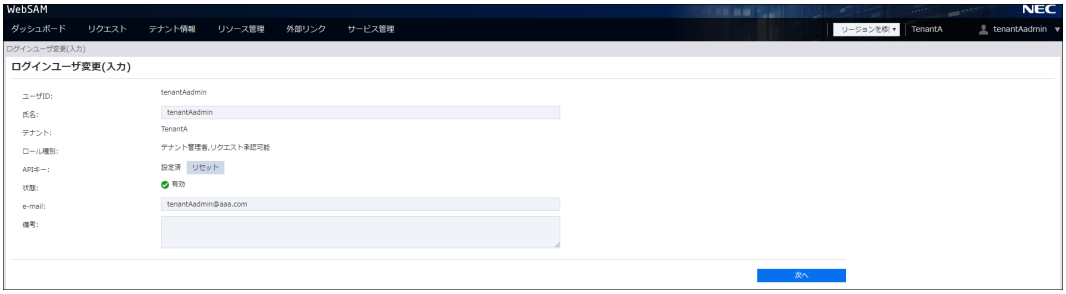

図 26-5　ログインユーザ変更画面

表 26-2　項目一覧（ログインユーザ変更画面）

項目名	入力規則	説明
氏名	1024 文字以内	氏名(ユーザ名)を入力する
テナント	-	ログインユーザが所属するテナント名

項目名	入力規則	説明
ロール	-	ログインユーザに割り当てられているロール名、リクエスト承認可否
API キー	-	API キーが設定されないユーザに対し「設定なし」を表示 自動的に発行した API キーを表示 「リセット」をクリックすると新しいキーが生成される ※API キーの設定がないユーザでは「リセット」は非表示
状態	-	・有効 ・無効 ・ロック中 のいずれか
e-mail	e-mail 形式	メールアドレスを入力する
認証種別	• vDCA SE ポータルの独自認証機能(ローカル認証)を使用する場合：Local • Active Directory による LDAP 認証を使用する場合：System LDAP（LDAP 認証時のみ表示）※1	ユーザの認証種別※1 を選択する
備考	255 文字以内	備考を入力する

3. ユーザ変更（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することにより変更が反映されます。

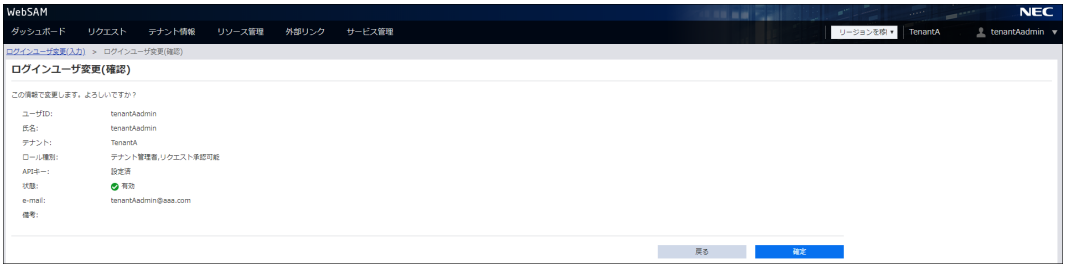

図 26-6　ユーザ変更（確認）画面

注

※1

ログイン中に「認証種別」を変更した場合、再ログイン時に認証方法が変更されます。

「認証種別」を「System LDAP」に変更した場合、認証先となる Active Directory にはそのユーザが既に存在している必要があります。

26.3　ログインパスワードを変更する

ログインパスワードの変更方法を以下に示します。

1. ダッシュボード画面にてユーザ名をクリックし、「パスワード変更」をクリックします。

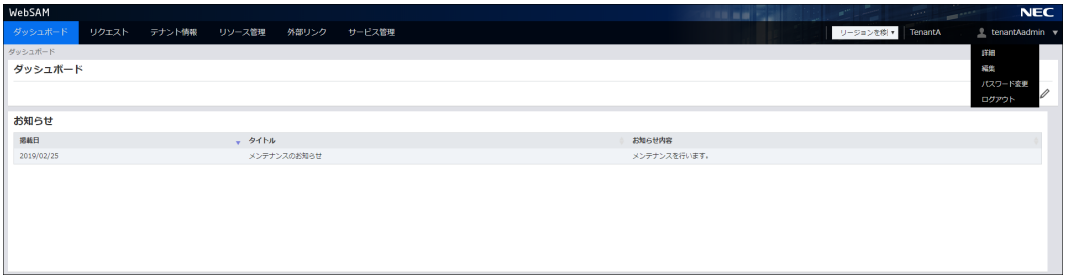

図 26-7　ログインユーザ操作ダイアログ

2. ログインパスワード変更（入力）画面が表示されます。パスワードは 6 文字以上 16 文字以下で編集し、変更後「次へ」ボタンを押下します。

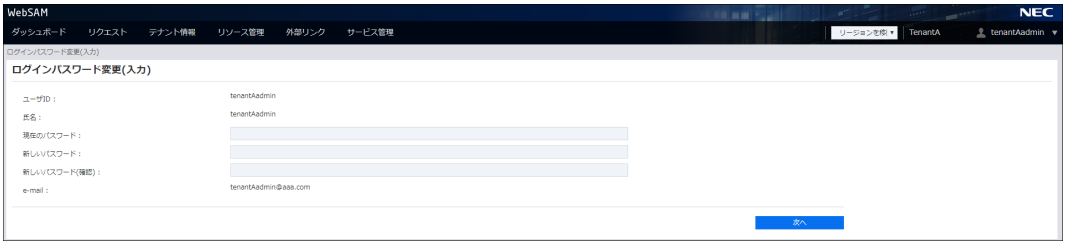

図 26-8　ログインパスワード変更（入力）画面

3. ログインパスワード変更（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することにより変更が反映されます。

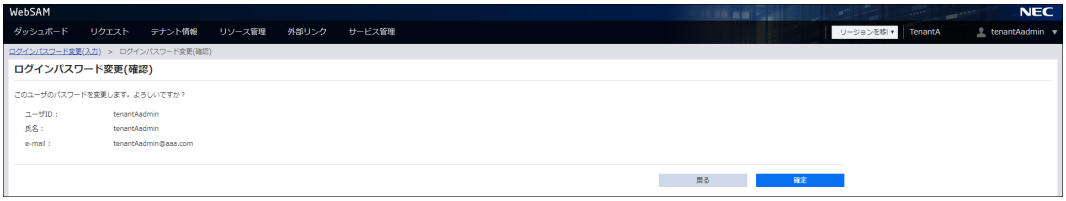

図 26-9　ログインパスワード変更（確認）画面

26.4　テナントの代行（システム管理者のみ）

テナント代行方法を以下に示します。

本機能はシステム管理者がテナント利用者の代わりにリクエストを作成・再申請する場合などに利用します。

1. ユーザ名をクリックし、「テナント代行」をクリックします。

図 26-10　ログインユーザ操作ダイアログ

2. テナント代行（入力）画面が表示されます。代行するテナントを選択後「次へ」ボタンを押下します。

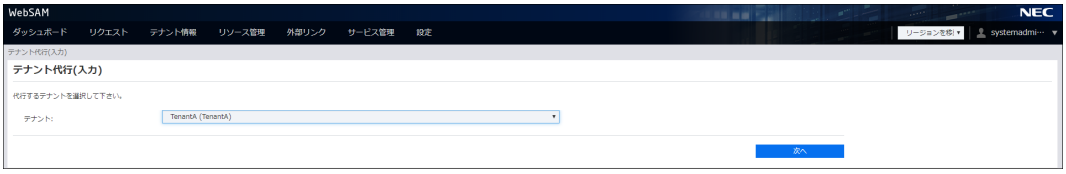

図 26-11　テナント代行（入力）画面

3. テナント代行（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することにより対象テナントの代行操作が可能になります。

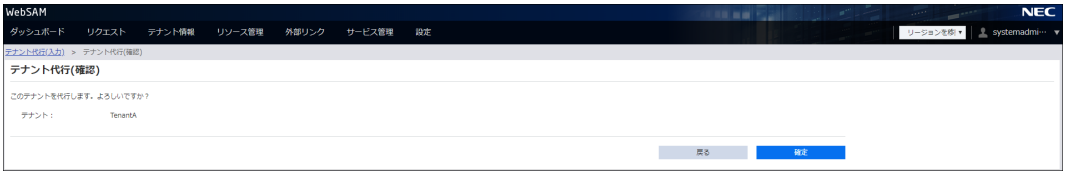

図 26-12　テナント代行（変更）画面

26.5　ログアウトする

ログインユーザ操作ダイアログの「ログアウト」をクリックすることでログアウトします。

図 26-13　ログインユーザ操作ダイアログ

第 5 編
管理者操作編

本編では、システム管理者が操作するメニューについて説明します。

なお、本編の操作説明は、以下の権限を持つシステム管理者の説明をしています。

テナント代行　：　しない

リクエスト承認：可能

第 27 章
ダッシュボード

「ダッシュボード」画面では、ユーザの好みにあわせ、ウィジェットを配置することができます。

本章では、ウィジェットの参照、配置、削除等、ウィジェットに対する操作について説明します。

配置できるウィジェットの種類は、サーバ側の設定とユーザの権限によって異なります。

27.1　ウィジェットの表示

メニューから、[ダッシュボード]をクリックすることにより、「ダッシュボード」画面が表示され、ダッシュボード上にウィジェットを表示します。

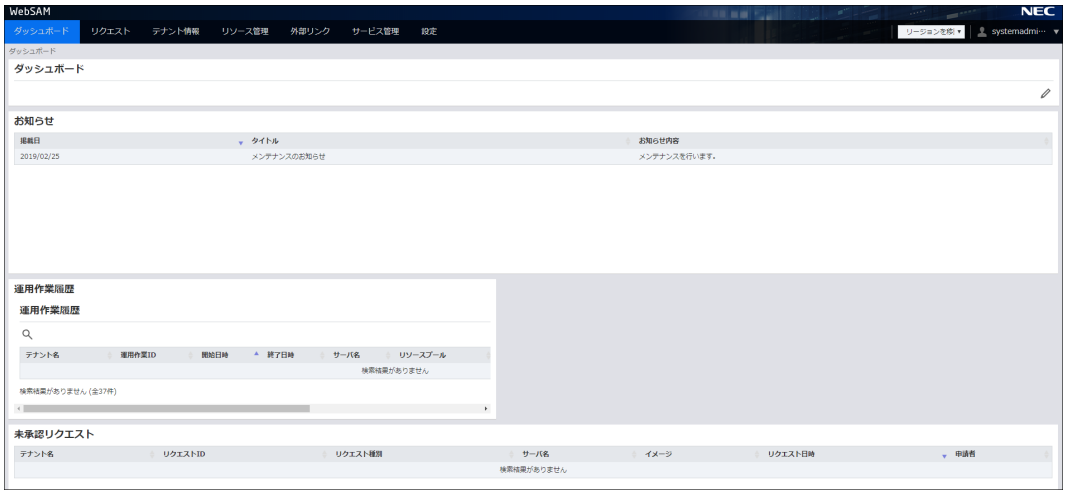

図 27-1　「ダッシュボード」画面 ウィジェット表示

各ウィジェットは、マウスで操作することができます。

各ウィジェットを操作した後、ウィジェットの初期表示に戻りたい場合は、ページの再読み込みを行ってください。

27.2　ウィジェットの追加

ダッシュボードにウィジェットを追加する方法を説明します。

1. 「ダッシュボード」画面にて、[カスタマイズ]アイコン をクリックします。

   「ダッシュボード」画面がカスタマイズモードに切り替わり、カスタマイズメニューが表示されます。

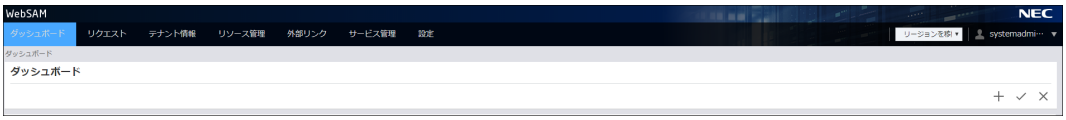

図 27-2　「ダッシュボード」画面 カスタマイズメニュー

2. 「ダッシュボード」画面にて、[ウィジェット追加]アイコン＋をクリックします。

   「ウィジェット追加」ダイアログが表示されます。

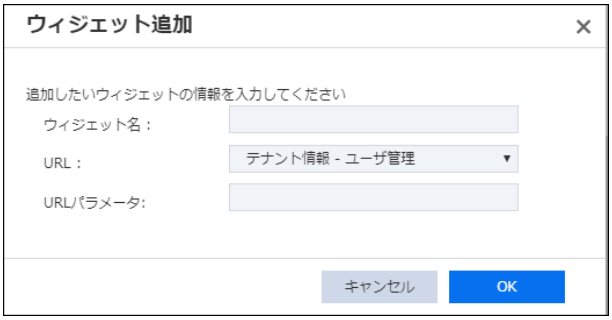

図 27-3　「ウィジェット追加」ダイアログ

3. 「ウィジェット追加」ダイアログに、追加したいウィジェットの情報を入力し[OK]をクリックします。

表 27-1　項目一覧 (「ウィジェット追加」ダイアログ)

項目名	入力規則	初期値	説明
ウィジェット名	0～64 文字	-	ウィジェットのタイトルとして表示する名前を指定します。 どのようなウィジェットであるか判別が容易である名称をご指定下さい。 ウィジェット名を省略した場合"(名前なし)"と表示されます。 なお、同じ名前のウィジェットは複数登録可能です。
URL	-	-	ウィジェットとして表示する項目を選択します。 なお、同じ URL のウィジェットは複数登録可能です。
URL パラメータ	0～2048 文字	-	ウィジェットの URL にオプションパラメータを指定する場合に利用します。 オプションパラメータは *key=value* の形式で指定して下さい。複数のパラメータがある場合、"&"で区切ってください。 文字列はエンコード済である必要があります。

新しいウィジェットがダッシュボードの既に表示されているウィジェットの最後に表示されます。

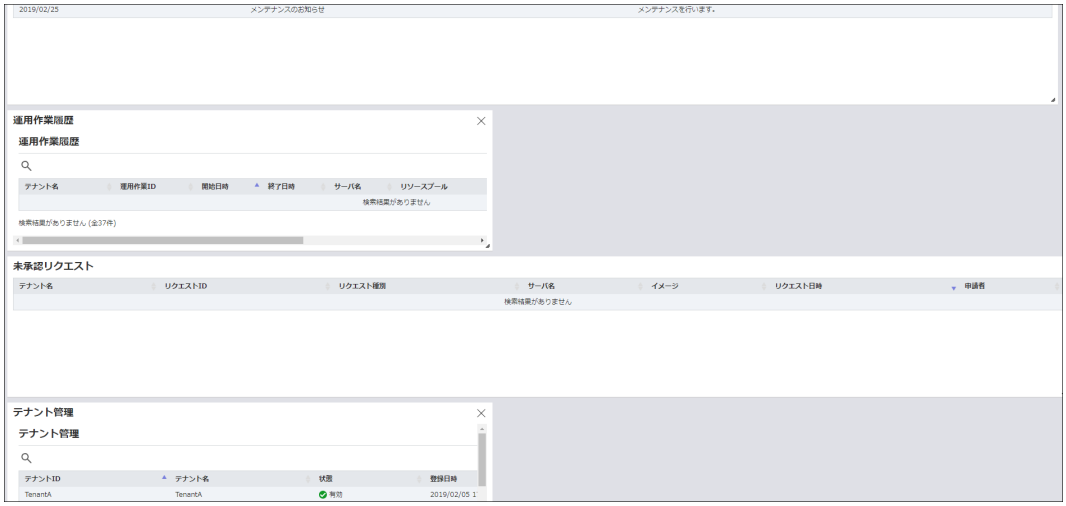

図 27-4　「ダッシュボード」画面 新規ウィジェット表示

ウィジェット追加操作後、保存操作を行ってください。手順については「27.5　ウィジェットの設定の保存（186 ページ）」を参照してください。

27.3　ウィジェットの削除

ダッシュボードからウィジェットを削除する方法を説明します。

1. 「ダッシュボード」画面にて、[カスタマイズ]アイコン をクリックします。

   「ダッシュボード」画面がカスタマイズモードに切り替わります。

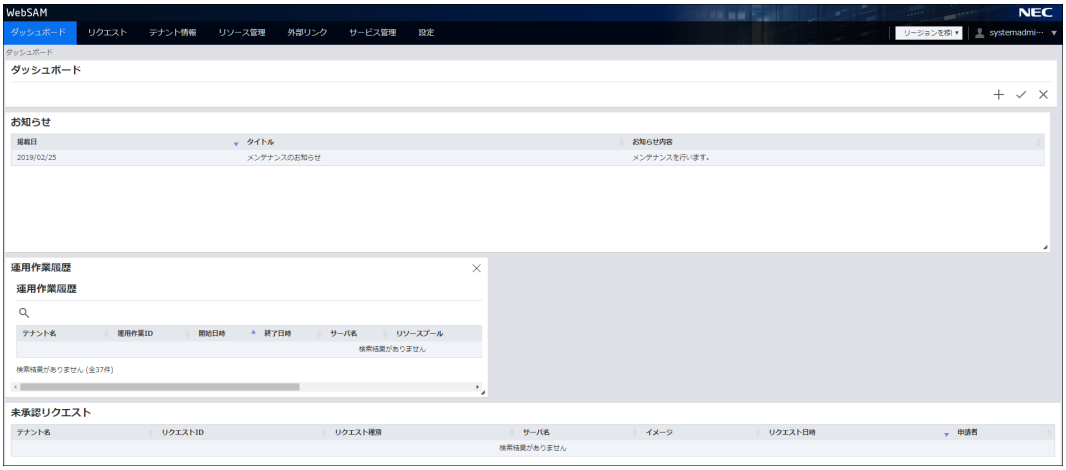

図 27-5　「ダッシュボード」画面 カスタマイズ

2. 削除したいウィジェットの右上に表示されている×をクリックします。

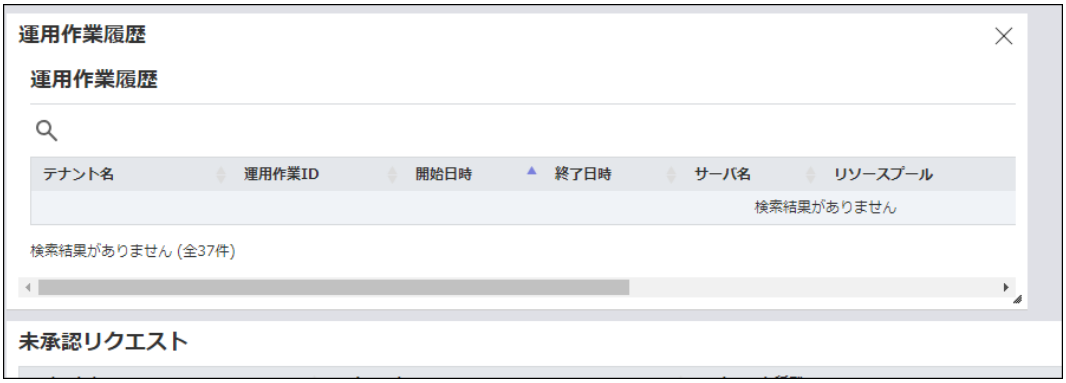

図 27-6　ダッシュボードからウィジェットを削除する

「ウィジェット削除確認」ダイアログが表示されます。

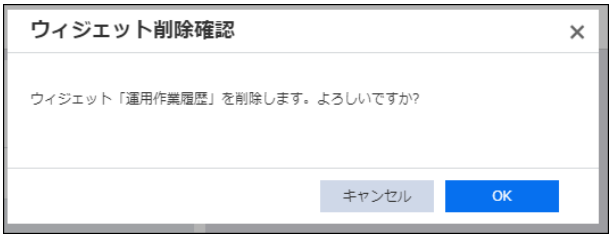

図 27-7　「ウィジェット削除確認」ダイアログ

3. 「ウィジェット削除確認」ダイアログの内容を確認し、削除してもよい場合は、[OK]をクリックします。

   削除を取りやめたい場合は、[キャンセル]をクリックします。

   「ウィジェット削除確認」ダイアログが閉じます。

[OK]をクリックした場合、選択したウィジェットが削除されます。

ウィジェット削除操作後、保存操作を行ってください。手順については「27.5　ウィジェットの設定の保存（186 ページ）」を参照してください。

27.4　ウィジェットの表示順・サイズの変更

ダッシュボードに表示されているウィジェットの表示順やサイズを変更する方法を説明します。

1. 「ダッシュボード」画面にて、[カスタマイズ]アイコンをクリックします。

   「ダッシュボード」画面がカスタマイズモードに切り替わります。

図 27-8　「ダッシュボード」画面 カスタマイズ

2. ウィジェットの表示順を変更したい場合、ウィジェットをマウスでドラッグ & ドロップします。

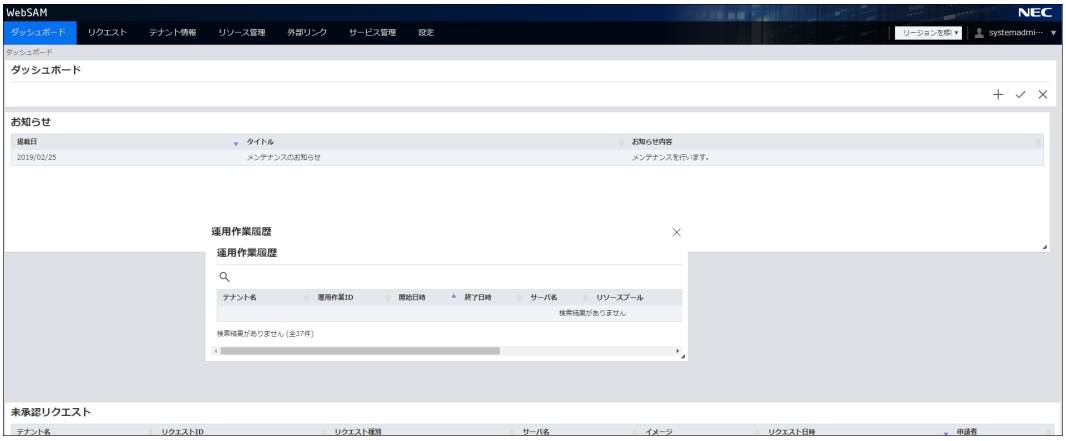

図 27-9　ウィジェットの表示順変更

ウィジェットの表示順序が変更されます。

図 27-10　ウィジェットの表示順変更

3. ウィジェットのサイズを変更したい場合、ウィジェットの端をマウスでドラッグします。
   - ウィジェットの縦幅を変更したい場合、ウィジェットの下端をマウスでドラッグします。
   - ウィジェットの横幅を変更したい場合、ウィジェットの右端をマウスでドラッグします。保存後のウィジェットの横幅は変更時点よりも少し長くなります。
   - ウィジェットの縦幅と横幅を同時に変更したい場合、ウィジェットの右下角をマウスでドラッグします。

ウィジェットのサイズが変更されます。

図 27-11　ウィジェットのサイズ変更

ウィジェットの表示順やサイズの変更後、保存操作を行ってください。手順については「27.5　ウィジェットの設定の保存（186 ページ）」を参照してください。

27.5　ウィジェットの設定の保存

ダッシュボードのウィジェットの設定を保存する方法を説明します。

ダッシュボードは既にカスタマイズモードになっており、ウィジェットに対する操作が行われている状態とします。ウィジェットに対する操作については、

- 「27.2　ウィジェットの追加（181 ページ）」
- 「27.3　ウィジェットの削除（183 ページ）」
- 「27.4　ウィジェットの表示順・サイズの変更（184 ページ）」

を参照してください。

1. 「ダッシュボード」画面にて、[保存]アイコン✓をクリックします。

   「ウィジェット設定保存確認」ダイアログが表示されます。

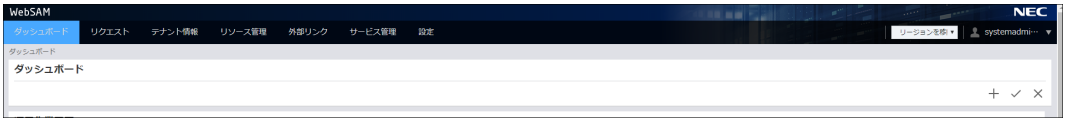

図 27-12　ウィジェットの設定保存

2. 「ウィジェット設定保存確認」ダイアログの内容を確認し、保存してもよい場合は、[OK]をクリックします。

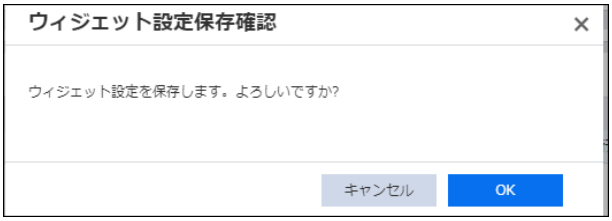

図 27-13　「ウィジェット設定保存確認」ダイアログ

   保存を取りやめたい場合は、[キャンセル]をクリックします。

   「ウィジェット設定保存確認」ダイアログが閉じます。

追加・削除したウィジェットの情報や、表示順・サイズが保存されます。

27.6　ウィジェットの設定の破棄

ダッシュボードのウィジェットの設定を破棄する手順を説明します。

ダッシュボードは既にカスタマイズモードになっており、ウィジェットに対する操作が行われている状態とします。ウィジェットに対する操作については、

- 「27.2　ウィジェットの追加（181 ページ）」
- 「27.3　ウィジェットの削除（183 ページ）」

- 「27.4　ウィジェットの表示順・サイズの変更（184 ページ）」

を参照してください。

1. 「ダッシュボード」画面にて、[キャンセル]アイコン×をクリックします。

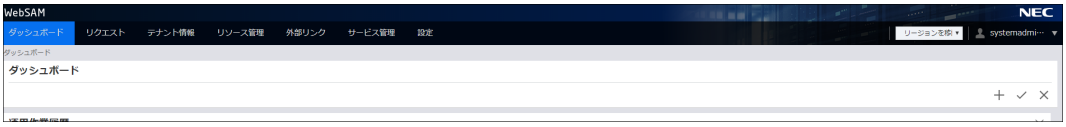

図 27-14　ウィジェットの設定破棄

「キャンセル確認」ダイアログが表示されます。

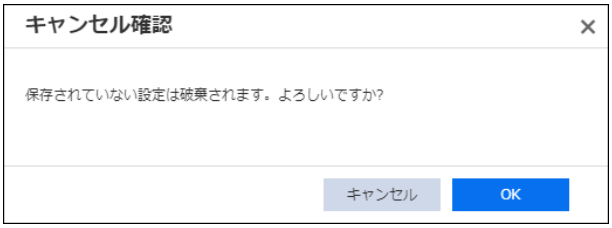

図 27-15　「キャンセル確認」ダイアログ

2. 「キャンセル確認」ダイアログの内容を確認し、設定を破棄してもよい場合は、[OK]をクリックします。

   キャンセルを取りやめたい場合は、[キャンセル]をクリックします。

   「キャンセル確認」ダイアログが閉じます。

保存されていないウィジェットの編集内容が破棄され、ウィジェットの表示が前回保存時の状態に戻ります。

27.7　ダッシュボード(デフォルト)

ダッシュボード画面(デフォルト)では、以下の情報が確認できます。

- 掲載中のお知らせ一覧
- 未承認リクエスト一覧

なお、未承認リクエスト一覧は、リクエスト承認が可能なユーザのみ表示されます。

図 27-16　ダッシュボード画面(デフォルト)

27.7.1　お知らせ

お知らせ管理機能で登録したお知らせが表示されます。

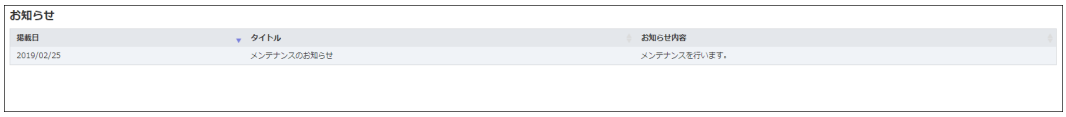

図 27-17　お知らせ一覧

表 27-2　項目一覧（お知らせ）

項目名	説明
掲載日	掲載日
タイトル	お知らせタイトル
お知らせ内容	お知らせ内容 添付ファイルがある場合には、文末にファイルへのリンクアイコンが表示される

27.7.2　未承認リクエスト（管理者）

ログインユーザが次の承認者である全テナントのリクエストが表示されます。

図 27-18　未承認リクエスト一覧

表 27-3　項目一覧（未承認リクエスト）

項目名	説明
テナント名	リクエスト対象のテナント名 ※システム管理者の場合のみ表示
リクエスト ID	クリックすることで対象のリクエスト画面に遷移する
リクエスト種別	• サーバ作成 • サーバ変更 • サーバ削除 • 論理ネットワーク作成 • 論理ネットワーク削除 • カスタムオペレーション実行 • スタック作成 • スタック削除 のいずれか
サーバ名	作成サーバ名、または変更・削除リクエスト対象サーバ名
イメージ	作成または変更・削除するサーバの OS 名
リクエスト日時	申請した日時
申請者	申請者名

第 28 章
リクエスト（管理者）

本章では、リクエストメニューについて説明します。

28.1　リクエスト管理（管理者）

リクエスト管理画面では、作成されたリクエスト情報を参照することができます。

リクエスト承認可能となっているユーザの場合、未承認リクエストの承認・却下ができます。

テナント管理者はリクエストの代理承認権限を保有しているため、テナント内の未承認リクエストの承認・却下ができます。

テナント代行をしているシステム管理者はリクエストの作成・変更・削除が行えます。

リクエスト方法については、「35.1　リクエスト管理（利用者）（268 ページ）」 を参照してください。

28.1.1　リクエスト一覧

メニューから、「リクエスト」－「リクエスト管理」をクリックすることにより、リクエスト一覧画面を表示します。

注

リクエスト一覧表示時は、ログインユーザが申請したリクエスト一覧が表示されます。

ログインユーザのリクエスト以外を表示する場合は、検索条件から「申請者」のログインユーザ名を削除して検索するなど、適宜検索してください。

図 28-1　リクエスト管理画面

表 28-1　項目一覧（リクエスト管理画面）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
リクエスト一覧	リクエストの一覧を表示する 一覧の［状態］がエラーとなっている場合、［エラー］リンクをクリックすることにより、エラーメッセージが表示される

リクエストを検索する場合は、リクエスト一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 28-2　項目一覧（リクエスト一覧検索画面）

項目名	説明
テナント名	テナント名
リクエスト ID	リクエスト ID
リクエスト種別	・サーバ作成 ・サーバ変更 ・サーバ削除 ・ネットワーク作成 ・ネットワーク削除 ・OracleDB システム作成 ・OracleDB システム変更 ・OracleDB システム削除 ・カスタムオペレーション実行 ・スタック作成 ・スタック削除 を指定して検索（複数選択可）
キーワード	・サーバ名 ・ネットワーク名 ・スタック名 を入力して指定（部分指定可）
状態	・承認待ち ・実行待機 ・却下 ・キャンセル済み ・実行中 ・完了 ・エラー を指定して検索（複数選択可）
リクエスト期間	リクエスト期間を指定
申請者	申請者を入力して指定（部分指定可）
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

28.1.2　リクエストの詳細情報を確認する

リクエスト一覧の確認したいリクエスト列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

以下は各リクエスト共通で表示される項目です。

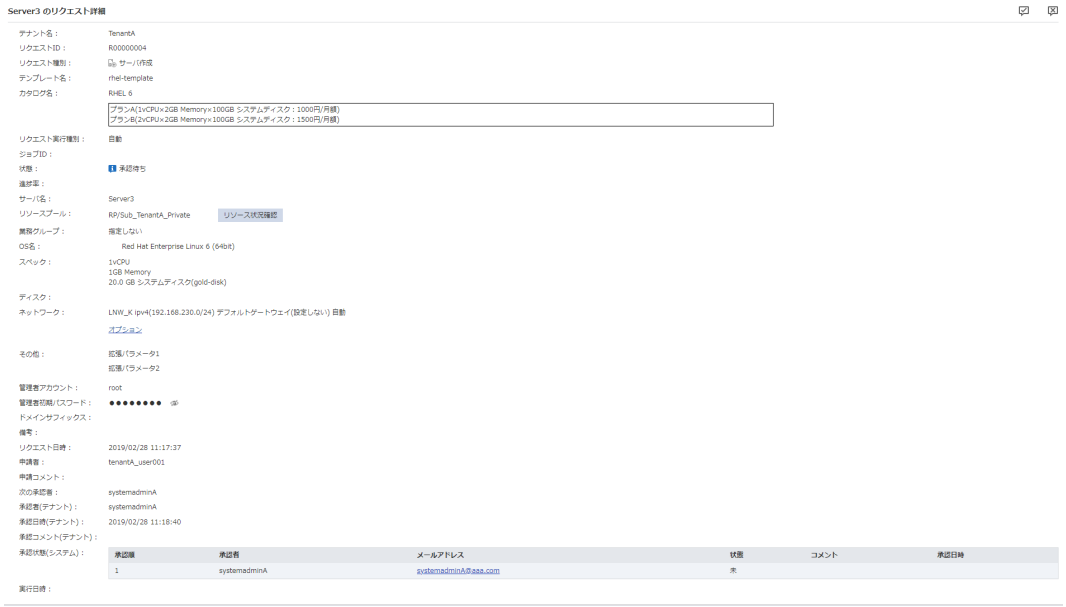

図 28-2　リクエスト詳細画面（共通）

表 28-3　項目一覧（リクエスト）

項目名	説明
テナント名	対象テナント名 ※システム管理者のみ表示
リクエスト ID	リクエスト ID
リクエスト種別	・サーバ作成 ・サーバ変更 ・サーバ削除 ・ネットワーク作成 ・ネットワーク削除 ・OracleDB システム作成 ・OracleDB システム変更 ・OracleDB システム削除 ・カスタムオペレーション実行 のいずれか
リクエスト実行種別	リクエスト申請時に設定した以下のリクエスト実行種別を表示する 自動・手動のいずれか
状態	・承認待ち ・実行待機 ・却下 ・キャンセル済み ・実行中 ・完了 ・エラー のいずれか
進捗率	「状態」が実行中・完了の時に進捗率を表示する 「状態」がエラーの場合、エラー詳細を表示する *5

項目名	説明
リソースプール	リソースプール名
リソース状況確認	リクエストで選択済みのリソースプールを初期選択した状態でダイアログを表示するボタン
備考	備考
リクエスト日時	リクエストした日時
申請者	リクエストの申請者名
申請コメント	申請時のコメント
次の承認者	次の承認者を表示する。次の承認者がいない場合は、表示しない。※リアルタイム更新する ※承認中状態のみに表示 *1
承認者(テナント)	承認フロー設定がパターン 2 の場合のみ、承認者名を表示する ※リアルタイム更新する *2
承認コメント(テナント)	承認フロー設定がパターン 2 の場合のみ、承認コメントを表示する ※リアルタイム更新する *2
承認日時	承認日時を表示する
実行日時	実行日時を表示する
承認状態(テナント)一覧 承認フロー設定がパターン 3 の場合のみ、承認者の状態を表示する(テナント用承認フロー) ※リアルタイム更新する *2	
承認順	承認フローの承認順を表示する
承認者	承認者名を表示する。未承認の状態の場合は現時点のユーザ名を表示する。 承認済みの場合は、承認した時点のユーザ名を表示する。 *3
メールアドレス	承認者のメールアドレスを表示する。（詳細は上記承認者を参照。）
状態	承認者の承認状態を表示する 以下の状態のいずれか 未（未承認/保留中） 済（承認済） 否（否認） －（スキップ）
コメント	承認者のコメントを表示する
承認日時	承認日時を表示する
承認状態(システム)一覧 承認フロー設定がパターン 3 の場合のみ、承認者の状態を表示する(システム用承認フロー) ※リアルタイム更新する *2	
承認順	承認フローの承認順を表示する
承認者	承認者名を表示する。未承認の状態の場合は現時点のユーザ名を表示する。 承認済みの場合は、承認した時点のユーザ名を表示する。 *3
メールアドレス	承認者のメールアドレスを表示する。 （詳細は上記承認者を参照。）

項目名	説明
状態	承認者の承認状態を表示する 以下の状態のいずれかを表示する 未（未承認/保留中） 済（承認済） 否（否認） -（スキップ）
コメント	承認者のコメントを表示する
承認日時	承認日時を表示する
操作メニュー	
リクエスト承認	リクエスト承認ダイアログをモーダル表示する ※リアルタイム更新する ※承認者、かつ承認待ち状態でのみ表示 *5
リクエスト変更	サーバ作成（変更入力）画面を表示する ※サーバ作成リクエスト選択時のみ表示 ※テナントユーザは「リクエスト変更権限」と「リクエスト承認権限」の権限がある場合のみ表示
リクエスト却下	リクエスト却下ダイアログをモーダル表示する ※リアルタイム更新する ※承認者、かつ承認待ち状態でのみ表示
再申請	以下の各画面に遷移する サーバ作成(入力)画面 サーバ変更(入力)画面 サーバ削除(確認)画面 ネットワーク作成(入力)画面 ネットワーク削除(確認)画面 OracleDB システム作成(入力)画面 OracleDB システム変更(入力)画面 OracleDB システム削除(確認)画面 カスタムオペレーション実行(入力)画面 ※リアルタイム更新する ※却下リクエストまたはキャンセルリクエストを選択した場合のみ表示する。また、システム管理者(テナントに所属していないユーザ)は表示しない。
リクエスト実行	リクエスト実行ダイアログをモーダル表示する ※リアルタイム更新する ※「実行待機」状態の場合のみ表示する ※申請者、またはテナント管理者のみ表示
キャンセル	キャンセルダイアログをモーダル表示する ※以下の状態の場合のみ表示する 承認待ち 承認済み 実行待機 エラー ※リアルタイム更新する ※申請者、またはテナント管理者のみ表示
エラー状態解除	エラー状態解除ダイアログをモーダル表示する。 ※リアルタイム更新する

項目名	説明
	※システム管理者、且つエラー状態でのみ表示

参照したリクエストがスタックリクエストの場合、以下の詳細情報を表示します。

ヒント

- *1 承認フロー設定により、承認者が設定されていない場合は、次の承認者は表示されません。ただし、承認者は設定されているが削除されている場合や、別テナント（事業者含む）に所属している場合は、以下のように表示されます。
  - テナント用承認フローの承認者の順の場合

    （一覧）テナント管理者

    （詳細）存在しないユーザです。テナント管理者に代理承認を依頼してください。
  - システム用承認フローの承認者の順の場合

    （一覧）システム管理者

    （詳細）存在しないユーザです。システム管理者に代理承認を依頼してください。
- *2 承認フローのパターンについては、「28.2　承認フロー設定（196 ページ）」を参照してください。
- *3 未承認状態かつ承認者が削除されている場合や、別テナント（事業者含む）に所属している場合は、「存在しないユーザ」と表示されます。

注

- *4 システム管理者でログインしテナント代行でリクエスト承認後、リクエスト一覧の「リクエスト作成」リンクが非表示になる場合があります。その場合は、リクエスト管理画面を再表示してください。
- *5 エラーメッセージは状態がエラーになった時点の言語ロケールや SigmaSystemCenter から取得したメッセージが表示されます。

28.1.3　リクエストを承認する

1. リクエスト承認権限を持つユーザが、リクエスト詳細画面にて[リクエスト承認]アイコンをクリックします。

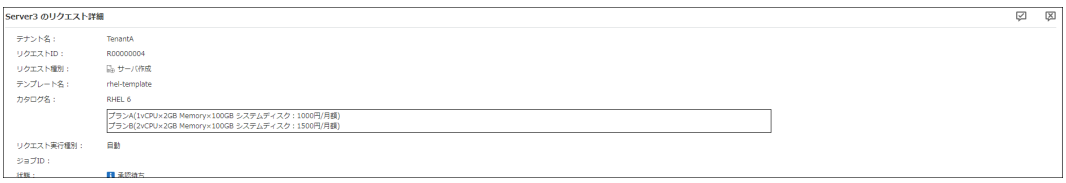

図 28-3　リクエスト詳細画面（承認）

2. リクエスト承認ダイアログを表示します。申請者へのコメントを入力（任意）し、「確認」ボタンを押下することでリクエストを承認します。

図 28-4　承認ダイアログ

注

Amazon EC2 インスタンスの作成または削除の実行中に並行して作成できません。

Amazon EC2 用のサーバサービスカタログを指定したサーバ作成リクエスト、または、EC2 インスタンスのサーバ削除リクエストの状態が「実行中」の状況下で、別の Amazon EC2 用のサーバサービスカタログを指定したサーバ作成リクエストが「承認待ち」となった場合には、 先行のリクエストが「完了」または「エラー」の状態となるのを確認後、承認を行ってください。

28.1.4　リクエストを却下する

1. リクエスト承認権限を持つユーザが、リクエスト詳細画面にて[リクエスト却下]アイコン をクリックします。

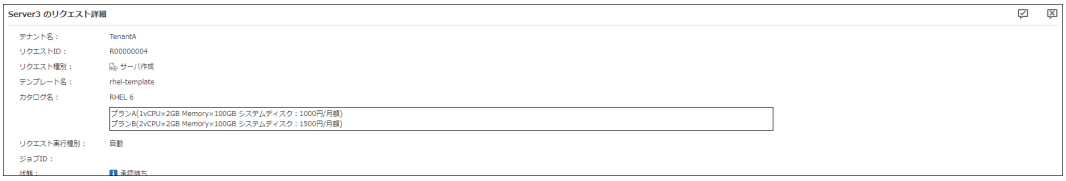

図 28-5　リクエスト詳細画面（却下）

2. リクエスト却下ダイアログが表されます。申請者へのコメントを入力（任意）し、「確認」ボタンを押下することでリクエストを却下します。

図 28-6　却下ダイアログ

28.1.5　リクエストのエラー解除

システム管理者はリクエストがエラーになった場合、エラー状態解除を実行できます。エラー状態を解除したリクエストは実行待機状態になります。

1. エラーになったリクエストの詳細画面にて[エラー状態解除]アイコンをクリックします。

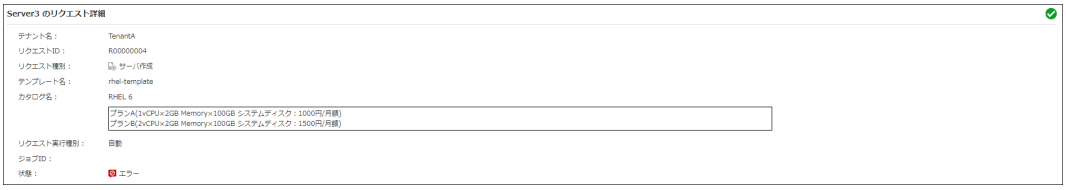

図 28-7　リクエスト詳細画面（エラー状態解除）

2. エラー状態解除ダイアログが表示されます。「確認」ボタンを押下することでエラー状態を解除し実行待機状態にします。

   なお、キャンセルしたリクエストは、リクエスト詳細画面から再申請することが可能です。

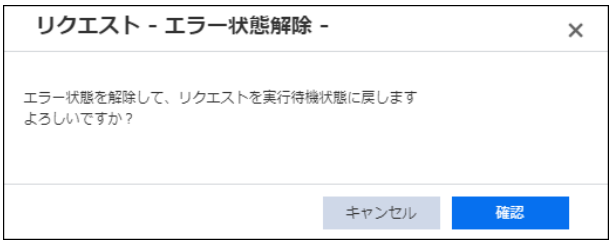

図 28-8　エラー状態解除ダイアログ

28.2　承認フロー設定

本節では、承認フロー設定について説明します。

申請されたリクエストを承認する際、承認者不在時の対応や、組織体系によっては複数人の承認者を設定することが求められます。

本機能は、複数の承認者を登録し、場面に応じた承認の手順を管理します。

また、承認フローを設定することにより、申請者・承認者にメール通知によって承認を促す機能を実現します。

メール通知については、「33.1　メール通知（248 ページ）」 を参照してください。

承認フローには「システム用 承認フロー」「テナント用 承認フロー」の 2 種類があります。

- システム用 承認フロー

  本機能は、システム管理者権限を持つユーザのみが操作可能です。

  システム管理者が、システムの承認依頼のフローを設定する際に使用します。

- テナント用 承認フロー

  本機能は、テナント管理者権限を持つユーザのみが操作可能です。

  テナント管理者が、テナント内の承認依頼のフローを設定する際に使用します。

  なお、テナント代行することにより、システム管理者がテナント用承認フローを設定することも可能です。

「システム用承認フロー」の設定方法については「28.2.1　承認フロー設定の承認パターン（197 ページ）」を、「テナント用 承認フロー」の設定方法については「35.2.1　承認フローのパターン(利用者)（313 ページ）」を参照してください。

28.2.1　承認フロー設定の承認パターン

承認フロー設定の承認パターンについて説明します。

- 承認要否設定

  リクエストに対する、承認の要・否を設定します。

  承認を不要とした場合、リクエストを申請すると直ちに自動実行されます。

- 承認条件設定

  承認要否設定が「不要」の場合には操作はありません。

  承認の条件を、承認権限を持つ「全てのユーザ」または「いずれかのユーザ」に設定します。

  「全てのユーザ」を選択した場合は、承認者の登録順に処理が進みます。

  ※システム用承認フローでは「いずれかのユーザ」は設定できません。

表 28-4　承認フロー設定と承認動作の一覧

項番	承認要否	承認条件	承認動作
1	不要	-	承認操作なし
2	必要	いずれかのユーザ	承認権限を持ついずれかのユーザが承認することで承認済みとみなす ※システム用承認フローでは設定できません
3	必要	全てのユーザ	承認フローに設定されている全ての承認者が承認することで承認済みとみなす

- 承認権限および代理承認権限

  リクエストに対する承認動作(承認、却下)は、「承認権限」を保有しているユーザが行います。

  ただし、テナント管理者は、代理で自テナントの承認動作を行うことが可能です。

表 28-5　承認可能権限の一覧

ユーザ	承認フロー設定	テナント用承認フロー		システム用承認フロー	
		承認	却下	承認	却下
(承認権限なし) テナントユーザ	-	-	-	-	-
(承認権限あり) テナントユーザまたは テナント管理者	全てのユーザ	可能	可能	-	-

ユーザ	承認フロー設定	テナント用承認フロー		システム用承認フロー	
		承認	却下	承認	却下
(承認権限あり) テナントユーザ または テナン ト管理者	いずれかのユーザ	可能	可能	-	-
(承認権限なし) システム管理者	-	-	-	-	-
(承認権限あり) システム管理者	全てのユーザ	-	-	可能	可能
テナント管理者	-	代理	代理	-	-
システム管理者 (テナント代行)	-	代理	代理	-	-

注

- リクエストの申請中に承認フローが変更された場合には、リクエスト申請時点の設定が優先されます。
- 人事異動等で承認者が削除された場合は、その承認者を飛ばして次の承認者へと処理が進みます。
- 承認者ユーザが無効の場合やロック中、承認権がはく奪されていた場合は、有効と同様に処理されます。ただし、承認・却下はできないため、ユーザ編集もしくは代理承認をおこなう必要があります。

28.2.2　システム用承認フロー設定

「システム用承認フロー」は、リクエストに対する「承認要否設定」「承認条件設定」を設定します。承認者は、最大 5 名を登録することが可能です。

1. メニューから、「リクエスト」－「承認フロー設定」をクリックすることにより、「承認フロー設定」画面が表示されます。

   以下の表を参照し、編集対象のテナントを選択後、「編集」ボタンをクリックします。

図 28-9　システム用承認フロー設定 画面

表 28-6　システム用承認フロー設定 画面

項目名	説明
テナント	編集対象のテナントをプルダウンリストから選択する
承認要否	現在設定されている承認要否

項目名	説明
承認完了条件 ※承認要否が「必要」の場合のみ表示	現在の承認完了条件
承認者 ※承認要否が「必要」の場合のみ表示	承認が必要な承認者のユーザ名とメールアドレス（承認順）
編集	承認フロー設定変更(入力)画面を表示する

2. 「承認フロー設定変更(入力)」 画面が表示されます。以下の表を参照し、各項目を設定後、「確定」ボタンをクリックすることにより編集が反映されます。

図 28-10　承認フロー設定変更(入力) 画面

表 28-7　承認フロー設定変更(入力) 画面

項目名	入力規則	初期値	説明
テナント	－	－	編集対象のテナント名
承認要否	「必要」または「不要」のいずれか	現在の設定状態	承認要否を選択する
承認完了条件 ※承認要否が「必要」の場合のみ表示	－	－	※システム用承認フロー設定の場合は「承認フローに設定されている全ての承認者が承認すること」固定
承認者選択	－	－	承認者の選択ダイアログを開く 「表 28-7 承認フロー設定変更(入力) 画面（199 ページ）」を参照し、承認者を選択する
戻る	－	－	現在の入力内容を破棄し、承認フロー設定画面に遷移する
確定	－	－	承認フロー設定を更新する

承認者選択は５名まで指定可能です。「使用可能」から承認者を選択し、「追加」ボタンをクリックすることで「構成済み」に追加されます。設定したいすべての承認者を選択後、「選択」をクリックします。

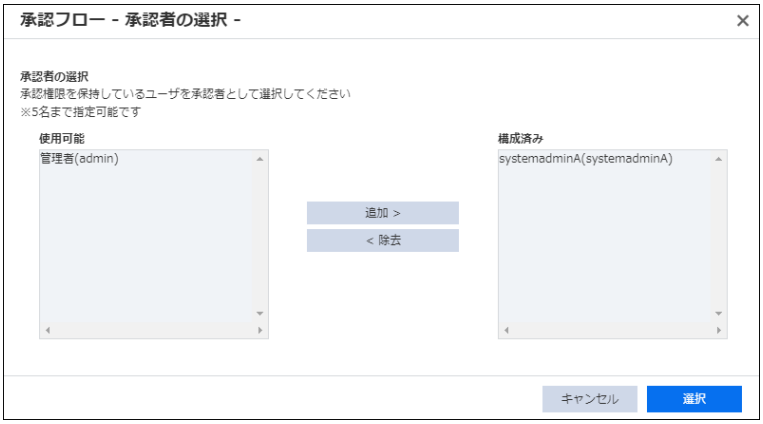

図 28-11　承認者の選択ダイアログ

表 28-8　承認者の選択ダイアログ 画面

項目名	説明
使用可能	承認者に設定できるユーザ名一覧
構成済み	承認者として追加されたユーザ名
追加ボタン	「使用可能」にて選択したユーザを「構成済み」に追加する
除去ボタン	「構成済み」にて選択したユーザを承認者から除外する
キャンセル	現在の設定内容を破棄し、承認フロー設定画面に遷移する
選択	現在の構成済み内容で、承認者を設定する

第 29 章
テナント情報（管理者）

本章では、テナント情報メニューについて説明します。

テナント情報メニューでは、以下の機能があります。

・テナント管理 : 新規テナントの登録や、登録テナントの確認・編集・削除を行う

・ユーザ管理 : 新規ユーザの登録や、登録ユーザの確認・編集・パスワード変更・削除を行う

29.1　テナント管理（管理者）

本節ではテナント管理メニューについて説明します。

29.1.1　テナント一覧（管理者）

メニューから、「テナント情報」－「テナント管理」をクリックすることにより、テナント一覧画面を表示します。

図 29-1　テナント管理画面

表 29-1　項目一覧（テナント管理画面）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
テナント追加	テナント追加画面を表示する
テナント一覧	テナントの一覧を表示する (テナント管理者、テナントユーザの場合は「テナント名」列は非表示)

テナントを検索する場合は、テナント一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 29-2　項目一覧（テナント一覧検索画面）

項目名	説明
テナント ID	テナント ID
テナント名	テナント名
状態	・有効 ・無効 のいずれか

項目名	説明
登録期間	登録した日時の期間を指定する
備考	備考
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

29.1.2　テナントを追加する

テナントの追加方法を以下に示します。

1. テナント一覧画面にて、[テナント追加]アイコン＋をクリックします。

図 29-2　テナント一覧画面

2. テナント登録（入力）画面が表示されます。下記の表を参照し、各項目を入力後「次へ」ボタンを押下します。

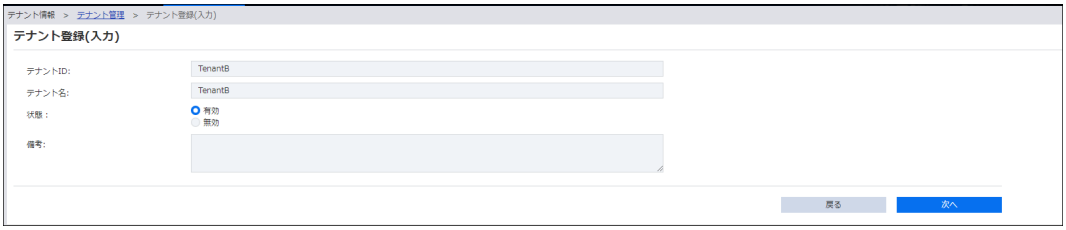

図 29-3　テナント登録（入力）画面

表 29-3　項目一覧（テナント登録画面）

項目名	入力規則	初期値	説明
テナント ID	1～15 文字 半角英数字のみ使用可能 ※「root」は使用不可	－	テナント ID ※一意であること
テナント名	100 文字以内 以下は使用不可 \ / : . ; * ? " < > |	－	テナント名 ※重複可
状態	－	有効	テナントの有効／無効を選択する
備考	－	－	備考

3. 確認画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することによりテナントが追加されます。

図 29-4　テナント登録（確認）画面

専有リソースプールを割り当てる場合、テナント登録後、リクエスト作成前に SigmaSystemCenter にて割り当ててください。 リソースプールの割り当て方法については、『SigmaSystemCenter マニュアル』を参照してください。

29.1.3　テナントの詳細情報を確認する

テナント一覧の確認したいテナント列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

図 29-5　テナント情報詳細画面

表 29-4　項目一覧（テナント詳細）

項目名	説明
テナント ID	テナント ID
テナント名	テナント名
状態	以下の状態のいずれか ・有効 ・無効
登録ユーザ数	当該テナントに登録されているユーザ数
登録日時	登録した日時
備考	備考
管理者	当該テナントの管理者名
テナント編集	「テナント変更(入力)」画面を表示する
テナント削除	「テナント削除(確認)」画面を表示する

29.1.4　テナントを編集する

テナントの編集方法を以下に示します。

1. テナント詳細画面にて、[テナント編集]アイコン をクリックします。

図 29-6　テナント詳細画面

2. テナント変更（入力）画面が表示されます。「29.1.2　テナントを追加する（202 ページ）」の「表 29-3 項目一覧（テナント登録画面）（202 ページ）」を参照し、各項目を編集後「次へ」ボタンを押下します。

図 29-7　テナント変更（入力）画面

「管理者選択」ボタンを押下することにより、「管理者選択画面」が表示されます。テナントに所属するユーザから管理者を選択します。

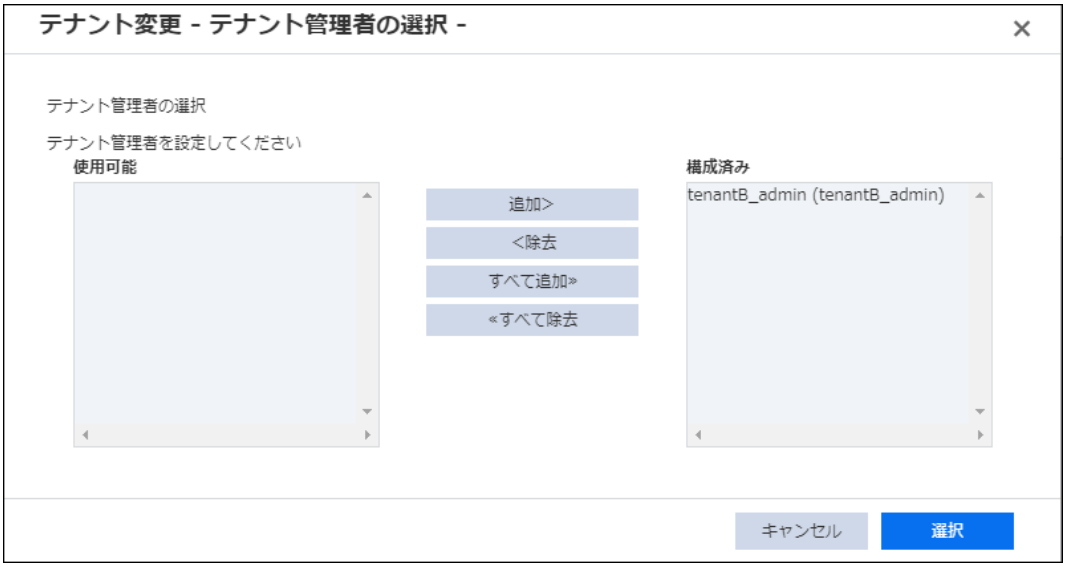

図 29-8　管理者選択画面

3. テナント変更（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することにより変更が反映されます。

図 29-9　テナント変更（確認）画面

注

- 管理者選択でテナント管理者に設定した場合、ロールはテナント管理者になります。
- 管理者選択でテナント管理者から外した場合、ロールはテナントユーザ（カスタムロールなし）になります。
- 状態を無効に変更したテナントに所属するユーザが SSO 認証にてログインした場合、FORM 認証へリダイレクトされますが所属テナントが無効化されているためログインすることはできません。

29.1.5　テナントを削除する

テナントの削除方法を以下に示します。

注

テナントを削除する際は、対象テナント配下の以下を削除してから行ってください。

- サーバ
- スタック
- お知らせ
- ユーザ
- メンテナンス

1. テナント詳細画面にて[テナント削除]アイコンをクリックします。

図 29-10　テナント詳細画面（削除）

2. テナント削除ダイアログが表示されます。「確定」ボタンを押下することでテナントを削除します。

   なお、SigmaSystemCenter に登録されているリソースプールは削除されません。不要な場合は削除してください。

図 29-11　テナント削除ダイアログ

29.2　ユーザ管理

本節では、ユーザ管理メニューについて説明します。

29.2.1　ユーザ一覧（管理者）

メニューから、「テナント情報」－「ユーザ管理」をクリックすることにより、ユーザ一覧画面を表示します。

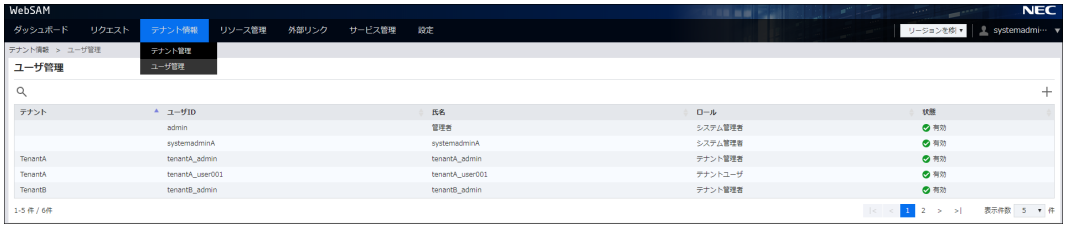

図 29-12　ユーザ管理画面

表 29-5　項目一覧（ユーザ管理画面）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
ユーザ登録	ユーザ登録画面を表示する ※テナントユーザの場合は非表示
ユーザ同期	ActiveDirectory に登録されているユーザをポータルに取り込む ※システム管理者以外では非表示 ※LDAP 認証時かつ接続先が ActiveDirectory 以外では非表示
ユーザ一覧	ユーザの一覧を表示する

注

- 「ユーザ同期」機能で取り込んだユーザは下記の状態になります。
  - パスワード＝なし
  - メールアドレス＝なし
  - 所属テナント＝ビルトインテナント
  - 所属ロール＝システム管理者
  - 状態＝無効
  - 認証種別＝ System LDAP

  システム管理者は「ユーザ同期」実行後に「ユーザ変更」および「ユーザパスワードの変更」を行ってください。
- ActiveDirectory でユーザを登録する際は以下の条件で追加してください。
  - AD 認証では属性 [name] がポータル上のユーザ ID と一致するユーザを認証対象と判断します。ユーザの属性 [name] はポータル上のユーザ ID と一致させてください。
  - 「ユーザ同期」機能では指定 OU 配下のユーザを取り込むため、異なる OU 配下にいるユーザは同期されません。同期対象のユーザは同じ OU 上に配置してください。

    同期 OU は C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties の「ldap-server.user-base」で指定します。

ユーザを検索する場合は、ユーザ一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 29-6　項目一覧（ユーザ一覧検索画面）

項目名	説明
テナント名	テナント名

項目名	説明
氏名	氏名
ユーザ ID	ユーザ ID
ロール	以下の状態を選択する ・システム管理者 ・テナント管理者 ・テナントユーザ ・テナント固有ロール
追加するロール	カスタムロールを選択する ロールに「テナントユーザ」を選択した場合のみ有効 カスタムロールが割り当てていないユーザを条件にしたい場合には、「設定されない」を選択する
承認可否	以下の状態を選択する ・リクエスト承認可能 ・リクエスト承認不可
状態	以下の状態を選択する ・有効 ・無効 ・ロック中
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

29.2.2　ユーザを登録する（管理者）

ユーザの追加方法を以下に示します。

1. ユーザ一覧画面にて、[ユーザ登録]アイコン＋をクリックします。

図 29-13　ユーザ一覧画面

2. ユーザ登録（入力）画面が表示されます。下記の表を参照し、各項目を入力後「次へ」ボタンを押下します。

図 29-14　ユーザ登録（入力）画面

表 29-7　項目一覧（ユーザ登録画面）

項目名	入力規則	初期値	説明
ロール	―	テナントユーザ	ユーザに付与するロールを選択する ・システム管理者 ・テナント管理者 ・テナントユーザ ・テナント固有ロール リクエスト承認を可能とする場合は「リクエスト承認可能とする」チェックボックスにチェックを入れる テナントユーザにカスタムロールを設定する場合は、カスタマイズボタンを押下し、カスタマイズダイアログにて追加・付与するロールを選択 下図「カスタマイズダイアログ」参照
テナント	―	―	ユーザを所属させるテナントを選択する ※ロールに「システム管理者」を選択した場合は非表示
ユーザ ID	3～16 文字 半角英数と_（アンダースコア）、-（ハイフン）が使用可能	―	ユーザ ID を入力する
氏名	1024 文字以内	―	氏名（ユーザ名）を入力する
e-mail	e-mail 形式	―	メールアドレスを入力する
パスワード	6 文字以上 16 文字以下 半角英数字と!"#$%&'()*+,./:;<=>?@[\]^_`{|}~ -が使用可能	―	ユーザのパスワードを入力する
パスワード(確認)	上記と同じであること	―	ユーザのパスワードを入力する(確認)
API キー	―	―	設定なしの場合 : ユーザの API キーを発行しない 設定するの場合:ユーザの API キーを自動的に発行する
状態	―	有効	ユーザの状態を選択する

項目名	入力規則	初期値	説明
			・有効 ・無効
認証種別	―	Local	ユーザの認証種別を選択する • vDCA SE ポータルの独自認証機能(ローカル認証)を使用する場合：Local • Active Directory による LDAP 認証を使用する場合：System LDAP（LDAP 認証時のみ表示）※1
備考	255 文字以内	―	備考

【カスタマイズ】

ロール種別に「テナントユーザ」を選択した場合、カスタムロールを追加することができます。カスタムロールの詳細については、「第 17 章　ロール設定（126 ページ）」を参照してください。

「使用可能」欄から追加するロールを選択して「追加」ボタンを押下します。追加するロールをすべて選択後、「選択」ボタンを押下します。

なお、すべてのロールを対象とする場合は「すべて追加」ボタンにより全ロールが追加されます。

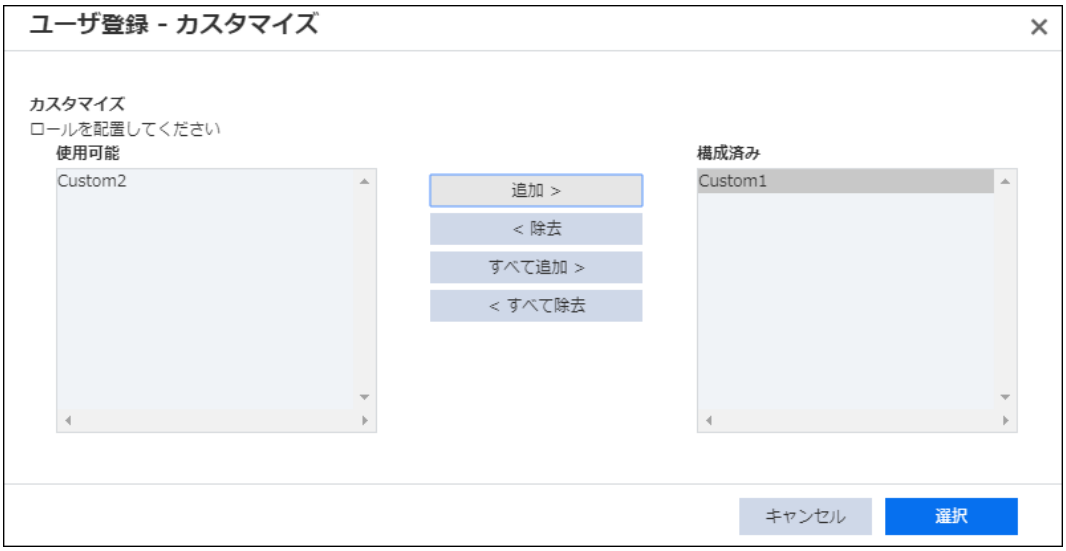

図 29-15　カスタマイズダイアログ

3. ユーザ登録（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することによりユーザが追加されます。

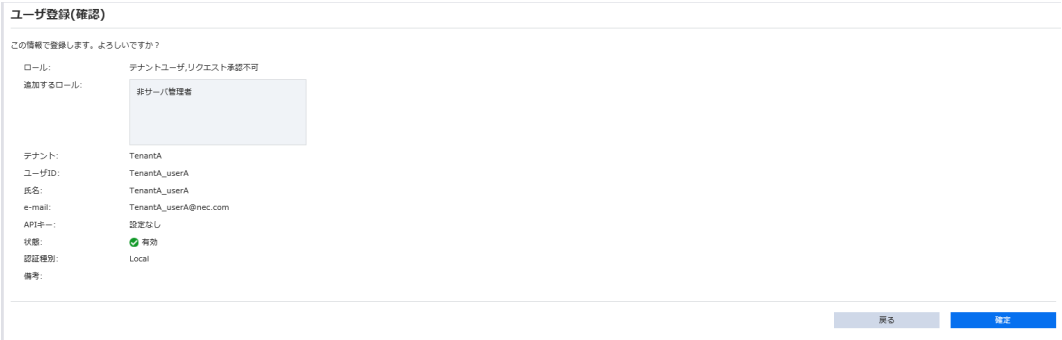

図 29-16　ユーザ登録（確認）画面

注

※1

「認証種別」を「System LDAP」に設定した場合、認証先となる Active Directory には登録しようとしているユーザが既に存在している必要があります。

29.2.3　ユーザの詳細情報を確認する（管理者）

ユーザ一覧の確認したいユーザ列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

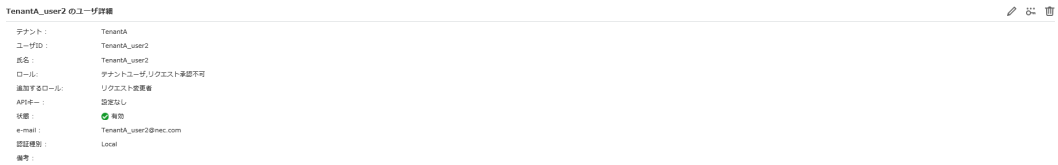

図 29-17　ユーザ情報詳細画面

表 29-8　項目一覧（ユーザ詳細）

項目名	説明
テナント	テナント名 ※システム管理者の場合のみ表示
ユーザ ID	ユーザ ID
氏名	氏名(ユーザ名)
ロール	ユーザ種別、リクエスト承認可否
追加するロール	カスタムロール 種別がテナントユーザの場合のみ表示 カスタムロールが複数の場合にはカンマ区切りで表示
API キー	「設定なし」 または 「設定済」を表示
状態	・有効 ・無効 ・ロック中 のいずれか
e-mail	ユーザのメールアドレス

項目名	説明
認証種別	・Local ・System LDAP のいずれか
備考	備考
ユーザ変更	ユーザ変更画面を表示する ※ビルトインユーザ、テナントユーザの場合は非表示
パスワード変更	パスワード変更画面を表示する ※ビルトインユーザ、テナントユーザの場合は非表示
ユーザ削除	ユーザ削除画面を表示する ※ビルトインユーザ、テナントユーザの場合は非表示

29.2.4　ユーザの情報を変更する

ユーザ情報の変更方法を以下に示します。

1. ユーザ詳細画面にて、[ユーザ変更]アイコンをクリックします。

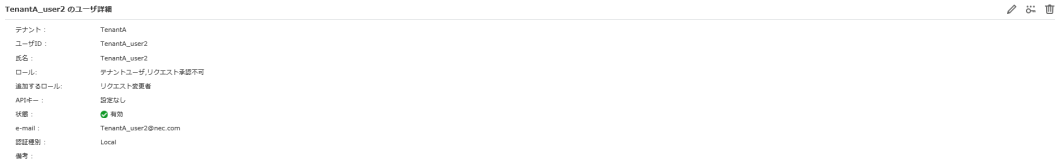

図 29-18　ユーザ詳細画面

2. ユーザ変更（入力）画面が表示されます。「29.2.2　ユーザを登録する（管理者）（207 ページ）」の「表 29-7 項目一覧（ユーザ登録画面）（208 ページ）」を参照し、各項目を編集後「次へ」ボタンを押下します。

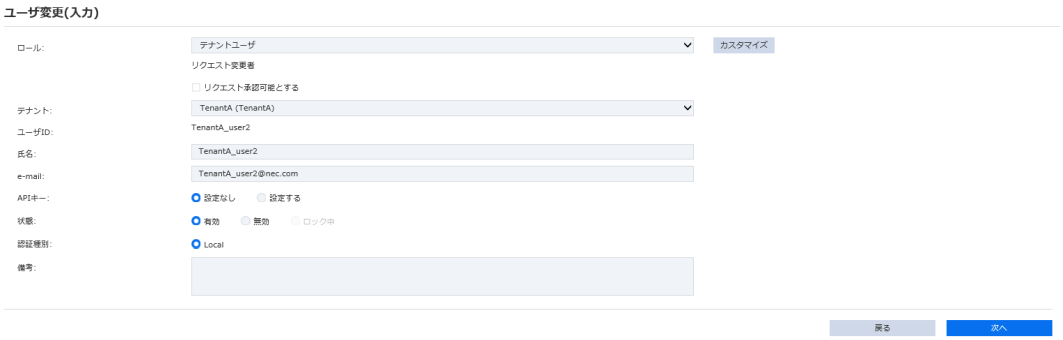

図 29-19　ユーザ変更（入力）画面

【カスタマイズ】

ロール種別に「テナントユーザ」を選択した場合、カスタムロールを変更することができます。

「使用可能」欄から追加するロールを選択して「追加」ボタンを押下します。すべてのロールを対象とする場合は「すべて追加」ボタンにより全ロールが追加されます。「構成済み」欄から除去するロールを選択して「除去」ボタンを押下します。すべてのロー

ルを対象とする場合は「すべて除去」ボタンにより全ロールが除去されます。 追加または除去するロールをすべて選択後、「選択」ボタンを押下します。

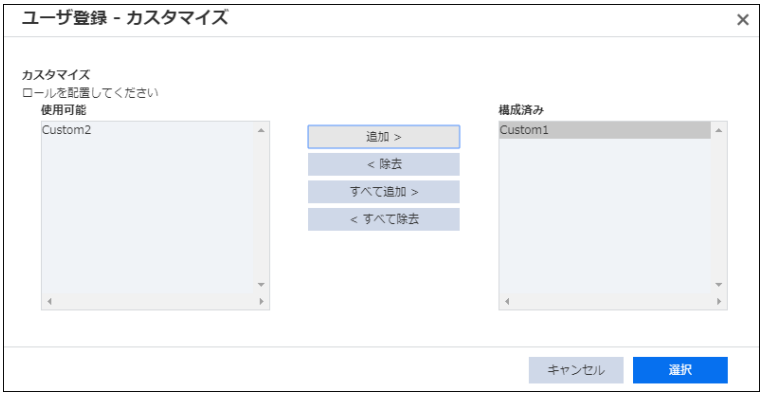

図 29-20　カスタマイズダイアログ

注

ビルトインユーザのユーザ情報変更は、システム管理者のみ操作可能、状態のみ変更可能です。

3. ユーザ変更（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することにより変更が反映されます。

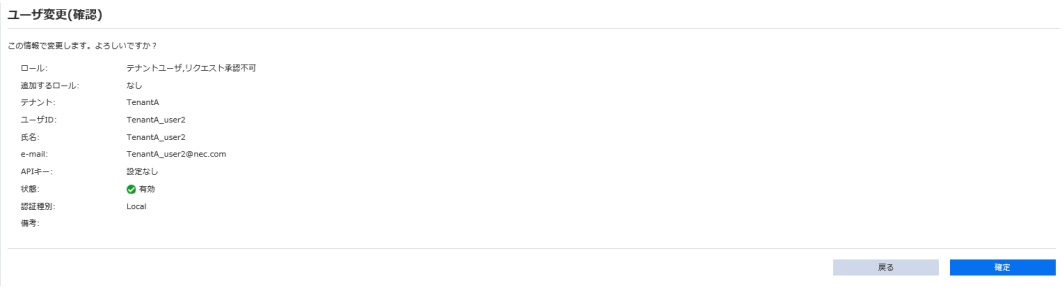

図 29-21　ユーザ変更（確認）画面

注

- ユーザの氏名を変更しても、それ以前に登録されたリクエスト、メンテナンス、お知らせ、運用作業履歴の登録者情報には反映されません。
- 認証種別が System LDAP となっているユーザは、ログインする際、Active Directory による LDAP 認証を行うため、ローカル認証時のパスワードを変更することができません。 認証種別を Local に変更したい場合、ローカル認証時のパスワードを事前に設定した上で認証種別を変更する必要があります。 「29.2.5　パスワードを変更する（212 ページ）」 を参照し、対象ユーザのパスワードを変更してください。

29.2.5　パスワードを変更する

パスワードの変更方法を以下に示します。

1. ユーザ詳細画面にて、[パスワード変更]アイコンをクリックします

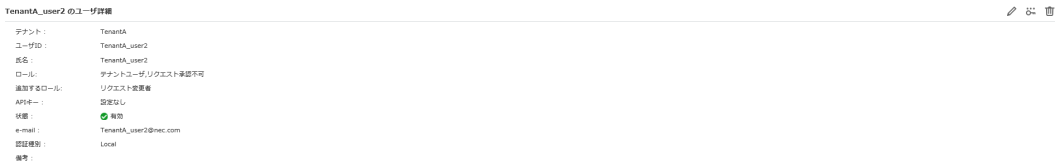

図 29-22　ユーザ詳細画面

2. パスワード変更（入力）画面が表示されます。「29.2.2　ユーザを登録する（管理者）(207 ページ)」の パスワード入力規則を参照して変更後「次へ」ボタンを押下します。

図 29-23　パスワード変更（入力）画面

3. パスワード変更（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することにより変更が反映されます。

図 29-24　パスワード変更（確認）画面

29.2.6　ユーザを削除する

ユーザの削除方法を以下に示します。

1. ユーザ詳細画面にて、[ユーザ削除]アイコン🗑をクリックします

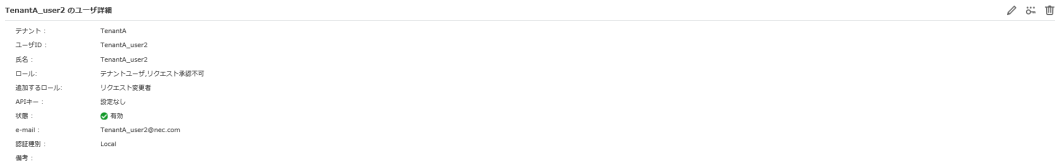

図 29-25　ユーザ詳細画面

2. ユーザ削除（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することでユーザを削除します。

図 29-26　ユーザ削除ダイアログ

第 30 章
リソース管理

本章では、リソース管理メニューについて説明します。

リソース管理メニューでは、以下の機能があります。

- リソース状況: リソースプールごとに使用状況グラフを表示します。

  詳細は「30.1　リソース状況（管理者）（214 ページ）」を参照してください。

- 業務グループ管理: サーバの管理単位である、業務グループを作成・変更・削除します。

  詳細は「30.2　業務グループ管理（管理者）（215 ページ）」を参照してください。

- サーバ管理: サーバの情報表示や電源操作などをいます。

  詳細は「30.3　サーバ管理（管理者）（217 ページ）」を参照してください。

- ネットワーク管理: ネットワークの情報表示や削除などを行います。

  詳細は「30.4　ネットワーク管理（管理者）（223 ページ）」を参照してください。

- DB システム管理: データベースの情報表示や起動・停止などを行います。

  詳細は DB システム管理（管理者）を参照してください。

- 運用作業履歴: サーバに対する操作の実行履歴を表示します。

  詳細は「30.5　運用作業履歴（管理者）（226 ページ）」を参照してください。

30.1　リソース状況（管理者）

全テナントのリソースプール状況を表示します。

また、各リソースプールが保持しているリソースの消費情報を確認することができます。

注

NEC Cloud IaaS 上のリソースプールは表示されません。

30.1.1　リソース状況の確認（管理者）

メニューから、「リソース管理」－「リソース状況」をクリックすることにより、リソース状況画面を表示します。

リソースプールツリーのリソースプールをクリックすることにより、右枠にリソースプール詳細が表示されます。

なお、システム管理者がテナント代行している場合には、代行テナントのリソースプールが表示され、テナント代行していない場合には、すべてのリソースプールの状況が表示されます。

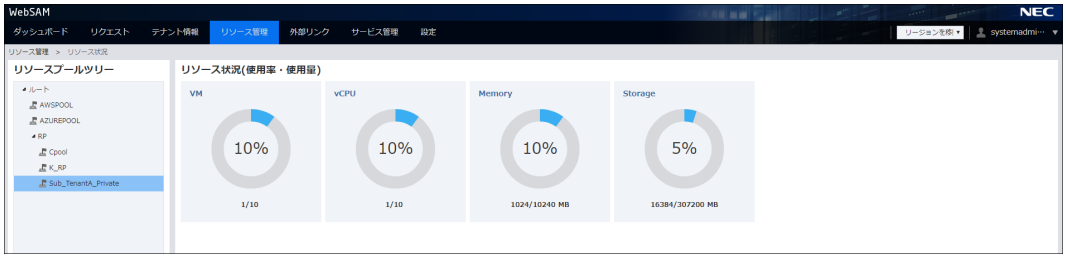

図 30-1　リソース状況画面

表 30-1　項目一覧（リソース状況）

項目名	説明
リソースプールツリー	リソースプール一覧 クリックで選択およびリソース消費情報を表示する ※リソース名の横に旗マークがあるリソースは専有リソースを表す
リソース名	消費しているリソースの名前を表示する
リソース使用値	リソースの使用値を以下の形式で表示する 使用値／総量 総量が 0 の場合、以下の形式で表示する 使用値／-
リソース単位	リソースの単位
リソース使用率(円グラフ)	リソースの使用率を円グラフで表示する 総量が 0 の場合、円グラフは表示されない

注

パブリッククラウド用のリソースプールの場合、グラフは表示されません。

30.2　業務グループ管理（管理者）

本節では、業務グループとその管理メニューについて説明します。

業務グループは、サーバを業務システムにおけるサービスやアプリケーションなどの役割別にグループ化し、それを管理単位として扱うための機能です。

サーバ作成時に、所属させる業務グループを指定することで割り当てられます。また、サーバの所属する業務グループを変更することも可能です。詳細は「37.2.2　業務グループ詳細（333 ページ）」を参照してください。

業務グループの使い方の例を、「図 30-2 業務グループ構成例（216 ページ）」に示します。

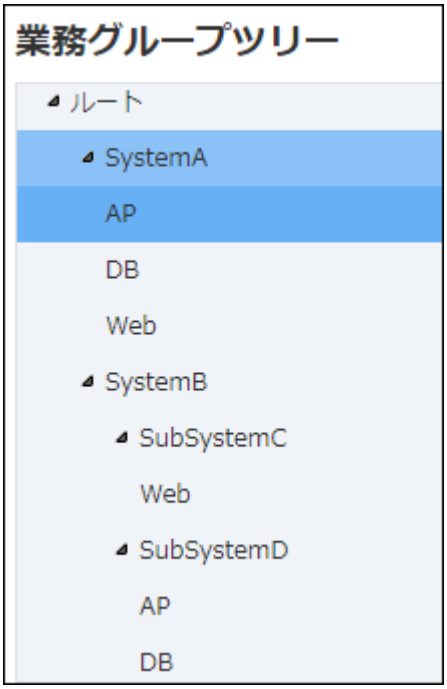

図 30-2　業務グループ構成例

例えば、業務システム SystemA を構成する役割として Web サーバ、AP サーバ、DB サーバがある場合、「SystemA」をカテゴリとして作成し、「Web」、「AP」、「DB」としてグループを作成します。 このように業務システムの役割別に業務グループを構成することにより、業務別、役割別にサーバをグループ化することができます。

システム管理者の業務グループ管理メニューでは、すべての業務グループの状況が確認できます。

システム管理者がテナント代行している場合は、代行テナントの業務グループが表示され、業務グループの作成・編集削除が行えます。

業務グループの作成方法については「37.2.3　業務グループを追加する（335 ページ）」を参照してください。

30.2.1　業務グループ一覧（管理者）

メニューから、「リソース管理」－「業務グループ管理」をクリックすることにより、業務グループ管理画面を表示します。

なお、システム管理者がテナント代行している場合には、代行テナントの業務グループが表示され、テナント代行していない場合には、すべての業務グループの状況が表示されます。

図 30-3　業務グループ管理画面

表 30-2　項目一覧（業務グループ管理）

項目名	説明
業務グループツリー	カテゴリまたはグループの種別を示すアイコンと業務グループ名を表示する クリックで選択および業務グループ詳細情報を表示する

30.2.2　業務グループ詳細

業務グループツリーの業務グループ名をクリックすることにより、詳細が表示されます。

図 30-4　業務グループ詳細画面

表 30-3　項目一覧（業務グループ詳細）

項目名	説明
テナント名	業務グループに設定されているテナント名
種別	業務グループの種別 ・カテゴリ ・グループ のいずれか
業務グループ	選択している業務グループのパス 表示ボタンをクリックすることで実際に VM が配置される SigmaSystemCenter 上のフルパスを表示する
マシン種別	選択している業務グループのマシン種別 以下のいずれかを表示 • VM • VM サーバ • 物理 • パブリッククラウド 選択している業務グループの種別がグループの場合のみ表示
デフォルトカタログ名	業務グループに設定されているデフォルトテンプレートをカタログ名に変換して表示する 選択している業務グループの種別がグループの場合のみ表示
VM 数	配下に存在する VM 数 カテゴリ選択時はその配下にあるグループの VM 総数を表示
サーバ一覧	配下に所属するサーバの一覧を表示する ※共有リソースプール配下のサーバは対象外 表示項目の詳細は「30.3.1　サーバ一覧（218 ページ）」を参照してください

30.3　サーバ管理（管理者）

本節では、サーバ管理メニューについて説明します。

システム管理者は、登録されたサーバの一覧・詳細確認を行うことができます。

なお、テナント代行をしているシステム管理者はサーバの作成・変更・削除・電源操作・同期・その他の操作が行えるようになります。

詳細は、「37.4　サーバ管理（利用者）（340 ページ）」 を参照してください。

30.3.1　サーバ一覧

メニューから、「リソース管理」－「サーバ管理」をクリックすることにより、サーバ一覧画面を表示します。

図 30-5　サーバ一覧画面

表 30-4　項目一覧（サーバ一覧画面）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
サーバ一覧	サーバ一覧を表示する

サーバを検索する場合は、サーバ一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 30-5　項目一覧（サーバ一覧検索画面）

項目名	説明
テナント名	テナント名
サーバ ID	サーバ ID
サーバ名	サーバ名
業務グループ	業務グループ名
ロケーション	当該サーバの所在地
状態	・起動中 ・停止中 ・電源オフ中 ・再起動中 ・サスペンド ・休止中 ・その他 ・削除済み ・エラー を選択する
OS	OS
リソースプール	当該サーバのリソースプール名 ※
備考	備考
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す

項目名	説明
検索	ボタン押下で検索を実施する

注

※同期やリソース情報更新コマンドで取り込んだパブリッククラウド上のサーバはリソースプールによる検索ができません。

30.3.2　サーバの詳細情報を確認する

サーバ一覧の確認したいサーバ列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

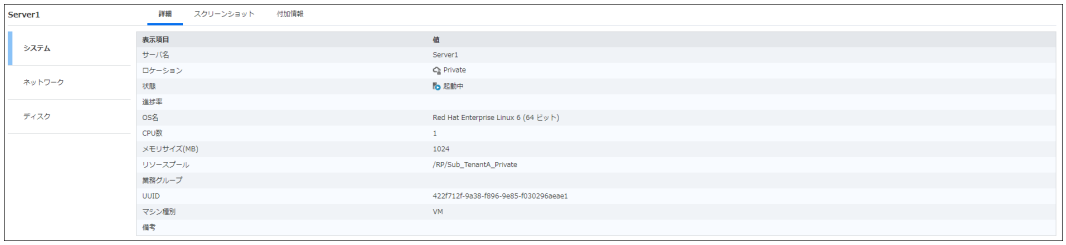

図 30-6　サーバ詳細画面

なお、SigmaSystemCenter 上ですでに削除されているサーバを選択した場合、「状態」に「削除済み」が表示されます。

また、詳細情報では以下の情報が確認できます。

- システム
- ネットワーク
- ディスク
- スクリーンショット(VM のみ)
- 付加情報
- コンソール

サーバ作成リクエストではなく同期ボタンによって取り込んだサーバやパブリッククラウド上のサーバでは、サーバ詳細画面の機能に制限があります。 下記の「表 30-6 サーバ詳細画面 機能対応表（219 ページ）」を参照してください。

表 30-6　サーバ詳細画面 機能対応表

機能	プライベート		パブリック
	VM サーバ	物理サーバ※2	
サーバ詳細表示(システム、ネットワーク、ディスク)	○	○	○
スクリーンショット	○	-	-
付加情報	○	○	○
コンソール	○※1	-	-

※1 対応するハイパーバイザ上のサーバのみ表示可能です。

※2 物理サーバの管理ソフトウェアによって詳細情報の表示内容が異なります。

30.3.2.1　【システム】

一覧からサーバをクリックした初期画面、または詳細画面表示中に「システム」タブをクリックすることにより、システム情報を表示します。

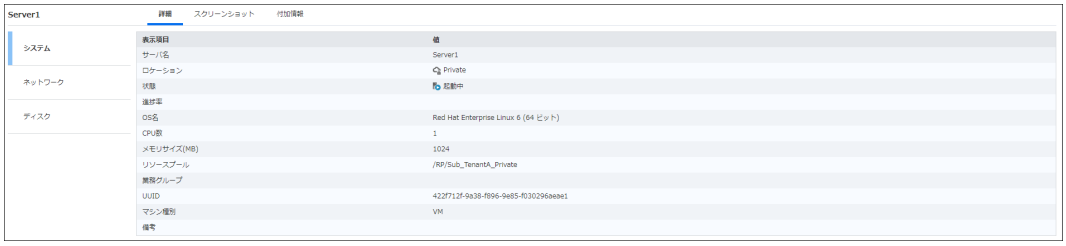

図 30-7　サーバ情報詳細画面（システム）

表 30-7　項目一覧（システム）

項目名	説明
サーバ名	サーバ名
ロケーション	当該サーバの所在地
状態	以下のいずれか 起動中 停止中 電源オフ中 再起動中 サスペンド 休止中 削除済み
進捗率	上記の状態に対する進捗率
OS 名	OS 名
CPU 数	CPU 数※2
メモリサイズ(MB)	メモリサイズを MB で表示する ※2
リソースプール	当該サーバのリソースプール名 ※1
業務グループ	業務グループ名
UUID	サーバの UUID
マシン種別	以下のいずれか • VM • 物理
備考	備考

注

※1 同期やリソース情報更新コマンドで取り込んだパブリッククラウド上のサーバのリソースプールは表示されません。

※2SigmaSystemCenter やパブリッククラウドにて直接構成変更を行った後に同期にて変更を取り込んだ場合、リクエスト時の情報と乖離するおそれがあります。

30.3.2.2　【ネットワーク】

詳細画面表示中に「ネットワーク」タブをクリックすることにより、ネットワーク情報を表示します。

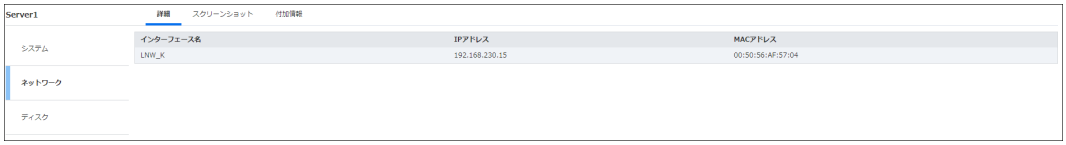

図 30-8　サーバ情報詳細画面（ネットワーク）

表 30-8　項目一覧（ネットワーク）

項目名	説明
インターフェース名	インターフェース名
IP アドレス	IP アドレス
MAC アドレス	MAC アドレス

注

SigmaSystemCenter やパブリッククラウドにて直接構成変更を行った後に同期にて変更を取り込んだ場合、リクエスト時の情報と乖離するおそれがあります。

物理サーバの場合、IP アドレス以外は表示されません。

30.3.2.3　【ディスク】

詳細画面表示中に「ディスク」タブをクリックすることにより、ディスク情報を表示します。

図 30-9　サーバ情報詳細画面（ディスク）

表 30-9　項目一覧（ディスク）

項目名	説明
スロット	ディスク位置
タイプ	ディスクの種類 ・システムディスク ・拡張ディスク
ディスクタイプ	ディスクタイプ ・Thin ディスク ・Thick ディスク ・RDM(物理)

項目名	説明
	・RDM(仮想)
ディスクファイル名	LUN 名またはディスクファイル名
総量(KB)	総量を KB で表示する

注

SigmaSystemCenter やパブリッククラウドにて直接構成変更を行った後に同期にて変更を取り込んだ場合、リクエスト時の情報と乖離するおそれがあります。

30.3.2.4　【スクリーンショット】

一覧からサーバをクリックし、詳細画面表示中に［スクリーンショット］タブをクリックすることにより、サーバのスクリーンショットを表示します。

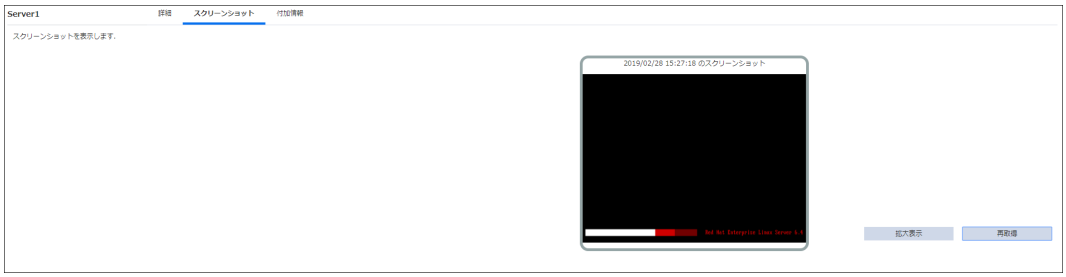

図 30-10　スクリーンショット画面

表 30-10　項目一覧（スクリーンショット）

項目名	説明
スクリーンショット画像	［スクリーンショット］タブ押下時、または［再取得］ボタン押下時に取得したスクリーンショットを表示する 画像をクリックすることで拡大表示する
拡大表示	スクリーンショットを拡大表示する 拡大表示後は［閉じる］ボタンでダイアログを閉じる
再取得	再度スクリーンショットを取得して表示する

注

- スクリーンショットを表示するためには SigmaSystemCenter での設定が必要です。詳細については『SigmaSystemCenter マニュアル』を参照してください。
- パブリッククラウド上のサーバおよび物理サーバの場合、スクリーンショットタブは表示されません。

30.3.2.5　【付加情報】

一覧からサーバをクリックし、詳細画面表示中に［付加情報］タブをクリックすることにより、サーバの付加情報を表示します。

表示する付加情報については、「A.1　テンプレートに付加情報を表示する（406 ページ）」を参照してください。

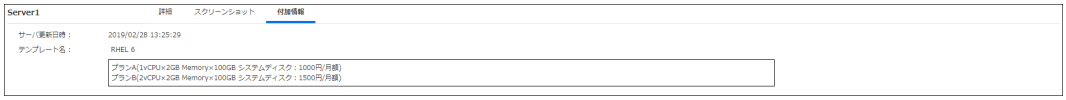

図 30-11　付加情報画面

表 30-11　項目一覧（付加情報）

項目名	説明
サーバ更新日時※1	リクエスト完了日時
テンプレート名※1	設定ファイルに設定されたテンプレートの表示名
付加情報※1	設定ファイルに設定されたテンプレートの付加情報を表示する 同期機能により取り込んだサーバでは、以下のように表示される • テンプレート名: "-" (固定値) • 付加情報: 設定ファイルに設定された、同期したサーバ用の付加情報

注

※1 物理サーバの付加情報には内容は表示されません。

30.4　ネットワーク管理（管理者）

本節では、論理ネットワーク管理メニューについて説明します。

システム管理者は、登録された論理ネットワークの一覧・詳細確認を行うことができます。

なお、テナント代行をしているシステム管理者は論理ネットワークの作成・削除操作が行えるようになります。

詳細は、「37.5　ネットワーク管理（利用者）（352 ページ）」 を参照してください。

30.4.1　ネットワーク一覧（管理者）

メニューから、「リソース管理」－「ネットワーク管理」をクリックすることにより、ネットワーク一覧画面を表示します。

図 30-12　ネットワーク一覧画面

表 30-12　項目一覧（ネットワーク一覧画面）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
ネットワーク一覧	ネットワークの一覧を表示する

ネットワークを検索する場合は、ネットワーク一覧画面の［検索］をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 30-13　項目一覧（ネットワーク一覧検索画面）

項目名	説明
テナント名	テナント名
ネットワーク ID	ネットワーク ID
種別（複数選択可）	・テナント管理 VLAN ・業務 LAN を選択する
公開範囲（複数選択可）	・パブリック ・プライベート を選択する
備考	備考
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

30.4.2　ネットワークの詳細情報を確認する（管理者）

ネットワーク一覧の確認したいネットワーク列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

図 30-13　ネットワーク詳細画面

また、詳細情報では以下の情報が確認できます。

- 情報タブ
- アドレスプールタブ
  - IPv4
  - IPv6

30.4.2.1　【情報】

一覧からネットワークをクリックした初期画面、または詳細画面表示中に［情報］タブをクリックすることにより、情報を表示します。

図 30-14　ネットワーク詳細画面（情報）

表 30-14　項目一覧（情報）

項目名	説明
テナント名	ネットワークを所有するテナントの名前
ネットワーク ID	ネットワークの ID
ネットワーク名	ネットワークの名前
リソース名	SigmaSystemCenter 上の論理ネットワーク名
種別	ネットワークの種類 以下のいずれか ・テナント管理 VLAN ・業務 LAN
公開範囲	ネットワークの公開範囲 以下のいずれか ・パブリック ・プライベート
備考	備考

30.4.2.2　【アドレスプール(IPv4)】

一覧からネットワークをクリックした初期画面、または詳細画面表示中に［アドレスプール］タブをクリックすることにより、[アドレスプール]情報を表示します。

[アドレスプール]タブで、[IPv4]タブをクリックすることにより、[IPv4]情報を表示します。

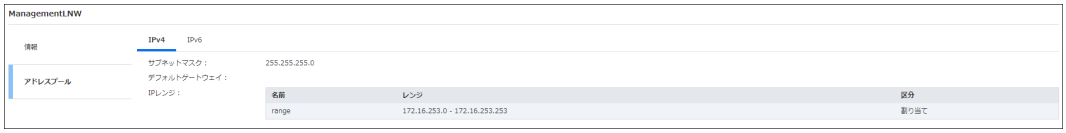

図 30-15　ネットワークのアドレスプール画面(IPv4)

表 30-15　項目一覧（情報）

項目名	説明
サブネットマスク	IPv4 セグメントのサブネットマスク
デフォルトゲートウェイ	IPv4 セグメントのデフォルトゲートウェイ
IP レンジ	IPv4 セグメントの IP レンジ 以下の情報をリスト表示 • 名前 　レンジ名 • レンジ 　IPv4 アドレスレンジのレンジ • 区分

項目名	説明
	IPv4 アドレスレンジの区分 以下のいずれか - 割り当て - 除外

30.4.2.3　【アドレスプール(IPv6)】

一覧からネットワークをクリックした初期画面、または詳細画面表示中に［アドレスプール］タブをクリックすることにより、[アドレスプール]情報を表示します。

[アドレスプール]タブで、[IP ｖ 6]タブをクリックすることにより、[IP ｖ 6]情報を表示します。

図 30-16　ネットワークのアドレスプール画面(IPv6)

表 30-16　項目一覧（情報）

項目名	説明
サブネットプレフィックス長	IPv6 セグメントのサブネットプレフィックス長
デフォルトゲートウェイ	IPv6 セグメントのデフォルトゲートウェイ
IP レンジ	IPv6 の IP レンジ 以下の情報をリスト表示 • 名前 レンジ名 • レンジ IPv6 アドレスレンジのレンジ • 区分 IPv6 アドレスレンジの区分 以下のいずれか - 割り当て - 除外

30.5　運用作業履歴（管理者）

運用作業履歴では、以下のような履歴を参照できます。

- サーバの電源操作履歴
- サーバのカスタムオペレーション実行履歴
- 同期ボタンによるサーバの追加・更新履歴

30.5.1　運用作業履歴一覧（管理者）

メニューから、「リソース管理」－「運用作業履歴」をクリックすることにより、運用作業履歴一覧画面を表示します。

図 30-17　運用作業履歴一覧画面

表 30-17　項目一覧（運用作業履歴）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
運用作業履歴	運用作業履歴一覧を表示する

運用作業履歴を検索する場合は、運用作業履歴一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 30-18　項目一覧（運用作業履歴一覧検索画面）

項目名	説明
テナント名	テナント名
運用作業 ID	運用作業 ID ※複数サーバに対して操作を実施した場合は、同一の運用作業 ID とする
運用作業期間	運用作業期間 開始日時の初期値として、検索アイコンを押下し検索パネルを開いたタイミングの日時を表示する 終了日時の初期値は、空白状態で表示する。
ロケーション	当該サーバの所在地 • プライベート • NECCI • AWS • AZURE
種別	種別 検索対象の種別(サーバ/config.json の displayKey で設定されたプラグイン)を選択する 初期値として、サーバがチェック、プラグインがチェックされない状態で表示
リソース名	リソース名 検索対象のサーバ名/プラグインの config.json に isName=true の property 値を入力する
サーバ実行内容	以下の実行内容から選択する • 起動 • シャットダウン • 電源オフ

項目名	説明
	• 再起動 • 同期(追加) • 同期(更新) • 同期(削除) • その他の操作
実行結果	実行結果を選択する • 成功 • 失敗 • 開始
実行者	実行者
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

30.5.2　運用作業履歴の詳細情報を確認する（管理者）

運用作業履歴一覧の確認したい作業履歴列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

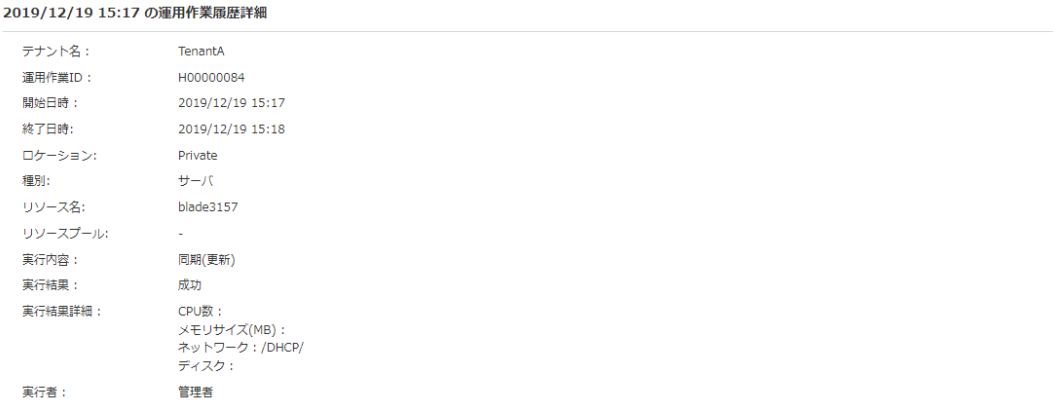

図 30-18　運用作業履歴詳細画面

表 30-19　項目一覧（運用作業履歴詳細）

項目名	説明
テナント名	テナント名 ※システム管理者のみ表示
運用作業 ID	運用作業 ID
開始日時	開始日時
終了日時	終了日時 実行結果が「開始」の場合、操作が完了していないため終了日時は表示されません。
ロケーション	当該サーバの所在地
種別	サーバ/config.json の displayKey で設定されたプラグイン
リソース名	リソース名
リソースプール	当該サーバのリソースプール名 ※1

項目名	説明
実行内容	以下のいずれかの実行内容を表示する • 起動 • シャットダウン • 電源オフ • 再起動 • 同期(追加) • 同期(変更) • 同期(削除) • カスタムオペレーションの場合、カスタムオペレーション定義ファイルの表示名を表示
実行結果	以下のいずれかの実行結果を表示する • 成功 • 失敗 • 開始
実行結果詳細	実行結果の詳細 ※2 ※3
実行者	実行者

注

※1 同期やリソース情報更新コマンドで取り込んだパブリッククラウド上のサーバのリソースプールは表示されません。

ヒント

- ※2 実行内容がカスタムオペレーション(ジョブネットワーク)実行に失敗した場合、以下のエラーが表示されます。表示されているトラッカーの ID をもとに JobCenter にて原因を確認してください。

  その他の操作が異常終了しました。システム管理者にお問い合わせください。`tracker_id : XXX`

  実行内容がカスタムオペレーション(バッチファイル)実行に失敗した場合、以下のファイルに結果が出力されます。ファイルを開き、原因を確認してください。

  ```
  C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\logs\performance.log
  ```

- ※3 実行内容が同期の場合、同期を行ったユーザの言語ロケールで実行結果詳細が登録されます。

第 31 章
サービス管理

本章では、サービス管理メニューについて説明します。

サービス管理メニューでは、以下の機能があります。

- メンテナンス管理
- お知らせ管理

31.1　メンテナンス管理

本節では、メンテナンス管理機能について説明します。

31.1.1　メンテナンス一覧

メニューから、「サービス管理」－「メンテナンス管理」をクリックすることにより、メンテナンス一覧画面を表示します。

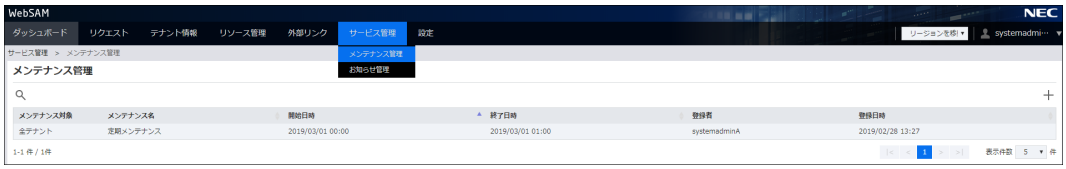

図 31-1　メンテナンス管理画面

表 31-1　項目一覧（メンテナンス一覧）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
メンテナンス登録	メンテナンス登録（入力）画面を表示する
メンテナンス一覧	メンテナンス一覧を表示する

メンテナンスを検索する場合は、メンテナンス一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 31-2　項目一覧（メンテナンス一覧検索画面）

項目名	説明
メンテナンス対象	メンテナンス対象のテナント名
メンテナンス名	メンテナンス名
メンテナンス期間	メンテナンス期間
登録者	メンテナンスの登録者
登録期間	メンテナンスの登録期間
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

31.1.2　メンテナンスを登録する

メンテナンスの追加方法を以下に示します。

1. メンテナンス一覧画面にて、[メンテナンス登録]アイコン＋をクリックします。

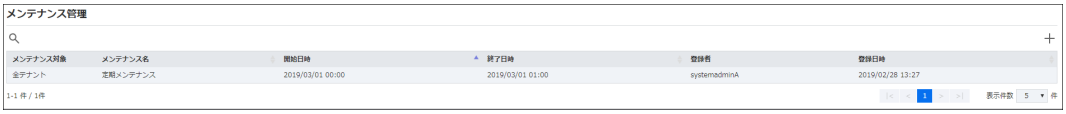

図 31-2　メンテナンス一覧画面

2. メンテナンス登録（入力）画面が表示されます。下記の表を参照し、各項目を入力後「次へ」ボタンを押下します。

図 31-3　メンテナンス登録（入力）画面

表 31-3　項目一覧（メンテナンス登録画面）

項目名	入力規則	説明
メンテナンス対象	－	「対象選択」ボタンをクリックして選択ダイアログを表示し、メンテナンス対象のテナントを選択する 下図参照
全テナント	－	チェックした場合、全テナント選択状態となる
メンテナンス名	64 文字	メンテナンス名を入力する
表示メッセージ	－	表示メッセージを入力する
開始日時	1970/01/01/ 00:00(UTC)～ 2999/12/31 23:59(UTC)	開始日時を入力する
終了日時	1970/01/01/ 00:00(UTC)～ 2999/12/31 23:59(UTC)	終了日時を入力する
メンテナンス中のシステム管理者操作の可否	－	・操作可能 ・操作不可能 のいずれか 【メンテナンス中の管理者操作を不可にした場合】 メンテナンス対象が全テナントの場合:ログイン不可 メンテナンス対象がテナントを指定している場合:該当テナントのテナント代行不可

【メンテナンス対象の選択】

「使用可能」欄からメンテナンス対象のテナントを選択して「追加」ボタンを押下します。対象テナントをすべて選択後、「選択」ボタンを押下します。

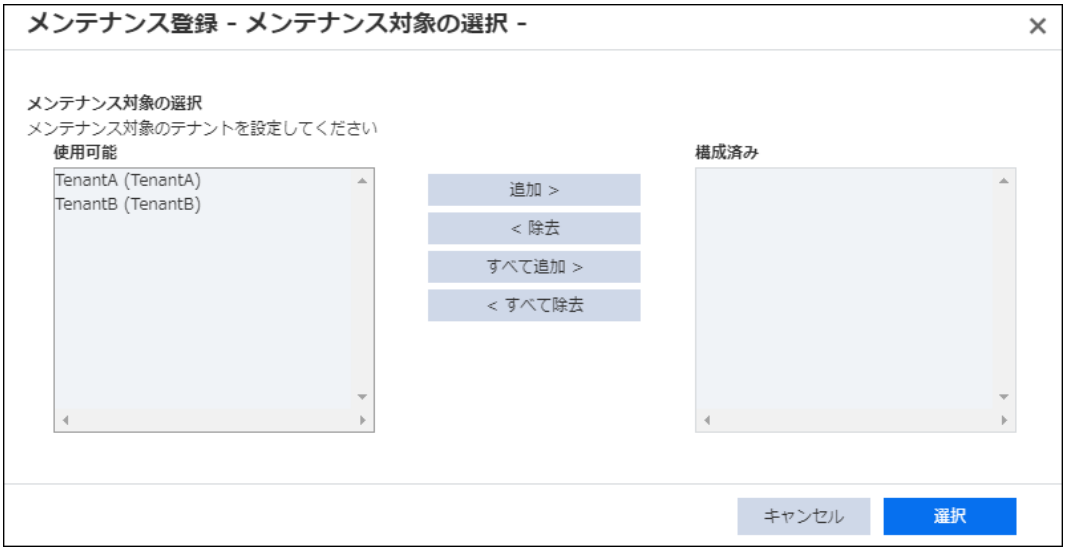

図 31-4　メンテナンス対象選択画面

3. メンテンス登録（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することによりメンテナンスが登録されます。

図 31-5　メンテンス登録（確認）画面

注

・メンテナンスの「内容」に記載した文字列は、そのまま HTML のコードとしてメンテナンス中画面に埋め込まれます。 従って、メンテナンス中画面上でメッセージを改行させたい場合は
や<p>等の HTML タグを使用する必要があります。また、HTML での特殊文字については、適切にエスケープしてください。

・メンテナンスの開始時、終了時には最大 5 分の誤差が発生します。

・誤って管理者によるログインを不可にしてしまった場合

SQLServer の場合、以下のコマンドを実行し、全てのメンテナンスの「メンテナンス中の管理者操作の可否」を操作可能に変更します。

```
>sqlcmd -E -S localhost\SSCCMDB -i "C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\portal\sql\login_during_maintenance.sql"
```

※SQL Server のインスタンス名（SSCCMDB）、インストールパス（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA）が異なる場合は読み替えてください。

PostgreSQL の場合、以下のコマンドを実行し、全てのメンテナンスの「メンテナンス中の管理者操作の可否」を操作可能に変更します。

```
set PGPASSWORD=password
psql -h localhost -p 5432 -U postgres -d cloudportal -f "C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\portal\sql\login_during_maintenance_Postgres.sql"
```

PostgresSQL のホスト名（localhost）、 ポート番号（5432）、管理者ユーザ名（postgres）、管理者パスワード（password）、インストールパス（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA）が異なる場合は読み替えてください。

31.1.3　メンテナンス中の動作

メンテナンス中にログインした場合、メンテナンス登録時に設定したメッセージが表示されます。

また、ログイン中にメンテナンス期間に入った場合は次の画面遷移時にメンテナンスの画面に切り替わります。

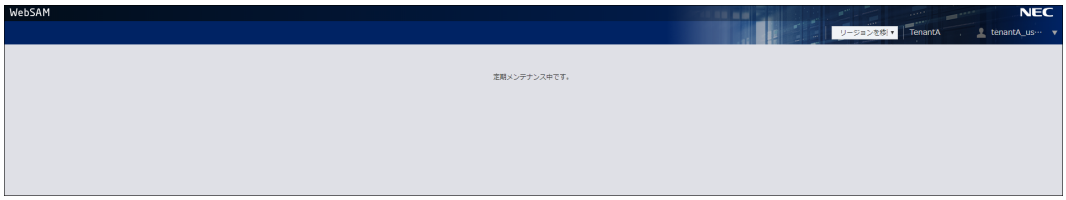

図 31-6　メンテナンス画面

メンテナンス中の管理者操作を可能にしている場合は、システム管理者のみ通常操作が可能です。

また、メンテナンス期間中にシステム管理者が対象メンテナンスを削除した場合、メンテナンス期間は終了し、通常運用に戻ります。

注

メンテナンス中画面が表示されている間にメンテナンス期間が終了した場合、画面をリロードするとメンテナンス中を示す既定のメッセージ （サーバメンテナンス中のため、全てのサービスがご利用になれません。）が表示されます。 このメッセージが表示された場合、ログインし直すか、タイトルのロゴ画像を押下することでトップページに遷移してください。

31.1.4　メンテナンスの詳細情報を確認する

メンテナンス一覧の確認したいメンテナンス列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

図 31-7　メンテナンス詳細画面

表 31-4　項目一覧（メンテナンス詳細）

項目名	説明
メンテナンス対象	メンテナンス対象
メンテナンス名	メンテナンス名
開始日時	メンテナンスの開始日時

項目名	説明
終了日時	メンテナンスの終了日時
登録者	メンテナンスの登録者
登録日時	メンテナンスを登録した日時
表示メッセージ	メンテナンス画面に表示するメッセージ
メンテナンス中のシステム管理者操作の可否	メンテナンス中にシステム管理者が操作可能か ・操作可能 ・操作不可能 【メンテナンス中の管理者操作不可の場合】 メンテナンス対象が全テナントの場合:ログイン不可 メンテナンス対象がテナントを指定している場合:該当テナントのテナント代行不可
メンテナンス変更	メンテナンス変更画面を表示する
メンテナンス削除	メンテナンス削除ダイアログを表示する

31.1.5　メンテナンスを変更する

メンテナンスの変更方法を以下に示します。

1. メンテナンス詳細画面にて、[メンテナンス変更]アイコン をクリックします。

図 31-8　メンテナンス詳細画面

2. メンテナンス変更（入力）画面が表示されます。 「31.1.2　メンテナンスを登録する（231 ページ）」の「表 31-3 項目一覧（メンテナンス登録画面）（231 ページ）」を参照し、各項目を編集後「次へ」ボタンを押下します。

図 31-9　メンテナンス変更（入力）画面

3. メンテナンス変更（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することにより変更が反映されます。

図 31-10　メンテナンス変更（確認）画面

31.1.6　メンテナンスを削除する

メンテナンスの削除方法を以下に示します。

1. メンテナンス詳細画面にて[メンテナンス削除]アイコンをクリックします。

図 31-11　メンテナンス詳細画面

2. メンテナンス削除（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することでメンテナンスを削除します。

図 31-12　メンテナンス削除画面

31.2　お知らせ管理

本節では、お知らせ管理機能について説明します。

ダッシュボードにて対象テナントに通知するお知らせを管理することができます。

システム管理者は公開先のテナントを指定することが可能です。テナント管理者は自テナントのお知らせのみ管理可能です。

31.2.1　お知らせ一覧

メニューから、「サービス管理」－「お知らせ管理」をクリックすることにより、お知らせ一覧画面を表示します。

図 31-13　お知らせ管理画面

表 31-5　項目一覧（お知らせ一覧）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
お知らせ登録	お知らせ登録画面を表示する
お知らせ一覧	お知らせ一覧を表示する

お知らせを検索する場合は、お知らせ一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 31-6　項目一覧（お知らせ一覧検索画面）

項目名	説明
公開先	公開先のテナント
掲載期間	掲載期間
状態	状態のいずれか ・掲載終了 ・掲載中 ・未掲載
タイトル	タイトル
お知らせ内容	お知らせ内容
添付	添付ファイルの有無 ・あり ・なし
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

31.2.2　お知らせを登録する

お知らせの追加方法を以下に示します。

1. お知らせ一覧画面にて、[お知らせ登録]アイコン＋をクリックします。

図 31-14　お知らせ一覧画面

2. お知らせ（入力）画面が表示されます。下記の表を参照し、各項目を入力後「確定」ボタンを押下します。

図 31-15　お知らせ登録（入力）画面

表 31-7　項目一覧（お知らせ登録）

項目名	入力規則	説明
公開先	―	公開範囲選択ボタンを押下して公開対象選択ダイアログを表示し、公開対象対象を選択する 下図「公開先の選択ダイアログ」参照 全テナント対象のチェックボックスにチェックすることで全テナント選択状態となる

項目名	入力規則	説明
開始日時	1970/01/01/ 00:00(UTC)～ 2999/12/31 23:59(UTC)	開始日時を入力する。
終了日時	1970/01/01/ 00:00(UTC)～ 2999/12/31 23:59(UTC)	終了日時を入力する。
タイトル	64 文字	タイトルを入力する
お知らせ内容	255 文字	お知らせ内容を入力する
添付ファイル	－	添付ファイル名を表示する
ファイルを選択	－	添付ファイルを選択するダイアログを表示する 添付ファイルは 10MB まで添付可能 ※0byte のファイルは添付できません 添付ファイルの登録先については「4.2　クラスタ共有ディスクの設定方法（23 ページ）」を参照

注

・お知らせの添付ファイルに巨大なファイルを指定するとアップロード処理に非常に時間がかかります。10M バイト以上のファイルをアップロードしても登録はエラーになりますので 10M バイト以上のファイルを指定しないようにしてください。

【公開対象の選択】

「使用可能」欄から公開対象のテナントを選択して「追加」ボタンを押下します。対象テナントをすべて選択後、「選択」ボタンを押下します。

なお、すべてのテナントを対象とする場合は「すべて追加」ボタンにより全テナントが追加されます。

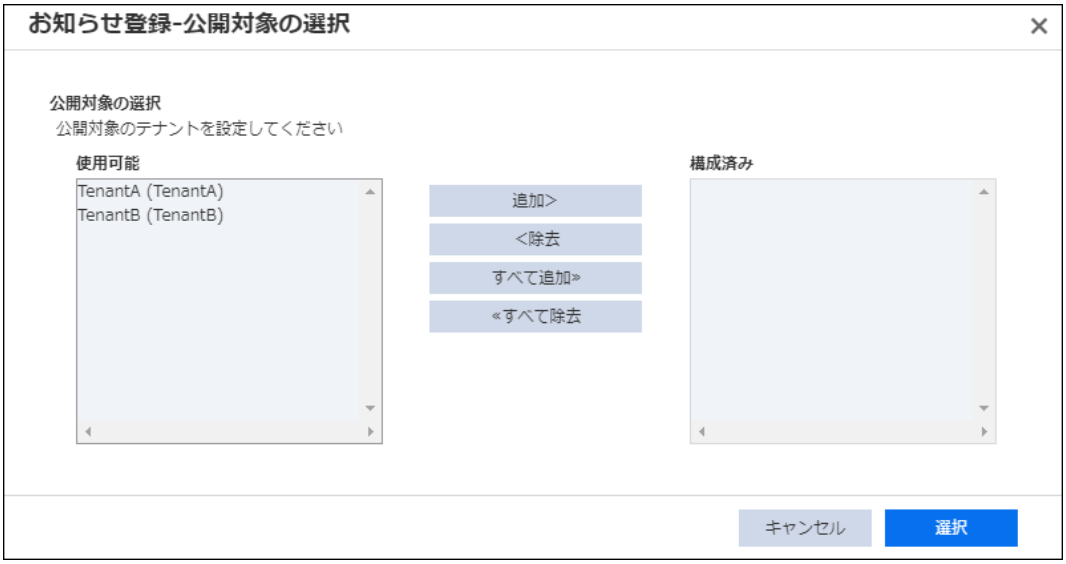

図 31-16　公開先の選択ダイアログ

3. お知らせが登録され、お知らせ登録（確認）画面が表示されます。「確認」ボタンを押下します。

図 31-17　お知らせ登録（確認）画面

注

- お知らせ登録、変更画面において「全テナントを対象」チェックボックスにチェックをし、なおかつ公開範囲選択でテナントを指定した場合、公開範囲選択の内容に関わらず「全テナントを対象」になります。公開範囲選択と「全テナントを対象」のチェックを同時に指定しないでください。

31.2.3　お知らせの詳細情報を確認する

お知らせ一覧の確認したいお知らせ列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

図 31-18　お知らせ詳細画面

表 31-8　項目一覧（お知らせ詳細）

項目名	説明
公開先	公開先のテナント ※システム管理者の場合のみ表示
開始日時	開始日時
終了日時	終了日時
状態	・掲載終了 ・掲載中 ・未掲載 のいずれか
タイトル	タイトル
お知らせ内容	お知らせ内容
添付ファイル	添付ファイル名および添付ファイルへのリンク
登録者	登録者
登録日時	登録日時
お知らせ変更	お知らせ変更画面を表示する
お知らせ削除	お知らせ削除画面を表示する

31.2.4　お知らせの内容を変更する

お知らせの変更方法を以下に示します。

1. お知らせ詳細画面にて、[お知らせ変更]アイコンをクリックします。

図 31-19　お知らせ詳細画面

2. お知らせ変更（入力）画面が表示されます。「31.2.2　お知らせを登録する（236 ページ）」の「表 31-7 項目一覧（お知らせ登録）（236 ページ）」を参照し、各項目を編集してください。「確定」ボタンを押下することにより、変更が反映されます。

   添付ファイルを削除する場合は「添付ファイル削除」のチェックボックスにチェックしてください。

注

添付ファイル削除にチェックを付けた場合は、ファイル選択は無効になり、ファイルを選択していた場合も未選択状態になります。

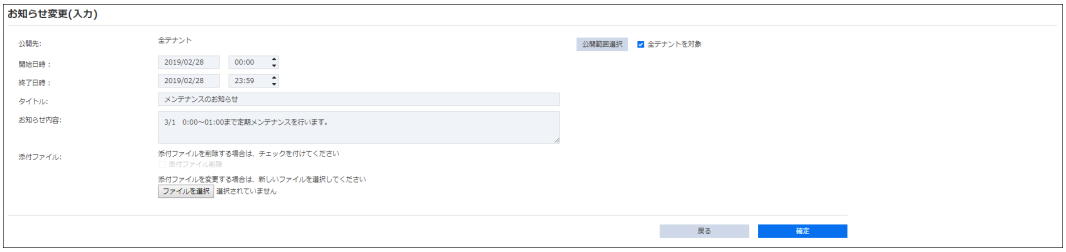

図 31-20　お知らせ変更（入力）画面

3. お知らせ変更（確認）画面が表示されます。「確認」ボタンを押下します。

図 31-21　お知らせ変更（確認）画面

31.2.5　お知らせを削除する

お知らせの削除方法を以下に示します。

1. お知らせ詳細画面にて[お知らせ削除]アイコンをクリックします。

図 31-22　お知らせ詳細画面

2. お知らせ削除（確認）画面が表示されます。「確認」ボタンを押下することでお知らせを削除します。

図 31-23　お知らせ削除（確認）画面

第 32 章
スタック管理（管理者）

スタック管理画面では、作成されたスタック情報を参照することができます。

テナント代行をしているシステム管理者はスタックの作成・削除が行えます。

リクエスト方法については、「35.1　リクエスト管理（利用者）（268 ページ）」を参照してください。

32.1　スタック一覧

メニューから、「スタック管理」をクリックすることにより、スタック一覧画面を表示します。

注

スタック一覧表示時は、全テナントのスタック一覧が表示されます。

図 32-1　スタック管理画面

表 32-1　項目一覧（スタック管理画面）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
スタック一覧	スタックの一覧を表示する

スタックを検索する場合は、スタック一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目を入力して検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 32-2　項目一覧（スタック一覧検索画面）

項目名	説明
テナント名	スタックを所有しているテナント名を指定する
スタック ID	スタック ID を指定する
スタック名	スタック名を指定する
スタック説明	スタックの説明を指定する
備考	スタックの備考を指定する
リソース ID	スタックに含まれるリソースのリソース ID を指定する
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す

項目名	説明
検索	ボタン押下で検索を実施する

32.2　スタックの詳細情報を確認する

スタック一覧から確認したいスタックをクリックすることにより、詳細情報を表示します。

図 32-2　スタック詳細画面

また、詳細情報では以下の情報が確認できます。

- 詳細
- トポロジー
- リソース
- トポロジーテンプレート

32.2.1　【詳細】

一覧からスタックをクリックした初期画面、または詳細画面表示中に「詳細」タブをクリックすることにより、詳細情報を表示します。

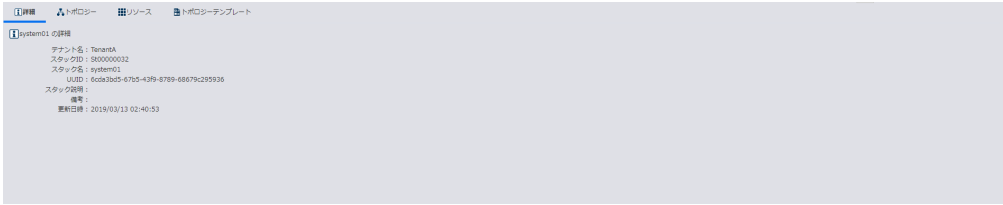

図 32-3　スタック情報詳細画面（詳細）

表 32-3　項目一覧（詳細）

項目名	説明
テナント名	スタックを所有しているテナント名を表示する
スタック ID	スタックのスタック ID を表示する
スタック名	スタック名を表示する スタック作成時に入力したスタック名が表示される
UUID	スタックの UUID（スタックを一意に識別する値）を表示する
スタック説明	スタックの説明を表示する スタック作成時に入力したスタック説明が表示される
備考	スタックの備考を表示する

項目名	説明
	スタック作成時に入力した備考が表示される
更新日時	スタックの更新日時（リクエスト完了日時）を表示する

32.2.2　【トポロジー】

詳細画面表示中に「トポロジー」タブをクリックすることにより、トポロジー情報を表示します。

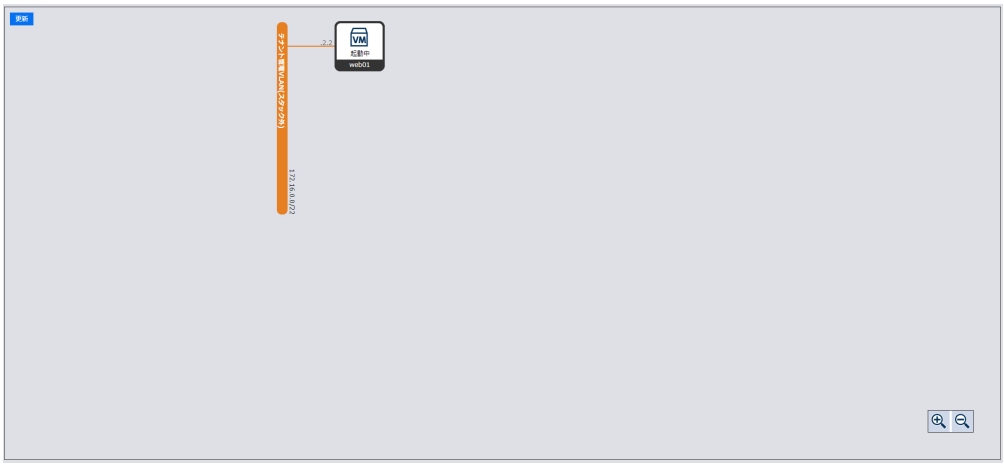

図 32-4　スタック情報詳細画面（トポロジー）

ヒント

トポロジーマップの操作については、「37.3　トポロジー表示（337 ページ）」を参照してください。

ただし、vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションでは、以下が vDCA SE ポータルと異なります。

- スタックに含まれない論理ネットワークも表示されます。 スタックに含まれない論理ネットワークは「ネットワーク名（スタック外）」と表示されます。
- スタックで作成したネットワークは、ネットワーク表示名を変更できません。 ネットワーク表示名の変更を行う場合は「37.3.1　ネットワーク表示名の変更（338 ページ）」で行ってください。

注

- vDCA SE ポータルからスタックに含まれるサーバを個別に削除した場合、トポロジーマップには当該サーバは表示されません。
- ツールチップに表示されるサーバ名をクリックすることにより、サーバ詳細画面に遷移することができますが、ネットワーク表示名からネットワーク詳細画面に遷移することはできません。

32.2.3　【リソース】

詳細画面表示中に「リソース」タブをクリックすることにより、リソース情報を表示します。

図 32-5　スタック情報詳細画面（リソース）

また、リソース詳細情報では以下の情報が確認できます。

- サーバ
- ネットワーク

32.2.3.1　【サーバ】

詳細画面（リソース）表示中に「サーバ」タブをクリックすることにより、スタックに含まれるサーバの一覧を表示します。

図 32-6　スタック情報詳細画面（サーバ一覧）

表 32-4　項目一覧（サーバ）

項目名	説明
リソース ID	サーバのリソース ID（SigmaSystemCenter 上で管理されているサーバの UUID）を表示する
状態	スタック管理サーバで管理されているリソースの状態を表示する
サーバ ID	サーバ ID を表示する
サーバ名	サーバ名を表示する
稼動状態	サーバの電源状態を表示する • 起動中 • 停止中 • 電源オフ中 • 再起動中 • サスペンド • 休止中 • その他 • 削除済み • エラー
OS	サーバの OS 名を表示する

注

vDCA SE ポータルからスタックに含まれるサーバを個別に削除した場合、当該サーバには、状態に「削除済み」を表示し、サーバ ID、サーバ名、OS は表示されません。

スタック情報詳細画面（サーバ一覧）に表示されているサーバをクリックすることにより、対象サーバの詳細情報がアトリビュートダイアログに表示されます。

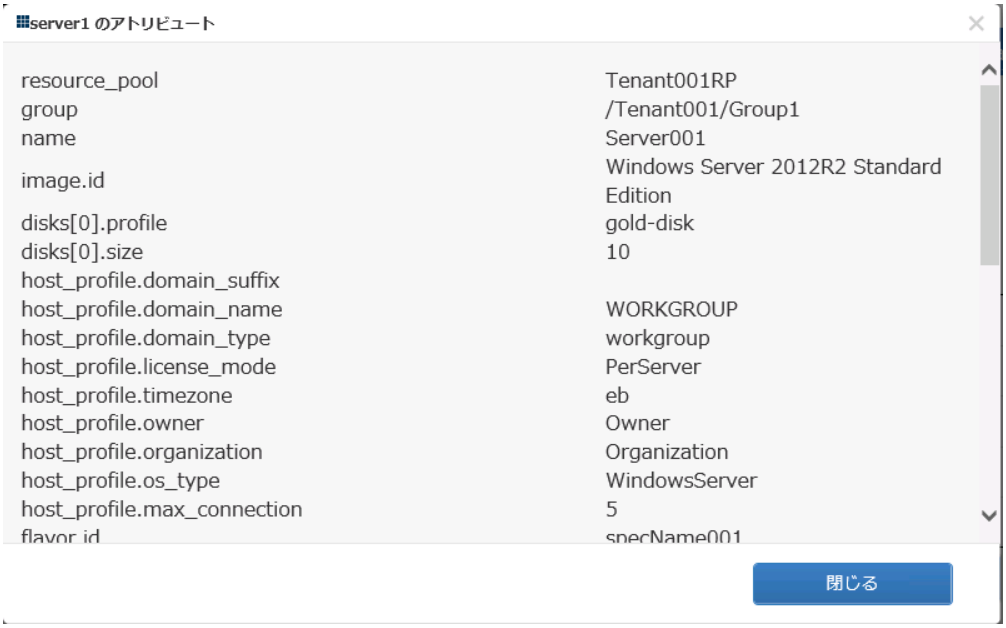

図 32-7　アトリビュートダイアログ

ヒント

アトリビュートダイアログの表示内容については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』 の『付録 B. トポロジーテンプレートの書式』の『B.3.2.2 リソースタイプ』を参照してください。

注

vDCA SE ポータルからスタックに含まれるサーバに対して個別に構成変更を行った場合、アトリビュートダイアログに表示される情報と、当該サーバの詳細情報に表示される情報に乖離が生じます。

32.2.3.2　【ネットワーク】

詳細画面（リソース）表示中に「ネットワーク」タブをクリックすることにより、スタックに含まれるネットワークの一覧を表示します。

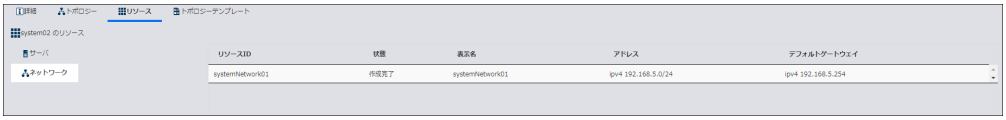

図 32-8　スタック情報詳細画面（ネットワーク一覧）

表 32-5　項目一覧（ネットワーク）

項目名	説明
リソース ID	論理ネットワークのリソース ID（SigmaSystemCenter 上で管理されている論理ネットワーク名）を表示する
状態	スタック管理サーバで管理されているリソースの状態を表示する

項目名	説明
表示名	「37.3.1　ネットワーク表示名の変更（338 ページ）」にて設定された表示名を表示する
アドレス	IP バージョン、アドレス（CIDR）を表示する
デフォルトゲートウェイ	IP バージョン、デフォルトゲートウェイの IP アドレスを表示する

スタック情報詳細画面（ネットワーク一覧）に表示されているネットワークをクリックすることにより、対象ネットワークの詳細情報がアトリビュートダイアログに表示されます。

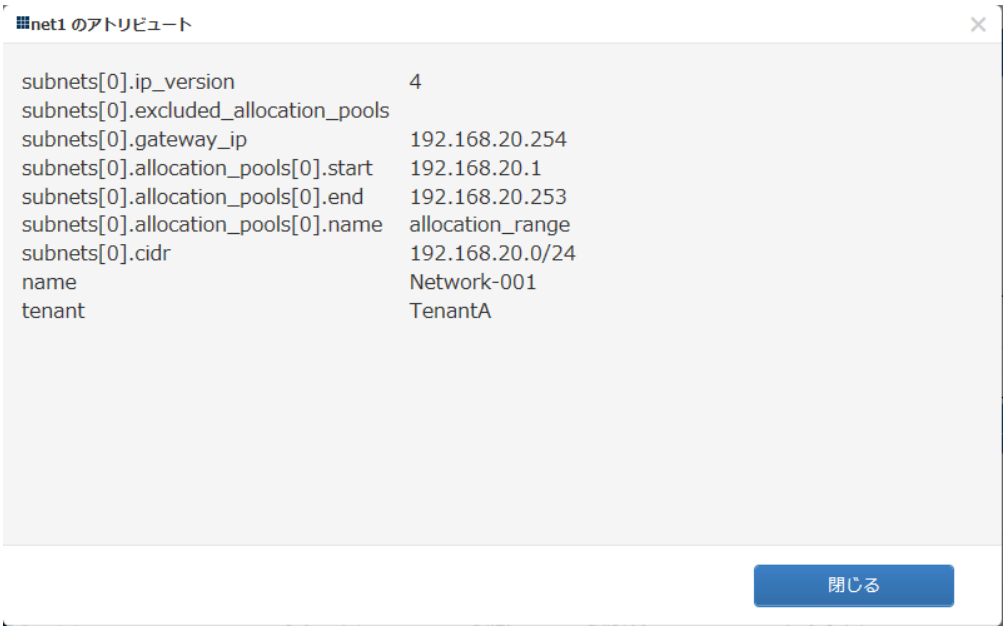

図 32-9　アトリビュートダイアログ

ヒント

アトリビュートダイアログの表示内容については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『付録 B. トポロジーテンプレートの書式』の『B.3.2.2 リソースタイプ』を参照してください。

32.2.4　【トポロジーテンプレート】

詳細画面表示中に「トポロジーテンプレート」タブをクリックすることにより、トポロジーテンプレート情報を表示します。

図 32-10　スタック情報詳細画面（トポロジーテンプレート）

表 32-6　項目一覧（トポロジーテンプレート）

項目名	説明
トポロジーテンプレート	スタック作成時に設定したトポロジーテンプレートを表示する
パラメータ	トポロジーテンプレートに設定した入力パラメータのキー、スタック作成時に入力した入力パラメータの値を表示する
出力	トポロジーテンプレートに設定した出力パラメータのキーと説明、スタック作成時の出力パラメータの値を表示する

第 33 章
設定

本章では、運用設定について説明します。

33.1　メール通知

メール通知機能は、リクエストが状態遷移（承認・却下など）した際、適任者へ次のアクションを促すための通知を実現します。

本機能は以下の設定が必要です。

- システム管理者は以下を設定する必要があります。
  - 設定ファイルにてメール通知機能に使用するパラメータの設定を行う

    設定方法については、「33.1.3　メール通知用設定項目の編集（255 ページ）」を参照してください。
  - 運用設定から本機能を有効にし、メールサーバなどの設定を行う

    設定方法については、「33.2.2　運用設定を編集する（257 ページ）」を参照してください。
- テナント管理者がメール通知設定から通知タイミングに応じたメール内容を設定する

  設定方法については、「33.1.1　メール通知で利用可能な置換文字列（248 ページ）」「33.1.2　メール内容の既定値(メールテンプレート)（250 ページ）」を参照してください。

33.1.1　メール通知で利用可能な置換文字列

メール通知内容を設定する際、表題およびメール内容に置換文字列を設定することが可能です。

利用可能な置換文字列は、以下の通りです。

表 33-1　置換文字列一覧

置換文字列	置換内容
$REQUEST_KIND$	リクエスト種別を示す文字列(英語) メール通知の契機となったリクエストの種別文字列 ・Server ・Network ・Custom Operation
$OPERATION_KIND$	操作種別を示す文字列(英語) メール通知の契機となったリクエストの操作種別文字列 ・Create ・Modify ・Delete ・Execute

置換文字列	置換内容
$PRODUCT_NAME$	製品名示す文字列 置換される製品名は、「33.1.3　メール通知用設定項目の編集（255 ページ）」を参照
$NOTICE_DATE$	メール通知をおこなった際の現在日時を示す文字列 YYYY/MM/DD HH:MM:SS
$APPLICANT$	申請者を示す文字列
$APPROVER$	承認者を示す文字列 複数人居る場合には、最終承認者
$REQUEST_SUMMARY$	リクエストの概要を示す文字列(英語) ■実行完了以外 ・Request Date : YYYY/MM/DD HH:MM:SS ・Request Type : Server or Network ・Operation Type : Create, Modify, Deletek ■実行完了 「表 33-2 実行完了時の$REQUEST_SUMMARY$表示項目（249 ページ）」を参照
$REQUEST_DETAIL_URL$	メール通知でのリクエスト詳細が参照可能な URL を示す文字列
$TENANT_NAME$	対象のテナント・ユーザが所属するテナントの表示名
$TENANT_ID$	対象のテナント・ユーザが所属するテナントのテナント ID
$USER_NAME$	対象のユーザの表示名
$USER_ID$	対象のユーザのユーザ ID
$LOGIN_URL$	ポータルにログインするための URL 詳細は「33.1.3　メール通知用設定項目の編集（255 ページ）」を参照

表 33-2　実行完了時の$REQUEST_SUMMARY$表示項目

表示内容	サーバ			ネットワーク		カスタムオペレーション
	作成	変更	削除	作成	削除	実行
リクエスト日時	○	○	○	○	○	○
リクエスト種別	○	○	○	○	○	○
操作種別	○	○	○	○	○	○
サーバ名	○	○	○	×	×	×
ログイン情報	×	×	×	×	×	×
ネットワーク名	×	×	×	○	○	×
カスタムオペレーションの表示名	×	×	×	×	×	○

注

メール通知内容の変換(文字列の置換)処理でエラー発生時は、置換文字列がそのままメール内容として送付されます。

33.1.2　メール内容の既定値(メールテンプレート)

1. 通知タイミングに応じたメールの表題や本文をあらかじめ設定することが可能です。なお、置換文字列を利用する場合は「33.1.1　メール通知で利用可能な置換文字列（248 ページ)」 を参照してください。

表 33-3　メール通知内容一覧

通知タイミング	宛先	メール内容種別
承認待ち	承認者	A
承認完了	申請者	B
却下	申請者	C
キャンセル	承認者	D
実行完了	申請者	E
実行エラー	申請者 テナント管理者 システム管理者	F
テナント管理者選択時	テナント管理者	G
テナントユーザ作成時	テナントユーザ	H

注

以下のタイミングで送信されるメール（表題・本文）はテナント承認者向けと事業者承認者向けともに同じ内容になります。

・承認待ち

・キャンセル

注

承認完了条件によって、承認者にキャンセル通知が届かない場合があります。

承認権限を持ついずれかのユーザが承認すること : 承認権限を持つすべてのユーザにキャンセル通知が届きます。

承認フローに設定されている全ての承認者が承認すること : 承認権限を持つ誰かが承認したあと、キャンセル操作が行われることで承認したユーザにのみキャンセル通知が届きます。

2. メール通知時の通知内容は、テナント作成時にあらかじめ、外部ファイルとして以下の通り設定します。

表 33-4　メール内容の既定値(メールテンプレート)

通知タイミング	記載内容	ファイル名
承認待ち	表題	approval-waiting-subject.txt
	本文	approval-waiting-body.txt

通知タイミング	記載内容	ファイル名
承認完了	表題	approval-completion-subject.txt
	本文	approval-completion-body.txt
却下	表題	reject-subject.txt
	本文	reject-body.txt
キャンセル	表題	cancel-subject.txt
	本文	cancel-body.txt
実行完了	表題	execution-completion-subject.txt
	本文	execution-completion-body.txt
実行エラー	表題	execution-error-subject.txt
	本文	execution-error-body.txt
テナント管理者選択時	表題	tenant-admin-created-subject.txt
	本文	tenant-admin-created-body.txt
テナントユーザ作成時	表題	tenant-user-created-subject.txt
	本文	tenant-user-created-body.txt

3. メールテンプレートの内容は、以下の通りです。

- メールテンプレート(メール内容種別：A)

  承認待ち時に承認者に対するメール通知

  表題

```
[$REQUEST_KIND$$OPERATION_KIND$ メール通知]
```

  本文

```
$PRODUCT_NAME$ から自動送信されています。

$NOTICE_DATE$ に $APPLICANT$からの承認依頼が届いています。

リクエスト概要は、以下の通りです。
$REQUEST_SUMMARY$
URLにアクセスし、リクエスト承認してください。
$REQUEST_DETAIL_URL$
```

- メールテンプレート(メール内容種別：B)

  承認完了時に申請者に対するメール通知

  表題

```
[$REQUEST_KIND$$OPERATION_KIND$ メール通知]
```

本文

```
$PRODUCT_NAME$ から自動送信されています。

$APPLICANT$から申請されたリクエストが、$NOTICE_DATE$ に承認完了しました。

リクエスト概要は、以下の通りです。
$REQUEST_SUMMARY$
URL にアクセスし、リクエスト詳細の確認、もしくはリクエスト実行してください。
$REQUEST_DETAIL_URL$
```

- メールテンプレート(メール内容種別：C)

却下時に申請者に対するメール通知

表題

```
[$REQUEST_KIND$$OPERATION_KIND$ メール通知]
```

本文

```
$PRODUCT_NAME$ から自動送信されています。

$NOTICE_DATE$ に $APPROVER$ によってリクエストが却下されました。

リクエスト概要は、以下の通りです。
$REQUEST_SUMMARY$
URL にアクセスし、リクエスト詳細を確認してください。
$REQUEST_DETAIL_URL$
```

- メールテンプレート(メール内容種別：D)

キャンセル時に承認者に対するメール通知

表題

```
[$REQUEST_KIND$$OPERATION_KIND$ メール通知]
```

本文

```
$PRODUCT_NAME$ から自動送信されています。

$NOTICE_DATE$ に $APPLICANT$ によってリクエストがキャンセルされました。
```

```
リクエスト概要は、以下の通りです。
$REQUEST_SUMMARY$
URL　　にアクセスし、リクエスト詳細を確認してください。
$REQUEST_DETAIL_URL$
```

注

運用の際、キャンセル操作を行うユーザが申請者ではなく承認者の場合、本文中の$APPLICANT$を$APPROVER$に読み替えてください。

- メールテンプレート(メール内容種別：E)

  実行完了時に申請者に対するメール通知

  表題

```
[$REQUEST_KIND$$OPERATION_KIND$ メール通知]
```

  本文

```
$PRODUCT_NAME$ から自動送信されています。

$APPLICANT$　　から申請されたリクエストが、$NOTICE_DATE$ に実行完了しました。

リクエストの概要は、以下の通りです。
$REQUEST_SUMMARY$
URL にアクセスし、リクエスト詳細を確認してください。
$REQUEST_DETAIL_URL$
```

- メールテンプレート(メール内容種別：F)

  実行エラー時に申請者、申請者が所属するテナント管理者、システム管理者に対するメール通知

  表題

```
[$REQUEST_KIND$$OPERATION_KIND$ メール通知]
```

  本文

```
$PRODUCT_NAME$ から自動送信されています。

$APPLICANT$ から申請されたリクエストが、$NOTICE_DATE$ に実行エラーしました。

リクエスト概要は、以下の通りです。
$REQUEST_SUMMARY$
URL にアクセスし、リクエスト詳細を確認してください。
```

```
$REQUEST_DETAIL_URL$
```

- メールテンプレート(メール内容種別：G)

  テナント管理者選択時にテナント管理者に対するメール通知

  表題

```
[$REQUEST_KIND$$OPERATION_KIND$ メール通知]
```

  本文

```
$PRODUCT_NAME$ から自動送信されています。

テナント管理者に選択されました

テナント名： $TENANT_NAME$
テナントID： $TENANT_ID$

以下のURLからログインしてください
$LOGIN_URL$
```

- メールテンプレート(メール内容種別：H)

  テナントユーザ作成選択時にテナントユーザに対するメール通知

  表題

```
[$REQUEST_KIND$$OPERATION_KIND$ メール通知]
```

  本文

```
$PRODUCT_NAME$ から自動送信されています。

テナント「$TENANT_NAME$($TENANT_ID$)」にテナントユーザを作成しました

ユーザ名： $USER_NAME$
ユーザID： $USER_ID$

以下のURLからログインしてください
$LOGIN_URL$
```

注

メールテンプレートファイルのパスは、設定ファイルで指定可能です。 設定項目および設定値の詳細については、 「33.1.3　メール通知用設定項目の編集（255 ページ）」 を参照してください。

33.1.3　メール通知用設定項目の編集

メール通知機能を利用する場合は、C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開き、以下を設定します。

表 33-5　メール通知用設定項目

設定項目	設定内容
product.cloudportal.base.url=*メール通知のアクセス URL を生成するためのベース URL* [必須]	外部から実際にアクセスできる URL を設定する
product.cloudportal.mail.notice.product.name=*メール通知テンプレート内の $PRODUCT_NAME$ に置換する製品名* [必須]	「33.1.2　メール内容の既定値(メールテンプレート)（250 ページ)」を参照
product.cloudportal.mail.notice.template.path=*テンプレートファイルへのパス*	メール通知テンプレートファイルへのパスを設定する 未設定時はデフォルトテンプレートファイルが使用される
product.cloudportal.operationoptions.secretkeyfile=*SMTP 認証パスワードをデータベースに保存する際の暗号化キーファイルのパス*	運用設定で設定した SMTP 認証パスワードをデータベースに保存する際の暗号化キーファイルのパスを設定する※1 未設定時は conf/NEC/secretkey.txt に自動生成される

※1 クラスタ構成の場合、キーファイルを共通にする必要があります。

【設定例】

```
# Base URL
product.cloudportal.base.url=http\://example.com/portal/

# メール通知製品名
product.cloudportal.mail.notice.product.name=[WebSAM]

# メール通知設定
product.cloudportal.mail.notice.template.path=C\:\\Tmp
product.cloudportal.operationoptions.secretkeyfile=C\:\\Tmp\\secretkey.txt
```

上記を記載後、ファイルの文字コードを UTF-8 で保存し、アプリケーションサーバ(Tomcat)を再起動します。 サーバーマネージャー の左側のパネルからローカルサーバーを選択し、サービスから「ServiceGovernor」を右クリックし、［サービスの再起動］を選択します。

33.2　運用設定

本節では、運用設定について説明します。

運用設定では、テンプレート一覧取得や論理ネットワークの一覧取得、メール通知のサーバ設定などをおこないます。

33.2.1　運用設定情報を確認する

メニューから、「設定」－「運用設定」をクリックすることにより、運用設定画面を表示します。

図 33-1　運用設定画面

表 33-6　項目一覧（運用設定）

項目名	説明
ジョブ取得間隔（秒）	ジョブの進捗を問い合わせる間隔を設定する ※間隔を短くするとより正確な情報になるが、負荷が高くなるため注意すること
テンプレート一覧取得時刻	定期的にテンプレート一覧を取得する時刻
今すぐ更新ボタン（テンプレート一覧取得）	押下することでテンプレート一覧を更新する
論理ネットワーク一覧取得時刻	定期的に論理ネットワーク一覧を取得する時刻
今すぐ更新ボタン（論理ネットワーク一覧取得）	押下することで論理ネットワークを更新する
運用作業履歴保持期間（日）	運用作業履歴を保持する期間
運用作業履歴削除時刻	ここで設定した時刻に作業履歴をチェックし、運用作業履歴保持期間を過ぎた履歴を削除する
メール通知	メール通知の有無 ※「通知しない」が設定されている場合は、以下のメール通知設定項目は非表示
メール通知テスト送信	サーバ設定の正当性を確認するためにテストメールを送信する
メールサーバホスト名	メール通知で使用するメールサーバのホスト名
メールサーバポート番号	メール通知で使用するメールサーバのポート番号
送信元メールアドレス	メール通知で使用する送信元メールアドレス
送信エラー時の転送有無	メール送信にエラーした場合のメール転送の有無 ※「転送しない」設定の場合には、「転送先メールアドレス」は非表示
転送先メールアドレス	メール通知で送信エラーが起こった場合の転送先メールアドレス ※送信エラー時の転送有無が「転送しない」設定の場合は非表示
SMTP 認証の使用	メール通知でメール送信時の SMTP 認証の有無 ※「転送しない」設定の場合には、「転送先メールアドレス」は非表示
認証方式	SMTP 認証時の認証方式 ※SMTP 認証の使用が「使用しない」設定の場合は非表示
ユーザ名	SMTP 認証時に使用するユーザ名

項目名	説明
パスワード	SMTP 認証時に使用するパスワード（●●●で表示）
パスワード更新	チェックがある場合はパスワードの入力チェックを実施し、チェックが無い場合にはパスワードチェックを実施せず、パスワード未変更とする
編集	押下することにより「運用設定変更(入力)画面」を表示する

33.2.2　運用設定を編集する

運用設定の編集方法を以下に示します。

1. 運用設定画面にて、「編集」をクリックします。

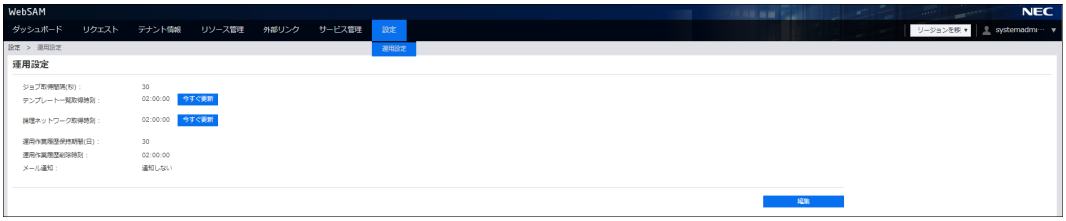

図 33-2　運用設定画面

2. 運用設定変更(入力)画面が表示されます。下記の表を参照し、各項目を編集後「確定」ボタンを押下することにより変更が反映されます。

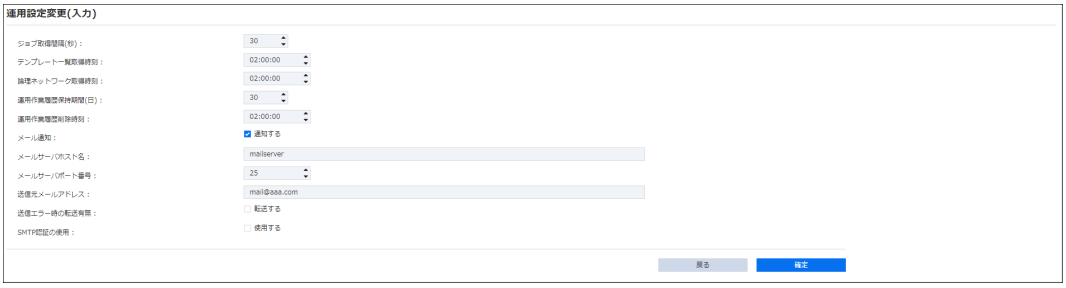

図 33-3　運用設定変更(入力)画面

表 33-7　項目一覧（運用設定変更）

項目名	入力規則	初期値	説明
ジョブ取得間隔	1-3600	30	ジョブ取得間隔(秒)
テンプレート一覧取得時刻	―	02:00:00	HH:MM:SS 形式で時刻を入力する
論理ネットワーク一覧取得時刻	―	02:00:00	HH:MM:SS 形式で時刻を入力する
運用作業履歴保持期間	1-365	30	運用作業履歴保持期間(日数)
運用作業履歴削除時刻	―	02:00:00	HH:MM:SS 形式で時刻を入力する
メール通知	―	チェックなし	メール通知の有無を設定する ※チェックを外している場合は、以下のメール通知設定項目は非表示

項目名	入力規則	初期値	説明
メールサーバホスト名	1～64 文字 RFC 952 に準拠 アルファベット(a-zA-Z)、数字(0-9)、マイナス(-)、ピリオド(.)の半角文字	ー	メール通知で使用するメールサーバのホスト名を入力する
メールサーバポート番号	0～65535	25	メール通知で使用するメールサーバのポート番号を入力する
送信元メールアドレス	3～255 文字 e-mail 形式(RFC2822 に準拠)	ー	メール通知で使用する送信元メールアドレスを入力する
送信エラー時の転送有無	ー	チェックなし	メール送信にエラーした場合のメール転送の有無を設定する ※「転送しない」設定の場合には、「転送先メールアドレス」は非表示
転送先メールアドレス	3～255 文字 e-mail 形式(RFC2822 に準拠)	ー	メール通知で送信エラーが起こった場合の転送先メールアドレスを入力する ※送信エラー時の転送有無が「転送しない」設定の場合は非表示
SMTP 認証の使用	ー	チェックなし	メール送信時の SMTP 認証の有無を入力する ※「転送しない」設定の場合には、「転送先メールアドレス」は非表示
認証方式	・CRAM-MD5 ・PLAIN	CRAM-MD5	SMTP 認証時の認証方式を設定する ※SMTP 認証の使用が「使用しない」設定の場合は非表示
ユーザ名	1～32 文字	ー	SMTP 認証時に使用するユーザ名を入力する
パスワード	1～32 文字	ー	SMTP 認証時に使用するパスワード（●●●で表示）を入力する

第 6 編
利用者操作編

本編では、利用者が操作する機能について説明します。

第 34 章
ダッシュボード

「ダッシュボード」画面では、ユーザの好みにあわせ、ウィジェットを配置することができます。

本章では、ウィジェットの参照、配置、削除等、ウィジェットに対する操作について説明します。

配置できるウィジェットの種類は、サーバ側の設定とユーザの権限によって異なります。

34.1　ウィジェットの表示

メニューから、[ダッシュボード]をクリックすることにより、「ダッシュボード」画面が表示され、ダッシュボード上にウィジェットを表示します。

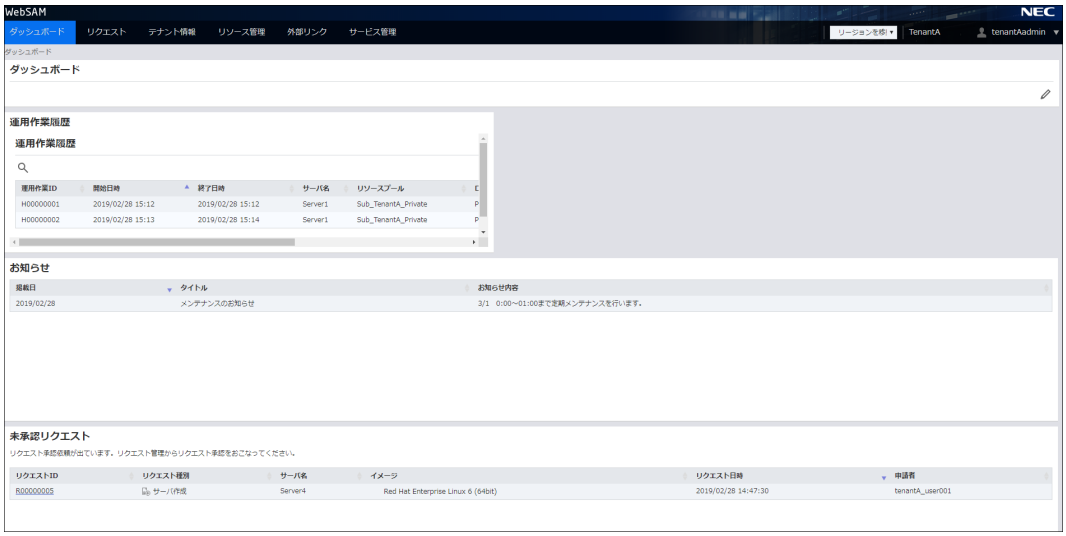

図 34-1　「ダッシュボード」画面 ウィジェット表示

各ウィジェットは、マウスで操作することができます。

各ウィジェットを操作した後、ウィジェットの初期表示に戻りたい場合は、ページの再読み込みを行ってください。

34.2　ウィジェットの追加

ダッシュボードにウィジェットを追加する方法を説明します。

1. 「ダッシュボード」画面にて、[カスタマイズ]アイコン をクリックします。

   「ダッシュボード」画面がカスタマイズモードに切り替わり、カスタマイズメニューが表示されます。

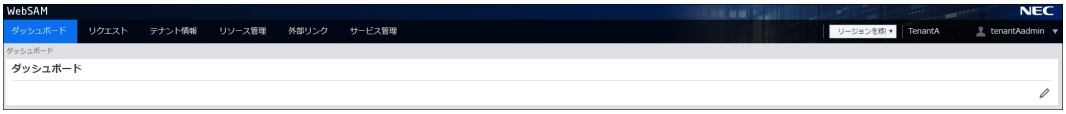

図 34-2　「ダッシュボード」画面 カスタマイズメニュー

2. 「ダッシュボード」画面にて、[ウィジェット追加]アイコン＋をクリックします。

   「ウィジェット追加」ダイアログが表示されます。

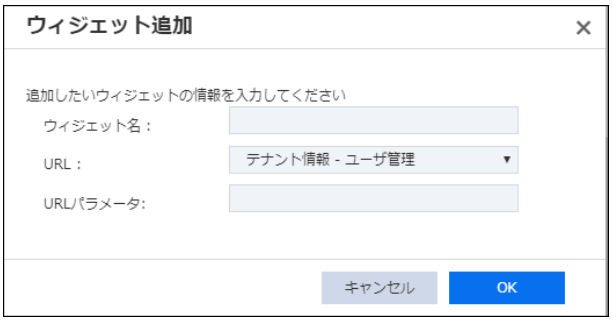

図 34-3　「ウィジェット追加」ダイアログ

3. 「ウィジェット追加」ダイアログに、追加したいウィジェットの情報を入力し[OK]をクリックします。

表 34-1　項目一覧 (「ウィジェット追加」ダイアログ)

項目名	入力規則	初期値	説明
ウィジェット名	0～64 文字	-	ウィジェットのタイトルとして表示する名前を指定します。 どのようなウィジェットであるか判別が容易である名称をご指定下さい。 ウィジェット名を省略した場合"(名前なし)"と表示されます。 なお、同じ名前のウィジェットは複数登録可能です。
URL	-	-	ウィジェットとして表示する項目を選択します。 なお、同じ URL のウィジェットは複数登録可能です。
URL パラメータ	0～2048 文字	-	ウィジェットの URL にオプションパラメータを指定する場合に利用します。 オプションパラメータは *key*=*value* の形式で指定して下さい。複数のパラメータがある場合、"&"で区切ってください。 文字列はエンコード済である必要があります。

新しいウィジェットがダッシュボードの既に表示されているウィジェットの最後に表示されます。

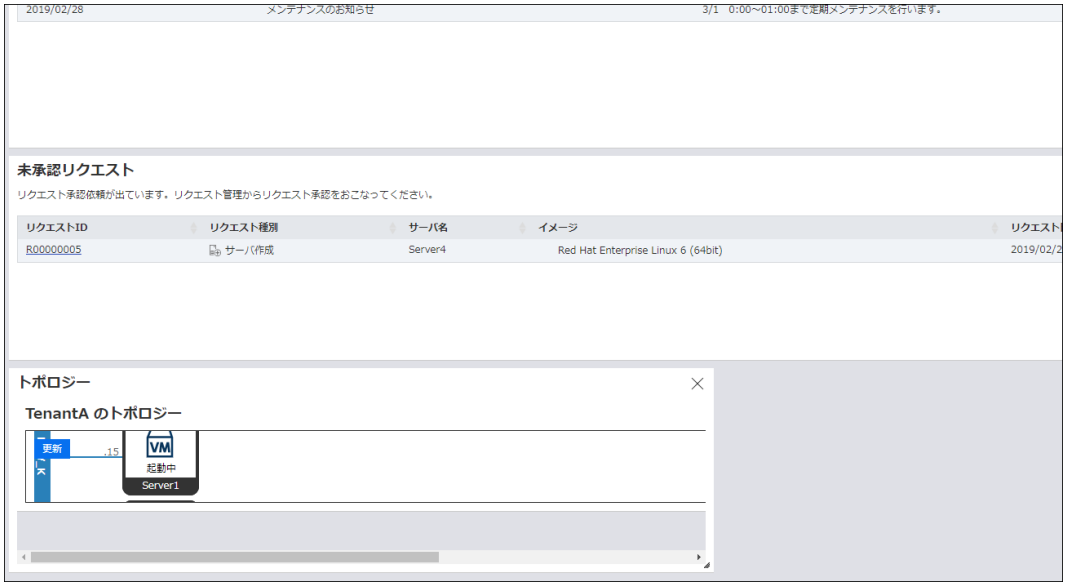

図 34-4　「ダッシュボード」画面 新規ウィジェット表示

ウィジェット追加操作後、保存操作を行ってください。手順については「34.5　ウィジェットの設定の保存（264 ページ）」を参照してください。

34.3　ウィジェットの削除

ダッシュボードからウィジェットを削除する方法を説明します。

1. 「ダッシュボード」画面にて、[カスタマイズ]アイコン をクリックします。

   「ダッシュボード」画面がカスタマイズモードに切り替わります。

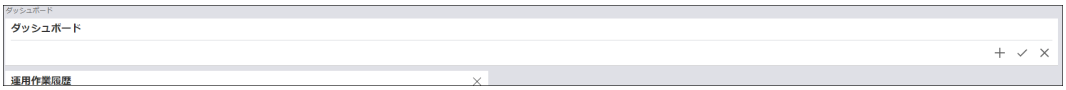

図 34-5　「ダッシュボード」画面 カスタマイズ

2. 削除したいウィジェットの右上に表示されている×をクリックします。

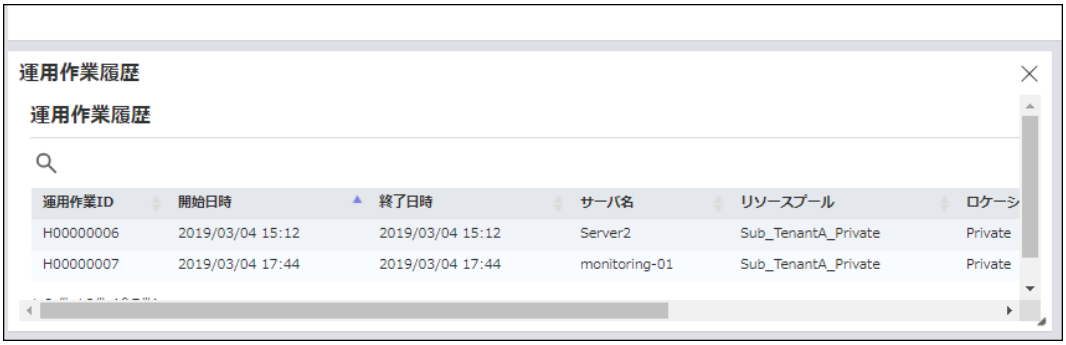

図 34-6　ダッシュボードからウィジェットを削除する

「ウィジェット削除確認」ダイアログが表示されます。

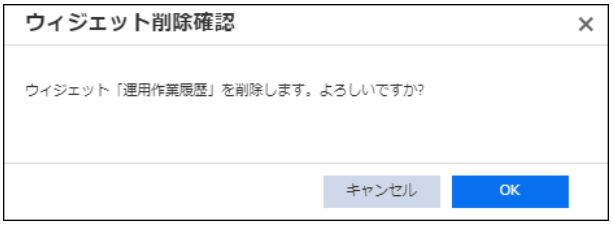

図 34-7　「ウィジェット削除確認」ダイアログ

3. 「ウィジェット削除確認」ダイアログの内容を確認し、削除してもよい場合は、[OK]をクリックします。

   削除を取りやめたい場合は、[キャンセル]をクリックします。

   「ウィジェット削除確認」ダイアログが閉じます。

[OK]をクリックした場合、選択したウィジェットが削除されます。

ウィジェット削除操作後、保存操作を行ってください。手順については「34.5　ウィジェットの設定の保存（264 ページ）」を参照してください。

34.4　ウィジェットの表示順・サイズの変更

ダッシュボードに表示されているウィジェットの表示順やサイズを変更する方法を説明します。

1. 「ダッシュボード」画面にて、[カスタマイズ]アイコンをクリックします。

   「ダッシュボード」画面がカスタマイズモードに切り替わります。

図 34-8　「ダッシュボード」画面 カスタマイズ

2. ウィジェットの表示順を変更したい場合、ウィジェットをマウスでドラッグ & ドロップします。

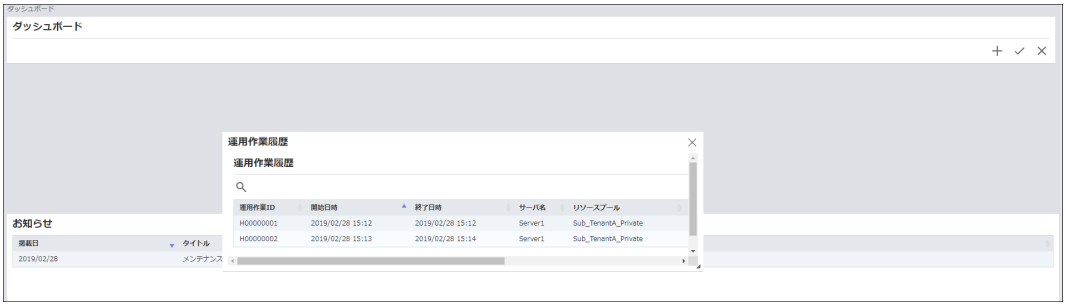

図 34-9　ウィジェットの表示順変更

   ウィジェットの表示順序が変更されます。

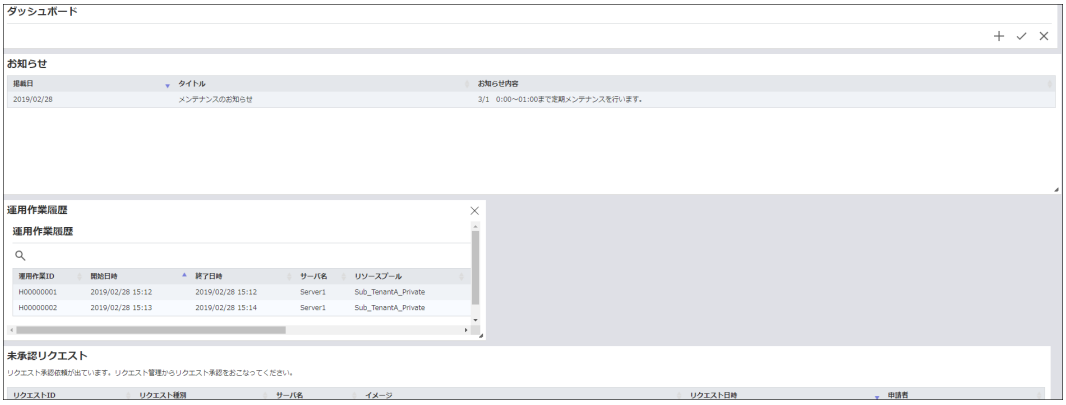

図 34-10　ウィジェットの表示順変更

3. ウィジェットのサイズを変更したい場合、ウィジェットの端をマウスでドラッグします。

   - ウィジェットの縦幅を変更したい場合、ウィジェットの下端をマウスでドラッグします。
   - ウィジェットの横幅を変更したい場合、ウィジェットの右端をマウスでドラッグします。保存後のウィジェットの横幅は変更時点よりも少し長くなります。
   - ウィジェットの縦幅と横幅を同時に変更したい場合、ウィジェットの右下角をマウスでドラッグします。

   ウィジェットのサイズが変更されます。

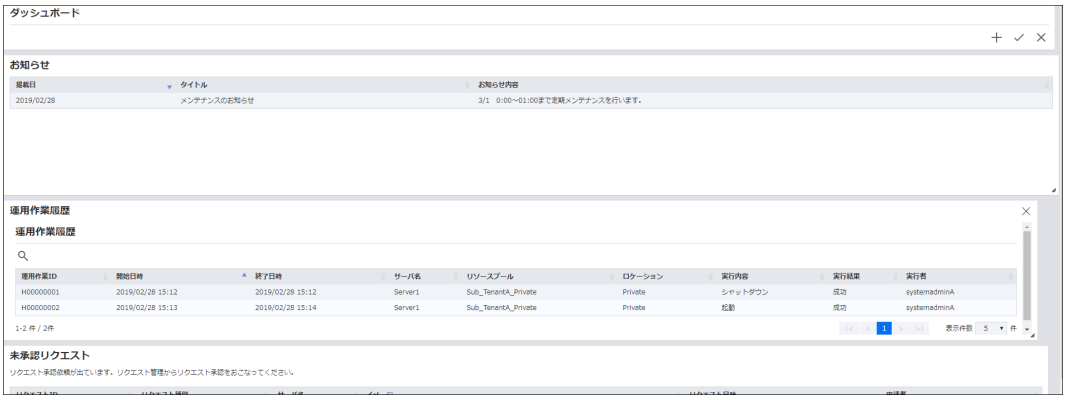

図 34-11　ウィジェットのサイズ変更

ウィジェットの表示順やサイズの変更後、保存操作を行ってください。手順については「34.5　ウィジェットの設定の保存（264 ページ）」を参照してください。

34.5　ウィジェットの設定の保存

ダッシュボードのウィジェットの設定を保存する方法を説明します。

ダッシュボードは既にカスタマイズモードになっており、ウィジェットに対する操作が行われている状態とします。ウィジェットに対する操作については、

- 「34.2　ウィジェットの追加（260 ページ）」

- 「34.3　ウィジェットの削除（262 ページ）」
- 「34.4　ウィジェットの表示順・サイズの変更（263 ページ）」

を参照してください。

1. 「ダッシュボード」画面にて、[保存]アイコン✓アイコンをクリックします。

   「ウィジェット設定保存確認」ダイアログが表示されます。

図 34-12　ウィジェットの設定保存

2. 「ウィジェット設定保存確認」ダイアログの内容を確認し、保存してもよい場合は、[OK]をクリックします。

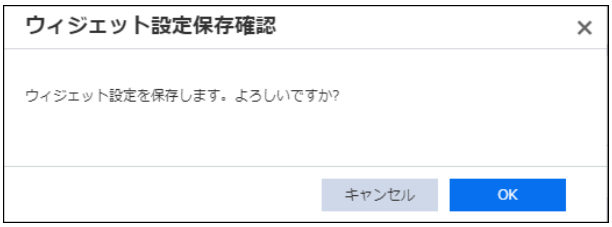

図 34-13　「ウィジェット設定保存確認」ダイアログ

   保存を取りやめたい場合は、[キャンセル]をクリックします。

   「ウィジェット設定保存確認」ダイアログが閉じます。

追加・削除したウィジェットの情報や、表示順・サイズが保存されます。

34.6　ウィジェットの設定の破棄

ダッシュボードのウィジェットの設定を破棄する手順を説明します。

ダッシュボードは既にカスタマイズモードになっており、ウィジェットに対する操作が行われている状態とします。ウィジェットに対する操作については、

- 「34.2　ウィジェットの追加（260 ページ）」
- 「34.3　ウィジェットの削除（262 ページ）」
- 「34.4　ウィジェットの表示順・サイズの変更（263 ページ）」

を参照してください。

1. 「ダッシュボード」画面にて、[キャンセル]アイコン×をクリックします。

図 34-14　ウィジェットの設定破棄

   「キャンセル確認」ダイアログが表示されます。

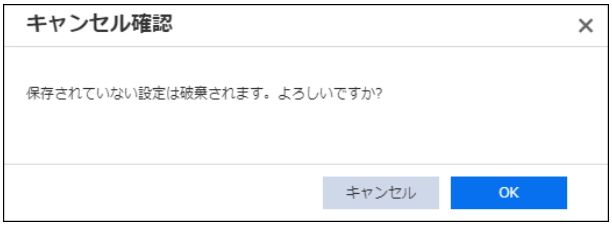

図 34-15　「キャンセル確認」ダイアログ

2. 「キャンセル確認」ダイアログの内容を確認し、設定を破棄してもよい場合は、[OK]をクリックします。

   キャンセルを取りやめたい場合は、[キャンセル]をクリックします。

   「キャンセル確認」ダイアログが閉じます。

保存されていないウィジェットの編集内容が破棄され、ウィジェットの表示が前回保存時の状態に戻ります。

34.7　ダッシュボード(デフォルト)

ダッシュボード画面(デフォルト)では、以下の情報が確認できます。

- 掲載中のお知らせ一覧
- 未承認リクエスト一覧

なお、未承認リクエスト一覧は、リクエスト承認が可能なユーザのみ表示されます。

図 34-16　ダッシュボード画面(デフォルト)

34.7.1　お知らせ

お知らせ管理機能で登録したお知らせが表示されます。

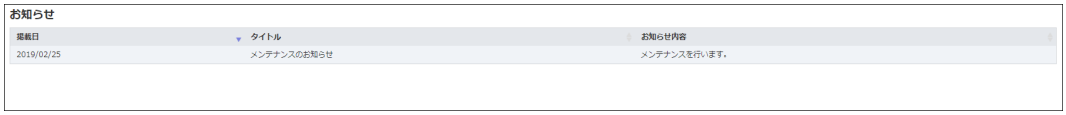

図 34-17　お知らせ一覧

表 34-2　項目一覧（お知らせ）

項目名	説明
掲載日	掲載日
タイトル	お知らせタイトル
お知らせ内容	お知らせ内容 添付ファイルがある場合には、文末にファイルへのリンクアイコンが表示される

34.7.2　未承認リクエスト（利用者）

承認フローに設定されている承認完了条件によって表示されるリクエストが変わります。

- 「承認権限を持ついずれかのユーザが承認すること」が設定されている場合

  同一テナント内のリクエスト状態が「承認待ち」であるリクエストが表示されます(ただし、次の承認者がシステム管理者であるリクエストは表示されません)。

- 「承認フローに設定されている全ての承認者が承認すること」が設定されている場合

  ログインユーザが次の承認者であるリクエストが表示されます。

図 34-18　未承認リクエスト一覧

表 34-3　項目一覧（未承認リクエスト）

項目名	説明
リクエスト ID	クリックすることで対象のリクエスト画面に遷移する
リクエスト種別	• サーバ作成 • サーバ変更 • サーバ削除 • 論理ネットワーク作成 • 論理ネットワーク削除 • カスタムオペレーション実行 • スタック作成 • スタック削除 のいずれか
サーバ名	作成サーバ名、または変更・削除リクエスト対象サーバ名
イメージ	作成または変更・削除するサーバの OS 名
リクエスト日時	リクエストした日時
申請者	申請者名

第 35 章
リクエスト（利用者）

本章では、リクエストメニューについて説明します。

35.1　リクエスト管理（利用者）

リクエスト管理機能では、サーバリクエストの管理を行うことができます。

本節では、リクエスト承認可能となっているテナント管理者・テナントユーザとしての操作を説明します。

35.1.1　リクエスト一覧

メニューから、「リクエスト」－「リクエスト管理」をクリックすることにより、リクエスト一覧画面を表示します。

注

リクエスト一覧表示時は、ログインユーザが申請したリクエスト一覧が表示されます。

ログインユーザのリクエスト以外を表示する場合は、検索条件から「申請者」のログインユーザ名を削除して検索するなど、適宜検索してください。

ただし、リクエスト承認権限を持たないテナントユーザは自分が申請したリクエスト以外は表示されません。

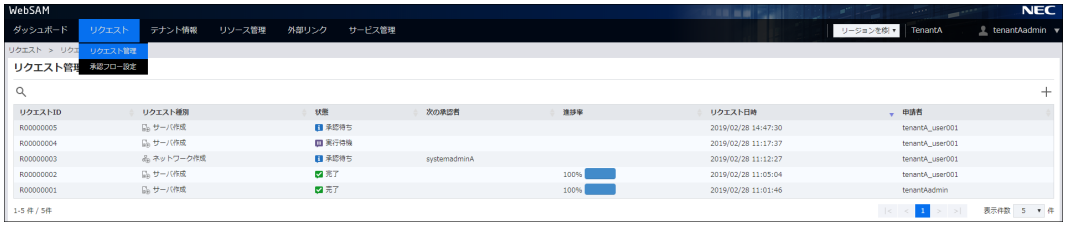

図 35-1　リクエスト管理画面

表 35-1　項目一覧（リクエスト管理画面）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
リクエスト作成	リクエスト作成画面を呼び出す
リクエスト一覧	リクエストの一覧を表示する 一覧の［状態］がエラーとなっている場合、［エラー］リンクをクリックすることにより、エラーメッセージが表示される

リクエストを検索する場合は、リクエスト一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 35-2　項目一覧（リクエスト一覧検索画面）

項目名	説明
リクエスト ID	リクエスト ID
リクエスト種別	・サーバ作成 ・サーバ変更 ・サーバ削除 ・ネットワーク作成 ・ネットワーク削除 ・OracleDB システム作成 ・OracleDB システム変更 ・OracleDB システム削除 ・カスタムオペレーション実行 ・スタック作成 ・スタック削除 を指定して検索（複数選択可）
キーワード	・サーバ名 ・ネットワーク名 ・スタック名 を入力して指定（部分指定可）
状態	・承認待ち ・実行待機 ・却下 ・キャンセル済み ・実行中 ・完了 ・エラー を指定して検索（複数選択可）
リクエスト期間	リクエスト期間を指定
申請者	申請者を入力して指定（部分指定可）
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

35.1.2　リクエストを作成する

リクエストの作成方法を以下に示します。

1. リクエスト一覧画面にて、[リクエスト作成]アイコン＋をクリックします。

図 35-2　リクエスト一覧画面

2. リクエスト作成ダイアログが表示されます。

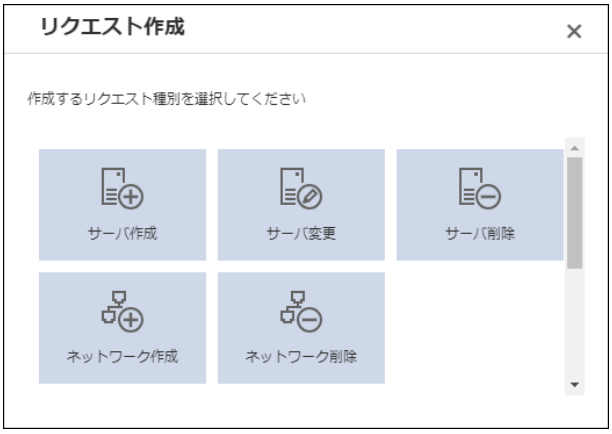

図 35-3　リクエスト作成ダイアログ

3. 作成するリクエスト種別をクリックします。

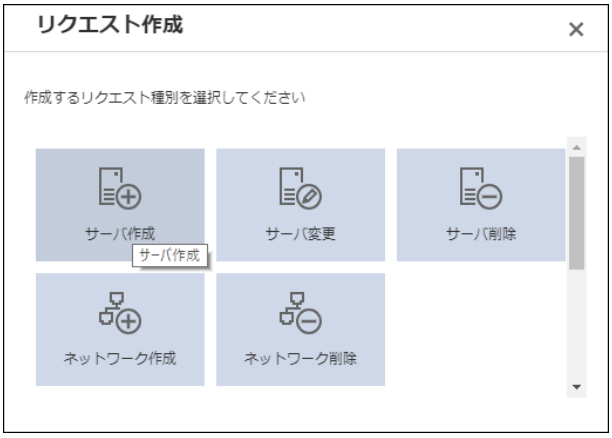

図 35-4　リクエスト種別選択（サーバ作成選択時）

以下の各手順に従ってリクエストを登録します。

- サーバ作成

  「35.1.2.1　サーバ作成リクエスト（271 ページ）」

- サーバ変更

  「35.1.2.2　サーバ変更リクエスト（286 ページ）」

- サーバ削除

  「35.1.2.3　サーバ削除リクエスト（288 ページ）」

- ネットワーク作成

  「35.1.2.4　論理ネットワーク作成リクエスト（289 ページ）」

- ネットワーク削除

  「35.1.2.5　ネットワーク削除リクエスト（292 ページ）」

- OracleDB システム作成

  OracleDB システム作成リクエスト

- OracleDB システム変更

  OracleDB システム変更リクエスト

- OracleDB システム削除

  OracleDB システム削除リクエスト

- カスタムオペレーション実行

  「35.1.2.6　カスタムオペレーション実行リクエスト（293 ページ）」

注

パブリッククラウド上のサーバには、サーバ詳細画面の機能に制限があります。 下記の「表 35-3 リクエスト作成機能対応表（271 ページ）」を参照してください。

表 35-3　リクエスト作成機能対応表

機能	プライベート	パブリック
サーバ作成	○	-
サーバ変更	○	-
サーバ削除	○	-※

※ サーバを SigmaSystemCenter から削除した場合、vDCA SE ポータルのデータベースにはデータが残留します。該当のサーバの削除リクエストを作成してください。

35.1.2.1　サーバ作成リクエスト

以下の各手順に従ってサーバ作成リクエストを登録します。

- サーバ作成時

  1. 以下の表を参照し、各項目を入力後「次へ」ボタンを押下します。

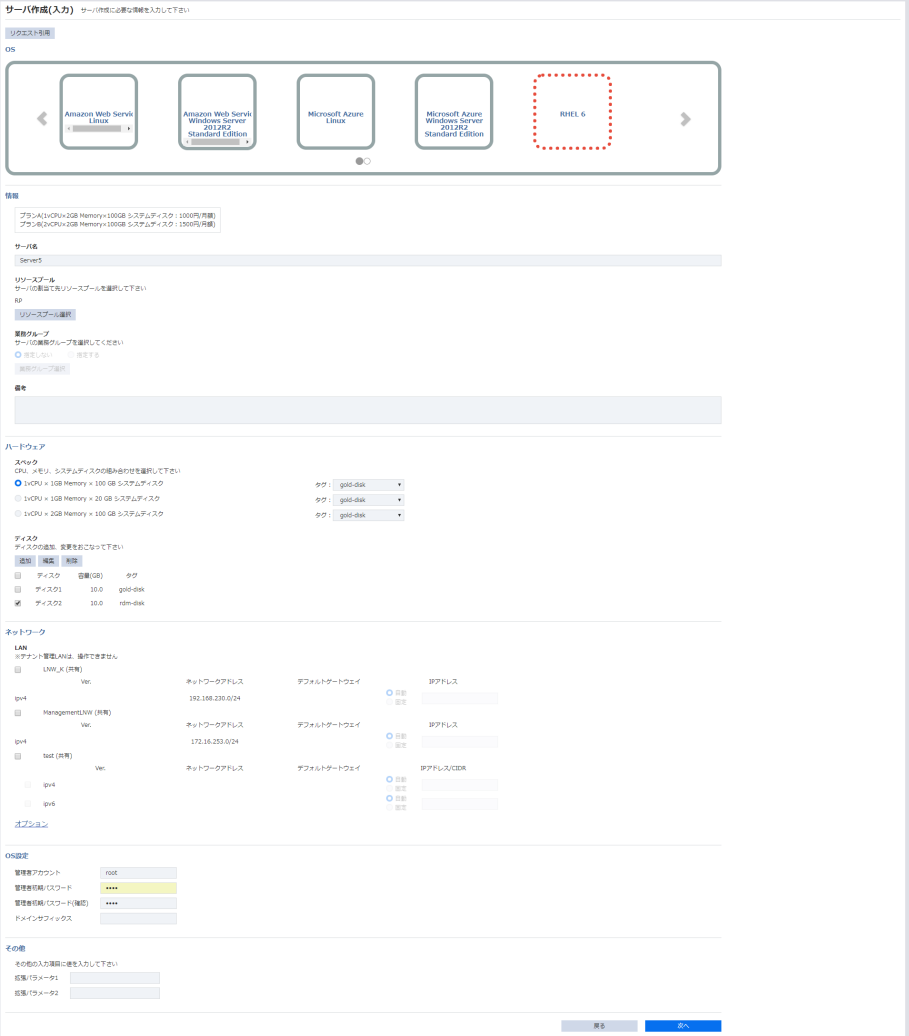

図 35-5　サーバ作成（入力）画面(プライベートクラウド用カタログ選択時)

表 35-4　項目一覧（サーバ作成画面共通）

項目名	入力規則	説明
リクエスト引用	―	クリックすることにより、過去のサーバ作成リクエストの一覧を表示する 引用するリクエストを一覧から選択することで入力画面に引用される ※1
OS イメージ選択	―	作成するサーバの OS イメージを選択する

⚠ 注意

※1 リクエスト引用の一覧に物理サーバの情報は表示されません。

表 35-5　項目一覧（プライベートクラウド用カタログ選択時サーバ作成画面）

項目名	入力規則	説明
情報パネル		
付加情報	―	設定ファイルに設定されたテンプレートの付加情報

項目名	入力規則	説明
		※付加情報が設定されていない場合は非表示
サーバ名	英数字と-（ハイフン）.（ピリオド）が使用可能 Windows:15 文字まで Linux:24 文字まで ただし、頭文字はアルファベットであること	サーバ名（ホスト名）を入力する
リソースプール	―	「リソースプール選択」ボタンをクリックすることにより、リソースプール選択画面を表示する 割当て先のリソースプールを選択し、「選択」ボタンをクリックすることにより作成画面に選択される 「図 35-6 リソースプール選択画面（282 ページ）」
業務グループ	―	業務グループを指定するかしないかを選択する 「指定する」を選択し「業務グループ選択」ボタンをクリックすることにより業務グループ選択画面を表示する 業務グループを選択し、「選択」ボタンをクリックすることにより作成画面に選択される 「図 35-7 業務グループ選択画面（283 ページ）」 選択した業務グループは、サーバ作成後の変更不可 ※3 VM 作成先として共有リソースプールを選択している場合は無効
業務グループ選択	―	業務グループ選択ダイアログを開く ※業務グループラジオボタンで「指定する」を選択時のみ有効
備考	255 文字以内	備考を入力する
ハードウェア		
スペック	―	CPU、メモリ、システムディスクの組み合わせ選択とシステムディスクのタグを選択する
ディスク	0.01～97656.249（GB） 小数点以下第 3 位まで入力可能	ディスクの追加、変更を行う 追加アイコン（①）をクリックすることによりデータディスク追加ダイアログを表示する 「図 35-8 データディスク追加ダイアログ（283 ページ）」 編集アイコン（②）をクリックすることによりデータディスク編集ダイアログを表示する 「図 35-10 データディスク変更ダイアログ（284 ページ）」

項目名	入力規則	説明
		チェックボックスにチェックし、削除アイコン（③）をクリックすることによりディスクを削除する
ネットワークパネル		
ネットワーク有効チェック	－	チェックすることによりネットワークを有効にする ※管理 LAN が複数表示された場合は、一番上に表示されている LAN が管理 LAN として使用されます
IP バージョン	－	IP アドレスを入力したい IP バージョンを選択する
ネットワークアドレス	－	論理ネットワークの IP アドレスプールから計算したネットワークアドレス 当該論理ネットワークの IP アドレスプールが設定されていない場合は空表示
デフォルトゲートウェイ	－	論理ネットワークの IP アドレスプールに設定されているデフォルトゲートウェイ 当該論理ネットワークの IP アドレスプールが設定されていない場合は空表示
IP アドレス/CIDR	－	IP アドレスプールが設定されていない場合には、「IP アドレス/CIDR」形式で入力する
IP アドレス	－	IP アドレスの割り当てが固定の場合に IP アドレスを入力する ※複数入力不可
オプション		クリックすることによりオプション項目を表示する
プライマリ DNS	最小:0 文字 最大:64 文字 IP アドレス形式 (IPv4,IPv6 に対応)	プライマリ DNS を指定する
セカンダリ DNS	最小:0 文字 最大:64 文字 IP アドレス形式 (IPv4,IPv6 に対応)	セカンダリ DNS を指定する
ターシャリ DNS	最小:0 文字 最大:64 文字 IP アドレス形式 (IPv4,IPv6 に対応)	ターシャリ DNS を指定する Linux 系 OS のカタログを選択した場合のみ
プライマリ WINS	最小:0 文字 最大:64 文字 IP アドレス形式 (IPv4,IPv6 に対応)	プライマリ WINS を指定する Windows 系 OS のカタログを選択した場合のみ

項目名	入力規則	説明
セカンダリ WINS	最小:0 文字 最大:64 文字 IP アドレス形式 (IPv4,IPv6 に対応)	セカンダリ WINS を指定する Windows 系 OS のカタログを選択した場合のみ
セキュリティグループ	-	ネットワークに設定されているセキュリティグループを選択する
OS 設定パネル		
タイムゾーン	設定ファイルに指定されたタイムゾーン	Windows 系 OS のカタログを選択した場合、表示 Linux 系 OS のカタログを選択した場合、非表示
管理者アカウント	最小:1 文字 最大:128 文字 半角英数記号	OS のデフォルト管理者アカウントを指定する ※2
管理者初期パスワード	最小:1 文字 最大:256 文字(使用する VM テンプレートのプラットフォームによって異なります) ASCII 文字(0x20-0x7E「",」は除く)	管理者初期パスワードを指定する
管理者初期パスワード(確認)	最小:1 文字 最大:256 文字(使用する VM テンプレートのプラットフォームによって異なります) ASCII 文字(0x20-0x7E「",」は除く)	管理者初期パスワードを指定する（確認）
プロダクトキー	最小:0 文字 最大:128 文字 半角英数記号	Windows 系 OS のカタログを選択した場合、表示 Linux 系 OS のカタログを選択した場合、非表示
ドメインサフィックス	文字列 最小:0 文字 最大:63 文字 ASCII 文字(0x20-0x7E「"#$&’();<>\`|」は除く)	Linux 系 OS のカタログを選択した場合、表示 Windows 系 OS のカタログを選択した場合、非表示
タイプ	・ワークグループ ・ドメイン	ワークグループのタイプを選択する Windows 系 OS カタログを選択した場合、表示 Linux 系 OS のカタログを選択した場合、非表示
ワークグループ名(ドメイン名)	ワークグループの場合 最小:1 文字 最大:15 文字 ASCII 文字(0x20-0x7E「"*+,:;<=>?\\|」は除く) ドメインの場合 最小:1 文字 最大:155 文字	ワークグループ名もしくはドメイン名を指定 ラジオボタンの選択で「ワークグループ名」か「ドメイン名」のラベルを切り替える Windows 系 OS カタログを選択した場合、表示 Linux 系 OS のカタログを選択した場合、非表示

項目名	入力規則	説明
	ASCII 文字(0x20-0x7E「"*,/:;<>?[\]|」及び半角スペースは除く)	
ドメインアカウント	最小:1 文字 最大:255 文字 ASCII 文字(0x20-0x7E「"*,/:;<>?[\]|」は除く)	ドメインアカウントを指定 Windows 系 OS カタログを選択し、タイプがドメインの場合、表示 Windows 系 OS カタログを選択し、タイプがワークグループの場合、非表示 Linux 系 OS のカタログを選択した場合、非表示
ドメインパスワード	最小:1 文字 最大:255 文字 ASCII 文字(0x20-0x7E「"*,/:;<>?[\]|」は除く)	ドメインパスワードを指定 Windows 系 OS カタログを選択し、タイプがドメインの場合、表示 Windows 系 OS カタログを選択し、タイプがワークグループの場合、非表示 Linux 系 OS のカタログを選択した場合、非表示
その他パネル		
拡張パラメータ(設定されていない場合は非表示)	1024 文字以内	設定ファイルに設定された拡張パラメータが表示される 拡張パラメータ名が表示されているボックスに値を入力する 入力値を省略した場合、値無しのパラメータが拡張処理に渡る

⚠ 注意

※2 デフォルトアカウント名(Administrator または root)から変更しないでください。変更しても OS のデフォルトのアカウント名が設定されます。

※3 変更が必要な場合は、システム管理者へ問い合わせが必要になります。

表 35-6　項目一覧（Amazon EC2 用のカタログ選択時サーバ作成画面）

項目名	入力規則	説明
情報パネル		
付加情報	ー	設定ファイルに設定されたテンプレートの付加情報 ※付加情報が設定されていない場合は非表示
サーバ名	英数字と-（ハイフン）.（ピリオド）が使用可能 Windows:15 文字まで Linux:24 文字まで ただし、頭文字はアルファベットであること	サーバ名（ホスト名）を入力する
リソースプール	ー	「リソースプール選択」ボタンをクリックすることにより、リソースプール選択画面を表示する

項目名	入力規則	説明
		割当て先のリソースプールを選択し、「選択」ボタンをクリックすることにより作成画面に選択される 「図 35-6 リソースプール選択画面（282 ページ）」
業務グループ	ー	業務グループを指定するかしないかを選択する 「指定する」を選択し「業務グループ選択」ボタンをクリックすることにより業務グループ選択画面を表示する 業務グループを選択し、「選択」ボタンをクリックすることにより作成画面に選択される 「図 35-7 業務グループ選択画面（283 ページ）」 選択した業務グループは、サーバ作成後の変更不可 ※3
業務グループ選択	ー	業務グループ選択ダイアログを開く ※業務グループラジオボタンで「指定する」を選択時のみ有効
備考	255 文字以内	備考を入力する
ハードウェア		
スペック	ー	CPU、メモリ、システムディスクの組み合わせ選択とシステムディスクのタグを選択する
ディスク	0.01～97656.249（GB） 小数点以下第 3 位まで入力可能 小数点以下の入力は切り上げ	ディスクの追加、変更を行う 追加アイコン（①）をクリックすることによりデータディスク追加ダイアログを表示する 「図 35-8 データディスク追加ダイアログ（283 ページ）」 編集アイコン（②）をクリックすることによりデータディスク編集ダイアログを表示する 「図 35-10 データディスク変更ダイアログ（284 ページ）」 チェックボックスにチェックし、削除アイコン（③）をクリックすることによりディスクを削除する
ネットワークパネル		
ネットワーク有効チェック	ー	チェックすることによりネットワークを有効にする ※管理 LAN が複数表示された場合は、一番上に表示されている LAN が管理 LAN として使用されます サーバは選択したネットワークが所属する Amazon リージョン上に作成される
IP バージョン	ー	IP アドレスを入力したい IP バージョンを選択する

項目名	入力規則	説明
ネットワークアドレス	―	論理ネットワークの IP アドレスプールから計算したネットワークアドレス 当該論理ネットワークの IP アドレスプールが設定されていない場合は空表示
デフォルトゲートウェイ	―	論理ネットワークの IP アドレスプールに設定されているデフォルトゲートウェイ 当該論理ネットワークの IP アドレスプールが設定されていない場合は空表示
IP アドレス/CIDR	―	IP アドレスプールが設定されていない場合には、「IP アドレス/CIDR」形式で入力する
オプション		クリックすることによりオプション項目を表示する セキュリティグループ選択を表示する
セキュリティグループ	-	ネットワークに設定されているセキュリティグループを選択する
OS 設定パネル		
キーペア	最小:0 文字 最大:255 文字 ASCII 文字(^[x20-x7E]*$)	キーペアを指定 キーペアまたは SSH 認証鍵のいずれかを設定する必要がある
SSH 認証鍵	最小:0 文字 最大:4059 文字	SSH 認証鍵を入力する キーペアまたは SSH 認証鍵のいずれかを設定する必要がある
管理者初期パスワード	最小:1 文字 最大:256 文字	管理者初期パスワードを指定する 本設定は OS 種別が WindowsServer と設定されている Amazon EC2 用のサーバサービスカタログを選択した場合、かつ、「表 12-4 テナント毎の IAM ロール設定（86 ページ）」 管理者初期パスワードを指定したい場合には、接続するネットワークについて インターネットに直接(Elastic IP)、または間接的に(NAT ゲートウェイ や Egress-Only インターネットゲートウェイ経由で)接続されているものを選択する必要がある
管理者初期パスワード（確認）	最小:1 文字 最大:256 文字	管理者初期パスワードを指定する(確認) 本設定は OS 種別が WindowsServer と設定されている Amazon EC2 用のサーバサービスカタログを選択した場合、かつ、「表 12-4 テナント毎の IAM ロール設定（86 ページ）」 が設定されていた場合のみ表示される。
その他パネル		

項目名	入力規則	説明
拡張パラメータ(設定されていない場合は非表示)	1024 文字以内	設定ファイルに設定された拡張パラメータが表示される 拡張パラメータ名が表示されているボックスに値を入力する 入力値を省略した場合、値無しのパラメータが拡張処理に渡る

⚠ 注意

※1 リクエスト引用の一覧に物理サーバの情報は表示されません。

※3 変更が必要な場合は、システム管理者へ問い合わせが必要になります。

表 35-7　項目一覧（Azure Virtual Machine 用カタログ選択時サーバ作成画面）

項目名	入力規則	説明
情報パネル		
付加情報	－	設定ファイルに設定されたテンプレートの付加情報 ※付加情報が設定されていない場合は非表示
サーバ名	英数字と-（ハイフン）.（ピリオド）が使用可能 Azure(Windows)：15 文字まで Azure(Linux)：64 文字まで ただし、頭文字はアルファベットであること	サーバ名（ホスト名）を入力する
リソースプール	－	「リソースプール選択」ボタンをクリックすることにより、リソースプール選択画面を表示する 割当て先のリソースプールを選択し、「選択」ボタンをクリックすることにより作成画面に選択される 「図 35-6 リソースプール選択画面（282 ページ）」
業務グループ	－	業務グループを指定するかしないかを選択する 「指定する」を選択し「業務グループ選択」ボタンをクリックすることにより業務グループ選択画面を表示する 業務グループを選択し、「選択」ボタンをクリックすることにより作成画面に選択される 「図 35-7 業務グループ選択画面（283 ページ）」 選択した業務グループは、サーバ作成後の変更不可 ※3 サーバは選択した業務グループと同名の Azure リソースグループに所属される
業務グループ選択	－	業務グループ選択ダイアログを開く

項目名	入力規則	説明
		※業務グループラジオボタンで「指定する」を選択時のみ有効
備考	255 文字以内	備考を入力する
ハードウェア		
スペック	－	CPU、メモリ、システムディスクの組み合わせ選択とシステムディスクのタグを選択する
ディスク	0.01～97656.249（GB） 小数点以下第 3 位まで入力可能 小数点以下の入力は切り上げ	ディスクの追加、変更を行う 追加アイコン（①）をクリックすることによりデータディスク追加ダイアログを表示する 「図 35-8 データディスク追加ダイアログ（283 ページ）」 編集アイコン（②）をクリックすることによりデータディスク編集ダイアログを表示する 「図 35-10 データディスク変更ダイアログ（284 ページ）」 チェックボックスにチェックし、削除アイコン（③）をクリックすることによりディスクを削除する
ネットワークパネル		
ネットワーク有効チェック ※4	－	チェックすることによりネットワークを有効にする ※管理 LAN が複数表示された場合は、一番上に表示されている LAN が管理 LAN として使用されます サーバは選択したネットワークが所属する Azure リージョン上に作成される
IP バージョン	－	IP アドレスを入力したい IP バージョンを選択する
ネットワークアドレス	－	論理ネットワークの IP アドレスプールから計算したネットワークアドレス 当該論理ネットワークの IP アドレスプールが設定されていない場合は空表示
デフォルトゲートウェイ	－	論理ネットワークの IP アドレスプールに設定されているデフォルトゲートウェイ 当該論理ネットワークの IP アドレスプールが設定されていない場合は空表示
IP アドレス/CIDR	－	IP アドレスプールが設定されていない場合には、「IP アドレス/CIDR」形式で入力する
オプション		クリックすることによりオプション項目を表示する

項目名	入力規則	説明
		セキュリティグループ選択を表示する
セキュリティグループ	-	ネットワークに設定されているセキュリティグループを選択する
OS 設定パネル		
管理者アカウント	最小:1 文字 最大:128 文字 半角英数記号	OS のデフォルト管理者アカウントを指定する ※5
管理者初期パスワード	最小:1 文字 最大:256 文字(使用する VM テンプレートのプラットフォームによって異なります) ASCII 文字(0x20-0x7E「-_」は除く)	管理者初期パスワードを指定する 管理者初期パスワードまたは SSH 認証鍵のいずれかが指定されている必要がある
管理者初期パスワード(確認)	最小:1 文字 最大:256 文字(使用する VM テンプレートのプラットフォームによって異なります) ASCII 文字(0x20-0x7E「-_」は除く)	管理者初期パスワードを指定する（確認）
SSH 認証鍵	最小:256 文字 最大:1000 文字 SSH プロトコル 2 (SSH-2) の RSA 公開キー/秘密キーのペア ※その他のキーの形式 (ED25519 や ECDSA など) はサポート外	Linux サーバに設定する SSH 認証鍵を入力する 管理者初期パスワードまたは SSH 認証鍵のいずれかが指定されている必要がある
その他パネル		
拡張パラメータ(設定されていない場合は非表示)	1024 文字以内	設定ファイルに設定された拡張パラメータが表示される 拡張パラメータ名が表示されているボックスに値を入力する 入力値を省略した場合、値無しのパラメータが拡張処理に渡る

⚠ 注意

※3 変更が必要な場合は、システム管理者へ問い合わせが必要になります。

※4 Azure 仮想マシン作成時は選択したサイズタイプによって接続可能なネットワーク数が異なります。接続可能数以上のネットワークを追加した場合、リクエスト実行でエラーになります。 サイズタイプで接続可能なネットワーク数は Microsoft Azure の公式仕様をご確認ください。

※5 デフォルトアカウント名は使用できないため、変更してください。

【リソースプール選択】

割当て先のリソースプールを選択し、「選択」ボタンをクリックします。 オンプレミス用のカタログ選択時にはオンプレミス用のリソースプールを選択してください。

AWS EC2 用カタログ選択時は AWS 用リソースプールを選択してください。

Azure Virtual Machine 用カタログ選択時は Azure 用リソースプールを選択してください。

なお、Azure 用リソースプールと AWS 用リソースプールはシステム上区別ができないため、「12.2.1　Amazon Elastic Compute Cloud にサーバリソースを作成・削除する場合の設定（85 ページ）」「12.2.2　Microsoft Azure にサーバリソースを作成・削除する場合の設定（86 ページ）」にて、リソースプールを作成する際は一見して AWS 用か Azure 用かが判断できる名前を設定してください。

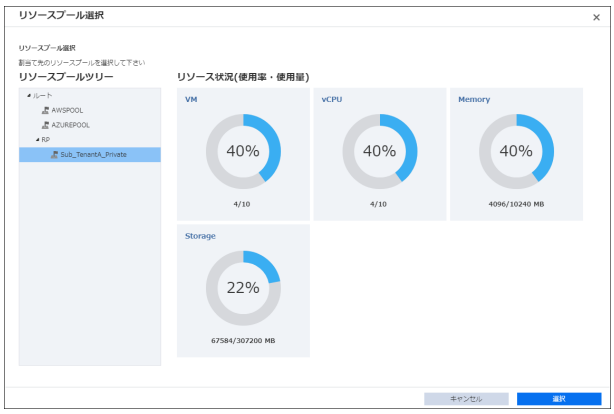

図 35-6　リソースプール選択画面

【業務グループ選択】

業務グループを選択し、「選択」ボタンをクリックします。

Amazon EC2 用のカタログまたは Azure Virtual Machine 用カタログ選択時はマシン種別が「パブリッククラウド」の業務グループを選択してください。

図 35-7　業務グループ選択画面

【データディスク追加】

- リソースプールにディスクボリュームが含まれていない場合

  容量の入力、タグを選択し「追加」ボタンをクリックします。

図 35-8　データディスク追加ダイアログ

- リソースプールにディスクボリュームが含まれている場合は「RDM を利用する」チェックボックスが表示されます。RDM を利用する場合はチェックし、容量とタグをそれぞれ選択後「追加」ボタンをクリックします。

  ※ディスクボリュームが存在しない場合は「RDM を利用する」チェックボックスは表示されません。

図 35-9　データディスク追加ダイアログ(RDM 利用時)

【データディスク変更】

- RDM 以外の場合

  容量の入力、タグを選択し「確認」ボタンをクリックする

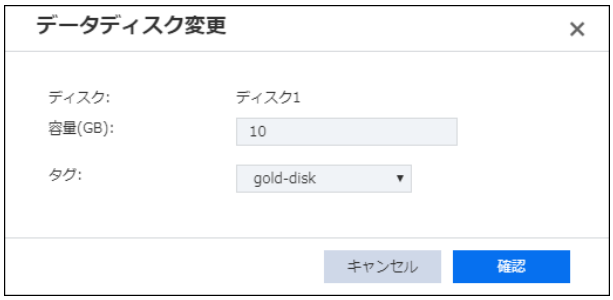

図 35-10　データディスク変更ダイアログ

- RDM の場合は、容量とタグをそれぞれ選択し「確認」ボタンをクリックする

図 35-11　データディスク変更ダイアログ(RDM 利用時)

【拡張パラメータ入力】

拡張パラメータの値（設定されている場合）を入力する

図 35-12　拡張パラメータ

2. 確認画面が表示されます。申請コメント、リクエスト実行オプションを設定し、「確定」ボタンを押下することによりリクエストが登録されます。

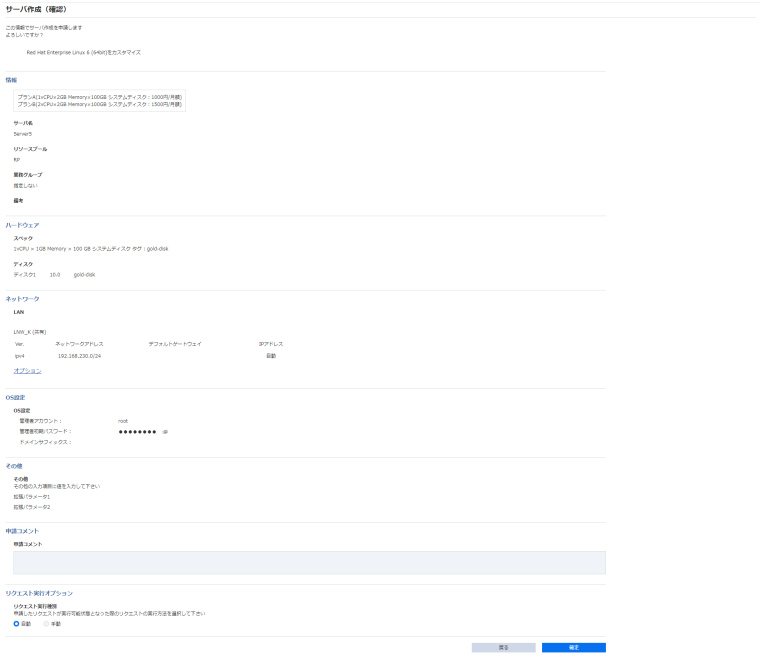

図 35-13　サーバ作成（確認）画面

表 35-8　サーバ作成（確認）画面

項目名	入力規則	説明
申請コメント	0～255 文字	承認者へのコメントまたは申請時のメモなどを入力する
リクエスト実行オプション	自動・手動	申請したリクエストが実行可能状態になった際のリクエスト実行方法を選択する

注

サーバ作成リクエストをする際は、以下の点に注意してください。

- サスペンド状態のサーバを選択して引用リクエストを作成することはできません。引用する場合にはサスペンド状態から復帰させて行ってください。
- サーバ作成、変更リクエスト申請において、指定可能な拡張ディスクの数は VM ホストに依存します。あまりにも大きな数を指定した場合、エラーが発生する可能性があります。
- 拡張ディスク付きのテンプレートを使用して VM 作成を行った場合、その拡張ディスクの削除やサイズ変更を行うことはできません。変更が必要な場合には VM 作成のオプションで拡張ディスクを追加してください。
- サーバ変更のリクエストでネットワークを削除する（チェックボックスを外す）場合、他のネットワークに対して変更（ネットワークの追加、IP アドレスの変更等）を加えないでください。
- サーバ構成変更のリクエストが却下された後、再申請時に IP アドレスを追加しようとするとエラーになります。IP アドレスを追加する際にはリクエストを新規作成してください。
- 管理用ネットワークを運用途中で追加した場合、それまでに作成したネットワークが削除できなくなります。
- サーバの IP アドレスの変更は直接 VM にログインして行ってください。
- 1 つのネットワークに対して「自動」IP アドレスを複数設定することはできません。

- 1 つのネットワークに対して既に「固定」IP アドレスが設定されている場合、「自動」IP アドレスを追加することはできません。
- パブリッククラウド作成時はパブリッククラウド用論理ネットワークを選択してください。

注

NEC Cloud IaaS 上にサーバを作成することはできません。

35.1.2.2　サーバ変更リクエスト

以下の各手順に従ってサーバ作成リクエストを登録します。

- サーバ変更時

1. 構成を変更するサーバを一覧にてクリックし、「選択」ボタンを押下します。

図 35-14　サーバ変更選択画面

2. サーバ変更（入力）画面が表示されます。 「表 35-4 項目一覧（サーバ作成画面共通）（272 ページ）」 を参照して各項目を編集後、「次へ」ボタンを押下します。

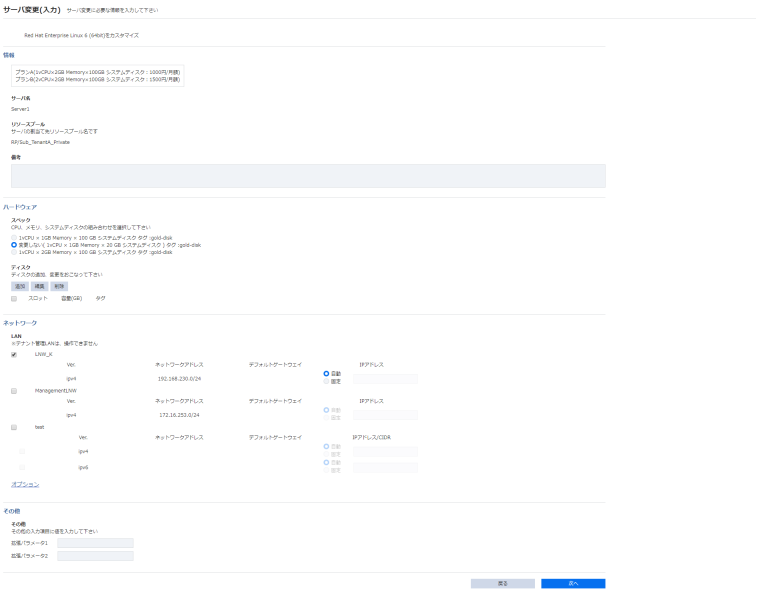

図 35-15　サーバ変更（入力）画面

3. サーバ変更（確認）画面が表示されます。 「表 35-4 項目一覧（サーバ作成画面共通）（272 ページ）」 を参照して申請コメント、リクエスト実行オプションを設定します。「確定」ボタンを押下することによりリクエストが登録されます。

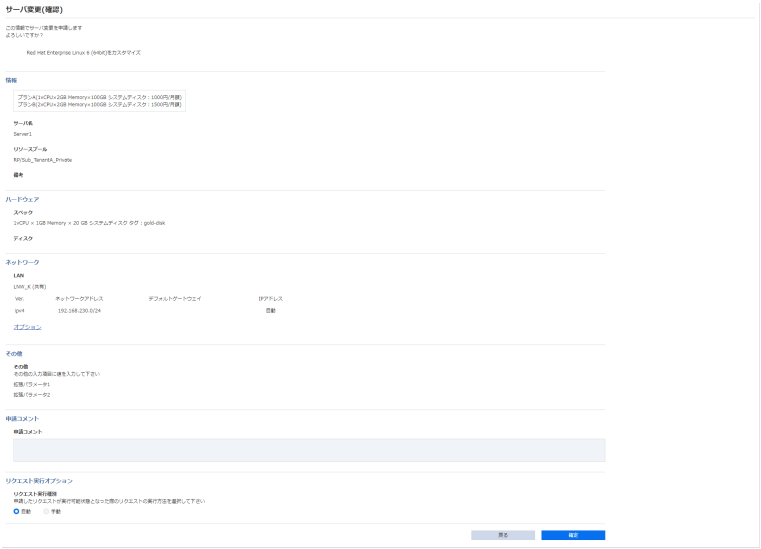

図 35-16　サーバ変更（確認）画面

注

サーバ変更リクエストをする際は、以下の点に注意してください。

- SigmaSystemCenter 上でサーバのスペックを変更した場合、ユーザが任意の値を設定できるため、同期の実行またはサーバおよびネットワーク情報更新コマンドを実行しても、サーバ変更（入力）画面のハードウェアのスペック（変更しない場合のラジオボタンの値）が乖離する可能性があります。
- サスペンド状態のサーバを選択して引用リクエストを作成することはできません。引用する場合にはサスペンド状態から復帰させて行ってください。

- サーバ作成、変更リクエスト申請において、指定可能な拡張ディスクの数は VM ホストに依存します。あまりにも大きな数を指定した場合、エラーが発生する可能性があります。
- 拡張ディスク付きのテンプレートを使用して VM 作成を行った場合、その拡張ディスクの削除やサイズ変更を行うことはできません。変更が必要な場合には VM 作成のオプションで拡張ディスクを追加してください。
- サーバ変更のリクエストでネットワークを削除する（チェックボックスを外す）場合、他のネットワークに対して変更（ネットワークの追加、IP アドレスの変更等）を加えないでください。
- サーバ構成変更のリクエストが却下された後、再申請時に IP アドレスを追加しようとするとエラーになります。IP アドレスを追加する際にはリクエストを新規作成してください。
- 管理用ネットワークを運用途中で追加した場合、それまでに作成したネットワークが削除できなくなります。
- サーバの IP アドレスの変更は直接 VM にログインして行ってください。
- 1 つのネットワークに対して「自動」IP アドレスを複数設定することはできません。
- 1 つのネットワークに対して既に「固定」IP アドレスが設定されている場合、「自動」IP アドレスを追加することはできません。
- IP アドレスの「追加」「削除」をおこなう場合、下位の IP アドレスから順におこなう必要があります(複数の IP アドレスを同時に操作しないでください)
- 同期したサーバに対して変更リクエストを作成する場合、サーバ変更（入力）画面で表示されるスペック一覧には設定ファイルで定義された値が表示されます。 詳細は「10.1.1　カタログ表示名とスペックの設定（39 ページ）」を参照してください。
- 管理者パスワードはリクエスト変更時に再設定する必要があります。
- パブリッククラウド上のサーバの場合、変更リクエストは対象外です。
- データディスクにディスクボリュームをマウントしている場合、サイズを変更することはできません。

35.1.2.3　サーバ削除リクエスト

以下の各手順に従ってサーバ削除リクエストを登録します。

- サーバ削除時

  1. 削除するサーバのチェックボックスにチェックし、「選択」ボタンを押下します。

図 35-17　削除サーバ選択画面

2. サーバ削除（確認）画面が表示されます。 「表 35-4 項目一覧（サーバ作成画面共通）（272 ページ）」 を参照して申請コメント、リクエスト実行オプションを設定します。「確定」ボタンを押下することによりリクエストが登録されます。

図 35-18　サーバ削除（確認）画面

注

物理サーバの削除リクエストの場合、リクエスト一覧には表示されません。リクエスト確定後、サーバ一覧から対象サーバが削除されていることを確認してください。 また、サーバ一覧から対象サーバは削除されていますが、SigmaSystemCenter では削除されていない状態となります。 サーバ一覧から同期を行うことで再度取り込むことも可能です。

35.1.2.4　論理ネットワーク作成リクエスト

以下の各手順に従って論理ネットワーク作成リクエストを登録します。

- 論理ネットワーク作成時

1. 以下の表を参照し、各項目を入力後「次へ」ボタンを押下します。

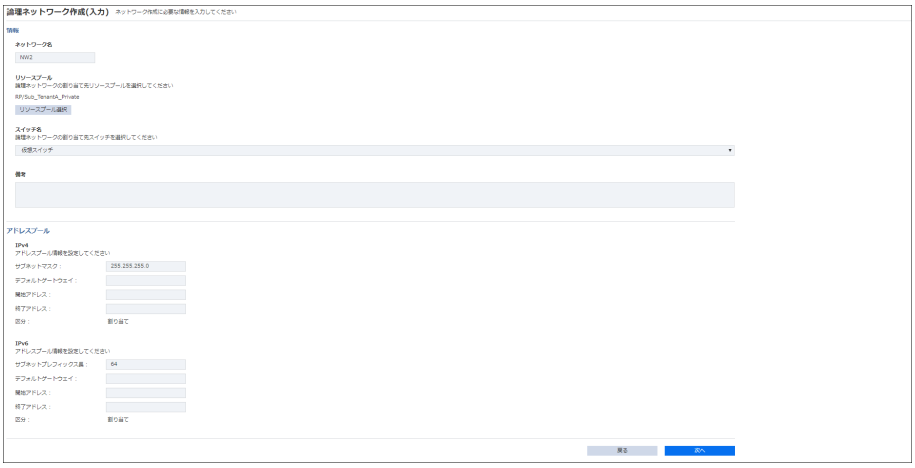

図 35-19　論理ネットワーク作成（入力）画面

表 35-9　項目一覧（論理ネットワーク作成画面）

項目名	入力規則	説明
情報パネル		
ネットワーク名	最小:0 文字 最大:32 文字	ネットワーク名を入力する ※ポータル内での表示名※1
リソースプール	-	「リソースプール選択」ボタンをクリックすることにより、リソースプール選択ダイアログを表示する。 割当て先のリソースプールを選択し、「選択」ボタンをクリックすることにより作成画面に選択される 「図 35-20 リソースプール選択画面（292 ページ）」
スイッチ名	-	論理ネットワークの割り当て先スイッチを指定する
備考	255 文字以内	備考を入力する
アドレスプール※2		
サブネットマスク(IPv4)	IPv4 アドレス形式	論理ネットワークの IPv4 アドレスプールに設定するサブネットマスク 当該論理ネットワークの IPv4 アドレスプールが設定されていない場合は空表示
デフォルトゲートウェイ(IPv4)	IPv4 アドレス形式	設定不可※3
開始アドレス(IPv4)※2	IPv4 アドレス形式 「終了アドレス」を入力すると、入力必須になる なお、「終了アドレス」より小さい必須	IPv4 レンジの開始アドレスを入力する
終了アドレス(IPv4)※2	IPv4 アドレス形式 「開始アドレス」を入力すると、入力必須になる	IPv4 レンジの終了アドレスを入力する

項目名	入力規則	説明
	なお、「開始アドレス」より大きい必須	
サブネットプレフィックス長(IPv6)	最小:1 文字 最大:128 文字 半角数字のみ	サブネットプレフィックス長を入力する
デフォルトゲートウェイ(IPv6)	IPv6 アドレス形式	論理ネットワークの IPv6 アドレスプールに設定されているデフォルトゲートウェイ 当該論理ネットワークの IPv6 アドレスプールが設定されていない場合は空表示
開始アドレス(IPv6)※2	IPv6 アドレス形式 「終了アドレス」を入力すると、入力必須になる なお、「終了アドレス」より小さい必須	IPv6 レンジの開始アドレスを入力する
終了アドレス(IPv6)※2	IPv6 アドレス形式 「開始アドレス」を入力すると、入力必須になる なお、「開始アドレス」より大きい必須	IPv6 レンジの終了アドレスを入力する
その他		
拡張パラメータ(設定されていない場合は非表示)	1024 文字以内	設定ファイルに設定された拡張パラメータ名が表示される 拡張パラメータ名が表示されているボックスに値を入力する 入力値を省略した場合、値無しのパラメータが拡張処理に渡る

注

- ※1SigmaSystemCenter 上に作成される論理ネットワークの名前は、*Tenant ID_Network Request ID* という命名規則により自動的に決定します。テナントユーザが指定することはできません。
- ※2 指定した IP アドレスの範囲は割り当てる範囲として扱われます。除外する IP アドレスの範囲は指定できません。
- ※3 デフォルトゲートウェイを設定したい場合は設定ファイルにてキーを true に変更してください。 詳細は 「11.1　ネットワーク設定（75 ページ）」の手順 5 を参照してください。
- 論理ネットワークを作成する場合、IP レンジを 1 つだけ追加してください。また、IP レンジは「割り当て」のみ追加してください。
- 論理ネットワークを作成する前に、設定ファイル中の product.cloudportal.network.switch.display.*スイッチ名*の設定が必要です。

【リソースプール選択】

割当て先のリソースプールを選択し、「選択」ボタンをクリックする

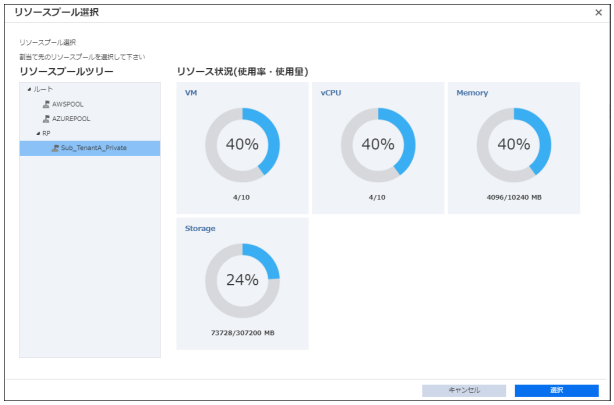

図 35-20　リソースプール選択画面

注

共有リソースプールは選択することができません。

2. 確認画面が表示されます。申請コメント、リクエスト実行オプションを設定し、「確定」ボタンを押下することによりリクエストが登録されます。

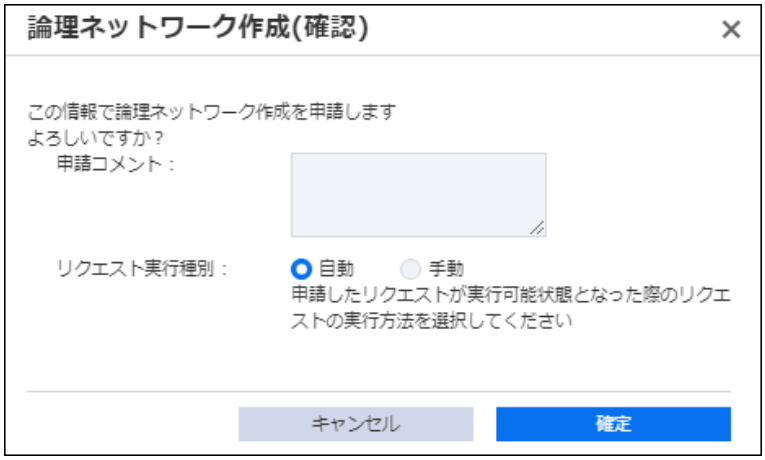

図 35-21　論理ネットワーク作成(確認)画面

表 35-10　論理ネットワーク作成(確認)画面

項目名	説明
申請コメント	承認者へのコメントまたは申請時のメモなどを入力する
リクエスト実行種別	申請したリクエストが実行可能状態になった際のリクエスト実行方法を選択する
キャンセル	リクエストを破棄して論理ネットワーク作成(入力)画面に戻る
確定	リクエスト申請をおこなう

35.1.2.5　ネットワーク削除リクエスト

以下の各手順に従ってネットワーク削除リクエストを登録します。

- 論理ネットワーク削除時

1. 削除するネットワークをクリックすることにより選択し、「選択」ボタンを押下します。

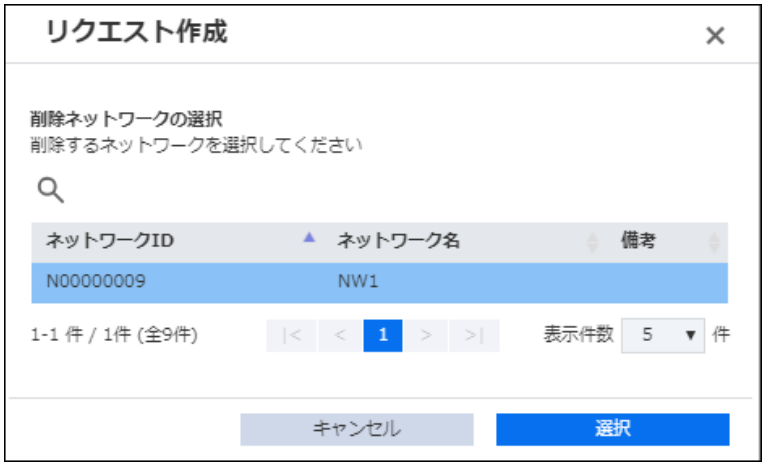

図 35-22　削除ネットワーク選択画面

2. 論理ネットワーク削除（確認）画面が表示されます。 「表 35-10 論理ネットワーク作成(確認)画面（292 ページ）」 を参照して申請コメント、リクエスト実行種別を設定します。「確定」ボタンを押下することによりリクエストが登録されます。

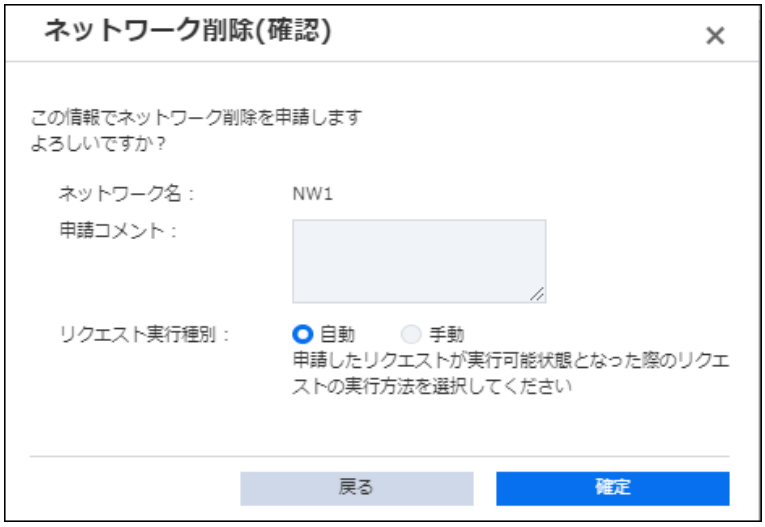

図 35-23　論理ネットワーク削除（確認）画面

注

- 運用設定や同期およびリソース情報更新コマンドにて取り込まれたネットワークを削除しても、そのネットワークに所属するポートグループは削除されません。
- 以下のいずれかの条件に一致する論理ネットワークはネットワーク削除リクエストの対象に表示されません。運用設定や同期およびリソース情報更新コマンドにて削除してください。
  - 公開範囲が public
  - 種別がテナント管理 VLAN
  - スイッチタイプが VirtualSwitch 以外

35.1.2.6　カスタムオペレーション実行リクエスト

以下の各手順に従ってカスタムオペレーション実行リクエストを登録します。

- カスタムオペレーション実行リクエスト作成時

1. 以下の表を参照し、各項目を入力後「次へ」ボタンを押下します。

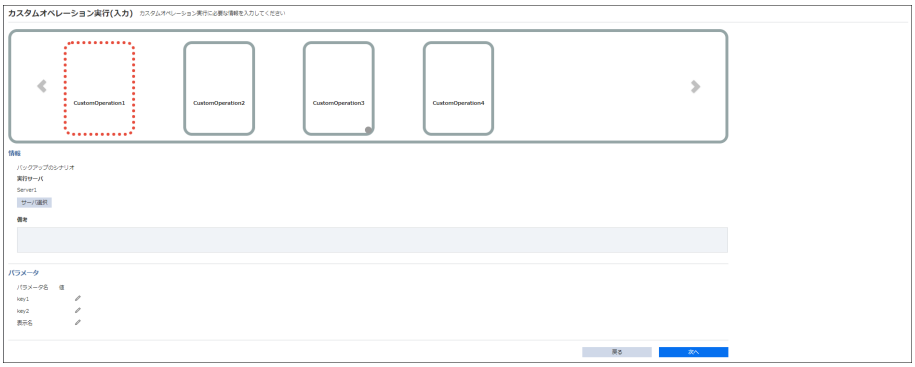

図 35-24　カスタムオペレーション実行（入力）画面

表 35-11　項目一覧（カスタムオペレーション実行画面）

項目名	入力規則	説明
カスタムオペレーション選択	－	実行したいカスタムオペレーションを選択する カスタムオペレーションに汎用サービスを指定した場合、汎用サービスの一覧参照権限を有しないユーザには当該カスタムオペレーションは表示されない。
情報パネル		
説明	－	選択しているカスタムオペレーションの説明が表示される *
実行サーバ	－	「サーバ選択」ボタンをクリックすることにより「実行サーバの選択」ダイアログを表示する カスタムオペレーション定義ファイルの GenericOperations[n].WithServer が未設定または true を設定した場合のみ表示する
汎用サービスの表示名	－	「汎用サービスの表示名（config.json の"displayKey"に対応する messages.json ファイル中の値）選択」ボタンをクリックすることによりサービスインスタンス選択ダイアログを表示する カスタムオペレーション定義ファイルの GenericOperations[n].WithServices[m] が設定してある場合のみ表示する
備考	255 文字以内	備考を入力する
パラメータパネル		
パラメータ名	－	設定したパラメータを表示する
値	－	パラメータの値を表示する
パラメータ変更アイコン	－	「パラメータ変更」ダイアログを表示

項目名	入力規則	説明
戻る	―	入力項目をクリアしリクエスト一覧画面に遷移する
次へ	―	カスタムオペレーション実行（確認）画面に遷移する

【パラメータ変更ダイアログ】

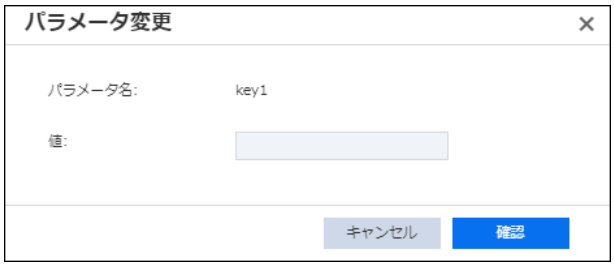

図 35-25　パラメータ変更ダイアログ

表 35-12　パラメータ変更ダイアログ

項目名	入力規則	説明
パラメータ名	―	設定したパラメータ名を表示する
値	タイプが WORKFLOW、かつ、パスワード項目ではない場合 • 0～1024 文字 • 制御文字および#""以外は入力可能 タイプが WORKFLOW、かつ、パスワード項目の場合 • 1～1024 バイト(MS932 換算) • 制御文字以外は入力可能 タイプが COMMAND の場合 • 0～1024 文字 • 制御文字および""以外は入力可能	値を入力する

【サーバ選択ダイアログ】

図 35-26　サーバ選択ダイアログ

【汎用サービスインスタンス選択ダイアログ】

図 35-27　汎用サービスインスタンス選択ダイアログ

2. カスタムオペレーション作成（確認）ダイアログが表示されます。申請コメント、リクエスト実行種別を設定し、「確定」ボタンを押下することによりリクエストが登録されます。

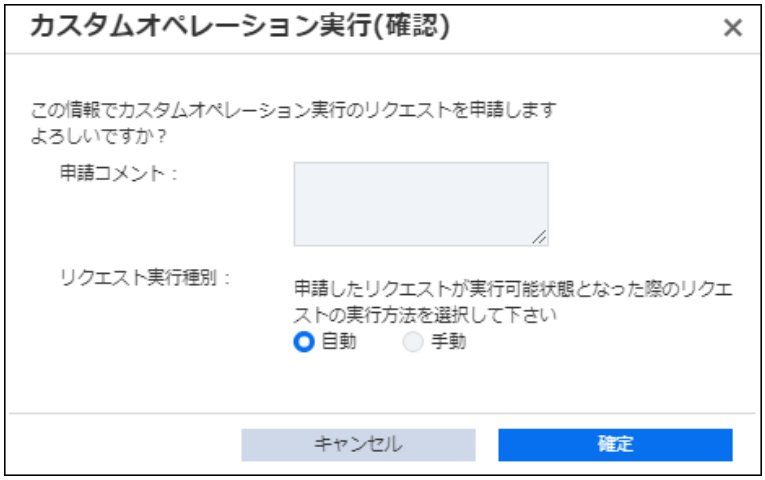

図 35-28　カスタムオペレーション作成（確認）ダイアログ

表 35-13　カスタムオペレーション作成（確認）ダイアログ

項目名	入力規則	説明
申請コメント	0～255 文字	承認者へのコメントまたは申請時のメモなどを入力する
リクエスト実行オプション	自動・手動	申請したリクエストが実行可能状態になった際のリクエスト実行方法を選択する

35.1.3　スタックリクエストを作成する

スタックリクエストの作成方法を以下に示します。

1. リクエスト一覧画面にて、[リクエスト作成]アイコン＋をクリックします。

図 35-29　リクエスト一覧画面

2. リクエスト作成ダイアログが表示されます。

図 35-30　リクエスト作成ダイアログ

3. 作成するリクエスト種別をクリックします。

図 35-31　リクエスト種別選択（スタック作成選択時）

以下の各手順に従ってリクエストを登録します。

- スタック作成

  「35.1.3.1　スタック作成リクエスト（298 ページ）」

- スタック削除

  「35.1.3.2　スタック削除リクエスト（303 ページ）」

注

スタック変更はサポートしていません。トポロジーテンプレートを修正して既存のスタックを更新することはできません。

35.1.3.1　スタック作成リクエスト

以下の各手順に従ってスタック作成リクエストを登録します。

1. 以下の表を参照し、各項目を入力後「次へ」ボタンを押下します。

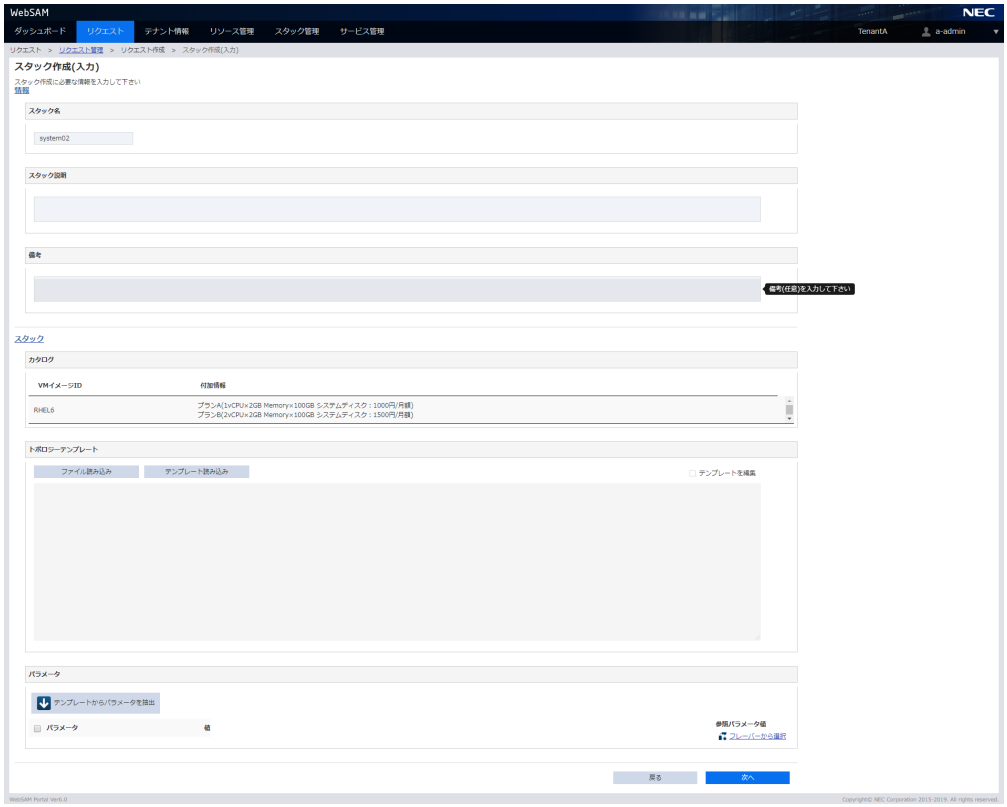

図 35-32　スタック作成（入力）画面

表 35-14　項目一覧（スタック作成画面）

項目名	入力規則	説明
情報パネル		
スタック名	英数字と-（ハイフン）.（ピリオド）_（アンダースコア）が使用可能 1 文字以上 128 文字以内 ※2 バイト文字は使用不可 ※頭文字はアルファベットであること	スタック名を入力する
スタック説明	255 文字以内	スタック説明を入力する
備考	255 文字以内	スタック説明以外の補足情報を入力する
カタログ一覧		
VM イメージ ID	－	「20.2.2　イメージ設定（137 ページ）」で設定された VM イメージ ID が一覧表示される
付加情報	－	「A.1　テンプレートに付加情報を表示する（406 ページ）」で設定されたテンプレートの付加情報が一覧表示される ※付加情報が設定されていない場合は非表示
トポロジーテンプレート		
ファイル読み込み	－	ユーザがローカル環境で作成したテンプレートを読み込む

項目名	入力規則	説明
		「ファイル読み込み」ボタンを押下することにより、ファイル選択ダイアログを表示する トポロジーテンプレートファイルを選択し、「選択」ボタンをクリックすることによりファイル内容をスタックパネルのトポロジーテンプレートへ反映する
テンプレート読み込み	―	システム管理者がユーザに公開しているビルトイントポロジテンプレートを読み込む 「テンプレート読み込み」ボタンを押下することにより、「図 35-33 トポロジーテンプレート選択画面（301 ページ）」を表示する ビルトイントポロジテンプレートを選択し、「選択」ボタンをクリックすることによりファイル内容をスタックパネルのトポロジーテンプレートへ反映する
テンプレートを編集チェック	―	チェックすることによりスタックパネルのトポロジーテンプレートへの入力が可能になる
トポロジーテンプレート	1～65535 文字 YAML 形式で記述する	トポロジーテンプレートを表示、または入力するテキストエリア
パラメータ		
テンプレートからパラメータを抽出	―	スタックパネルのトポロジーテンプレートの入力内容を読み込み直し、トポロジーテンプレートの parameter セクションの設定内容を解析して入力パラメータキーを再表示する
チェック	―	パラメータの値を以下のダイアログより代入したい場合にチェックする 「図 35-34 フレーバー選択画面（301 ページ）」
パラメータキー	―	パラメータの名前 スタックパネルのトポロジーテンプレートの設定内容を解析して表示された入力パラメータキー ※トポロジーテンプレートの parameter セクションにて label を設定した場合は、label の設定値がパラメータキーとして表示されます。
値	255 文字以内	入力パラメータ値を入力する ※トポロジーテンプレートの parameter セクションにて hidden を true に設定した場合は入力した値がマスク表示されます。

注

ファイル読み込みボタン押下にて、ローカルディレクトリのトポロジーテンプレートファイルを開く際には、UTF-8 にてエンコーディングを行います。 UTF-8 以外のファイルの場合、文字化けするおそれがあります。

ヒント

トポロジーテンプレートファイルの記述方法については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『付録 B. トポロジーテンプレートの書式』を参照してください。

【トポロジーテンプレート選択】

読込むトポロジーテンプレートを選択し、「選択」ボタンを押下する

図 35-33　トポロジーテンプレート選択画面

※「第 22 章　ビルトイントポロジテンプレートの設定（165 ページ）」で設定されたトポロジーテンプレートの情報が選択対象として表示されます。

【フレーバー選択】

VM イメージを選択し、指定可能なフレーバーの一覧からパラメータに指定する行を選択し、「選択」ボタンを押下する

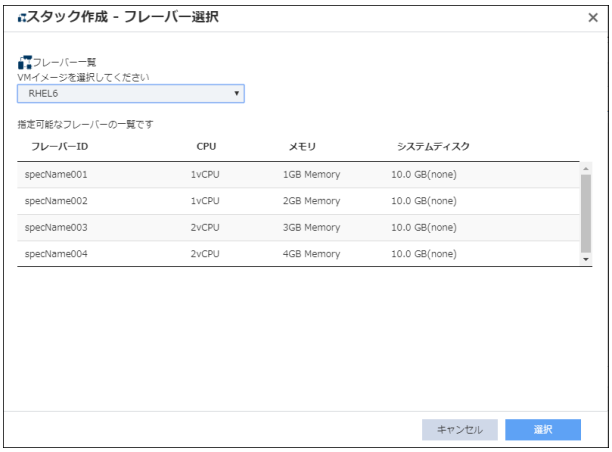

図 35-34　フレーバー選択画面

※「20.2　サービスカタログのカスタム値転記（134 ページ）」で設定されたフレーバー設定、イメージ設定の情報が選択対象として表示されます。

2. 確認画面が表示されます。申請コメント、リクエスト実行オプションを設定し、「確定」ボタンを押下することによりリクエストが登録されます。

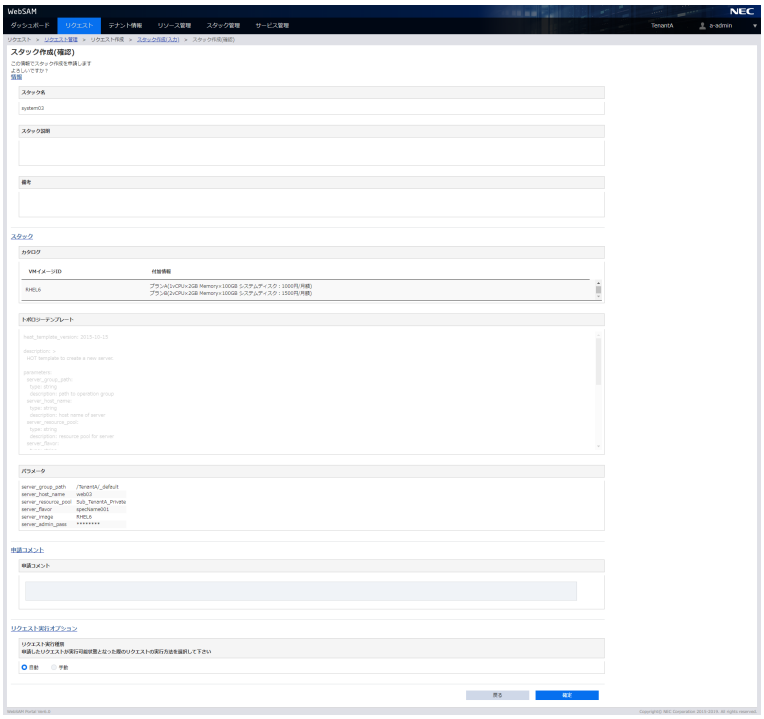

図 35-35　スタック作成（確認）画面

表 35-15　スタック作成（確認）画面

項目名	入力規則	説明
申請コメント	0～255 文字	承認者へのコメント、または申請時のメモなどを入力する
リクエスト実行オプション	自動・手動	申請したリクエストが実行可能状態になった際のリクエスト実行方法を選択する

注

リクエストの承認を行わない、かつ、リクエスト実行オプションを自動にして申請したスタック作成リクエストの場合には以下のチェックは行われません。

- NEC::SSC::Net リソースタイプを含むトポロジーテンプレートを使用したスタック作成リクエストの場合、name プロパティの値が同じになる申請済または実行中のスタック作成リクエストが存在するか否か
- NEC::SSC::Server リソースタイプを含むトポロジーテンプレートを使用したスタック作成リクエストの場合、group および name プロパティの値が同じになる申請済または実行中のスタック作成リクエストが存在するか否か

35.1.3.2　スタック削除リクエスト

以下の各手順に従ってスタック削除リクエストを登録します。

1. 削除するスタックのチェックボックスにチェックし、「選択」ボタンを押下します。

図 35-36　削除スタック選択画面

2. スタック削除（確認）画面が表示されます。「表 35-15 スタック作成（確認）画面（302 ページ）」を参照して申請コメント、リクエスト実行オプションを設定します。「確定」ボタンを押下することによりリクエストが登録されます。

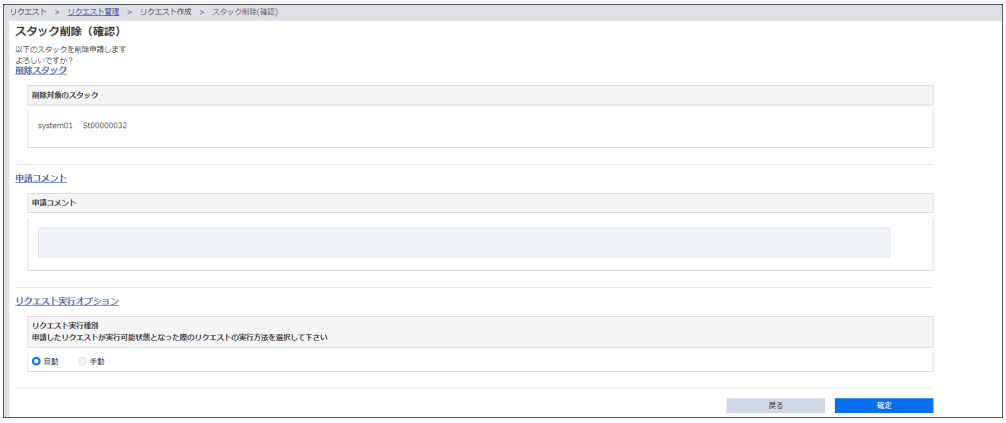

図 35-37　スタック削除（確認）画面

注

リクエストの承認を行わない、かつ、リクエスト実行オプションを自動にして申請したスタック削除リクエストの場合には以下のチェックは行われません。

- 削除対象スタックに含まれるサーバについて、申請済または実行中の個別に構成変更または削除リクエストが存在するか否か
- 削除対象スタックに含まれるサーバについて、全ての停止状態となっているか否か

35.1.4　リクエストの詳細情報を確認する

リクエスト一覧の確認したいリクエスト列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

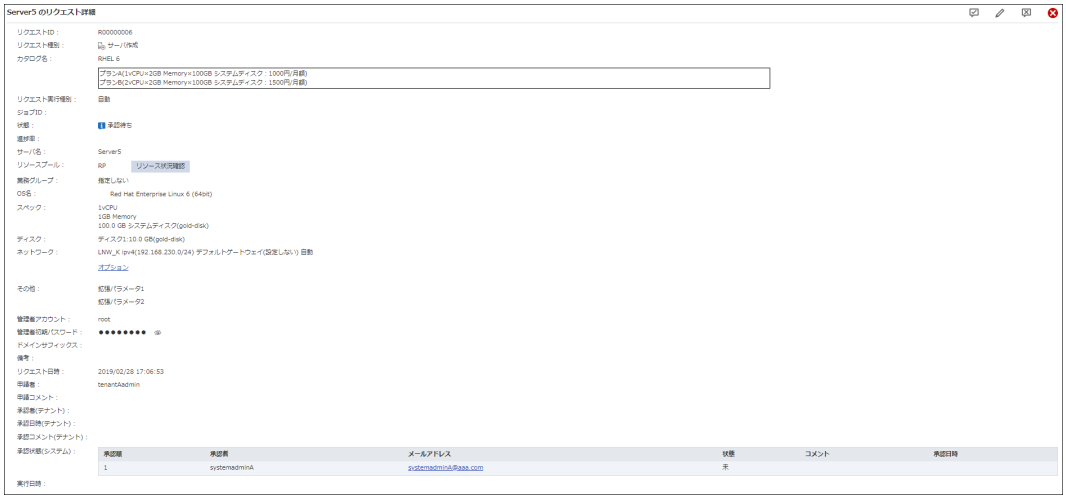

図 35-38　リクエスト詳細画面（共通）

表 35-16　項目一覧（リクエスト）

項目名	説明
リクエスト ID	リクエスト ID
リクエスト種別	・サーバ作成 ・サーバ変更 ・サーバ削除 ・ネットワーク作成 ・ネットワーク削除 ・OracleDB システム作成 ・OracleDB システム変更 ・OracleDB システム削除 ・カスタムオペレーション実行 のいずれか
リクエスト実行種別	リクエスト申請時に設定した以下のリクエスト実行種別を表示する 自動・手動のいずれか
状態	・承認待ち ・実行待機 ・却下 ・キャンセル済み ・実行中 ・完了 ・エラー のいずれか
進捗率	「状態」が実行中・完了の時に進捗率を表示する 「状態」がエラーの場合、エラー詳細を表示する *4
リソースプール	リソースプール名
リソース状況確認	リクエストで選択済みのリソースプールを初期選択した状態でダイアログを表示するボタン
備考	備考
リクエスト日時	リクエストした日時

項目名	説明
申請者	リクエストの申請者名
申請コメント	申請時のコメント
次の承認者	次の承認者を表示する。次の承認者がいない場合は、表示しない。 ※リアルタイム更新する ※承認中状態のみに表示 *1
承認者(テナント)	承認フロー設定がパターン 2 の場合のみ、承認者名を表示する ※リアルタイム更新する *2
承認コメント(テナント)	承認フロー設定がパターン 2 の場合のみ、承認コメントを表示する ※リアルタイム更新する *2
承認日時	承認日時を表示する
実行日時	実行日時を表示する
承認状態(テナント)一覧 承認フロー設定がパターン 3 の場合のみ、承認者の状態を表示する(テナント用承認フロー) ※リアルタイム更新する *2	
承認順	承認フローの承認順を表示する
承認者	承認者名を表示する。未承認の状態の場合は現時点のユーザ名を表示する。 承認済みの場合は、承認した時点のユーザ名を表示する。 *3
メールアドレス	承認者のメールアドレスを表示する。（詳細は上記承認者を参照。）
状態	承認者の承認状態を表示する 以下の状態のいずれか 未（未承認/保留中） 済（承認済） 否（否認） －（スキップ）
コメント	承認者のコメントを表示する
承認日時	承認日時を表示する
承認状態(システム)一覧 承認フロー設定がパターン 3 の場合のみ、承認者の状態を表示する(システム用承認フロー) ※リアルタイム更新する *2	
承認順	承認フローの承認順を表示する
承認者	承認者名を表示する。未承認の状態の場合は現時点のユーザ名を表示する。 承認済みの場合は、承認した時点のユーザ名を表示する。 *3
メールアドレス	承認者のメールアドレスを表示する。 （詳細は上記承認者を参照。）
状態	承認者の承認状態を表示する 以下の状態のいずれかを表示する 未（未承認/保留中） 済（承認済） 否（否認） -（スキップ）

項目名	説明
コメント	承認者のコメントを表示する
承認日時	承認日時を表示する
操作メニュー	
リクエスト承認	リクエスト承認ダイアログをモーダル表示する ※リアルタイム更新する ※承認者、かつ承認待ち状態でのみ表示
リクエスト変更	サーバ作成（変更入力）画面を表示する ※サーバ作成リクエスト選択時のみ表示 ※テナントユーザは「リクエスト変更権限」と「リクエスト承認権限」の権限がある場合のみ表示
リクエスト却下	リクエスト却下ダイアログをモーダル表示する ※リアルタイム更新する ※承認者、かつ承認待ち状態でのみ表示
再申請	以下の各画面に遷移する サーバ作成(入力)画面 サーバ変更(入力)画面 サーバ削除(確認)画面 ※リアルタイム更新する ※却下リクエストまたはキャンセルリクエストを選択した場合のみ表示する。また、システム管理者(テナントに所属していないユーザ)は表示しない。
リクエスト実行	リクエスト実行ダイアログをモーダル表示する ※リアルタイム更新する ※「実行待機」状態の場合のみ表示する ※申請者、またはテナント管理者のみ表示
キャンセル	キャンセルダイアログをモーダル表示する ※以下の状態の場合のみ表示する 承認待ち 承認済み 実行待機 エラー ※リアルタイム更新する ※申請者、またはテナント管理者のみ表示
エラー状態解除	エラー状態解除ダイアログをモーダル表示する。 ※リアルタイム更新する ※システム管理者、且つエラー状態でのみ表示

参照したリクエストがスタックリクエストの場合、以下の詳細情報を表示します。

ヒント

- *1 承認フロー設定により、承認者が設定されていない場合は、次の承認者は表示されません。ただし、承認者は設定されているが削除されている場合や、別テナント（事業者含む）に所属している場合は、以下のように表示されます。
  - テナント用承認フローの承認者の順の場合

    （一覧）テナント管理者

    （詳細）存在しないユーザです。テナント管理者に代理承認を依頼してください。
  - システム用承認フローの承認者の順の場合

（一覧）システム管理者

（詳細）存在しないユーザです。システム管理者に代理承認を依頼してください。

- *2 承認フローのパターンについては、「28.2　承認フロー設定（196 ページ）」 を参照してください。
- *3 未承認状態かつ承認者が削除されている場合や、別テナント（事業者含む）に所属している場合は、「存在しないユーザ」と表示されます。

注

- *4 エラーメッセージは状態がエラーになった時点の言語ロケールや SigmaSystemCenter から取得したメッセージが表示されます。

35.1.5　サーバ作成リクエストの変更

サーバ作成リクエストを承認する前に当該リクエストについて変更し、申請者に差し戻すことなく承認することができる機能です。

サーバ作成変更リクエストには、以下の権限のどちらかが必要です。

注

管理者パスワードはリクエスト変更時に再設定する必要があります。

リクエスト変更権限	ROLE_REQUEST_EDIT
リクエスト代理変更権限	ROLE_REQUEST_AGENCY_EDIT

以下の各手順に従ってサーバ作成リクエストを変更します。

1. リクエスト承認権限を持つユーザが、サーバ作成リクエストの詳細画面にて[リクエスト変更]アイコンをクリックします。

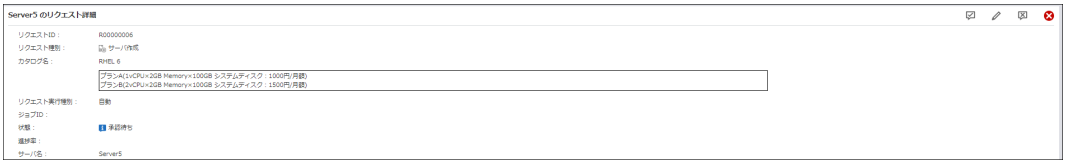

図 35-39　リクエスト詳細画面（承認）

2. サーバ作成（変更入力）画面が表示されます。

   「表 35-4 項目一覧（サーバ作成画面共通）（272 ページ）」を参照し、サーバ作成リクエストを変更します。

   なお、リクエスト引用は表示されません。

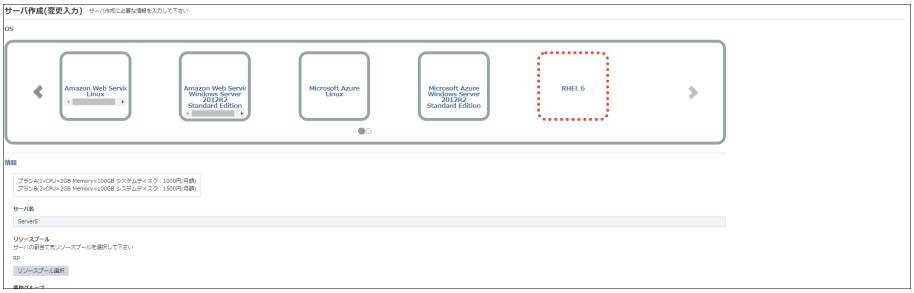

図 35-40　サーバ作成（変更入力）画面

3. 確認画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することによりリクエストが変更されます。

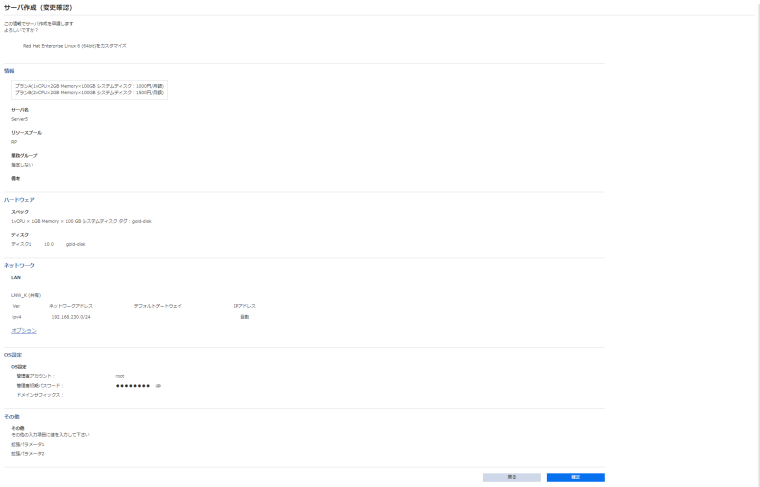

図 35-41　サーバ作成（変更確認）画面

35.1.6　リクエストを承認する

1. リクエスト承認権限を持つユーザが、リクエスト詳細画面にて[リクエスト承認]アイコン☑をクリックします。

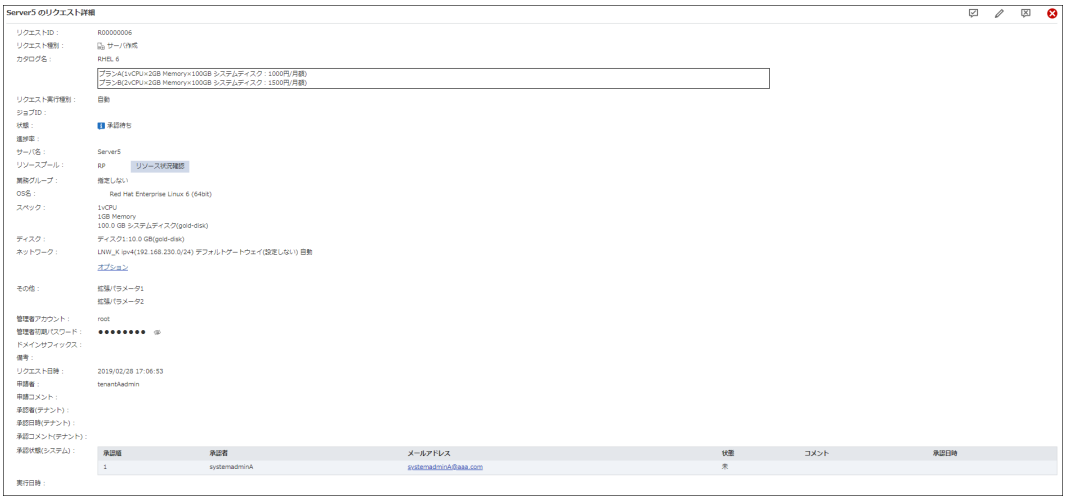

図 35-42　リクエスト詳細画面（承認）

2. リクエスト承認ダイアログを表示します。申請者へのコメントを入力（任意）し、「確認」ボタンを押下することでリクエストを承認します。

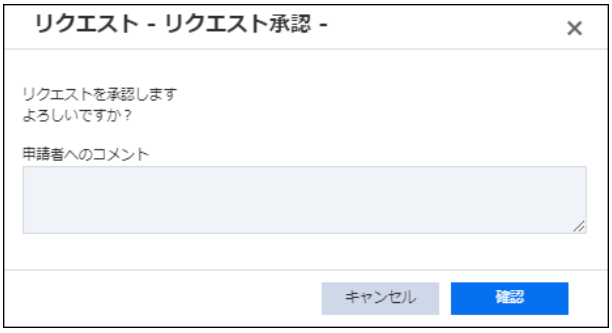

図 35-43　承認ダイアログ

注

Amazon EC2 インスタンスを対象とするサーバ作成または削除リクエストの実行中に、Amazon EC2 インスタンスを対象とするサーバ作成の実行を平行して行うことはできません。

Amazon EC2 用のサーバサービスカタログを指定したサーバ作成リクエスト、または、EC2 インスタンスのサーバ削除リクエストの状態が「実行中」の状況下で、別の Amazon EC2 用のサーバサービスカタログを指定したサーバ作成リクエストが「承認待ち」となった場合には、 先行のリクエストが「完了」または「エラー」の状態となるのを確認後、承認を行ってください。

35.1.7　リクエストを却下する

1. リクエスト承認権限を持つユーザが、リクエスト詳細画面にて[リクエスト却下]アイコン をクリックします。

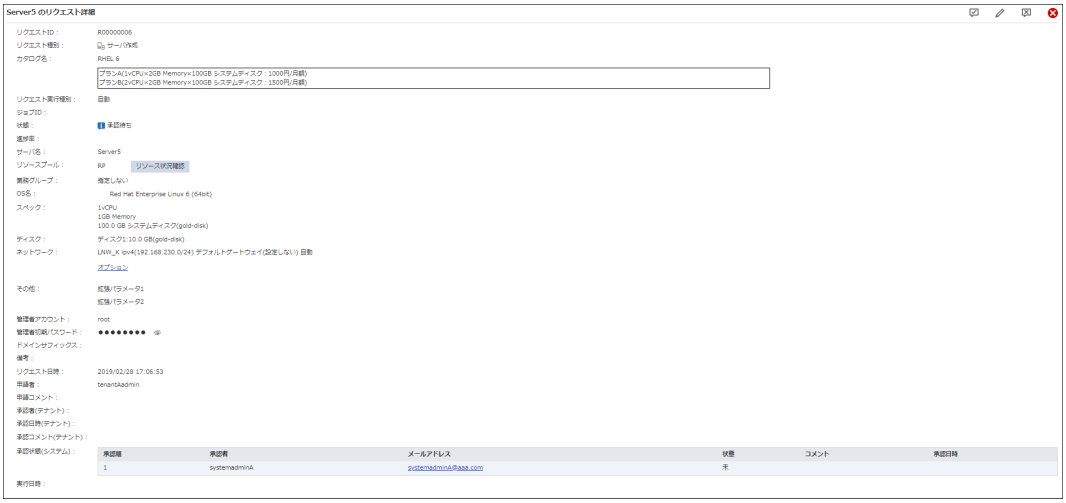

図 35-44　リクエスト詳細画面（却下）

2. リクエスト却下ダイアログが表されます。申請者へのコメントを入力（任意）し、「確認」ボタンを押下することでリクエストを却下します。

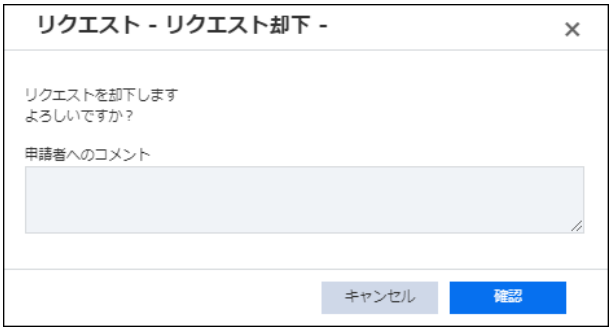

図 35-45　却下ダイアログ

35.1.8　リクエストの実行

リクエストの状態が実行待機の場合はリクエスト実行処理を行うことでリクエストが実行されます。リクエスト申請者およびテナント管理者が操作可能です。

リクエスト実行が必要なリクエストは以下です。

- リクエスト実行オプションにて「手動」を設定したリクエスト
- システム管理者がエラー状態解除をしたリクエスト

1. 実行待機状態のリクエスト詳細画面にて[リクエスト実行]アイコンをクリックします。

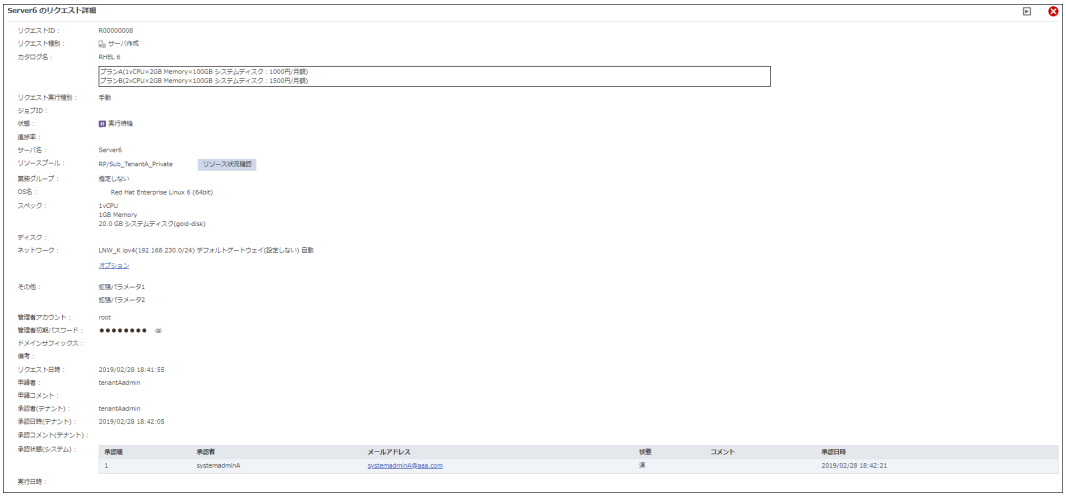

図 35-46　リクエスト詳細画面（リクエスト実行）

2. リクエスト実行ダイアログが表示されます。「確認」ボタンを押下することでリクエストを実行します。

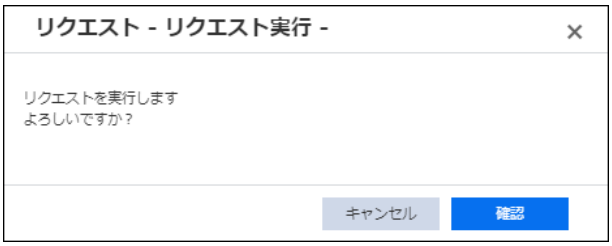

図 35-47　リクエスト実行ダイアログ

35.1.9　リクエストのキャンセル

リクエスト申請者およびテナント管理者は、リクエストの状態が以下の場合にリクエスト申請をキャンセルすることができます。

- 承認待ち
- 承認済み
- 実行待機
- エラー

1. リクエスト詳細画面にて[リクエストキャンセル]アイコンをクリックします。

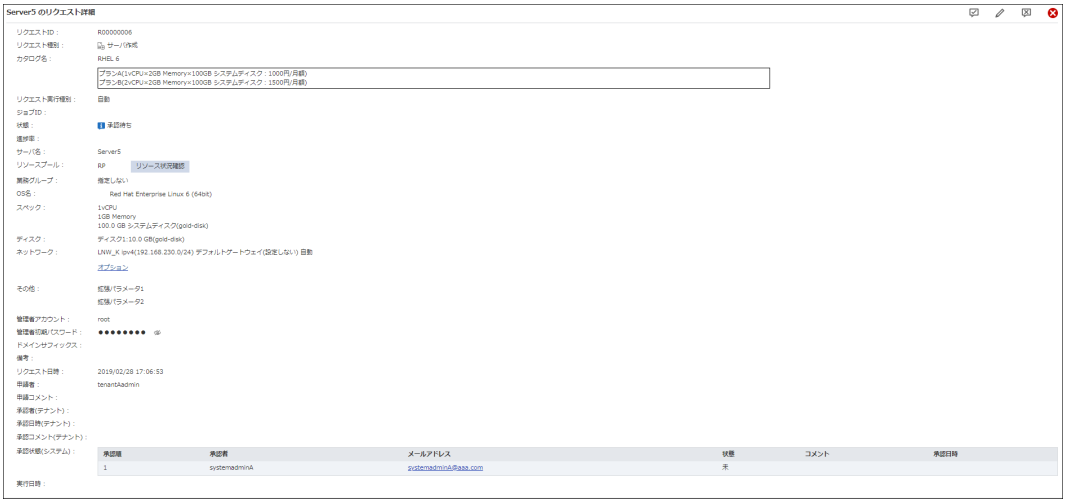

図 35-48　リクエスト詳細画面（キャンセル）

2. リクエストキャンセルダイアログが表示されます。「確認」ボタンを押下することでリクエストをキャンセルします。

   なお、キャンセルしたリクエストは、リクエスト詳細画面から再申請することが可能です。

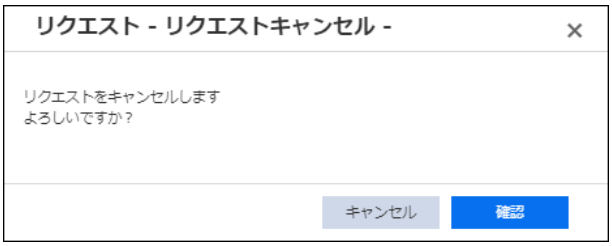

図 35-49　キャンセルダイアログ

ヒント

- エラー状態となったスタックリクエスト申請かつ、スタックが以下の状態の場合にはキャンセルすることができません。
  - 作成失敗
  - 削除失敗
  - ロールバック失敗

上記状態となった場合にはスタック管理サーバにログインし、以下のコマンドを実行してください。

```
>source portal-openrc
>openstack stack list
```

コマンドを実行すると、スタック一覧が表示されます。表示されたものの中から削除したいスタックを見つけ、以下のコマンドを実行してください。

```
>openstack stack delete 削除したいスタックの名前
```

削除したいスタックの名前は以下の命名規則となっております。

T-<スタックを作成したユーザが所属するテナントのテナント ID>_<ユーザがスタック作成リクエスト時に入力したスタック名>

<ユーザがスタック作成リクエスト時に入力したスタック名>が「StackA」、<スタックを作成したユーザが所属するテナントのテナント ID>が「TenantA」の場合、以下のような名前で登録されています。

例: T-TenantA_StackA

上記実行後も削除に失敗した場合には、以下のコマンドを実行してください。

```
>openstack stack abandon 削除したいスタックの名前
```

stack-abandon コマンドを実行した場合には、SigmaSystemCenter 上のリソースは削除されずスタックの情報のみ削除されます。

別途、SigmaSystemCenter からリソースの削除を行ってください。

35.1.10　リクエストを再申請する

一度却下されたリクエストを再申請する場合、リクエスト詳細画面の[申請]アイコンをクリックすることにより、再度リクエスト作成画面が表示されます。

適宜修正・確認をおこない、再申請します。

※再申請アイコンは却下、またはキャンセルしたリクエストのみ表示されます。

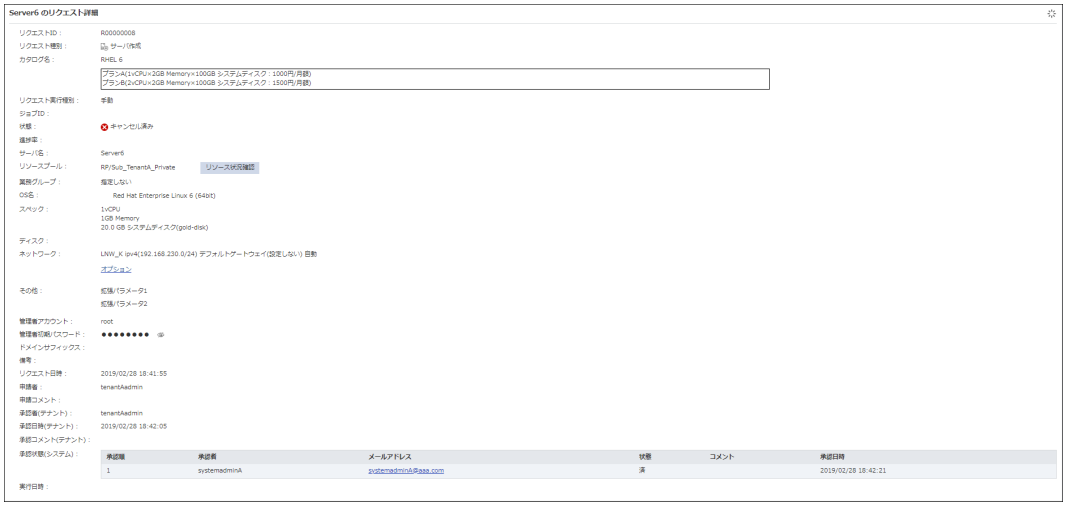

図 35-50　リクエスト詳細画面（再申請）

35.2　承認フロー設定(利用者)

本節では、テナント用承認フロー設定について説明します。

35.2.1　承認フローのパターン(利用者)

本機能は、テナント管理者が利用可能です。

「テナント用承認フロー」では、承認者を最大 5 名登録することが可能です。

- 承認要否設定

  リクエストに対する、承認の要・否を設定します。

  承認を不要とした場合、リクエストを申請すると直ちに自動実行されます。

- 承認条件設定

  承認要否設定が「不要」の場合には操作はありません(表示されません)。

  承認の条件を、承認権限を持つ「全てのユーザ」または「いずれかのユーザ」に設定します。

  「全てのユーザ」を選択した場合は、承認者の登録順に承認処理が進みます。

表 35-17　承認フロー設定と承認動作の一覧

項番	承認要否	承認条件	承認動作
1	不要	-	承認操作なし
2	必要	いずれかのユーザ	承認権限を持ついずれかのユーザが承認することで承認済みとみなす
3	必要	全てのユーザ	承認フローに設定されている全ての承認者が承認することで承認済みとみなす

- 承認権限および代理承認権限

リクエストに対する承認動作(承認、却下)は、原則として「承認権限」を保有しているユーザ本人がおこないます。

ただし、テナント管理者は代理で自テナントの承認動作をおこなうことが可能です。

表 35-18　承認可能権限の一覧

ユーザ	承認フロー設定	テナント用承認フロー	
		承認	却下
(承認権限なし) テナントユーザ	-	-	-
(承認権限あり) テナントユーザまたはテナント管理者	全てのユーザ	可能	可能
(承認権限あり) テナントユーザ または テナント管理者	いずれかのユーザ	可能	可能
(承認権限なし) システム管理者	-	-	-
(承認権限あり) システム管理者	全てのユーザ	-	-
テナント管理者	-	代理	代理
システム管理者 (テナント代行)	-	代理	代理

注

- リクエストの申請中に承認フローが変更された場合には、リクエスト申請時点の設定が優先されます。
- 人事異動等で承認者が削除された場合は、その承認者を飛ばして次の承認者へと処理が進みます。
- 承認者ユーザが無効やロック中、承認権がはく奪されていた場合は、有効と同様に処理されます。ただし、承認・却下はできないため、ユーザ編集もしくは代理承認をおこなう必要があります。

35.2.2　テナント用承認フロー設定 画面

1. メニューから、「リクエスト」－「承認フロー設定」をクリックすることにより、「承認フロー設定」画面が表示されます。

   以下の表を参照し、編集対象のテナントを選択後、「編集」ボタンをクリックします。

図 35-51　テナント用承認フロー設定 画面

表 35-19　テナント用承認フロー設定 画面

項目名	説明
承認要否	現在設定されている承認要否
承認完了条件 ※承認要否が「必要」の場合のみ表示	現在の承認完了条件
承認者 ※承認要否が「必要」の場合のみ表示	承認が必要な承認者のユーザ名とメールアドレス（承認順）
編集	承認フロー設定変更(入力)画面を表示する

2. 「承認フロー設定変更(入力)」 画面が表示されます。以下の表を参照し、各項目を設定後、「確定」ボタンをクリックすることにより編集が反映されます。

図 35-52　承認フロー設定変更(入力) 画面

表 35-20　承認フロー設定変更(入力) 画面

項目名	入力規則	初期値	説明
承認要否	「必要」または「不要」のいずれか	現在の設定状態	承認要否を選択する
承認完了条件 ※承認要否が「必要」の場合のみ表示	－	「承認権限を持ついずれかのユーザが承認すること」	「承認権限を持ついずれかのユーザが承認すること」 「承認フローに設定されている全ての承認者が承認すること」 のいずれかを選択
承認者選択	－	－	承認者の選択ダイアログを開く 「表 35-21 承認者の選択ダイアログ 画面（316 ページ）」 を参照し、承認者を選択する
戻る	－	－	現在の入力内容を破棄し、承認フロー設定画面に遷移する
確定	－	－	承認フロー設定を更新する

承認者選択は５名まで指定可能です。「使用可能」から承認者を選択し、「追加」ボタンをクリックすることで「構成済み」に追加されます。設定したいすべての承認者を選択後、「選択」をクリックします。

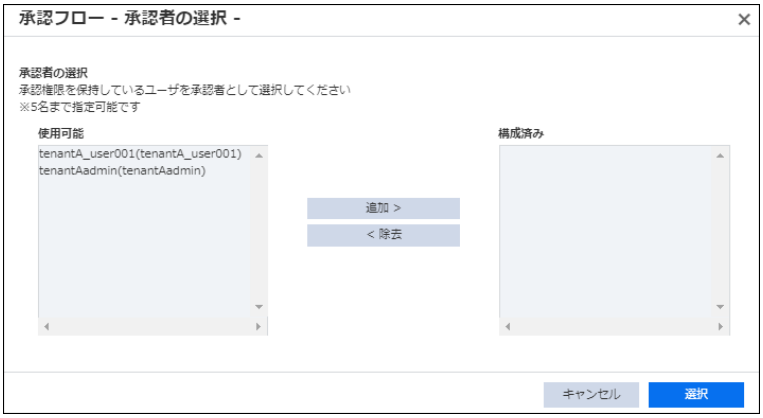

図 35-53　承認者の選択ダイアログ

表 35-21　承認者の選択ダイアログ 画面

項目名	説明
使用可能	承認者に設定できるユーザ名一覧
構成済み	承認者として追加されたユーザ名
追加ボタン	「使用可能」にて選択したユーザを「構成済み」に追加する
除去ボタン	「構成済み」にて選択したユーザを承認者から除外する
キャンセル	現在の設定内容を破棄し、承認フロー設定画面に遷移する
選択	現在の構成済み内容で、承認者を設定する

35.3　メール通知設定

メール通知機能は、リクエストが状態遷移（承認・却下など）した際、適任者へ次のアクションを促すための通知を実現します。

本機能は、システム管理者が本機能を有効にしている場合のみ利用可能です。

35.3.1　メール通知設定

メール通知の内容を確認します。

本機能は、テナント管理者権限を保有するユーザが利用可能です。

システム管理者はテナント代行機能により、代行テナントの情報を確認することができます。

メニューから、「リクエスト」－「メール通知設定」をクリックすることにより、「メール通知設定」画面が表示されます。

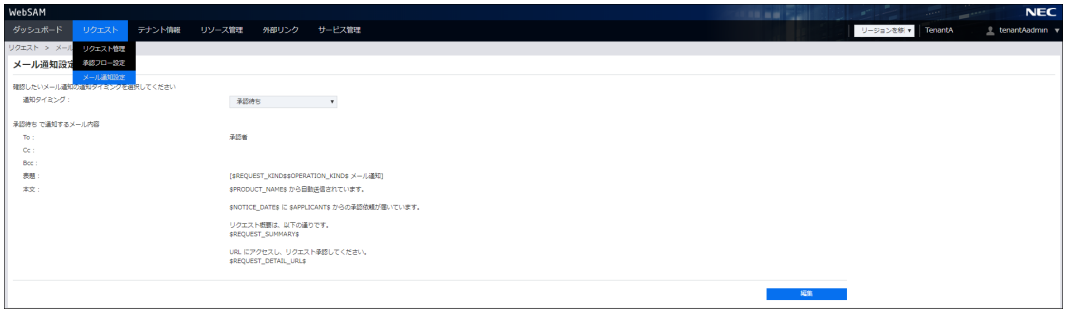

図 35-54　メール通知設定 画面

表 35-22　メール通知設定 画面

項目名	説明	
通知タイミング	次のうちのいずれか 承認待ち 承認完了 却下 キャンセル 実行完了 実行エラー テナント管理者作成または選択時 テナントユーザ作成時	
To:	承認待ち	承認フロー内の承認者
	承認完了	申請者
	却下	申請者および承認フロー内の承認者で既に承認した承認者
	キャンセル	承認フロー内の承認者で既に承認した承認者
	実行完了	申請者
	実行エラー	申請者およびテナント管理者とシステム管理者
	テナント管理者選択時	テナント管理者
	テナントユーザ作成時	テナントユーザ
Cc:	メール通知内容で設定されている Cc:のメールアドレス	
Bcc:	メール通知内容で設定されている Bcc:のメールアドレス	
表題	メール通知内容で設定されている表題	
本文	メール通知内容で設定されている本文	
編集ボタン	メール通知内容を編集するため、 メール通知設定変更(入力)画面を表示する	

注

承認フローが「承認権限を持ついずれかのユーザが承認すること」 に設定されている場合は、テナント内の承認権限を持つ全てのユーザに送信されます。ただし、テナント内に承認者がいない場合はテナント管理者に送信されます。

注

「通知タイミング」ドロップダウン選択時、メールテンプレートをサーバから取得します。環境によってメールテンプレートの切り替えに時間が掛かる場合があります。

35.3.2　メール通知設定変更(入力)

メール通知の内容を編集する機能です。

本機能は、テナント管理者権限を保有するユーザが利用可能です。

システム管理者はテナント代行機能により、代行テナントの情報を編集することができます。

「メール通知設定」画面にて「編集」をクリックすることにより、「メール通知設定変更(入力)」画面を表示します。

図 35-55　メール通知設定変更(入力) 画面

表 35-23　メール通知設定変更(入力) 画面

項目名	必須	入力規則	初期値	説明
To:	-	-	-	通知先
Cc:	×	e-mail 形式	空白	Cc:に設定するメールアドレスを入力する ※1 メールアドレスのみ設定可能
Bcc:	×	e-mail 形式	空白	Bcc:に設定するメールアドレスを入力する ※1 メールアドレスのみ設定可能
表題	○	1 文字以上 128 文字以内 ※1 バイト、2 バイト、制御文字含む文字数	設定されている表題	表題に設定する内容を入力する
本文	○	1 文字以上 2048 文字以内 ※1 バイト、2 バイト、制御文字含む文字数	設定されている本文	表題に設定する内容を入力する
戻るボタン	-	-	-	現在の入力内容を破棄し、メール通知設定画面に遷移する
確定ボタン	-	-	-	現在の入力内容で、メール通知設定を更新し、メール通知設定画面に遷移する ※入力エラー時には該当箇所にエラーが表示される

各項目を入力後、「確定」ボタンをクリックすることによりメール通知内容が変更されます。

ヒント

「33.1.1　メール通知で利用可能な置換文字列（248 ページ）」が利用可能です。

第 36 章
テナント情報（利用者）

本章では、テナント管理者・テナントユーザのテナント情報メニュー操作について説明します。

テナント情報メニューでは、以下の機能があります。

・テナント管理（テナントユーザは利用不可）　：　テナントの詳細確認・編集を行う

・ユーザ管理（テナント管理者）　：　新規ユーザの登録や、登録ユーザの確認・編集・パスワード変更・削除を行う

・ユーザ管理（テナントユーザ）　：　登録ユーザの確認

36.1　テナント管理（利用者）

本節ではテナント管理メニューについて説明します。

36.1.1　テナント一覧（利用者）

メニューから、「テナント情報」－「テナント管理」をクリックすることにより、テナント一覧画面を表示します。

図 36-1　テナント管理画面

表 36-1　項目一覧（テナント管理画面）

項目名	説明
テナント一覧	自テナントの情報を表示する

36.1.2　テナントの詳細情報を確認する（利用者）

テナント一覧の確認したいテナント列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

図 36-2　テナント情報詳細画面

表 36-2　項目一覧（テナント詳細）

項目名	説明
テナント ID	テナント ID
テナント名	テナント名
状態	以下の状態のいずれか

項目名	説明
	・有効 ・無効
登録ユーザ数	当該テナントに登録されているユーザ数
登録日時	登録した日時
備考	備考
管理者	当該テナントの管理者名
テナント編集	「テナント変更(入力)」画面を表示する

36.1.3　テナントを編集する（利用者）

テナントの編集方法を以下に示します。

1. テナント詳細画面にて、[テナント編集]アイコンをクリックします。

図 36-3　テナント詳細画面

2. テナント変更（入力）画面が表示されます。各項目を編集後「次へ」ボタンを押下します。

図 36-4　テナント変更（入力）画面

なお、テナント変更画面ではテナントの管理者を指定できます。あらかじめ作成されたテナント管理ユーザを指定してください。

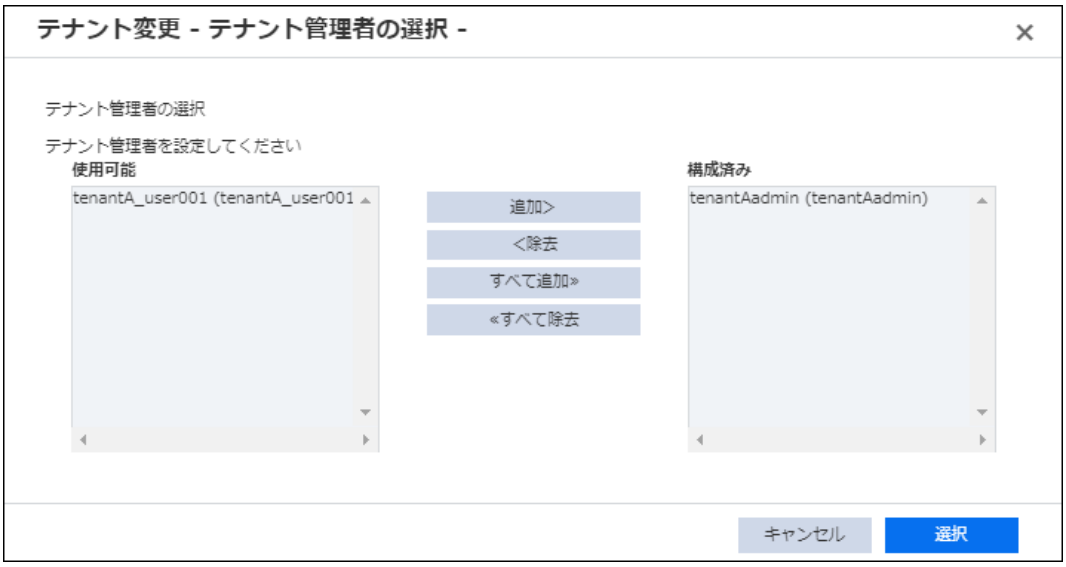

図 36-5　管理者選択画面

3. テナント変更（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することにより変更が反映されます。

図 36-6　テナント変更（確認）画面

注

- 管理者選択でテナント管理者に設定した場合、ロールはテナント管理者になります。
- 管理者選択でテナント管理者から外した場合、ロールはテナントユーザ（カスタムロールなし）になります。

36.2　ユーザ管理

本節では、ユーザ管理メニューについて説明します。

36.2.1　ユーザー覧（利用者）

メニューから、「テナント情報」－「ユーザ管理」をクリックすることにより、ユーザ一覧画面を表示します。

図 36-7　ユーザ管理画面

表 36-3　項目一覧（ユーザ管理画面）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
ユーザ登録	ユーザ登録画面を表示する ※テナントユーザの場合は非表示
ユーザ一覧	ユーザの一覧を表示する

ユーザを検索する場合は、ユーザ一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 36-4　項目一覧（ユーザ一覧検索画面）

項目名	説明
氏名	氏名
ユーザ ID	ユーザ ID
ロール	以下の状態を選択する ・システム管理者

項目名	説明
	・テナント管理者 ・テナントユーザ ・テナント固有ロール
追加するロール	カスタムロールを選択する ロールに「テナントユーザ」を選択した場合のみ有効 カスタムロールが割り当てていないユーザを条件にしたい場合には、「設定されない」を選択する
承認可否	以下の状態を選択する ・リクエスト承認可能 ・リクエスト承認不可
状態	以下の状態を選択する ・有効 ・無効 ・ロック中
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

36.2.2　ユーザを登録する（利用者）

ユーザの追加方法を以下に示します。

1. ユーザ一覧画面にて、[ユーザ登録]アイコン＋をクリックします。

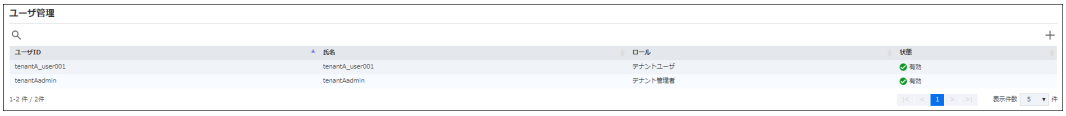

図 36-8　ユーザ一覧画面

2. ユーザ登録（入力）画面が表示されます。下記の表を参照し、各項目を入力後「次へ」ボタンを押下します。

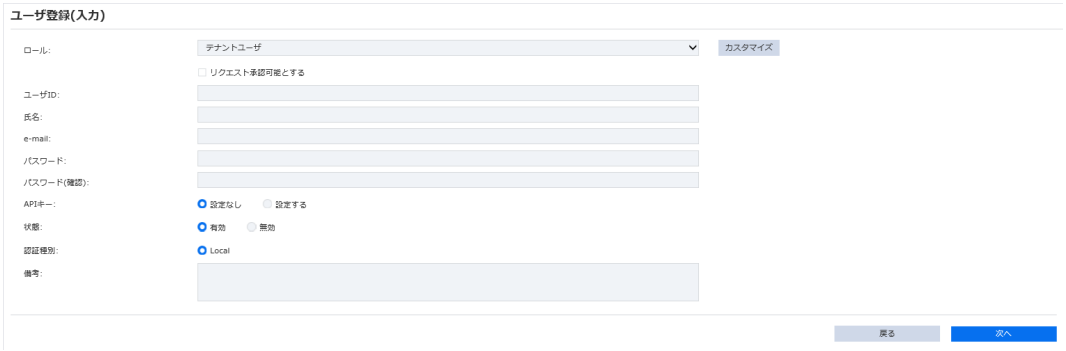

図 36-9　ユーザ登録（入力）画面

表 36-5　項目一覧（ユーザ登録画面）

項目名	入力規則	初期値	説明
ロール	―	テナントユーザ	ユーザに付与するロールを選択する ・テナント管理者 ・テナントユーザ

項目名	入力規則	初期値	説明
			・テナント固有ロール リクエスト承認を可能とする場合は「リクエスト承認可能とする」チェックボックスにチェックを入れる テナントユーザにカスタムロールを設定する場合は、カスタマイズボタンを押下し、カスタマイズダイアログにて追加・付与するロールを選択 下図「カスタマイズダイアログ」参照
ユーザ ID	3～16 文字 半角英数と_（アンダースコア）、-（ハイフン）が使用可能	―	ユーザ ID を入力する
氏名	1024 文字以内	―	氏名（ユーザ名）を入力する
e-mail	e-mail 形式	―	メールアドレスを入力する
パスワード	6 文字以上 16 文字以下 半角英数字と!"#$%&'()*+,./:;<=>?@[\]^_`{|}~ -が使用可能	―	ユーザのパスワードを入力する
パスワード(確認)	上記と同じであること	―	ユーザのパスワードを入力する(確認)
API キー	―	―	設定なしの場合 : ユーザの API キーを発行しない 設定するの場合:ユーザの API キーを自動的に発行する
状態	―	有効	ユーザの状態を選択する ・有効 ・無効
認証種別	―	Local	ユーザの認証種別を選択する • vDCA SE ポータルの独自認証機能(ローカル認証)を使用する場合：Local • Active Directory による LDAP 認証を使用する場合：System LDAP（LDAP 認証時のみ表示）※1
備考	255 文字以内	―	備考

【カスタマイズ】

ロール種別に「テナントユーザ」を選択した場合、カスタムロールを追加することができます。カスタムロールの詳細については、「第 17 章　ロール設定（126 ページ）」を参照してください。

「使用可能」欄から追加するロールを選択して「追加」ボタンを押下します。追加するロールをすべて選択後、「選択」ボタンを押下します。

なお、すべてのロールを対象とする場合は「すべて追加」ボタンにより全ロールが追加されます。

図 36-10　カスタマイズダイアログ

3. ユーザ登録（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することによりユーザが追加されます。

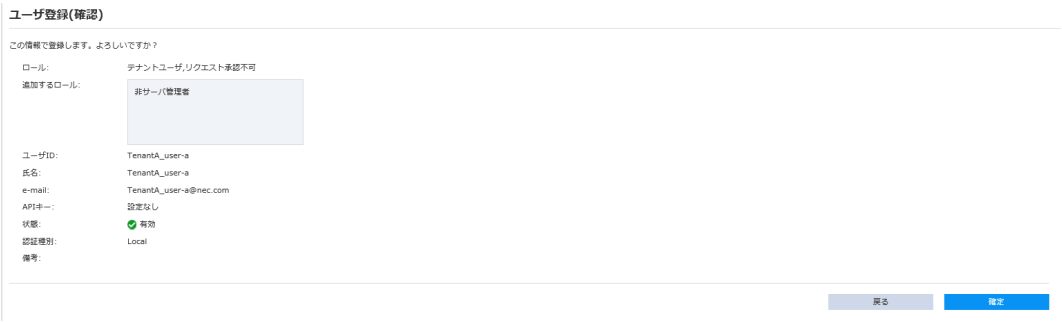

図 36-11　ユーザ登録（確認）画面

注

※1

「認証種別」を「System LDAP」に設定した場合、認証先となる Active Directory には登録しようとしているユーザが既に存在している必要があります。

36.2.3　ユーザの詳細情報を確認する（利用者）

ユーザ一覧の確認したいユーザ列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

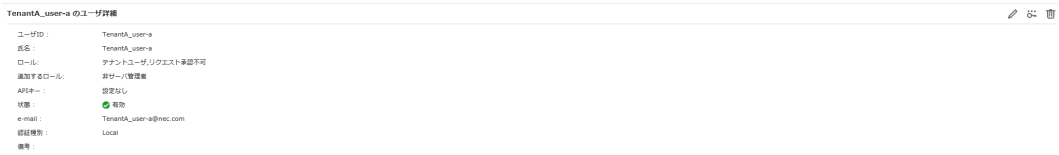

図 36-12　ユーザ情報詳細画面

表 36-6　項目一覧（ユーザ詳細）

項目名	説明
ユーザ ID	ユーザ ID

項目名	説明
氏名	氏名(ユーザ名)
ロール	ユーザ種別、リクエスト承認可否
追加するロール	カスタムロール 種別がテナントユーザの場合のみ表示 カスタムロールが複数の場合にはカンマ区切りで表示
API キー	API キーが設定されないユーザに対し「設定なし」を表示 API キーが設定されているユーザに対し「設定済」を表示
状態	・有効 ・無効 ・ロック中 のいずれか
e-mail	ユーザのメールアドレス
認証種別	・Local ・System LDAP のいずれか
備考	備考
ユーザ変更	ユーザ変更画面を表示する ※テナントユーザの場合は非表示
パスワード変更	パスワード変更画面を表示する ※テナントユーザの場合は非表示
ユーザ削除	ユーザ削除画面を表示する ※テナントユーザの場合は非表示

36.2.4　ユーザの情報を変更する（利用者）

ユーザ情報の変更方法を以下に示します。

1. ユーザ詳細画面にて、[ユーザ変更]アイコン をクリックします。

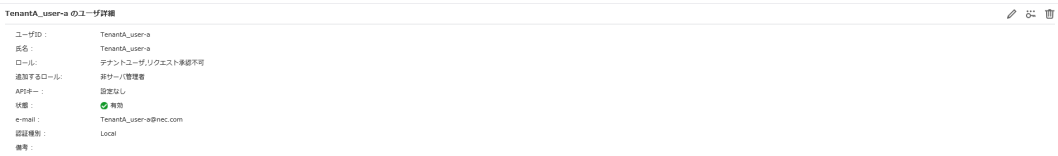

図 36-13　ユーザ詳細画面

2. ユーザ変更（入力）画面が表示されます。「36.2.2　ユーザを登録する（利用者）（323 ページ）」の「表 36-5 項目一覧（ユーザ登録画面）（323 ページ）」を参照し、各項目を編集後「次へ」ボタンを押下します。

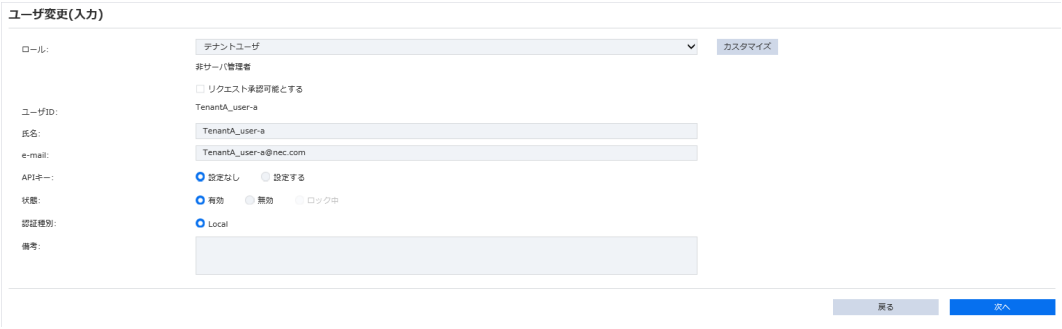

図 36-14　ユーザ変更（入力）画面

【カスタマイズ】

ロール種別に「テナントユーザ」を選択した場合、カスタムロールを変更することができます。

「使用可能」欄から追加するロールを選択して「追加」ボタンを押下します。すべてのロールを対象とする場合は「すべて追加」ボタンにより全ロールが追加されます。「構成済み」欄から除去するロールを選択して「除去」ボタンを押下します。すべてのロールを対象とする場合は「すべて除去」ボタンにより全ロールが除去されます。 追加または除去するロールをすべて選択後、「選択」ボタンを押下します。

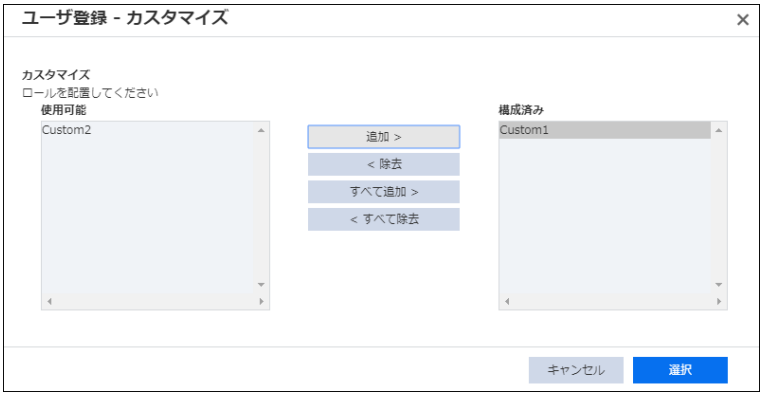

図 36-15　カスタマイズダイアログ

3. ユーザ変更（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することにより変更が反映されます。

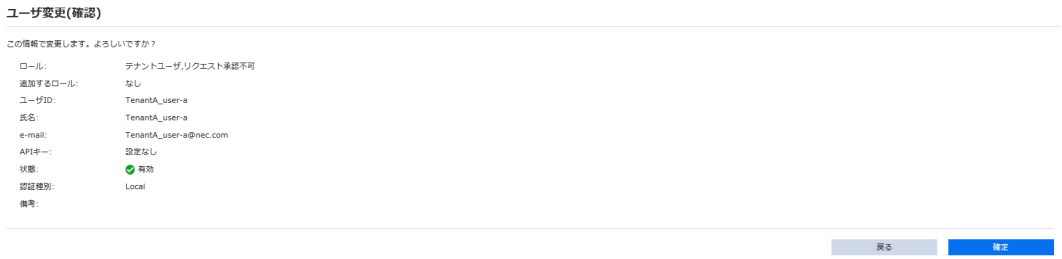

図 36-16　ユーザ変更（確認）画面

注

- ユーザの氏名を変更しても、それ以前に登録されたリクエスト、メンテナンス、お知らせ、運用作業履歴の登録者情報には反映されません。

- 認証種別が System LDAP となっているユーザは、ログインする際、Active Directory による LDAP 認証を行うため、ローカル認証時のパスワードを変更することができません。 認証種別を Local に変更したい場合、ローカル認証時のパスワードを事前に設定した上で認証種別を変更する必要があります。 「29.2.5　パスワードを変更する（212 ページ）」 を参照し、対象ユーザのパスワードを変更してください。

36.2.5　パスワードを変更する

パスワードの変更方法を以下に示します。

1. ユーザ詳細画面にて、[パスワード変更]アイコンをクリックします

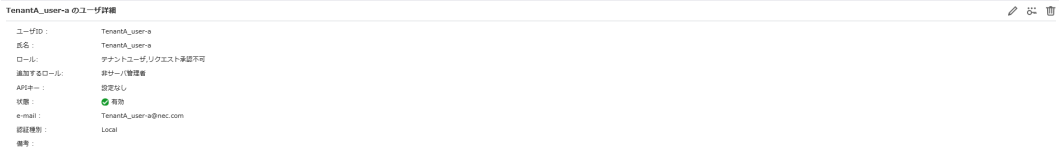

図 36-17　ユーザ詳細画面

2. パスワード変更（入力）画面が表示されます。「29.2.2　ユーザを登録する（管理者）（207 ページ）」の パスワード入力規則を参照して変更後「次へ」ボタンを押下します。

図 36-18　パスワード変更（入力）画面

3. パスワード変更（確認）画面が表示されます。「確定」ボタンを押下することにより変更が反映されます。

図 36-19　パスワード変更（確認）画面

36.2.6　ユーザを削除する

ユーザの削除方法を以下に示します。

1. ユーザ詳細画面にて、[ユーザ削除] アイコンをクリックします。

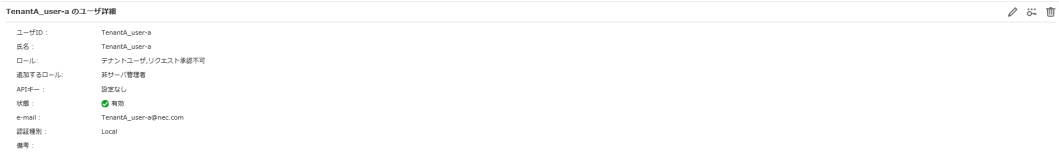

図 36-20　ユーザ詳細画面

2.「ユーザ削除（確認）」画面が表示されます。［確定］ボタンを押下することでユーザを削除します。

図 36-21　ユーザ削除画面

第 37 章
リソース管理

本章では、リソース管理メニューについて説明します。

リソース管理メニューでは、以下の機能があります。

- リソース状況: リソースプールごとに使用状況グラフを表示します。

  詳細は「37.1　リソース状況（利用者）（330 ページ）」を参照してください。

- 業務グループ管理: サーバの管理単位である、業務グループを作成・変更・削除します。

  詳細は「37.2　業務グループ管理（利用者）（331 ページ）」を参照してください。

- トポロジー: ネットワークとサーバの構成図の表示や、専有ネットワーク名の変更を行います。

  詳細は「37.3　トポロジー表示（337 ページ）」を参照してください。

- サーバ管理: サーバの情報表示や電源操作などを行います。

  詳細は「37.4　サーバ管理（利用者）（340 ページ）」を参照してください。

- ネットワーク管理: ネットワークの情報表示や削除などを行います。

  詳細は「37.5　ネットワーク管理（利用者）（352 ページ）」を参照してください。

- DB システム管理: データベースの情報表示や起動・停止などを行います。

  詳細は DB システム管理（利用者）を参照してください。

- 運用作業履歴: サーバに対する操作の実行履歴を表示します。

  詳細は「37.6　運用作業履歴（利用者）（357 ページ）」を参照してください。

37.1　リソース状況（利用者）

自テナントで利用可能なリソースプールの状況を表示します。

また、各リソースプールが保持しているリソースの消費情報を確認することができます。

注

NEC Cloud IaaS 上のリソースプールは表示されません。

37.1.1　リソース状況の確認（利用者）

メニューから、「リソース管理」－「リソース状況」をクリックすることにより、リソース状況画面を表示します。

リソースプールツリーのリソースプールをクリックすることにより、右ペインにリソースプール詳細が表示されます。

リソースプールツリーでは、所属テナントのリソースプール一覧が表示され、リソースプール詳細ではツリーで選択したリソースプールの使用率・残量が表示されます。

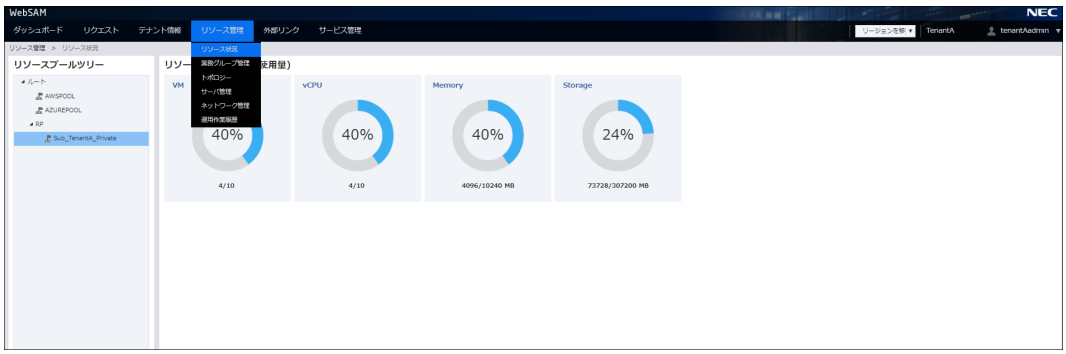

図 37-1　リソース状況画面

表 37-1　項目一覧（リソース状況）

項目名	説明
リソースプールツリー	リソースプール一覧 クリックで選択およびリソース消費情報を表示する
リソーススライダー	スライダーで各リソースを表示する
リソース名	リソース名 ※リソース名の横に旗マークがあるリソースは専有リソースを表す
リソース使用値	リソースの使用値を以下の形式で表示する 使用値／総量 総量が 0 の場合、以下の形式で表示する 使用値／-
リソース単位	リソースの単位
リソース使用率(円グラフ)	リソースの使用率を円グラフで表示する 総量が 0 の場合、円グラフは表示されない

注

パブリッククラウド用のリソースプールの場合、グラフは表示されません。

37.2　業務グループ管理（利用者）

本節では、業務グループとその管理メニューについて説明します。

業務グループは、サーバを業務システムにおけるサービスやアプリケーションなどの役割別にグループ化し、それを管理単位として扱うための機能です。 サーバ作成時に、所属させる業務グループを指定することで割り当てられます。一度サーバの所属する業務グループを指定すると、以後変更できません。変更が必要な場合は、システム管理者へ問い合わせが必要になります。

業務グループ管理メニューでは、任意の業務グループを作成できます。サーバ作成時に作成済みの業務グループを選択し、サーバをグループ化することが可能です。

※専有リソースプールを選択したサーバのみグループ化することが可能

業務グループの使い方の例を、「図 37-2 業務グループ構成例（332 ページ）」に示します。

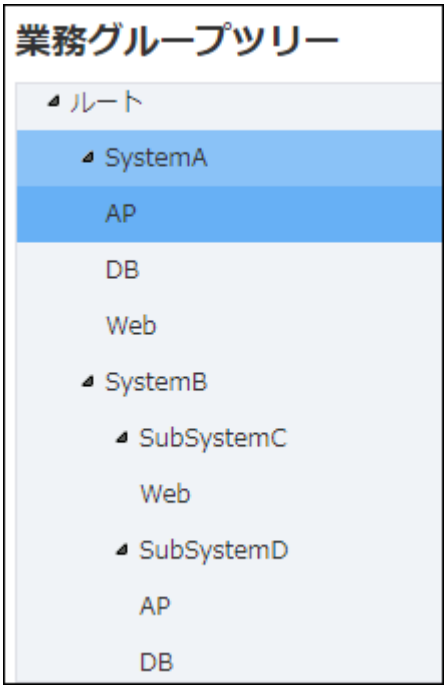

図 37-2　業務グループ構成例

例えば、業務システム SystemA を構成する役割として Web サーバ、AP サーバ、DB サーバがある場合、「SystemA」をカテゴリとして作成し、「Web」、「AP」、「DB」としてグループを作成します。 このように業務システムの役割別に業務グループを構成することにより、業務別、役割別にサーバをグループ化することができます。

注

業務グループ数および業務グループ内の VM 数が DPM のマシングループの上限値以下になるように運用してください。DPM のマシングループの上限値については 『WebSAM DeploymentManager オペレーションガイド』の「マシングループを追加する」を参照してください。

37.2.1　業務グループ一覧

メニューから、「リソース管理」－「業務グループ管理」をクリックすることにより、業務グループ一覧画面を表示します。

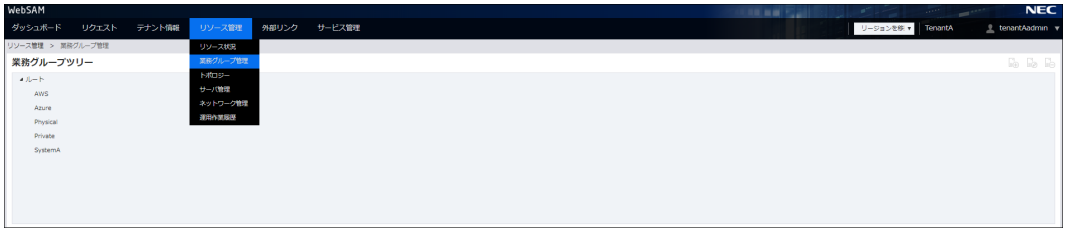

図 37-3　業務グループ一覧画面

表 37-2　項目一覧（業務グループ一覧）

項目名	説明
業務グループツリー	業務グループ一覧 クリックで選択および業務グループ詳細情報を表示する
業務グループ追加	業務グループ追加ダイアログを開く
業務グループ編集	業務グループ変更ダイアログ を開く
業務グループ削除	業務グループ削除ダイアログ を開く

37.2.2　業務グループ詳細

業務グループツリーの業務グループ名をクリックすることにより、詳細が表示されます。

図 37-4　業務グループ詳細画面

表 37-3　項目一覧（業務グループ詳細）

項目名	説明
種別	業務グループの種別 ・カテゴリ ・グループ のいずれか
業務グループ	選択している業務グループのパス 表示ボタンをクリックすることで実際に VM が配置される SigmaSystemCenter 上のフルパスを表示する
マシン種別	選択している業務グループのマシン種別 以下のいずれかを表示 • VM • VM サーバ • 物理 • パブリッククラウド 選択している業務グループの種別がグループの場合のみ表示
デフォルトカタログ名	業務グループに設定されているデフォルトテンプレートをカタログ名に変換して表示する 選択している業務グループの種別がグループの場合のみ表示
VM 数	配下に存在する VM 数 カテゴリ選択時はその配下にあるグループの VM 総数を表示
サーバ作成	選択中のカテゴリ・グループを利用した「サーバ作成(入力)」画面を開く
自動監視ルール作成	選択中のカテゴリ・グループを条件に「自動監視ルール追加」画面を開く 自動監視ルールの詳細については、監視編 マニュアルを参照してください

項目名	説明
	監視ライセンスが有効化されている場合のみ表示 選択中の業務グループが以下の場合のみ表示 • 種別がカテゴリ • 種別がグループ、かつ、以下のマシン種別 　- VM 　- VM サーバ 　- 物理
サーバ一覧	配下に所属するサーバの一覧を表示する ※共有リソースプール配下のサーバは対象外 表示項目の詳細は「37.4.1　サーバ一覧（340 ページ）」を参照してください
電源操作	対象のサーバにチェックし電源操作する 電源操作の詳細は「37.4.6　サーバの電源を操作する（349 ページ）」を参照してください
監視設定	サーバの監視設定については、監視編 マニュアルを参照してください。
移動	対象のサーバにチェックしクリックすることで「移動先グループ選択ダイアログ」を表示する

【移動先グループ選択ダイアログ】

移動先のグループを選択し、「確定」ボタンをクリックすることでサーバを移動します。

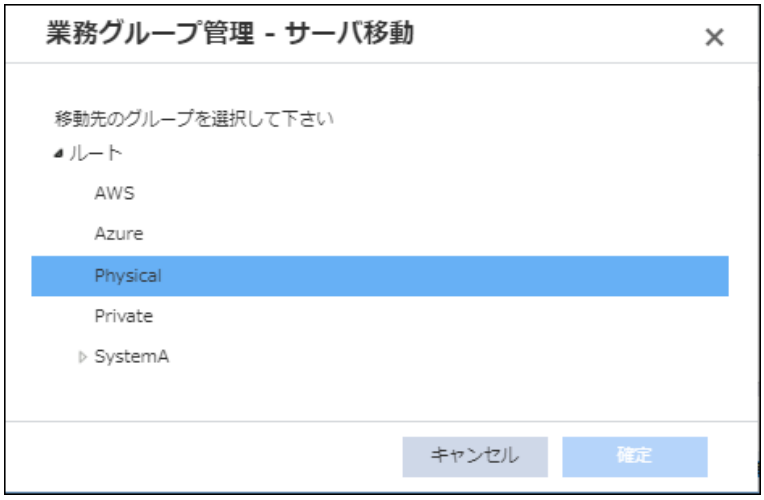

図 37-5　移動先グループ選択ダイアログ

注

- パブリッククラウド上のサーバおよび物理サーバの場合、サーバ移動はできません。
- サーバ移動操作が重複した場合、後から実行された処理が有効となります。

37.2.3　業務グループを追加する

1. 業務グループ一覧画面にて「ルート」または親グループとなるカテゴリを選択し、[業務グループ追加]アイコンをクリックすることにより「業務グループ追加」ダイアログが表示されます。

注

グループ配下にグループを作成することはできません。

図 37-6　業務グループ一覧画面

2. 下記の表を参照し、各項目を入力後「追加」ボタンを押下します。

図 37-7　業務グループ追加ダイアログ

表 37-4　項目一覧（業務グループ追加ダイアログ）

項目名	入力規則	初期値	説明
種別	―	カテゴリ	追加する業務グループの種別を選択する
業務グループ名	1～20 文字の英数字と_-	―	作成する業務グループ名を入力する ※先頭文字に"_"(アンダースコア)は使用不可 種別に「グループ」を選択した場合のみ
マシン種別	―	「VM」	以下のいずれかを選択 • VM • パブリッククラウド 種別に「グループ」を選択した場合のみ Amazon EC2 または Azure Virtual Machine が所属するグループを作成したい場合には、パブリッククラウドを選択
デフォルトカタログ名	―	「選択しない」	業務グループ詳細画面からサーバを作成する際に、デフォルトで指定されるテンプレートを選択 デフォルトのテンプレートを指定しない場合は「選択しない」を選択 種別に「グループ」を選択した場合のみ
キャンセル	―	―	業務グループを追加せずに内容を破棄してダイアログを閉じる

項目名	入力規則	初期値	説明
追加	―	―	業務グループを追加してダイアログを閉じる

注

パブリッククラウドのグループを作成する際は、運用目的に合った業務グループ名を指定してください。

37.2.4　業務グループの編集

1. 業務グループ一覧画面にて対象の業務グループを選択し、[業務グループ編集]アイコンをクリックすることにより「業務グループ編集」ダイアログが表示されます。

図 37-8　業務グループ一覧画面

2. 「デフォルトカタログ名」を選択し、「編集」ボタンを押下することで更新します。

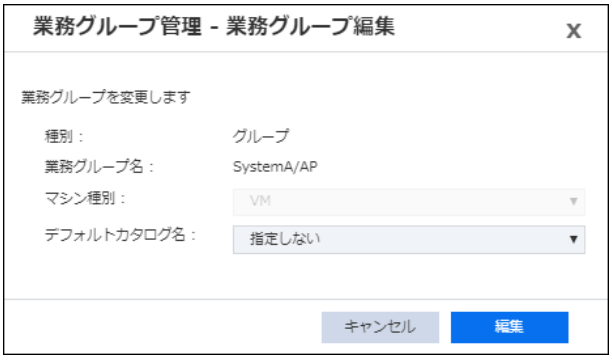

図 37-9　業務グループの編集ダイアログ

37.2.5　業務グループの削除

1. 業務グループ一覧画面にて対象の業務グループを選択し、[業務グループ削除]アイコンをクリックすることにより「業務グループ削除」ダイアログが表示されます。

図 37-10　業務グループ一覧画面

2. 「確認」ボタンを押下することで業務グループを削除します。

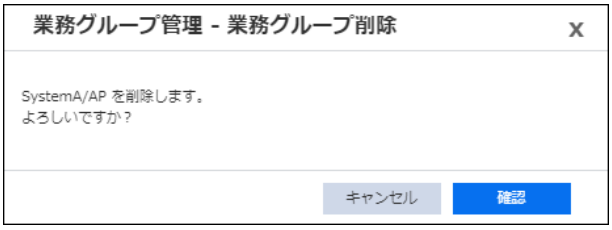

図 37-11　業務グループの削除ダイアログ

注

削除対象となる業務グループ配下にグループおよびカテゴリが存在する場合、[業務グループ削除] アイコンは押下できません。 業務グループ一覧画面上はグループおよびカテゴリが存在しないが [業務グループ削除] アイコンは押下できない場合には、SigmaSystemCenter を参照し、配下にグループおよびカテゴリが存在するか否かを確認してください。

37.3　トポロジー表示

ネットワーク(「テナント管理 VLAN」、「論理ネットワーク」)と、サーバの配置をグラフィカルに表現し、その構成を容易に把握できるようにする機能です。

メニューから、「リソース管理」－「トポロジー」をクリックすることにより、自テナント（システム管理者の場合は代行テナント）のトポロジーをロケーション別に表示します。

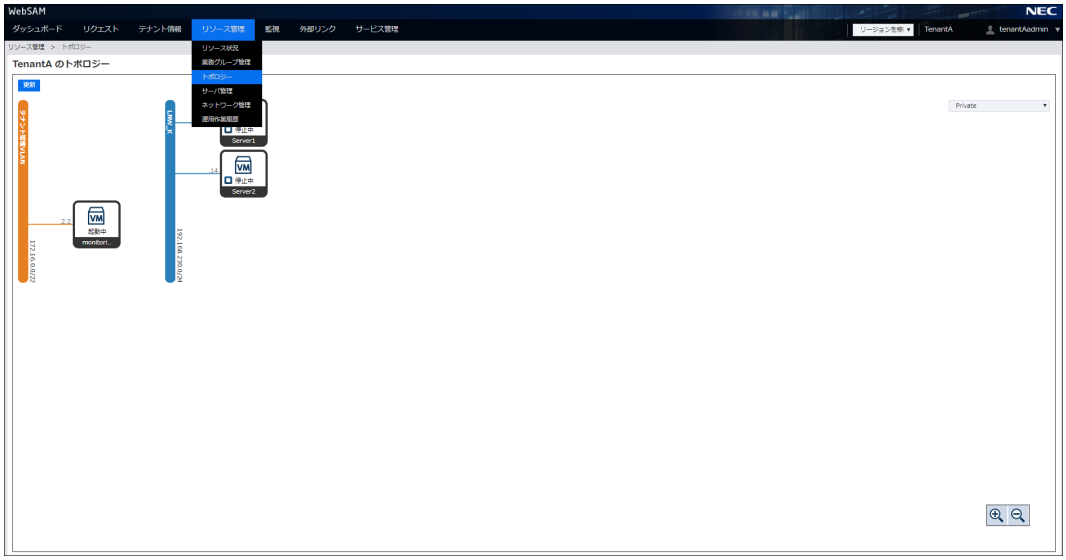

図 37-12　トポロジー

表 37-5　トポロジー

項目名	説明
更新	トポロジー図を再表示する
ロケーション選択	トポロジーを表示するロケーションを選択する
①ネットワーク	ネットワーク表示名、ネットワークアドレス・ネットワークマスクを表示する クリックすることでツールチップに以下を表示する

項目名	説明
	専有ネットワークに限り、「名前変更」から表示名を変更することが可能（「37.3.1　ネットワーク表示名の変更（338 ページ）」を参照） ・ネットワーク名 ・ネットワーク ID ・種別 ・備考 ・名前変更
②サーバ	サーバ名とサーバの電源状態を表示する クリックすることでツールチップに以下を表示する ・サーバ名:クリックすることによりサーバ詳細画面を表示する ・種別 ・OS 名 ・リソースプール ・状態※1 ・CPU 数 ・メモリ ・ディスク ・業務グループ ・備考
③サーバとネットワークの結線	結線先のネットワークの種別により色分けし、IP アドレスを表示する※2
④拡大（＋）	トポロジー図を拡大するボタン※3
⑤縮小（－）	トポロジー図を縮小するボタン※3

※1 状態の詳細については「表 37-8 項目一覧（サーバ一覧検索画面）（341 ページ）」の「状態」を参照してください。

※2 結線上のサーバ IP アドレスはネットワークアドレスとの差分のみ表示されます。

※3 ブラウザの問題により拡大・縮小操作をすると意図せぬ余白が表示される場合があります。このような場合、拡大率を 100%に戻してください。

なお、サーバ一覧で「その他」の状態はトポロジーでは「不明」と表示されます。

注

物理サーバは表示されません。

37.3.1　ネットワーク表示名の変更

テナント管理者は専有しているネットワーク名を任意の名前に変更することが可能です。変更方法を以下に示します。

1. メニューから、「リソース管理」－「トポロジー」をクリックし、表示名を変更する専有ネットワークをクリックします。

   [名前変更]アイコン をクリックします。

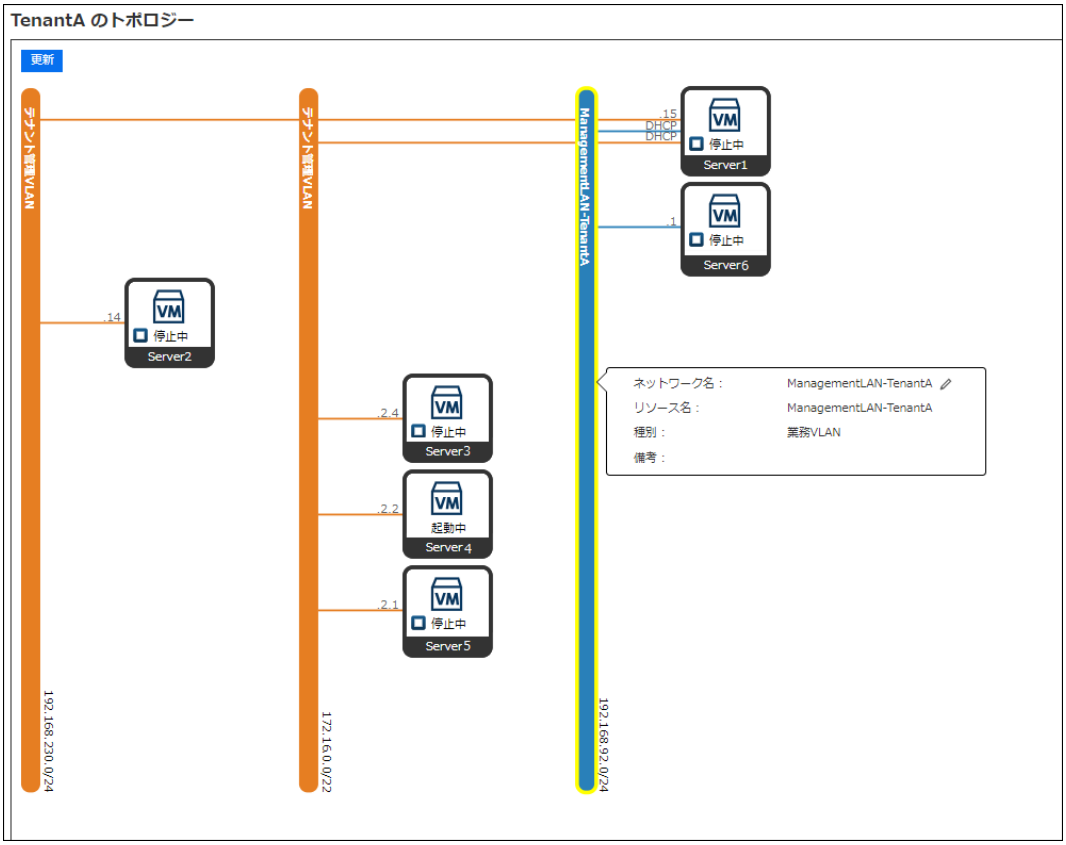

図 37-13　トポロジー

2. ネットワーク表示名変更ダイアログが表示されます。任意の表示名を入力し、「確定」ボタンをクリックすることにより、ネットワーク表示名を変更します。

図 37-14　ネットワーク名変更画面

表 37-6　ネットワーク名変更画面

項目名	説明
ネットワーク名	制御文字以外で最大 32 文字設定可能

項目名	説明
	空白で更新した場合は表示名を削除し、初期値である論理ネットワーク名を表示する
キャンセル	変更を破棄しトポロジー表示画面に戻る クリックすることでツールチップに以下を表示する
確定	ネットワーク名変更を確定し、トポロジー表示画面に戻る

37.4　サーバ管理（利用者）

本節では、サーバ管理メニューについて説明します。

サーバ管理メニューでは、登録されたサーバの確認、管理をおこないます。

37.4.1　サーバ一覧

メニューから、「リソース管理」－「サーバ管理」をクリックすることにより、サーバ一覧画面を表示します。

図 37-15　サーバ一覧画面

表 37-7　項目一覧（サーバ一覧画面）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
サーバ作成	サーバ作成(入力)画面を表示する※1
サーバ変更※2	サーバ変更(入力)画面を表示する※1
サーバ削除	サーバ削除(確認)画面を表示する※1
電源操作※3※4	以下の電源操作が可能 選択すると各種ダイアログが表示される • 起動 • シャットダウン • 電源オフ • 再起動
同期	サーバ一覧の情報を同期する
その他の操作	バックアップ 他操作 A 他操作 B ・ ・ ・

項目名	説明
サーバ一覧	サーバ一覧を表示する
操作対象(チェックボックス)	サーバ変更/削除、電源操作、その他操作の対象を選択します。(チェック：対象、未チェック：非対称) 選択されたサーバの状態により、各操作の実行可否が制御されます。

※1 複数選択操作不可

※2 物理マシンもしくはパブリッククラウド選択時は無効

※3 物理サーバの電源操作は設定およびインストールしているソフトウェアによって操作可否が異なります。 詳細は「表 9-1 物理サーバの電源操作可否（38 ページ）」を参照してください。

※4 パブリッククラウド上のサーバの電源操作メニューでは「電源オフ」は表示されません。

サーバを検索する場合は、サーバ一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 37-8　項目一覧（サーバ一覧検索画面）

項目名	説明
サーバ ID	サーバ ID
サーバ名	サーバ名
業務グループ	業務グループ名
ロケーション	当該サーバの所在地 • プライベート • NECCI • AWS • AZURE
状態	・起動中 ・停止中 ・電源オフ中 ・再起動中 ・サスペンド ・休止中 ・その他 ・削除済み ・エラー を選択する
OS	OS
リソースプール	当該サーバのリソースプール名 ※
備考	備考
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

注

※同期やリソース情報更新コマンドで取り込んだパブリッククラウド上のサーバはリソースプールによる検索ができません。

37.4.2　サーバを作成する

サーバ一覧画面にて[サーバ作成]アイコンをクリックすることによりサーバ作成(入力)画面が表示されます。

図 37-16　サーバ一覧画面（作成）

作成手順については、「35.1.2　リクエストを作成する（269 ページ）」 の「サーバ作成時」を参照してください。

37.4.3　サーバの詳細情報を確認する

サーバ一覧の確認したいサーバ列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

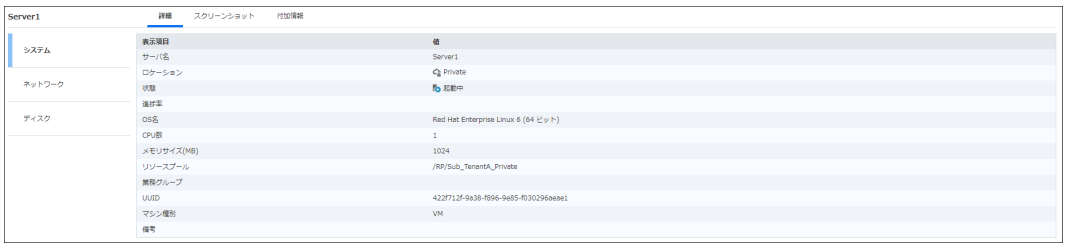

図 37-17　サーバ詳細画面

なお、SigmaSystemCenter 上ですでに削除されているサーバを選択した場合、「状態」に「削除済み」が表示されます。

また、詳細情報では以下の情報が確認できます。

- システム
- ネットワーク
- ディスク
- スクリーンショット(VM のみ)
- 付加情報
- コンソール

サーバ作成リクエストではなく同期ボタンによって取り込んだサーバやパブリッククラウド上のサーバでは、サーバ詳細画面の機能に制限があります。 下記の「表 37-9 サーバ詳細画面 機能対応表（343 ページ）」を参照してください。

表 37-9　サーバ詳細画面 機能対応表

機能	プライベート		パブリック
	VM サーバ	物理サーバ※2	
サーバ詳細表示(システム、ネットワーク、ディスク)	○	○	○
スクリーンショット	○	-	-
付加情報	○	○	○
コンソール	○※1	-	-

※1 対応するハイパーバイザ上のサーバのみ表示可能です。

※2 物理サーバの管理ソフトウェアによって詳細情報の表示内容が異なります。

37.4.3.1　【システム】

一覧からサーバをクリックした初期画面、または詳細画面表示中に「システム」タブをクリックすることにより、システム情報を表示します。

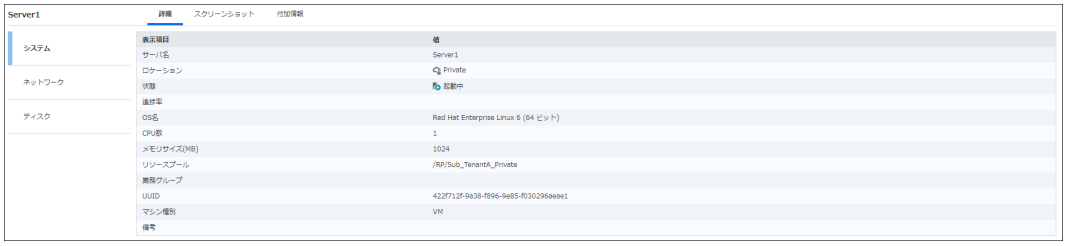

図 37-18　サーバ情報詳細画面（システム）

表 37-10　項目一覧（システム）

項目名	説明
サーバ名	サーバ名
ロケーション	当該サーバの所在地
状態	以下のいずれか 起動中 停止中 電源オフ中 再起動中 サスペンド 休止中 削除済み
進捗率	上記の状態に対する進捗率
OS 名	OS 名
CPU 数	CPU 数※2
メモリサイズ(MB)	メモリサイズを MB で表示する ※2
リソースプール	当該サーバのリソースプール名 ※1

項目名	説明
業務グループ	業務グループ名
UUID	サーバの UUID
マシン種別	以下のいずれか • VM • 物理
備考	備考

注

※1 同期やリソース情報更新コマンドで取り込んだパブリッククラウド上のサーバのリソースプールは表示されません。

※2SigmaSystemCenter やパブリッククラウドにて直接構成変更を行った後に同期にて変更を取り込んだ場合、リクエスト時の情報と乖離するおそれがあります。

37.4.3.2　【ネットワーク】

詳細画面表示中に「ネットワーク」タブをクリックすることにより、ネットワーク情報を表示します。

図 37-19　サーバ情報詳細画面（ネットワーク）

表 37-11　項目一覧（ネットワーク）

項目名	説明
インターフェース名	インターフェース名
IP アドレス	IP アドレス
MAC アドレス	MAC アドレス

注

SigmaSystemCenter やパブリッククラウドにて直接構成変更を行った後に同期にて変更を取り込んだ場合、リクエスト時の情報と乖離するおそれがあります。

物理サーバの場合、IP アドレス以外は表示されません。

37.4.3.3　【ディスク】

詳細画面表示中に「ディスク」タブをクリックすることにより、ディスク情報を表示します。

図 37-20　サーバ情報詳細画面（ディスク）

表 37-12　項目一覧（ディスク）

項目名	説明
スロット	ディスク位置
タイプ	ディスクの種類 ・システムディスク ・拡張ディスク
ディスクタイプ	ディスクタイプ ・Thin ディスク ・Thick ディスク ・RDM(物理) ・RDM(仮想)
ディスクファイル名	LUN 名またはディスクファイル名
総量(KB)	総量を KB で表示する

注

SigmaSystemCenter やパブリッククラウドにて直接構成変更を行った後に同期にて変更を取り込んだ場合、リクエスト時の情報と乖離するおそれがあります。

37.4.3.4　【スクリーンショット】

一覧からサーバをクリックし、詳細画面表示中に［スクリーンショット］タブをクリックすることにより、サーバのスクリーンショットを表示します。

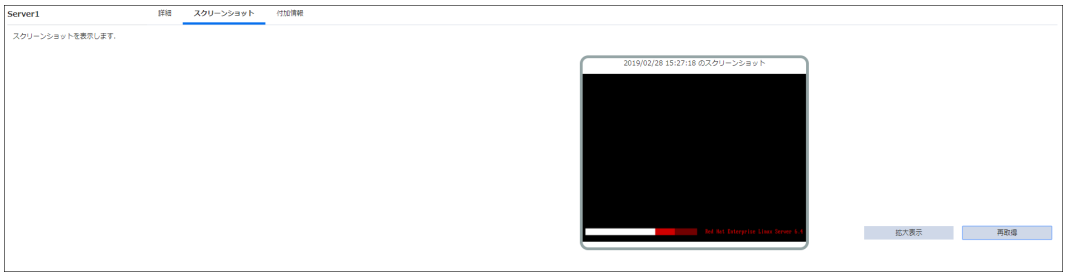

図 37-21　スクリーンショット画面

表 37-13　項目一覧（スクリーンショット）

項目名	説明
スクリーンショット画像	［スクリーンショット］タブ押下時、または［再取得］ボタン押下時に取得したスクリーンショットを表示する 画像をクリックすることで拡大表示する
拡大表示	スクリーンショットを拡大表示する 拡大表示後は［閉じる］ボタンでダイアログを閉じる
再取得	再度スクリーンショットを取得して表示する

注

- スクリーンショットを表示するためには SigmaSystemCenter での設定が必要です。詳細については『SigmaSystemCenter マニュアル』を参照してください。
- パブリッククラウド上のサーバおよび物理サーバの場合、スクリーンショットタブは表示されません。

37.4.3.5　【付加情報】

一覧からサーバをクリックし、詳細画面表示中に［付加情報］タブをクリックすることにより、サーバの付加情報を表示します。

表示する付加情報については、「A.1　テンプレートに付加情報を表示する（406 ページ）」を参照してください。

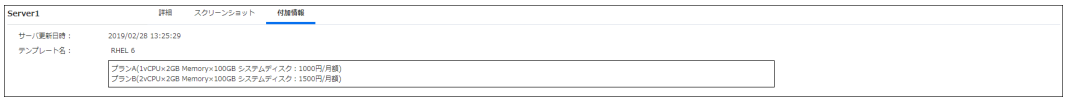

図 37-22　付加情報画面

表 37-14　項目一覧（付加情報）

項目名	説明
サーバ更新日時※1	リクエスト完了日時
テンプレート名※1	設定ファイルに設定されたテンプレートの表示名
付加情報※1	設定ファイルに設定されたテンプレートの付加情報を表示する 同期機能により取り込んだサーバでは、以下のように表示される • テンプレート名: "-" (固定値) • 付加情報: 設定ファイルに設定された、同期したサーバ用の付加情報

注

※1 物理サーバの付加情報には内容は表示されません。

37.4.3.6　【コンソール】

詳細画面表示中に「コンソール」タブ※1 をクリックすることにより、VM コンソールを表示します。

注

選択中のサーバがパブリッククラウド上のサーバおよび物理サーバの場合はコンソールタブは表示されません。

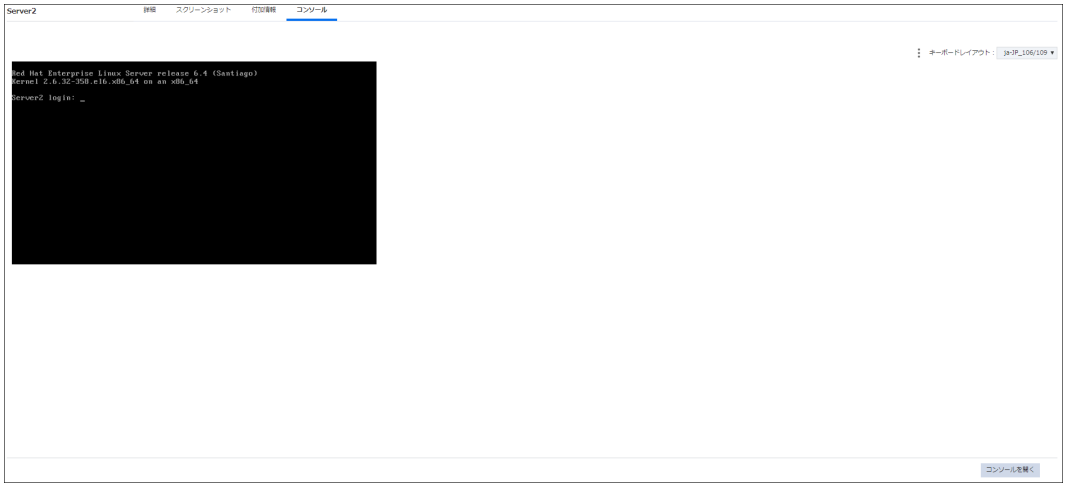

図 37-23　サーバ情報詳細画面（コンソール）

表 37-15　項目一覧（コンソール）

項目名	説明
ゲスト操作	・Ctrl+Alt+Del の送信 ・フルスクリーンへの切り替え※2
キーボードレイアウト	日本語・英語の切り替え 設定項目一覧から追加可能
コンソールを開く	別ウインドウでコンソールを表示する

注

コンソール内で日本語入力をする場合、全角・半角の切り替えは IME の操作で行ってください。

「コンソールを開く」ボタンをクリックすることにより別ウインドウで VM コンソールを表示します。

図 37-24　コンソール画面

表 37-16　項目一覧（コンソール画面）

項目名	説明
電源操作	以下の実行内容から選択する • 起動 • シャットダウン • 電源オフ • 再起動
ゲスト操作	・Ctrl+Alt+Del の送信 ・フルスクリーンへの切り替え※2

項目名	説明
キーボードレイアウト	日本語・英語の切り替え 設定項目一覧から追加可能

注

- ※1 パブリッククラウド上のサーバはコンソールタブが表示されません。
- ※2 ウィジェット内でフルスクリーンへの切り替えを行ってもフルスクリーンには切り変わりません。

ヒント

VM コンソールに対応しているサーバで、コンソールタブが表示されない場合は VM コンソールプロキシの設定を実施する必要があります。「8.2　VM コンソールプロキシの設定（34 ページ）」を参照してください。

37.4.4　サーバ構成を変更する

サーバ一覧画面にて対象サーバにチェック後、[サーバ変更をクリックすることによりサーバ変更(入力)画面が表示されます。

なお、サーバ変更は対象サーバが停止中の場合に操作可能です。電源操作については「37.4.6　サーバの電源を操作する（349 ページ）」を参照してください。

図 37-25　サーバ一覧画面（変更）

変更手順については、「35.1.2　リクエストを作成する（269 ページ）」の「サーバ変更時」を参照してください。

注

パブリッククラウド上のサーバ、物理サーバは構成を変更することができません。

37.4.5　サーバを削除する

サーバ一覧画面にて対象サーバにチェック後、[サーバ削除]アイコンをクリックすることによりサーバ削除(確認)画面が表示されます（複数選択可能）。

なお、サーバ削除は対象サーバが「停止中※1」または「削除済み」の場合に操作可能です。電源操作については「37.4.6　サーバの電源を操作する（349 ページ）」を参照してください。

図 37-26　サーバ一覧画面（削除）

削除手順については、「35.1.2　リクエストを作成する（269 ページ）」 の「サーバ削除時」を参照してください。

注

※1 対象サーバが物理の場合は電源の状態に関係なく削除可能です。この操作ではポータル上の管理下から外すのみで、SigmaSystemCenter 上からは削除されません。 再度、同期機能により取り込むことでポータル上で管理することが出来ます。SigmaSystemCenter 上から物理サーバの削除を行う場合は、『SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド』を参照してください。

37.4.6　サーバの電源を操作する

電源操作方法について以下に示します。

1. 一覧にて対象のサーバにチェックし、[電源操作]アイコン⏻をクリックします。

図 37-27　サーバ一覧画面

2. 電源操作ダイアログが表示されます。各操作を選択することにより、確認ダイアログが表示されます。

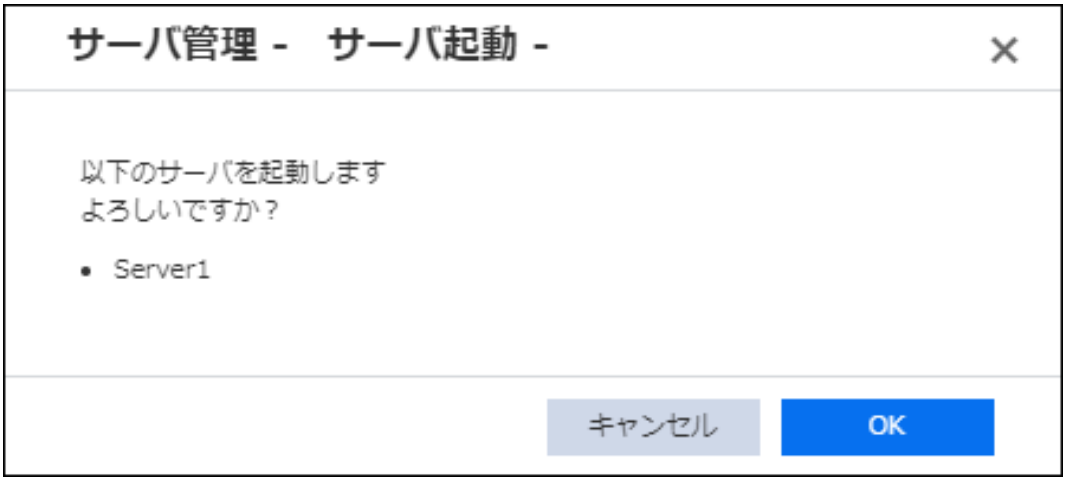

図 37-28　電源操作ダイアログ（起動の場合）

3. 「OK」ボタンを押下することにより、選択した操作を実行します。なお、実行した操作の進捗をサーバ詳細画面の「システム」タブにて確認することができます。

注

・サーバに対し、サスペンド状態にすることはできません。

・電源操作メニュー（ダイアログ）はメニューを開いた状態が維持されます。電源メニューを開いたあとに別画面からサーバの状態が変更した場合は、再度電源操作メニューを開きなおしてメニュー内容を更新してください。

37.4.7　サーバ一覧を同期する

[同期]アイコンをクリックすることにより、ポータル以外から作成されたサーバの情報をサーバ一覧に取り込めます。

また、一覧に存在するサーバの構成情報をポータル以外から操作したことにより乖離してしまった情報を更新することがきます。

図 37-29　サーバ一覧 同期ボタン

注

- ハイブリッドクラウド管理をしている場合、パブリッククラウド上のサーバを同期するには事前設定が必要です。「第 12 章　ハイブリッドクラウドの運用設定（78 ページ）」を参照してください。
- 同期ボタンではサーバの電源状態は更新されません。
- 既に登録されているネットワークを SigmaSystemCenter にて変更後に同期した場合、ネットワーク作成リクエスト時の情報と乖離することがあります。

同期されたサーバを対象としたサーバ変更またはサーバ削除リクエスト作成時は、以下プロファイルの補完が行われます。

- 対象サーバの VM テンプレート名が取得できるか否かによって OS タイプの取得元を切り替えます。
  1. 対象サーバの VM テンプレート名が取得できた場合、テンプレート名をキーに VM テンプレート一覧を取得し、OS タイプを対象サーバの OS タイプに採用します。
  2. 対象サーバの VM テンプレート名が取得できない場合、対象サーバを引数にホスト情報取得 API を実行、ホストプロファイルの OS タイプを対象サーバの OS タイプに採用します。(*1)
- 対象サーバを引数にホスト情報取得 API を実行、DNS/WINS サーバ設定を取得し、リクエストのネットワークプロファイルを補完します。

注

(*1)同期された対象サーバにホストプロファイルが設定されていない場合、ホスト情報取得 API 時のホストプロファイルの OS 種別は所属するグループの OS 種別となります。このため、同期前に、取り込んだ VM の OS 種別とグループの OS 種別は一致するように設定してください。

37.4.8　サーバの監視設定について

サーバの監視設定については、監視編 マニュアルを参照してください。

37.4.9　サーバに対してカスタムオペレーションを実行する

「第 15 章　カスタムオペレーション設定（95 ページ）」にてカスタムオペレーションを設定している場合、サーバに対してカスタムオペレーションを実行することができます。 本項ではカスタムオペレーションの実行手順について以下に示します。

1. 一覧にて対象のサーバにチェックし、[その他の操作]アイコン ⋮ をクリックします。※1
   カスタムオペレーション一覧が表示されます。実行するカスタムオペレーションをクリックします。

図 37-30　サーバ一覧画面

2. カスタムオペレーションの実行ダイアログが表示されます。

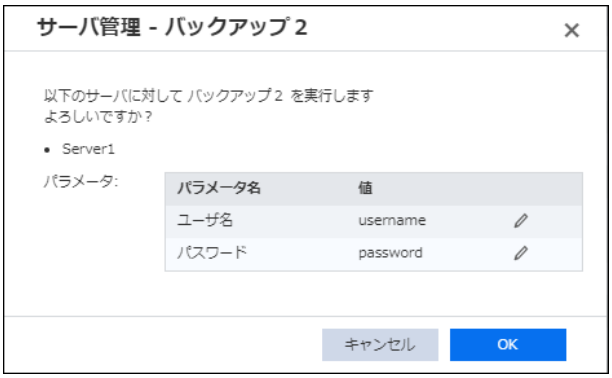

図 37-31　カスタムオペレーション実行確認ダイアログ

パラメータには設定ファイルにて記載したパラメータが表示されます。

パスワード対象の項目の場合はパラメータの値がマスク表示されます。

※パスワード対象の設定は、「15.2　カスタムオペレーション定義ファイルの作成（96 ページ）」を参照してください。

図 37-32　カスタムオペレーション実行確認ダイアログ(マスク対応時)

3. パラメータの値は編集することが可能です。編集後、[確認]ボタンを押下してください。

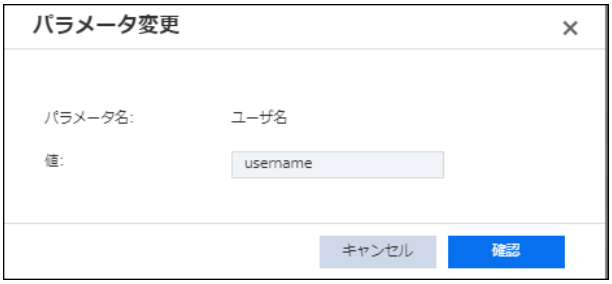

図 37-33　パラメータ変更ダイアログ

パスワード対象の項目の場合はパラメータの値がマスク表示されます。

※パスワード対象の設定は、「15.2　カスタムオペレーション定義ファイルの作成（96 ページ）」を参照してください。

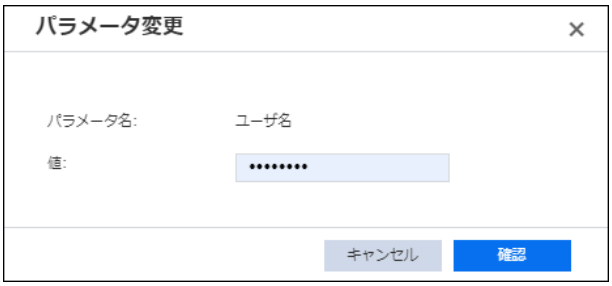

図 37-34　パラメータ変更ダイアログ(マスク対応時)

4. [OK］ボタンを押下することにより、選択したカスタムオペレーションを実行します。実行した操作の成否は「37.6　運用作業履歴（利用者）（357 ページ）」にて確認することができます

ヒント

- ※1

  ロケーションが Private となっているサーバのみ実行することが可能です。

  複数のサーバ選択時は実行できません。

37.5　ネットワーク管理（利用者）

本節では、論理ネットワーク管理メニューについて説明します。

ネットワーク管理メニューでは、登録されたネットワークの確認、管理をおこないます。

37.5.1　ネットワーク一覧（利用者）

メニューから、「リソース管理」－「ネットワーク管理」をクリックすることにより、ネットワーク一覧画面を表示します。

図 37-35　ネットワーク一覧画面

表 37-17　項目一覧（ネットワーク一覧画面）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
ネットワーク作成	論理ネットワーク作成画面に遷移する ※「35.1.2.4　論理ネットワーク作成リクエスト（289 ページ）」の［論理ネットワーク作成時］を参照してください。
ネットワーク削除	論理ネットワーク削除ダイアログを表示する ※「35.1.2.5　ネットワーク削除リクエスト（292 ページ）」の［論理ネットワーク削除時］を参照してください。 ※ネットワーク一覧から削除先のネットワークを選択後、有効になります。 なお、種別が「テナント管理 VLAN」、または公開範囲が「パブリック」のネットワークは削除できないため、これらを選択しても「ネットワーク削除」は有効になりません。
同期	SigmaSystemCenter 上の論理ネットワーク情報を取得し、ポータルに反映する
ネットワーク一覧	ネットワークの一覧を表示する

ネットワークを検索する場合は、ネットワーク一覧画面の［検索］をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 37-18　項目一覧（ネットワーク一覧検索画面）

項目名	説明
ネットワーク ID	ネットワーク ID
ネットワーク名	ネットワーク名
種別（複数選択可）	・テナント管理 VLAN ・業務 LAN を選択する
公開範囲（複数選択可）	・パブリック ・プライベート を選択する
備考	備考
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

37.5.2　ネットワークの詳細情報を確認する（利用者）

ネットワーク一覧の確認したいネットワーク列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

図 37-36　ネットワーク詳細画面

また、詳細情報では以下の情報が確認できます。

- 情報タブ
- アドレスプールタブ
  - IPv4
  - IPv6

37.5.2.1　【情報】

一覧からネットワークをクリックした初期画面、または詳細画面表示中に［情報］タブをクリックすることにより、情報を表示します。

図 37-37　ネットワーク詳細画面（情報）

表 37-19　項目一覧（情報）

項目名	説明
ネットワーク ID	ネットワークの ID
ネットワーク名	ネットワークの名前
リソース名	SigmaSystemCenter 上の論理ネットワーク名
種別	ネットワークの種類 以下のいずれか ・テナント管理 VLAN ・業務 LAN
公開範囲	ネットワークの公開範囲 以下のいずれか ・パブリック ・プライベート
備考	備考

37.5.2.2　【アドレスプール(IPv4)】

一覧からネットワークをクリックした初期画面、または詳細画面表示中に［アドレスプール］タブをクリックすることにより、[アドレスプール]情報を表示します。

[アドレスプール]タブで、[IPv4]タブをクリックすることにより、[IPv4]情報を表示します。

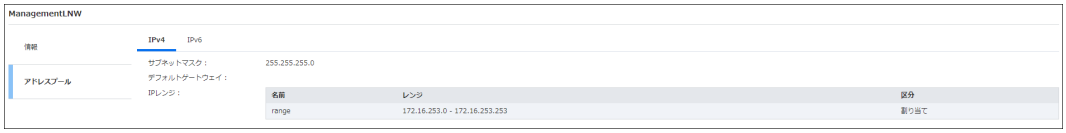

図 37-38　ネットワークのアドレスプール画面(IPv4)

表 37-20　項目一覧（情報）

項目名	説明
サブネットマスク	IPv4 セグメントのサブネットマスク
デフォルトゲートウェイ	IPv4 セグメントのデフォルトゲートウェイ
IP レンジ	IPv4 セグメントの IP レンジ 以下の情報をリスト表示 • 名前 レンジ名 • レンジ IPv4 アドレスレンジのレンジ • 区分 IPv4 アドレスレンジの区分 以下のいずれか - 割り当て - 除外

37.5.2.3　【アドレスプール(IPv6)】

一覧からネットワークをクリックした初期画面、または詳細画面表示中に［アドレスプール］タブをクリックすることにより、[アドレスプール]情報を表示します。

[アドレスプール]タブで、[IP ｖ 6]タブをクリックすることにより、[IP ｖ 6]情報を表示します。

図 37-39　ネットワークのアドレスプール画面(IPv6)

表 37-21　項目一覧（情報）

項目名	説明
サブネットプレフィックス長	IPv6 セグメントのサブネットプレフィックス長
デフォルトゲートウェイ	IPv6 セグメントのデフォルトゲートウェイ
IP レンジ	IPv6 の IP レンジ 以下の情報をリスト表示 • 名前 レンジ名 • レンジ IPv6 アドレスレンジのレンジ • 区分 IPv6 アドレスレンジの区分

項目名	説明
	以下のいずれか - 割り当て - 除外

37.5.3　ネットワークを作成する

ネットワーク一覧画面にて[ネットワーク作成]をクリックすることによりネットワーク作成(入力)画面が表示されます。

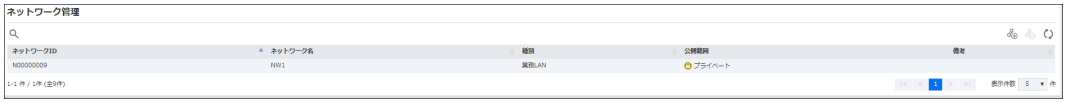

図 37-40　ネットワーク一覧画面（作成）

作成手順については、「35.1.2　リクエストを作成する（269 ページ）」 の「ネットワーク作成時」を参照してください。

37.5.4　ネットワークを削除する

ネットワーク一覧画面にて対象ネットワークに選択後、[ネットワーク削除]アイコンをクリックすることによりネットワーク削除(確認)画面が表示されます。

図 37-41　ネットワーク一覧画面（削除）

削除手順については、「35.1.2　リクエストを作成する（269 ページ）」 の「ネットワーク削除時」を参照してください。

注

以下のいずれかの条件に一致する論理ネットワークはネットワーク削除リクエストの対象に表示されません。運用設定や同期およびリソース情報更新コマンドにて削除してください。

- 公開範囲が public
- 種別がテナント管理 LAN
- スイッチタイプが VirtualSwitch 以外

37.5.5　ネットワーク一覧を同期する

[同期]アイコンをクリックすることにより、ポータル以外から作成されたネットワークの情報をネットワーク一覧に取り込めます。

また、一覧に存在するネットワークの構成情報をポータル以外から操作したことにより乖離してしまった情報を更新することがきます。

図 37-42　ネットワーク一覧 同期ボタン

注

既に登録されているネットワークを SigmaSystemCenter にて変更後に同期した場合、ネットワーク作成リクエスト時の情報と乖離することがあります。

また、ホストにホストプロファイルが設定されていなければ、ホスト情報取得 API 時のホストプロファイルの OS 種別は所属するグループの OS 種別となります。このため、同期前に、取り込んだ VM の OS 種別とグループの OS 種別は一致するように設定してください。

37.6　運用作業履歴（利用者）

運用作業履歴では、自テナントのサーバに関して以下のような履歴を参照できます。

- サーバの電源操作履歴
- サーバのカスタムオペレーション実行履歴
- 同期ボタンによるサーバの追加・更新履歴

37.6.1　運用作業履歴一覧（利用者）

メニューから、「リソース管理」－「運用作業履歴」をクリックすることにより、運用作業履歴一覧画面を表示します。

図 37-43　運用作業履歴一覧画面

表 37-22　項目一覧（運用作業履歴）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
運用作業履歴	運用作業履歴一覧を表示する

運用作業履歴を検索する場合は、運用作業履歴一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 37-23　項目一覧（運用作業履歴一覧検索画面）

項目名	説明
運用作業 ID	運用作業 ID ※複数サーバに対して操作を実施した場合は、同一の運用作業 ID とする
運用作業期間	運用作業期間

項目名	説明
	開始日時の初期値として、検索アイコンを押下し検索パネルを開いたタイミングの日時を表示する 終了日時の初期値は、空白状態で表示する。
ロケーション	当該サーバの所在地 • プライベート • NECCI • AWS • AZURE
種別	種別 検索対象の種別(サーバ/config.json の displayKey で設定されたプラグイン)を選択する 初期値として、サーバがチェック、プラグインがチェックされない状態で表示
リソース名	リソース名 検索対象のサーバ名/プラグインの config.json に isName=true の property 値を入力する
サーバ実行内容	以下の実行内容から選択する • 起動 • シャットダウン • 電源オフ • 再起動 • 同期(追加) • 同期(更新) • 同期(削除) • その他の操作
実行結果	実行結果を選択する • 成功 • 失敗 • 開始
実行者	実行者
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

37.6.2　運用作業履歴の詳細情報を確認する（利用者）

運用作業履歴一覧の確認したい作業履歴列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

図 37-44　運用作業履歴詳細画面

表 37-24　項目一覧（運用作業履歴詳細）

項目名	説明
運用作業 ID	運用作業 ID
開始日時	開始日時
終了日時	終了日時 実行結果が「開始」の場合、操作が完了していないため終了日時は表示されません。
ロケーション	当該サーバの所在地
種別	サーバ/config.json の displayKey で設定されたプラグイン
リソース名	リソース名
リソースプール	当該サーバのリソースプール名 ※1
実行内容	以下のいずれかの実行内容を表示する • 起動 • シャットダウン • 電源オフ • 再起動 • 同期(追加) • 同期(変更) • 同期(削除) • カスタムオペレーションの場合、カスタムオペレーション定義ファイルの表示名を表示
実行結果	以下のいずれかの実行結果を表示する • 成功 • 失敗 • 開始
実行結果詳細	実行結果の詳細 ※2 ※3
実行者	実行者

注

※1 同期やリソース情報更新コマンドで取り込んだパブリッククラウド上のサーバのリソースプールは表示されません。

ヒント

- ※2 カスタムオペレーション実行に失敗した場合、以下のエラーが表示されます。表示されているトラッカーの ID をもとに JobCenter にて原因を確認してください。

  その他の操作が異常終了しました。システム管理者にお問い合わせください。`tracker_id : XXX`

  カスタムオペレーション(バッチファイル)実行に失敗した場合、以下のファイルに結果が出力されます。ファイルを開き、原因を確認してください。

  ```
  C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\logs\performance.log
  ```

- ※3 実行内容が同期の場合、同期を行ったユーザの言語ロケールで実行結果詳細が登録されます。

第 38 章
スタック管理（利用者）

本章では、スタック管理メニューについて説明します。

38.1　スタック一覧

メニューから、「スタック管理」をクリックすることにより、スタック一覧画面を表示します。

注

スタック一覧表示時は、ログインユーザが所属しているテナントのスタック一覧が表示されます。

図 38-1　スタック管理画面

表 38-1　項目一覧（スタック管理画面）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
スタック作成	スタック作成画面を呼び出す
スタック削除	スタック削除画面を呼び出す
スタック一覧	スタックの一覧を表示する

スタックを検索する場合は、スタック一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目を入力して検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 38-2　項目一覧（スタック一覧検索画面）

項目名	説明
スタック ID	スタック ID を指定する
スタック名	スタック名を指定する
スタック説明	スタックの説明を指定する
備考	スタックの備考を指定する
リソース ID	スタックに含まれるリソースのリソース ID を指定する
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

38.2　スタックを作成する

スタック一覧画面にて「スタック作成」をクリックすることによりスタック作成(入力)画面が表示されます。

図 38-2　スタック一覧画面（作成）

作成手順については、「35.1.3.1　スタック作成リクエスト（298 ページ）」の「スタック作成時」を参照してください。

38.3　スタックの詳細情報を確認する

スタック一覧から確認したいスタックをクリックすることにより、詳細情報を表示します。

図 38-3　スタック詳細画面

また、詳細情報では以下の情報が確認できます。

- 詳細
- トポロジー
- リソース
- トポロジーテンプレート

38.3.1　【詳細】

一覧からスタックをクリックした初期画面、または詳細画面表示中に「詳細」タブをクリックすることにより、詳細情報を表示します。

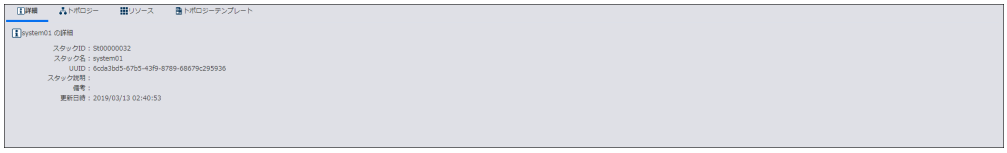

図 38-4　スタック情報詳細画面（詳細）

表 38-3　項目一覧（詳細）

項目名	説明
スタック ID	スタックのスタック ID を表示する
スタック名	スタック名を表示する スタック作成時に入力したスタック名が表示される
UUID	スタックの UUID（スタックを一意に識別する値）を表示する

項目名	説明
スタック説明	スタックの説明を表示する スタック作成時に入力したスタック説明が表示される
備考	スタックの備考を表示する スタック作成時に入力した備考が表示される
更新日時	スタックの更新日時（リクエスト完了日時）を表示する

38.3.2　【トポロジー】

詳細画面表示中に「トポロジー」タブをクリックすることにより、トポロジー情報を表示します。

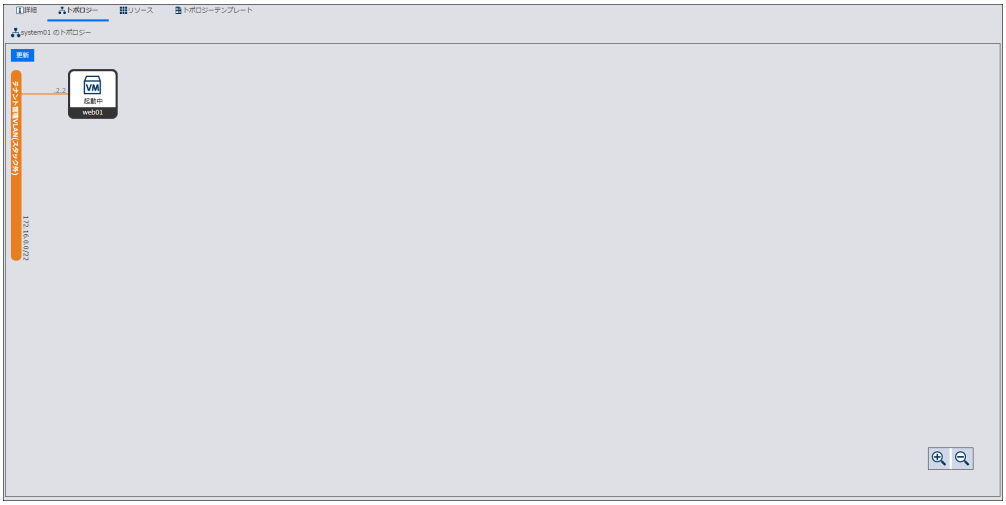

図 38-5　スタック情報詳細画面（トポロジー）

ヒント

トポロジーマップの操作については、「37.3　トポロジー表示（337 ページ）」を参照してください。

ただし、vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションでは、以下が vDCA SE ポータルと異なります。

- スタックに含まれない論理ネットワークも表示されます。 スタックに含まれない論理ネットワークは「ネットワーク名（スタック外）」と表示されます。
- スタックで作成したネットワークは、ネットワーク表示名を変更できません。 ネットワーク表示名の変更を行う場合は「37.3.1　ネットワーク表示名の変更（338 ページ）」で行ってください。

注

- vDCA SE ポータルからスタックに含まれるサーバを個別に削除した場合、トポロジーマップには当該サーバは表示されません。
- ツールチップに表示されるサーバ名をクリックすることにより、サーバ詳細画面に遷移することができますが、ネットワーク表示名からネットワーク詳細画面に遷移することはできません。

38.3.3　【リソース】

詳細画面表示中に「リソース」タブをクリックすることにより、リソース情報を表示します。

図 38-6　スタック情報詳細画面（リソース）

また、リソース詳細情報では以下の情報が確認できます。

- サーバ
- ネットワーク

38.3.3.1　【サーバ】

詳細画面（リソース）表示中に「サーバ」タブをクリックすることにより、スタックに含まれるサーバの一覧を表示します。

図 38-7　スタック情報詳細画面（サーバ一覧）

表 38-4　項目一覧（サーバ）

項目名	説明
リソース ID	サーバのリソース ID（SigmaSystemCenter 上で管理されているサーバの UUID）を表示する
状態	スタック管理サーバで管理されているリソースの状態を表示する
サーバ ID	サーバ ID を表示する
サーバ名	サーバ名を表示する
稼動状態	サーバの電源状態を表示する • 起動中 • 停止中 • 電源オフ中 • 再起動中 • サスペンド • 休止中 • その他 • 削除済み • エラー
OS	サーバの OS 名を表示する

注

vDCA SE ポータルからスタックに含まれるサーバを個別に削除した場合、当該サーバには、状態に「削除済み」を表示し、サーバ ID、サーバ名、OS は表示されません。

スタック情報詳細画面（サーバ一覧）に表示されているサーバをクリックすることにより、対象サーバの詳細情報がアトリビュートダイアログに表示されます。

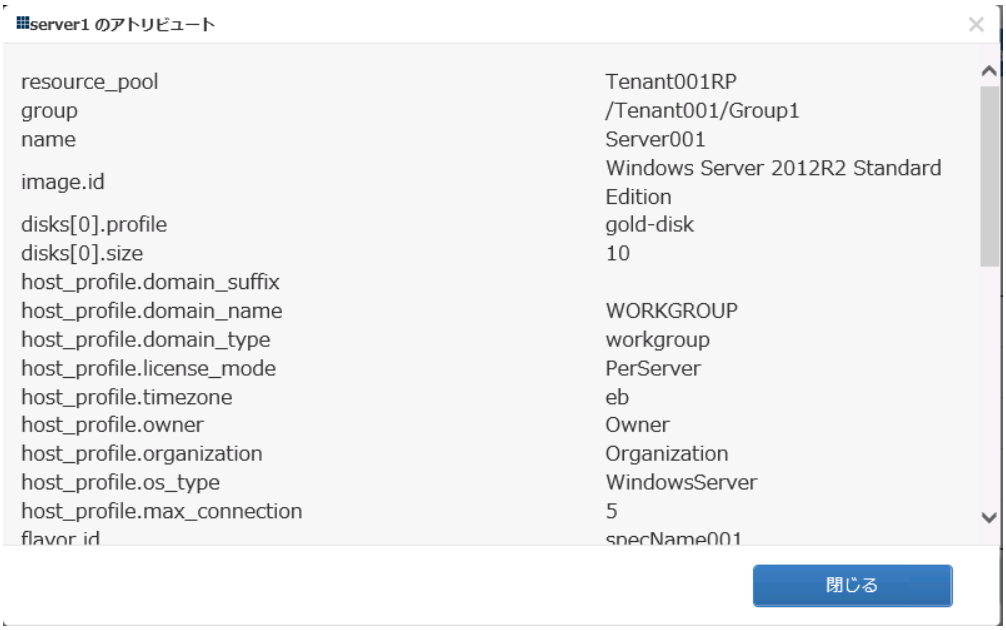

図 38-8　アトリビュートダイアログ

ヒント

アトリビュートダイアログの表示内容については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』 の『付録 B. トポロジーテンプレートの書式』の『B.3.2.2 リソースタイプ』を参照してください。

注

vDCA SE ポータルからスタックに含まれるサーバに対して個別に構成変更を行った場合、アトリビュートダイアログに表示される情報と、当該サーバの詳細情報に表示される情報に乖離が生じます。

38.3.3.2　【ネットワーク】

詳細画面（リソース）表示中に「ネットワーク」タブをクリックすることにより、スタックに含まれるネットワークの一覧を表示します。

図 38-9　スタック情報詳細画面（ネットワーク一覧）

表 38-5　項目一覧（ネットワーク）

項目名	説明
リソース ID	論理ネットワークのリソース ID（SigmaSystemCenter 上で管理されている論理ネットワーク名）を表示する
状態	スタック管理サーバで管理されているリソースの状態を表示する
表示名	「37.3.1　ネットワーク表示名の変更（338 ページ）」にて設定された表示名を表示する
アドレス	IP バージョン、アドレス（CIDR）を表示する
デフォルトゲートウェイ	IP バージョン、デフォルトゲートウェイの IP アドレスを表示する

スタック情報詳細画面（ネットワーク一覧）に表示されているネットワークをクリックすることにより、対象ネットワークの詳細情報がアトリビュートダイアログに表示されます。

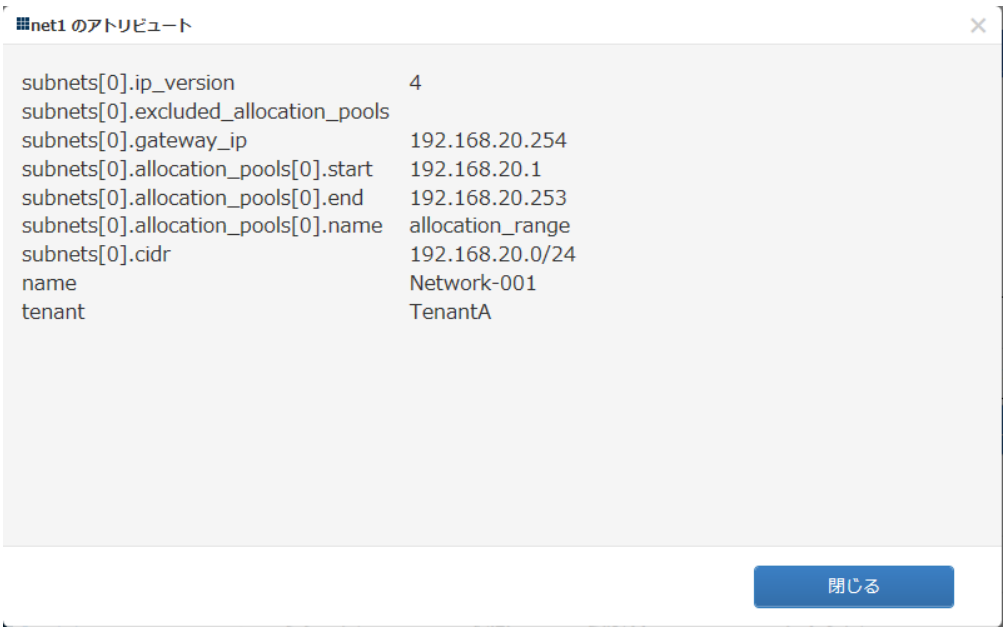

図 38-10　アトリビュートダイアログ

ヒント

アトリビュートダイアログの表示内容については、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『付録 B. トポロジーテンプレートの書式』の『B.3.2.2 リソースタイプ』を参照してください。

38.3.4　【トポロジーテンプレート】

詳細画面表示中に「トポロジーテンプレート」タブをクリックすることにより、トポロジーテンプレート情報を表示します。

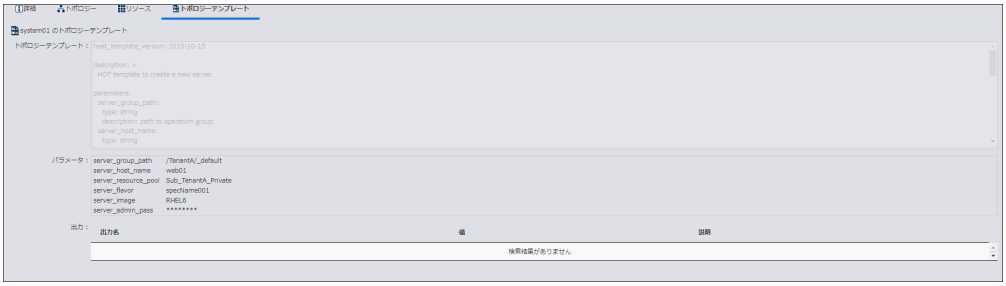

図 38-11　スタック情報詳細画面（トポロジーテンプレート）

表 38-6　項目一覧（トポロジーテンプレート）

項目名	説明
トポロジーテンプレート	スタック作成時に設定したトポロジーテンプレートを表示する
パラメータ	トポロジーテンプレートに設定した入力パラメータのキー、スタック作成時に入力した入力パラメータの値を表示する
出力	トポロジーテンプレートに設定した出力パラメータのキーと説明、スタック作成時の出力パラメータの値を表示する

38.4　スタックを削除する

スタック一覧画面にて対象スタックにチェック後、「スタック削除」をクリックすることによりスタック削除(確認)画面が表示されます（複数選択可能）。

なお、スタック削除は対象サーバが停止中の場合に操作可能です。電源操作については「37.4.6　サーバの電源を操作する（349 ページ）」を参照してください。

図 38-12　スタック一覧画面（削除）

削除手順については、「35.1.3.2　スタック削除リクエスト（303 ページ）」の「スタック削除時」を参照してください。

第 39 章
お知らせ管理（利用者）

本節では、お知らせ管理機能について説明します。

ダッシュボードにてテナント利用者に通知するお知らせを管理することができます。

テナント管理者のみ管理可能です。テナントユーザはお知らせを参照することができます。

39.1　お知らせ一覧（利用者）

メニューから、「サービス管理」－「お知らせ管理」をクリックすることにより、お知らせ一覧画面を表示します。

図 39-1　お知らせ管理画面

表 39-1　項目一覧（お知らせ一覧）

項目名	説明
表示件数	一覧の表示件数を変更する
お知らせ登録	お知らせ登録画面を表示する
お知らせ一覧	お知らせ一覧を表示する

お知らせを検索する場合は、お知らせ一覧画面の「検索」をクリックし、以下の項目から検索します。なお、文字列での検索は部分一致検索です。

表 39-2　項目一覧（お知らせ一覧検索画面）

項目名	説明
掲載期間	掲載期間
状態	状態のいずれか ・掲載終了 ・掲載中 ・未掲載
タイトル	タイトル
お知らせ内容	お知らせ内容
添付	添付ファイルの有無 ・あり ・なし
クリア	入力（指定）した値を初期値へ戻す
検索	ボタン押下で検索を実施する

39.2　お知らせを登録する(利用者）

お知らせの追加方法を以下に示します。

1. お知らせ一覧画面にて、[お知らせ登録]アイコン＋をクリックします。

図 39-2　お知らせ一覧画面

2. お知らせ（入力）画面が表示されます。下記の表を参照し、各項目を入力後「確定」ボタンを押下します。

図 39-3　お知らせ登録（入力）画面

表 39-3　項目一覧（お知らせ登録）

項目名	入力規則	説明
開始日時	1970/01/01/ 00:00(UTC)～ 2999/12/31 23:59(UTC)	開始日時を入力する。
終了日時	1970/01/01/ 00:00(UTC)～ 2999/12/31 23:59(UTC)	終了日時を入力する。
タイトル	64 文字	タイトルを入力する
お知らせ内容	255 文字	お知らせ内容を入力する
添付ファイル	―	添付ファイル名を表示する
ファイルを選択	―	添付ファイルを選択するダイアログを表示する 添付ファイルは 10MB まで添付可能 ※0byte のファイルは添付できません

注

・お知らせの添付ファイルに巨大なファイルを指定するとアップロード処理に非常に時間がかかります。10M バイト以上のファイルをアップロードしても登録はエラーになりますので 10M バイト以上のファイルを指定しないようにしてください。

3. お知らせが登録され、お知らせ登録（確認）画面が表示されます。「確認」ボタンを押下します。

図 39-4　お知らせ登録（確認）画面

39.3　お知らせの詳細情報を確認する（利用者）

お知らせ一覧の確認したいお知らせ列をクリックすることにより、詳細情報を表示します。

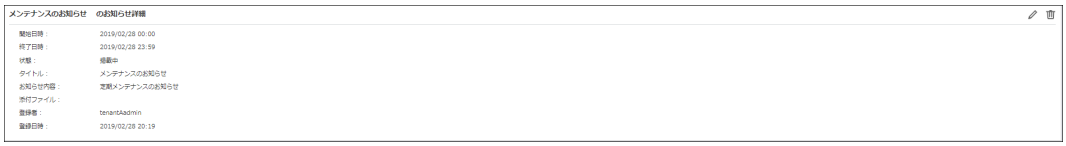

図 39-5　お知らせ詳細画面

表 39-4　項目一覧（お知らせ詳細）

項目名	説明
開始日時	開始日時
終了日時	終了日時
状態	・掲載終了 ・掲載中 ・未掲載 のいずれか
タイトル	タイトル
お知らせ内容	お知らせ内容
添付ファイル	添付ファイル名および添付ファイルへのリンク
登録者	登録者
登録日時	登録日時
お知らせ変更	お知らせ変更画面を表示する
お知らせ削除	お知らせ削除画面を表示する

39.4　お知らせの内容を変更する（利用者）

お知らせの変更方法を以下に示します。

1. お知らせ詳細画面にて、[お知らせ変更]アイコン をクリックします。

図 39-6　お知らせ詳細画面

2. お知らせ変更（入力）画面が表示されます。 「39.2　お知らせを登録する(利用者)（369 ページ)」の「表 39-3 項目一覧（お知らせ登録）（369 ページ)」 を参照し、各項目を編集してください。「確定」ボタンを押下することにより、変更が反映されます。

   添付ファイルを削除する場合は「添付ファイル削除」のチェックボックスにチェックしてください。

注

添付ファイル削除にチェックを付けた場合は、ファイル選択は無効になり、ファイルを選択していた場合も未選択状態になります。

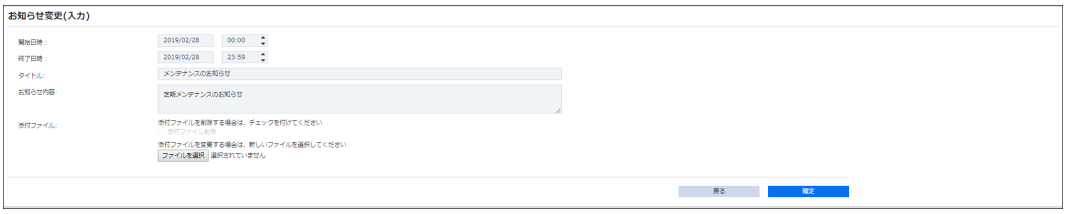

図 39-7　お知らせ変更（入力）画面

3. お知らせ変更（確認）画面が表示されます。「確認」ボタンを押下します。

図 39-8　お知らせ変更（確認）画面

39.5　お知らせを削除する

お知らせの削除方法を以下に示します。

1. お知らせ詳細画面にて[お知らせ削除]アイコンをクリックします。

図 39-9　お知らせ詳細画面

2. お知らせ削除（確認）画面が表示されます。「確認」ボタンを押下することでお知らせを削除します。

図 39-10　お知らせ削除（確認）画面

第 7 編
保守情報

本編では、保守情報について説明します。

第 40 章
バックアップとリストア

本章ではバックアップとリストアについて説明します。

第 41 章
ログの確認方法

以下のフォルダ配下にログが出力されます。

※vDCA SE ポータルのインストールパスを C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA にした場合

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\logs

第 42 章
メッセージ一覧

機能	メッセージ	期待する対処（原因）
共通	権限がありません	各画面(機能)に設定されている権限を保有していないユーザで操作をおこなった可能性があります。 「第 23 章　ユーザ権限（168 ページ）」 を参照し、おこなった動作に対する権限を確認してください。
共通	システム異常が発生しました	想定外のエラーが発生した可能性があります。 ログを採取し、製品サポート窓口にお問い合わせください。
お知らせ管理	添付ファイルの削除に失敗しました	お知らせ削除時に添付ファイルの削除に失敗しました。添付ファイルを格納先のディレクトリから直接削除してください。
お知らせ管理	ファイルのアップロードに失敗しました	お知らせ登録時に添付ファイルのアップロードに失敗しました。お知らせ変更から対象のお知らせに添付ファイルを追加してください。
お知らせ管理	ファイルのダウンロードに失敗しました	サーバ側でエラーが発生した可能性があります。製品サポート窓口にお問い合わせください。
お知らせ管理	ログインユーザが所属しているテナント情報を取得できませんでした	所属テナント情報の取得に失敗しました。一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
お知らせ管理・ダッシュボード	参照できないお知らせです	詳細表示、変更、削除、添付ダウンロードの操作時、お知らせがログインユーザの所属するテナント向けに公開されていないものを選択しています。 対象テナントに所属するユーザでログインし直してください。
サーバ管理	ログインユーザが所属しているテナント情報を取得できませんでした	所属テナント情報の取得に失敗しました。一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
ダッシュボード	ファイルが見つかりません	お知らせの添付ファイルをダウンロードする際、 対象のファイルが存在しません。添付ファイルの格納先を確認してください。
ダッシュボード	ログインユーザが所属しているテナント情報を取得できませんでした	所属テナント情報の取得に失敗しました。一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
テナント管理	テナント情報を取得できませんでした	所属テナント情報の取得に失敗しました。一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
テナント管理	テナント更新に失敗しました	製品サポート窓口にお問い合わせください。
テナント管理	テナント削除に失敗しました	製品サポート窓口にお問い合わせください。
テナント管理	テナント登録に失敗しました	製品サポート窓口にお問い合わせください。

機能	メッセージ	期待する対処（原因）
テナント管理	ログインユーザが所属しているテナント情報を取得できませんでした	所属テナント情報の取得に失敗しました。一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
ユーザ管理	テナント情報を取得できませんでした	所属テナント情報の取得に失敗しました。一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
ユーザ管理	ユーザが見つかりません	ユーザの詳細表示、変更、削除、パスワード変更で操作対象のユーザが見つからない場合、すでに対象ユーザが削除されている可能性があります。 ユーザ一覧を確認してください。
ユーザ管理	ユーザ更新に失敗しました	製品サポート窓口にお問い合わせください。
ユーザ管理	ユーザ削除に失敗しました	製品サポート窓口にお問い合わせください。
ユーザ管理	ユーザ登録に失敗しました	製品サポート窓口にお問い合わせください。
ユーザ管理	ログインユーザが所属しているテナント情報を取得できませんでした	所属テナント情報の取得に失敗しました。一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
リクエスト管理	スペック情報を取得できませんでした	運用設定画面より、テンプレート一覧取得時刻横の「今すぐ更新」ボタンを押下してください（操作方法は「33.2.1　運用設定情報を確認する（256 ページ）」参照）。それでも同様のエラーが発生する場合、テンプレートの設定が誤っている可能性があります。「第 7 章　ログイン直後の設定（30 ページ）」を参照し、設定に問題がないかご確認ください。
リクエスト管理	テンプレート情報を取得できませんでした	「設定」－「運用設定」からテンプレート一覧取得を行ってください（「今すぐ更新」ボタン）。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
リクエスト管理	ネットワーク情報を取得できませんでした	製品サポート窓口にお問い合わせください。
リクエスト管理	ログインユーザが所属しているテナント情報を取得できませんでした	所属テナント情報の取得に失敗しました。一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
リクエスト管理	リクエストパラメータが不正です	SigmaSystemCenter のテンプレート設定で OSType が指定されていない可能性があります。 OSType を確認しても改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
リクエスト管理 (スタック作成・削除)	システム異常が発生しました (0xXXXXXXXX)。	設定に誤りがある、もしくは想定外のエラーが発生した可能性があります。 vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションエラーコード一覧を参照してメッセージ中の (0xXXXXXXXX) に出力されるエラーコードに対応する対処を行ってください。

機能	メッセージ	期待する対処（原因）
リクエスト管理(スタック作成・削除)	CREATE aborted	テンプレートにて指定されたリソースプールのリソースが枯渇した可能性があります。リソースプールの残量を確認のうえ、再度リクエストを実行してください。
リソース状況	リソースの取得に失敗しました	通信エラー、または SigmaSystemCenter のエラーが発生しています。 しばらく待ってからリトライしてください。改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
リソース状況	一覧の取得に失敗しました	通信エラー、または SigmaSystemCenter のエラーが発生しています。 しばらく待ってからリトライしてください。改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
ログインユーザ操作	代行先テナント情報を取得できませんでした	所属テナント情報の取得に失敗しました。一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
ログインユーザ操作	テナント情報の取得に失敗しました	代行先に選択したテナント情報の取得に失敗しました。 一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
ログインユーザ操作	テナント代行情報を取得できませんでした	テナント代行情報の取得に失敗しました。 一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
ログインユーザ操作	テナント代行の解除に失敗しました	テナント代行は再度ログインし直すことで解除されます。 再ログインしてもこのメッセージが頻発する場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
ログインユーザ操作	ユーザが見つかりません	更新対象のユーザ情報を取得できませんでした。 一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
ログインユーザ操作	ログインユーザパスワード更新に失敗しました	更新対象のユーザ情報を取得できませんでした。 一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
ログインユーザ操作	ログインユーザ更新に失敗しました	更新対象のユーザ情報を取得できませんでした。 一度ログアウトした後、再度ログインしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。

42.1　vDCA SE トポロジテンプレートオーケストレータオプションエラーコード一覧

エラーコード	期待する対処（原因）
0x00000002	想定外のエラーが発生した可能性があります。 ログを採取し、製品サポート窓口にお問い合わせください。
0x00000011	SigmaSystemCenter との通信にエラーが発生しています。 SigmaSystemCenter の設定を見直すか、『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『A.1.1 基本設定』を参照して動作設定ファイルを見直してください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
0x00000012	SigmaSystemCenter との通信で接続タイムアウトが発生しています。 SigmaSystemCenter の設定を見直してください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
0x00000013	SigmaSystemCenter との通信でリードタイムアウトが発生しています。 しばらく待ってからリトライしてください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
0x00000014	SigmaSystemCenter への HTTP リクエストのレスポンスでエラーコードが返って来ました。 OpenStack Orchestration(heat-engine) のログ /var/log/heat/heat-engine.log でエラーが発生した時刻付近から次のメッセージを確認します。 **リクエストが失敗しました。HTTPステータスコード：XXX** その後、『SigmaSystemCenter Web API リファレンス』を参照してログのメッセージ中の XXX に出力された HTTP ステータスコードに該当するエラーを特定し、SigmaSystemCenter の設定もしくは動作設定ファイル、パラメータ設定ファイルのいずれかの設定を見直してください。
0x00000031	トポロジテンプレートに指定されたフレーバーが設定ファイルに存在しません。 「20.2.1　フレーバー設定（135 ページ）」を参照してパラメータ設定ファイルの設定を見直してください。
0x00000032	トポロジテンプレートに指定されたディスクプロファイルが設定ファイルに存在しません。 「20.2.3　ディスクプロファイル設定（138 ページ）」を参照してパラメータ設定ファイルの設定を見直してください。
0x00000033	トポロジテンプレートに指定されたフレーバーに設定されているシステムディスクプロファイルが設定ファイルに存在しません。 「20.2.1　フレーバー設定（135 ページ）」もしくは「20.2.3　ディスクプロファイル設定（138 ページ）」を参照してパラメータ設定ファイルの設定を見直してください。
0x00000034	トポロジテンプレートに指定されたイメージが設定ファイルに存在しません。「20.2.2　イメージ設定（137 ページ）」を参照してパラメータ設定ファイルの設定を見直してください。
0x00000036	トポロジテンプレートに指定されたリソースプールが SigmaSystemCenter に存在しません。 SigmaSystemCenter の設定を見直してください。
0x00000037	トポロジテンプレートに指定されたグループが SigmaSystemCenter に存在しません。 SigmaSystemCenter の設定を見直してください。
0x00000041	SigmaSystemCenter のジョブが見つかりません。 製品サポート窓口にお問い合わせください。
0x00100102	動作設定ファイルの設定が不足しています。 「20.1　サービスカタログのデフォルト値転記（132 ページ）」を参照して動作設定ファイルの設定を見直してください。
0x00100103	動作設定ファイルの設定に誤りがあります。 「20.1　サービスカタログのデフォルト値転記（132 ページ）」を参照して動作設定ファイルの設定を見直してください。

エラーコード	期待する対処（原因）
0x00100104	動作設定ファイルのオープンに失敗しました。『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『2.2.3 設定ファイルのディレクトリ作成』および『4.1 SSC リソースプラグインの設定ファイルの配置』を参照して動作設定ファイルを配置してください。
0x00100105	動作設定ファイルに誤りがあり読み込みに失敗しました。 「20.1　サービスカタログのデフォルト値転記（132 ページ）」を参照して動作設定ファイルの設定を見直してください。
0x00100106	動作設定ファイルに空文字列のキーが含まれています。 動作設定ファイルから空文字列のキーの設定を除いてください。
0x00100202	パラメータ設定ファイルの設定が不足しています。 「20.2　サービスカタログのカスタム値転記（134 ページ）」を参照してパラメータ設定ファイルの設定を見直してください。
0x00100203	パラメータ設定ファイルの設定に誤りがあります。 「20.2　サービスカタログのカスタム値転記（134 ページ）」を参照してパラメータ設定ファイルの設定を見直してください。
0x00100204	パラメータ設定ファイルのオープンに失敗しました。『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『2.2.3 設定ファイルのディレクトリ作成』および『4.1 SSC リソースプラグインの設定ファイルの配置』を参照してパラメータ設定ファイルを配置してください。
0x00100205	パラメータ設定ファイルに誤りがあり読み込みに失敗しました。 「20.2　サービスカタログのカスタム値転記（134 ページ）」を参照してパラメータ設定ファイルの設定を見直してください。
0x00100206	パラメータ設定ファイルに空文字列のキーが含まれています。 パラメータ設定ファイルから空文字列のキーの設定を除いてください。
0x00200001	トポロジテンプレートに指定された論理ネットワークが SigmaSystemCenter に存在しません。 SigmaSystemCenter の設定を見直してください。
0x00200011	割り当て可能な VLAN ID がありません。 『vDC Automation Standard Edition トポロジテンプレートオーケストレータオプション 利用ガイド』の『A.1.2.3 ネットワークのポートグループ設定』を参照して動作設定ファイルの設定を見直すか、SigmaSystemCenter の設定を見直してください。
0x00200012	ポートグループ名の割り当てに失敗しました。 再度スタック作成リクエストを実行してください。 改善されない場合は製品サポート窓口にお問い合わせください。
0x00200A01	サーバが接続するための管理ネットワークが存在しません。 SigmaSystemCenter の設定を見直してください。
0x00300011	トポロジテンプレートに指定されたグループに設定されている VM テンプレートに対応するイメージがパラメータ設定ファイルに設定されていません。 『12.2 パラメータ設定ファイルの設定方法』を参照してパラメータ設定ファイルの設定を見直してください。
0x00300012	トポロジテンプレートに指定されたグループに VM テンプレートが設定されていません。 SigmaSystemCenter の設定を見直してください。
0x00300013	トポロジテンプレートに指定されたイメージに設定されている VM テンプレートがトポロジテンプレートに指定されたリソースプールで使用することができません。 「20.2.2　イメージ設定（137 ページ）」を参照してパラメータ設定ファイルの設定を見直すか SigmaSystemCenter の設定を見直してください。
0x00300014	トポロジテンプレートに指定されたグループで有効なリソースプールが存在しません。 SigmaSystemCenter の設定を見直してください。

第 43 章
コマンド

コマンドで実行する機能について説明します。

43.1　リソース情報更新コマンド

リソース情報更新コマンドを利用することにより、ブラウザにログインすることなくテナントやユーザなどを登録することができます。

リソース情報更新コマンドで使用するファイル形式は以下です。

ファイル形式：CSV（カンマ区切り）

リソース情報更新読み込み時の文字コードを指定したい場合は、C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties にて以下の設定を実施してください。 文字コードは JAVA の文字コードが指定可能です。未設定の場合は UTF-8（BOM 無し）が設定されます。改行コードは CRLF です。

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開き、以下を設定します。

```
product.cloudportal.file.resourceinfo.charset=文字コード
```

【設定例】

```
product.cloudportal.file.resourceinfo.charset=UTF-8
```

上記を記載後、ファイルの文字コードを UTF-8 で保存し、アプリケーションサーバ(Tomcat)を再起動します。 サーバーマネージャー の左側のパネルからローカルサーバーを選択し、サービスから「ServiceGovernor」を右クリック し、［サービスの再起動］を選択します。

インストールパスが C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\ の場合、リソース情報更新コマンドは以下に格納されます。

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\portal\bin\UpdateResource.bat

インストール時の設定に合わせ、適宜読み替えてください。

出力結果は以下です。

表 43-1　リソース情報更新コマンド出力結果

戻り値	メッセージ	説明
0	Command success.	正常終了
1	Command abnormal exits.	異常終了
2	Parameter error.	入力パラメータ不正

エラー一覧

表 43-2　エラー一覧

項番	エラー	エラー内容
1	A parameter format is invalid.	リソース情報更新コマンドに指定した引数が正しくありません。 usage に従って引数を指定してください。
2	A resource information file is not found.	リソース情報ファイルが見つかりませんでした。 リソース情報ファイルのパスをご確認ください。
3	A resource information file is empty.	リソース情報ファイルの内容が空でした。 適切なリソース情報ファイルを指定してください。
4	A required parameter is not found.	リソース情報更新コマンドの必須引数が指定されていませんでした。 usage に従って引数を指定してください。
5	Authentication failure.	正しいアクセスではありません。 リソース情報更新コマンドから実行されているかご確認ください。
6	Failed in resource information update.	リソース情報更新に失敗しました。 リソース情報ファイルの内容をご確認ください。 ファイルの 1 行ごとにエラー詳細が出力されます。
7	Failed to obtain a lock for the resource information update.	ロック処理に失敗しました。 再度実行をお願いします。

注

vDCA SE ポータルインストール時に既定値(12080)以外の HTTP ポートを指定した場合

実行ファイルを編集する必要があります。

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\portal\bin\UpdateResource.bat を開き、以下の「12080」を指定した HTTP ポートに編集します。

```
SET BASEURL=http://localhost:12080/portal
```

43.1.1　テナント作成コマンド

実行コマンドは以下です。テナント作成 CSV ファイル名をコマンドからの相対パスまたは絶対パスで指定します。

```
UpdateResource.bat -type tenant -f ファイル名
```

【例】

```
UpdateResource.bat -type tenant -f
            "C:\Users\xxxx\Desktop\xxxxx.csv"
```

テナント作成コマンドで使用するファイル形式は以下です。

項番	取込項目	説明
1	テナント ID	テナント ID を指定する。省略不可。

項番	取込項目	説明
2	テナント名	テナントの名前を指定する。省略不可。
3	状態	テナントの状態を指定する。省略不可。 • 「有効」の場合「1」を指定する。 • 「無効」の場合「0」を指定する。
4	備考	テナントの備考を指定する。省略可。

43.1.2　ユーザ作成コマンド

実行コマンドは以下です。ユーザ作成 CSV ファイル名をコマンドからの相対パスまたは絶対パスで指定します。

```
UpdateResource.bat -type user -f ファイル名
```

【例】

```
UpdateResource.bat -type user -f
            "C:\Users\xxxx\Desktop\xxxxx.csv"
```

ユーザ作成コマンドで使用するファイル形式は以下です。

項番	取込項目	省略可否	説明
1	テナント ID	システム管理者を指定する場合：省略可 テナント管理者とテナントユーザを指定する場合：省略不可	テナント ID を指定する
2	ロール	不可	ロールは下記のように指定する • System_admin:システム管理者 • Tenant_admin:テナント管理者 • Tenant_user:テナントユーザ • テナント固有ロール※
3	カスタムロール	可	ユーザのカスタムロールを指定する 複数のカスタムロールを「” customrole1, customrole2,...”」の形で区切る。
4	リクエスト承認を許可する	不可	• true:リクエスト承認可能 • false:リクエスト承認不可
5	ユーザ ID	不可	ユーザの ID を指定する
6	氏名	不可	ユーザの名前を指定する
7	e-mail	不可	メールアドレスを指定する
8	パスワード	不可	ユーザのパスワードを指定する
9	状態	不可	ユーザの状態を指定する • 「有効」の場合:1 • 「無効」の場合:0
10	備考	可	ユーザの備考を指定する

ヒント

※テナント固有ロールの詳細は ロールについて を参照してください。

43.1.3　リクエスト作成コマンド

本コマンドではサーバ作成リクエストのみ作成をサポートしています。なお、パブリッククラウドは対象外です。

実行コマンドは以下です。

```
UpdateResource.bat -type request -tenantId テナントID -t リクエストテンプレート名 -serverName サーバ名　[ -auto リクエスト実行種別 ]
```

【例】

```
UpdateResource.bat -type request -t RHEL8_template -serverName vm01 -tenantId TenantA
```

テナント ID にはリクエストの申請元となるテナントのテナント ID を指定します。

リクエストテンプレート名にはリクエストテンプレートの識別子を指定します。詳細は『vDC Automation Standard Edition ポータル Web API リファレンス』を参照してください。

サーバ名には作成したいサーバのサーバ名を指定します。

リクエスト実行種別にはリクエスト承認後、続けてリクエストの実行を行うか否かを指定します。true/false で指定してください。

43.1.4　サーバおよびネットワーク情報更新コマンド

本機能は、プロビジョニングプロバイダで管理しているサーバを、vDCA SE ポータルで管理できるようにする機能を提供します。 システム管理者のみが利用可能です。

なお、物理サーバは対象外です。

リソース情報更新コマンド実行後は、運用設定の[今すぐ更新]ボタン（論理ネットワーク一覧取得）を押下してください。 [今すぐ更新]ボタン（論理ネットワーク一覧取得）については「33.2　運用設定（255 ページ）」を参照してください。

実行コマンド

```
UpdateResource.bat -f ファイル名
※ファイル名は必須入力。リソース情報ファイルのCSVファイル名を、コマンドからの相対パスまたは絶対パスで指定する。
```

【例】

```
UpdateResource.bat -f "C:\Users\xxxx\Desktop\xxxxx.csv"
```

注

リソース情報更新コマンドを実行する前に、状況に応じていくつか設定が必要です。

- プロビジョニングプロバイダで、テンプレートや論理ネットワークの作成や変更などを実施している場合

  リソース情報更新コマンドは、テンプレート情報および論理ネットワーク情報を利用します。

  リソース情報更新コマンド実行前に、プロビジョニングプロバイダと vDCA SE ポータルの情報を同期してください。

  詳細は「33.2.1　運用設定情報を確認する（256 ページ）」を参照してください。

- 同期機能によって取り込まれたサーバに対してリソース情報更新コマンドを実行する場合、事前に同期用リクエストが登録されている必要があります。

  以下の手順で登録してください。

  1. サーバ一覧画面を開く
  2. 対象のサーバを選択し、ステータスを"シャットダウン"にする
  3. 対象のサーバを選択し、[サーバ変更]ボタンを押下する
  4. サーバ変更(入力)画面が表示されたら、[キャンセル]を押下する

ヒント

ダブルクォーテーション及びカンマを値として含める場合は以下が必要になります。

1. 対象値の前後をダブルクォーテーションで囲む
2. ダブルクォーテーションの場合は上記手順を行った上で値を重ねる

※Excel 編集の場合は自動加工されるため不要。テキスト編集時のみ対応。

【例】「ABC"DEF」「GHI,JKL」

```
" ABC""DEF"," GHI,JKL"
```

＜ファイル例＞

```
テナントID,リクエスト日時,リクエスト種別,UUID,リソースプール名,テンプレート名,スペック名,備考
※リソースプールがサブリソースプールの場合は親のリソースプールも入力してください。
Ex)
TenantA,2015-11-10  09:10:00,1,**********************************,RP1/SubRP2,TemplateA,Spec1,持ち込みVMを取込。\n担当者：日電太郎
```

注

リソース情報ファイルは、UTF-8（BOM 無し）で設定してください。

表 43-3　取込項目一覧

項番	取込項目	説明
1	• テナント ID • [必須]	リクエストのテナント ID

項番	取込項目	説明
2	• リクエスト日時 • [必須]	リクエストの申請日時、完了日時 [1970-01-01 00:00 (UTC) ～ 2999-12-31 23:59(UTC)]の範囲内で指定。 リクエスト日時は対象リソースの最終リクエストの[リクエスト完了日時以降～現在日時まで]で指定します。 ※サーバ時間で日時を指定 指定形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
3	• リクエスト種別 • [必須]	リクエストの種別 「表 43-4 更新対象一覧（386 ページ）」のリクエスト種別を設定 プロビジョニングプロバイダに存在し、ポータルに存在しないリソースを更新する場合は「作成」のリクエスト種別を指定します。 プロビジョニングプロバイダに存在し、ポータルに存在するリソースを更新する場合は「更新」のリクエスト種別を指定します。※1 ポータルに存在し、プロビジョニングプロバイダに存在しないリソースを更新する場合は「削除」のリクエスト種別を指定します。 ポータルに存在し、プロビジョニングプロバイダに存在するがポータル上のみ消したい場合にも「削除」のリクエスト種別を指定します。
4	リクエスト種別がサーバの場合 • UUID※3 • [必須] リクエスト種別がネットワークの場合 • 論理ネットワーク名 • [必須]	リクエスト種別がサーバの場合 • サーバの UUID • ロケーションが Private のサーバの確認方法： 1. SigmaSystemCenter の Web コンソールを開く。 2.「リソース」-「左ペインの確認したいマシン名を選択」-「全般タブ」-「基本情報」-「UUID」の値を確認 • ロケーションが AWS および Azure のサーバの確認方法： 1. SigmaSystemCenter の Web コンソールを開く。 2. [運用] - ツリーから対象サーバが所属するグループを選択 3. [ホスト一覧]から対象サーバをクリック 4. [リビジョンタブ]-[基本情報]-[UUID]の値を確認 リクエスト種別がネットワークの場合※2 • ネットワークの名前 • 確認方法： 1. SigmaSystemCenter の Web コンソールを開く。 2.「リソース」-「ネットワーク」で対象の名前を確認
5	リクエスト種別がサーバの場合 • リソースプール名※1 • [必須] リクエスト種別がネットワークの場合 • 指定不要	リクエスト種別がサーバの場合 • サーバが利用するリソースプール名 • ロケーションが Private のサーバの確認方法： 1. SigmaSystemCenter の Web コンソールを開く。 2.「ポータル」-「左ペインの自テナントのカテゴリグループを選択」-「全般タブ」-「マシン一覧」-「確認したいマシンの VM 名」を選択

項番	取込項目	説明
		3. マシン詳細画面にて「運用情報」-「リソースプール」の値を確認 • ロケーションが AWS および Azure のサーバの場合、テナントに割り当てられたパブリッククラウド用リソースプール
6	リクエスト種別がサーバの場合 • テンプレート名※1 • [必須] リクエスト種別がネットワークの場合 • 指定不要	リクエスト種別がサーバの場合 • サーバが利用するテンプレート名 • 確認方法： 1. SigmaSystemCenter の Web コンソールを開く。 2.「ポータル」-「左ペインの自テナントのカテゴリグループを選択」-「全般タブ」-「マシン一覧」-「確認したいマシンの VM 名」を選択 3. マシン詳細画面にて「基本情報」-「作成元イメージ」の値を確認 • ロケーションが AWS のサーバの場合、Amazon Machine Image の ID • ロケーションが Azure のサーバの場合、OS イメージの ID
7	リクエスト種別がサーバの場合 • スペック名 • [必須] リクエスト種別がネットワークの場合 • 指定不要	リクエスト種別がサーバの場合 • サーバが利用するスペック名 • 設定ファイル（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties）を参照し、テンプレート名で指定可能な「Spec name」を指定する。 • 詳細は「10.1.1　カタログ表示名とスペックの設定（39 ページ）」を参照。 • ロケーションが AWS のサーバの場合、インスタンス ID • ロケーションが Azure の場合、VM サイズタイプ
8	• 備考 • [任意]	• リソース情報更新時の備考 • リクエスト申請時の申請コメント欄に該当する。 • 改行コードは「\n」で指定する。 • 最大文字数は 255 文字（1 バイト、2 バイト、制御文字含む文字数）。 • 最大文字数を超えた場合は 255 文字目までを値として利用する。

※1 パブリッククラウド上のサーバは対象外です。プロビジョニングプロバイダへの登録が必要です。詳細は「12.1.1　パブリックリソース登録（79 ページ）」を参照してください。

【更新対象一覧】

表 43-4　更新対象一覧

項番	リクエスト種別名	リクエスト種別
1	サーバ作成	1
2	サーバ変更	2
3	サーバ削除	3
4	ネットワーク作成	101
5	ネットワーク削除	103

異常終了および入力パラメータ不正時のエラー内容については以下を参照してください。

表 43-5　エラー一覧

項番	エラー詳細	エラー内容
1	Authentication failure.	認証に失敗しました
2	Not executable because other resource information update is in process.	他のリソース情報更新処理が実行中のため実行できません
3	Failed in resource information update.	リソース情報更新処理に失敗しました
4	Required fields cannot be left blank.	リソース情報ファイルの必須項目が指定されていません
5	A numeric field cannot include a non-numeric character.	リソース情報ファイルの数値項目に数値以外が指定されています
6	Invalid request type.	リソース情報ファイルのリクエスト種別に存在しないリクエスト種別が設定されています
7	The file must not include duplicated updates to a resource.	リソース情報ファイル内で同一の UUID が複数設定されています 同一 UUID（サーバ）への複数回操作はできません
8	Failed to get resource information from a provisioning provider.	プロビジョニングプロバイダからリソース情報の取得ができませんでした 以下の点についてご確認ください。 ・プロビジョニングプロバイダが動作しているか、設定は適切か ・リソース情報ファイルに指定した UUID が適切か ・リソース情報ファイルに指定した論理ネットワーク名が存在しているか
9	The portal has no resource information (server) to be updated.	更新対象のリソース情報(サーバ)がポータルに存在していません
10	The portal has no resource information (network) to be updated.	更新対象のリソース情報(ネットワーク)がポータルに存在していません
11	The portal has no resource information (request) to be updated.	更新対象のリソース情報(リクエスト)がポータルに存在していません
12	Failed to obtain a lock for the resource information update.	リソース情報更新処理のロックが出来ませんでした
13	Error(s) in a check on the configured values in the resource information file.	リソース情報ファイルの指定値に誤りがあります リソース情報ファイルの指定値をご確認ください
14	Invalid format in the request date or time.	リソース情報ファイルのリクエスト日時の書式に誤りがあります 適切な形式（yyyy-MM-dd hh:mm:ss）で指定されているかご確認ください
15	The request date or time is out of range.	リソース情報ファイルのリクエスト日時の指定範囲に誤りがあります 適切な範囲内（[1970-01-01 00:00(UTC) ～ 2999-12-31 23:59(UTC)]）で指定されているかご確認ください

項番	エラー詳細	エラー内容
16	The request date or time is earlier than the completion of the previous request.	リクエスト日時に前回リクエストのリクエスト完了日時以前が指定されています
17	Nonexistent tenant ID	リソース情報ファイルのテナント ID が存在しません
18	Template name configuration not found.	リソース情報ファイルのテンプレート名が存在しません 以下の点についてご確認ください ・リソース情報ファイルに指定されたテンプレート名が設定ファイル（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties）に存在するか ・リソース情報ファイルに指定されたテンプレート名がプロビジョニングプロバイダに存在するか
19	Failed to set the data.	データ設定に失敗しました プロビジョニングプロバイダから意図しないデータを取得した可能性があります プロビジョニングプロバイダ上の設定が正しいかご確認ください
20	Failed to register the data.	vDCA SE ポータルへの登録が失敗しました 各種設定を見直して再度実行してください
21	The portal already has the server information of the targeted resource. The same server cannot be created.	vDCA SE ポータル上に指定の UUID を持つサーバ情報が存在します 以下の点についてご確認ください ・リソース情報ファイルに指定した UUID が適切か ・リソース情報ファイルに指定した UUID のサーバへの操作（リクエスト種別）は適切か
22	The portal already has the network information of the targeted resource. The same network cannot be created.	vDCA SE ポータル上に指定の論理ネットワーク名を持つ論理ネットワーク情報が存在します リソース情報ファイルに指定した論理ネットワーク名が適切かご確認ください
23	The portal has no network information of the VLAN.	vDCA SE ポータル上に接続 VLAN のネットワーク情報が存在しません vDCA SE ポータルで対象のネットワークが認識されていない場合、運用設定から論理ネットワーク一覧取得を行ってください 詳細は「33.2.1　運用設定情報を確認する（256 ページ）」を参照してください
24	The request date or time is later than the current date and time.	リソース情報ファイルのリクエスト日時が現在日時より未来が指定されています
25	An error occurred by data of the targeted line. Please revise the configurations related to the file and SSC.	対象行のデータでエラーが発生したためリソース情報ファイルおよびプロビジョニングプロバイダの設定等を見直してください
26	Failed to get the designated resource pool from the provisioning provider.	プロビジョニングプロバイダにリソース情報ファイルのリソースプール名が存在しません 以下の点をご確認ください ・リソース情報ファイルのリソースプール名は適切か ・リソース情報ファイルのリソースプール名はプロビジョニングプロバイダ上に存在するか

項番	エラー詳細	エラー内容
27	Duplicated logical network name was found.	重複した論理ネットワーク名が見つかりました
28	Update of target resource is not supported.	リソース情報ファイルに指定されているリソースの更新はサポートしていません サーバリソースの場合、サーバのロケーションが Private であることをご確認ください
29	Register of target resource is not supported.	リソース情報ファイルに指定されているリソースの登録はサポートしていません ネットワークリソースの場合、以下の点をご確認ください • ネットワークの公開範囲が private、かつ、テナントに割り当てされていること • ネットワークの種別がテナント管理 VLAN ではないこと
30	Delete of target resource is not supported.	対象リソースの削除はサポートされません
31	Internal Error.	リソース情報更新する時内部エラーが発生しました
32	The request template file not found.	指定されたリクエストテンプレートファイルが見つかりませんでした
33	Tenant have no privilege.	指定されたテナント権限がありません
34	The resource pool not found.	指定されたリソースプールが見つかりませんでした
35	The server name is incorrect.	指定されたサーバ名が正しくありません
36	The template information is insufficient.	指定されたテンプレート情報が完備しません
37	The spce information is insufficient.	指定されたスペック情報が完備しません
38	The network not found.	指定されたネットワークが見つかりませんでした
39	A server with the same name already exists in the tenant.	同一テナント内に同じ名前のサーバが既に存在しています
40	Tenant's approval flow can not found.	指定されたテナントの承認フローが見つかりません
41	Internal Error.	内部エラーが発生しました
42	Required fields cannot be left blank or auto execute format error.	必須項目が未入力或は自動実行フラグが正しくありません
43	The disk tag which corresponds server's disk is not found.	指定されたサーバのディスクに対応するディスクタグが存在しません
44	その他	vDCA SE ポータルでのリクエスト状況によってリソース情報更新ができない場合、上記以外のエラーが出力されます エラー内容に応じて対応を行ってください

注

- ※1

  リクエスト種別がサーバの場合、リソースプール名やテンプレート名については、vDCA SE ポータルで管理しているかのチェックは行いますが、 実際にプロビジョニングプロバイダでサーバ作成されたときの設定と適合しているかどうかのチェックは行いません。 適合してい

ない場合でも vDCA SE ポータルに登録されますが、変更リクエストや引用作成リクエストなどを行った際に、意図しない動作が発生する場合があります。

そのため、誤ったリソースプール名やテンプレート名で登録してしまった場合、以下のような手順でサーバを一度 vDCA SE ポータルの管理下から削除してください。

1. プロビジョニングプロバイダの運用グループから一時的にはずす
   a. SigmaSystemCenter の Web コンソールを開く
   b.「運用」-「左ペインの対象サーバのカテゴリグループを選択」-「全般タブ」-「ホスト一覧」-「確認したいサーバのホスト名」をクリック
   c.「右ペインの設定＞プロパティ」を選択し、プロパティ設定（ネットワーク、ホストプロファイル、マシンプロファイル等）をメモしておく
   d. 対象サーバのカテゴリグループに戻り、「ホスト一覧」-「確認したいサーバのホスト名」を選択して、操作一覧から「割り当て解除」をクリック
   e. 割り当て解除ダイアログで、「マシンを解体しないで未稼働にする」を選択する
2. vDCA SE ポータルからサーバを削除する

   対象サーバに対して、「削除済みサーバの削除」を行う。

   詳細は「30.3.2　サーバの詳細情報を確認する（219 ページ）」を参照。
3. プロビジョニングプロバイダの運用グループに戻す
   a. SigmaSystemCenter の Web コンソールを開く
   b.「運用」-「左ペインの対象サーバのカテゴリグループを選択」-「全般タブ」-「ホスト一覧」-「ホスト追加」をクリック
   c. ホスト追加ダイアログで、ホスト名とネットワークを設定する（管理用 IP アドレスを設定）
   d. 追加したホストを選択し、「マスタ登録」をクリック
   e.「共通プールから選択」を選択し、「次へ」をクリック
   f. 管理対象の VM のリソースプールを選択し、VM を選択して、「次へ」⇒「完了」をクリック
   g. 再度、追加したホストを選択し、「編集」をクリックし、1 でメモしたプロパティ設定を適用する
4. 誤ったリソース情報ファイルを修正し、再度リソース情報更新コマンドを実行する

- ※2

  以下の条件のいずれかに一致する論理ネットワークは登録および削除することができません。
  - 公開範囲が public
  - 種別がテナント管理 VLAN
- ※3 対象サーバの実体とそれに対応する SigmaSystemCenter の運用ビューに登録されているホスト設定のマシンプロファイル・ホストプロファイルは一致するように設定した上でコマンドを実行する必要があります。

43.2　リクエスト履歴出力コマンド

本機能は、各テナントの課金の元となるリクエストの履歴情報をテナント、リクエストの期間を指定して CSV へ出力できる機能を提供します。

システム管理者のみが利用可能です。「テナント ID、UUID、リクエスト完了日時」の昇順で出力されます。

CSV ファイルには以下のリクエスト種別およびリクエスト状態のリクエストが出力されます。

表 43-6　出力対象リクエスト一覧

リクエスト種別	リクエスト種別名	リクエスト状態
1	サーバ作成	完了
2	サーバ変更	完了
91	スタック作成	完了
101	論理ネットワーク作成	完了
111	カスタムオペレーション実行	完了

ヒント

リクエスト履歴出力時の文字コードを指定したい場合は、以下の設定を実施してください。文字コードは JAVA の文字コードが指定可能です。未設定の場合は UTF-8（BOM 無し）が設定されます。

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開き、以下を設定します。

```
product.cloudportal.file.requesthistory.charset=文字コード
```

【設定例】

```
product.cloudportal.file.requesthistory.charset=UTF-8
```

上記を記載後、ファイルの文字コードを UTF-8 で保存し、アプリケーションサーバ(Tomcat)を再起動します。 サーバーマネージャー の左側のパネルからローカルサーバーを選択し、サービスから「ServiceGovernor」を右クリックし、［サービスの再起動］を選択します。

リクエスト履歴情報出力コマンドは以下です。

- 格納フォルダ

  C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\portal\bin\RequestHistory.bat

- 実行コマンド

```
RequestHistory.bat [-tid テナントID] [-sdate "開始日時"] [-edate "終了日時"
] [-o 出力パス]
```

- 引数

表 43-7　リクエスト履歴出力コマンドの引数

引数	説明
テナント ID（任意）	出力対象のテナント ID を指定。省略時は全テナントが対象。
開始日時（任意）	指定の開始日時以降に有効なリソースのリクエスト履歴を出力する [1970-01-01 00:00 (UTC) ～ 2999-12-31 23:59(UTC)]の範囲内で指定 指定日時はサーバ時間で指定する 終了日時より未来の日時指定はエラー 日時は以下の形式で指定 形式：yyyy-MM-dd hh:mm ※ダブルクォートで囲むこと 省略時は全範囲日時が対象（終了日時指定有の場合は終了日時までが対象）
終了日時（任意）	指定の終了日時まで有効なリソースのリクエスト履歴を出力する [1970-01-01 00:00 (UTC) ～ 2999-12-31 23:59 (UTC)]の範囲内で指定 指定日時はサーバ時間で指定する 開始日時より過去の日時指定はエラー 日時は以下の形式で指定 形式：yyyy-MM-dd hh:mm ※ダブルクォートで囲むこと 省略時は全範囲日時が対象（開始日時指定有の場合は開始日時からが対象）となります。
出力パス（任意）	出力 CSV ファイルのファイル名を含む、コマンドからの相対パスまたは絶対パス付きで指定 出力パスのフォルダが存在しない場合はエラー 指定パスのファイルが既に存在した場合は上書き出力 省略時はリクエスト履歴結果を標準出力

- 出力結果

表 43-8　リクエスト履歴コマンド出力結果

戻り値	メッセージ	説明
0	Command success.	正常終了
1	Command abnormal exits.	異常終了
2	Parameter error.	入力パラメータ不正

注

vDCA SE ポータルインストール時に既定値(12080)以外の HTTP ポートを指定した場合、実行ファイルを編集する必要があります。

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\portal\bin\RequestHistory.bat を開き、以下の「12080」を指定した HTTP ポートに編集します。

```
SET BASEURL=http://localhost:12080/portal
```

43.2.1　リクエスト履歴ファイル

リクエスト履歴出力コマンドで使用するファイル形式は以下です。

ファイル形式：CSV（カンマ区切り・ダブルクォート囲み）

文字コード：C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties にて以下を設定する。※設定されていない場合のデフォルト値は「UTF-8（BOM 無し）」とする。

```
product.cloudportal.file.requesthistory.charset=
文字コード
[例]product.cloudportal.file.requesthistory.charset=
Shift_JIS
```

改行コード：CRLF

ヒント

ダブルクォーテーション及びカンマを値として含める場合は以下の通り出力します。

1. 対象値の前後をダブルクォーテーションで囲む
2. ダブルクォーテーションの場合は上記手順を行った上で値を重ねる

【例】「"ABC"DEF"」

```
"ABC""DEF"
```

また、接続 VLAN（論理ネットワーク名）にカンマを含む場合は、接続 VLAN の区切り文字と区別するためカンマを重ねて出力します。

【例】「VLAN,A」「VLAN,B」

```
"VLAN,,A,VLAN,,B"
```

＜ファイル例＞

```
"テナントID","UUID","リソース名","リクエスト種別","リクエスト申請日時","リクエスト完了日時","リクエスト有効期限日時","リソースプール名","サーバ名","テンプレート名","スペック名","CPU","Memory","ディスクサイズ","拡張ディスクサイズ","接続VLAN","備考","リソース情報更新フラグ","リソース開始時のリクエストID","リソース開始時の申請者と申請日時","リソース開始時のテナント承認者と承認日時","リソース開始時のシステム承認者と承認日時","リソース開始時の実行日時","リソース終了時のリクエストID","リソース終了時の申請者と申請日時","リソース終了時のテナント承認者","リソース終了時のシステム承認日時","リソース終了時の実行日時"
            Ex)
             "TenantA","42063994-5a4d-6115-d97b-94f5c2bbd06d","","1","2017-11-10
            09:10:00","2017-11-10 09:10:00","2017-11-10
             09:10:00","resourcepool1","","ServerA","TemplateA","SpecA","1","2","1024","1024","","","0","R00000100","admin:2017-11-22
            17:39:53","User:2017-09-22 17:43:38","User:2017-11-22
            17:43:41","2017-11-29 17:43:41","","","","","","Private"
```

```
            "TenantA","42063994-5a4d-6115-d97b-94f5c2bbd06d","","2","2017-
11-10
            09:10:00","2017-11-10 09:10:00","2017-11-10
            09:10:00","resourcepool1","","ServerA","TemplateA","SpecA","1"
,"2","1024","1024,1024","","","0","R00000102","admin:2017-11-29
            16:01:11","User:2017-11-29 16:01:17,User:2017-11-29
            16:11:19","User1:2017-11-29 16:41:17,User2:2017-11-29
            16:51:19","2017-11-29 17:01:19","R00000103","admin:2017-11-29
            18:00:47","User:2017-11-29 18:00:51,User:2017-11-29
            18:10:53","User:2017-11-29 18:31:17,User:2017-11-29
            18:31:59","2017-11-29 19:30:53","Private"
```

表 43-9　ファイル出力項目一覧（サーバ）

項番	出力項目	説明
1	テナント ID	リクエストしたテナント ID
2	UUID	サーバの UUID ※サーバリクエストのみ出力 または、スタックの UUID ※スタック作成リクエストの場合のみ出力
3	リソース名	未出力 または、スタックの名前 ※スタック作成リクエストの場合のみ出力
4	リクエスト種別	リクエスト種別 出力対象は 「表 43-6 出力対象リクエスト一覧（391 ページ）」 のリクエスト種別を参照
5	リクエスト申請日時	リクエスト申請された日時 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
6	リクエスト完了日時	リクエスト状態が完了となった日時 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
7	リクエスト有効期限日時	リクエストの有効期限。 対象リクエストの後に実行されたリクエストのリクエスト完了日時。 実行されていない場合は空が設定される。 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
8	リソースプール	リソースプール名 ※vDCA ポータルの場合は、リソースプール識別子も含めて出力する。
9	リソースグループ	未出力
10	サーバ名	サーバ名
11	テンプレート名	サーバ作成に利用したテンプレート名
12	スペック名	サーバ作成に利用したスペック名
13	CPU	サーバ作成に利用した CPU（CPU 数）
14	Memory	サーバ作成に利用したメモリ（GB）
15	ディスクサイズ	サーバ作成に利用したディスクサイズ（GB）

項番	出力項目	説明
16	拡張ディスクサイズ	サーバ作成に利用した拡張ディスクサイズ（GB） 複数存在する場合はカンマ区切りのダブルクォート囲みで出力する。
17	接続 VLAN	未出力
18	備考	リクエスト申請時の申請コメント欄もしくはリソース情報更新時の備考を出力する。 改行コードは「\n」で出力する。
19	リソース情報更新フラグ	リソース情報更新機能で更新リクエストかの判定フラグ 通常リクエスト：0 リソース情報更新：1
20	リソース開始時のリクエスト ID	サーバもしくは論理ネットワーク作成・更新時のリクエスト ID
21	リソース開始時の申請者と申請日時	「ユーザ ID:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間
22	リソース開始時のテナント承認フローの承認者と承認日時	テナント承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます リソース情報更新コマンドでサーバ作成・変更・削除が行われた場合、本パラメータは空で返されます。
23	リソース開始時のシステム承認フローの承認者と承認日時	システム承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます
24	リソース開始時の実行日時	リクエスト実行時の日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss) ※出力日時はサーバ時間 リソース情報更新コマンドでサーバ作成・変更・削除が行われた場合、本パラメータは空で返されます。
25	リソース終了時のリクエスト ID	サーバもしくは論理ネットワーク更新・終了時のリクエスト ID
26	リソース終了時の申請者と申請日時	「ユーザ ID:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間
27	リソース終了時のテナント承認フローの承認者と承認日時	テナント承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます リソース情報更新コマンドでサーバ作成・変更・削除が行われた場合、本パラメータは空で返されます。
28	リソース終了時のシステム承認フローの承認者と承認日時	システム承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます
29	リソース終了時の実行日時	リクエスト実行時の日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss) ※出力日時はサーバ時間

項番	出力項目	説明
		リソース情報更新コマンドでサーバ作成・変更・削除が行われた場合、本パラメータは空で返されます。
30	ロケーション	サーバのロケーション ※サーバリクエストのみ出力

注

物理サーバのリクエスト履歴は出力されません。

表 43-10　ファイル出力項目一覧（ネットワーク）

項番	出力項目	説明
1	テナント ID	リクエストしたテナント ID
2	論理ネットワークのリソース名	論理ネットワークのリソース名
3	論理ネットワークの表示名	ポータルに論理ネットワークの表示名
4	リクエスト種別	リクエスト種別 出力対象は 「表 43-6 出力対象リクエスト一覧（391 ページ）」 のリクエスト種別を参照
5	リクエスト申請日時	リクエスト申請された日時 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
6	リクエスト完了日時	リクエスト状態が完了となった日時 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
7	リクエスト有効期限日時	リクエストの有効期限 対象リクエストの後に実行されたリクエストのリクエスト完了日時 実行されていない場合は空が設定される ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
8	備考	リクエスト申請時の申請コメント欄もしくはリソース情報更新時の備考を出力する 改行コードは「\n」で出力する
9	リソース情報更新フラグ	リソース情報更新機能 通常リクエスト：0 リソース情報更新：1
10	リソース開始時のリクエスト ID	サーバもしくは論理ネットワーク作成・更新時のリクエスト ID
11	リソース開始時 の申請者と申請日時	「ユーザ ID:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間
12	リソース開始時のテナント承認フローの承認者と承認日時	テナント承認フローの承認者・ 日時を「ユーザ ID: 日時」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「ユーザ ID1:日時,ユーザ ID2:日時」のように表示されます

項番	出力項目	説明
13	リソース開始時のシステム承認フローの承認者と承認日時	システム承認フローの承認者・日時を「ユーザ ID:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「ユーザ ID1:日時,ユーザ ID2:日時」のように表示されます
14	リソース開始時の実行日時	リクエスト実行時の日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss) ※出力日時はサーバ時間
15	リソース終了時のリクエスト ID	サーバもしくは論理ネットワーク更新・終了時のリクエスト ID
16	リソース終了時 の申請者と申請日時	「ユーザ ID:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間
17	リソース終了時のテナント承認フローの承認者と承認日時	テナント承認フローの承認者・日時を「ユーザ ID:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「ユーザ ID1:日時,ユーザ ID2:日時」のように表示されます
18	リソース終了時のシステム承認フローの承認者と承認日時	システム承認フローの承認者・日時を「ユーザ ID:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「ユーザ ID1:日時,ユーザ ID2:日時」のように表示されます
19	リソース終了時の実行日時	リクエスト実行時の日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss) ※出力日時はサーバ時間

表 43-11　ファイル出力項目一覧（カスタムオペレーション実行リクエスト）

項番	出力項目	説明
1	テナント ID	リクエストしたテナント ID
2	UUID	カスタムオペレーションの識別子
3	リソース名	カスタムオペレーションの識別子
4	リクエスト種別	111
5	リクエスト申請日時	リクエスト申請された日時 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
6	リクエスト完了日時	リクエスト状態が完了となった日時 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
7	未定	未出力
8	未定	未出力
9	未定	未出力
10	サーバ名	カスタムオペレーションの実行先サーバ名
11	未定	未出力

項番	出力項目	説明
12	未定	未出力
13	未定	未出力
14	未定	未出力
15	未定	未出力
16	未定	未出力
17	未定	未出力
18	備考	リクエスト申請時の申請コメント欄もしくはリソース情報更新時の備考を出力する。 改行コードは「\n」で出力する。
19	リソース情報更新フラグ	リソース情報更新機能で更新リクエストかの判定フラグ 通常リクエスト：0
20	リクエスト ID	カスタムオペレーション実行リクエストのリクエスト ID
21	リソース開始時の申請者と申請日時	「ユーザ ID:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間
22	リソース開始時のテナント承認フローの承認者と承認日時	テナント承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます
23	リソース開始時のシステム承認フローの承認者と承認日時	システム承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます
24	リソース開始時の実行日時	リクエスト実行時の日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss) ※出力日時はサーバ時間
25	リソース終了時のリクエスト ID	サーバもしくは論理ネットワーク更新・終了時のリクエスト ID
26	リソース終了時の申請者と申請日時	「ユーザ ID:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間
27	リソース終了時のテナント承認フローの承認者と承認日時	テナント承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます
28	リソース終了時のシステム承認フローの承認者と承認日時	システム承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます
29	リソース終了時の実行日時	リクエスト実行時の日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss) ※出力日時はサーバ時間
30	未定	未出力

表 43-12　ファイル出力項目一覧（スタック）

項番	出力項目	説明
1	テナント ID	リクエストしたテナント ID

項番	出力項目	説明
2	UUID	スタックの UUID
3	リソース名	スタックの名前
4	リクエスト種別	リクエスト種別 出力対象は「表 43-6 出力対象リクエスト一覧（391 ページ）」のリクエスト種別を参照
5	リクエスト申請日時	リクエスト申請された日時 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
6	リクエスト完了日時	リクエスト状態が完了となった日時 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
7	リクエスト有効期限日時	リクエストの有効期限。 対象リクエストの後に実行されたリクエストのリクエスト完了日時。 実行されていない場合は空が設定される。 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
8	未定	未出力
9	未定	未出力
10	未定	未出力
11	未定	未出力
12	未定	未出力
13	未定	未出力
14	未定	未出力
15	未定	未出力
16	未定	未出力
17	未定	未出力
18	備考	リクエスト申請時の申請コメント欄もしくはリソース情報更新時の備考を出力する。 改行コードは「\n」で出力する。
19	リソース情報更新フラグ	リソース情報更新機能で更新リクエストかの判定フラグ 通常リクエスト：0
20	リソース開始時のリクエスト ID	スタック作成リクエストのリクエスト ID
21	リソース開始時の申請者と申請日時	「ユーザ ID:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間
22	リソース開始時のテナント承認フローの承認者と承認日時	テナント承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます
23	リソース開始時のシステム承認フローの承認者と承認日時	システム承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間

項番	出力項目	説明
		承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます
24	リソース開始時の実行日時	リクエスト実行時の日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss) ※出力日時はサーバ時間
25	リソース終了時のリクエスト ID	サーバもしくは論理ネットワーク更新・終了時のリクエスト ID
26	リソース終了時の申請者と申請日時	「ユーザ ID:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間
27	リソース終了時のテナント承認フローの承認者と承認日時	テナント承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます
28	リソース終了時のシステム承認フローの承認者と承認日時	システム承認フローの承認者・日時を「承認者名:日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss)」のフォーマットで出力される ※出力日時はサーバ時間 承認者が複数の場合、「"承認者名 1:日時,承認者名 2:日時"」のように表示されます
29	リソース終了時の実行日時	リクエスト実行時の日時(出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss) ※出力日時はサーバ時間
30	未定	未出力

43.2.2　リクエスト履歴出力コマンドのエラー一覧

表 43-13　エラー一覧

項番	エラー	エラー内容
1	A parameter format is invalid.	リクエスト履歴出力コマンドに指定した引数が正しくありません。 usage に従って引数を指定してください。
2	The output path does not exist.	出力パスのフォルダが見つかりませんでした。 適切な出力パスを指定してください。
3	Failed to write on the output path.	出力パスに書き込みできませんでした。 適切な出力パスを指定してください。
4	Authentication failure.	正しいアクセスではありません。 リクエスト履歴出力コマンドから実行されているかご確認ください。
5	Please input [Start/End] date and time at the reach of 2999-12-31 23:59(UTC) from 1970-01-01 00:00(UTC).	引数[sdate/edate]が適切な範囲内（[1970-01-01 00:00 (UTC) ～ 2999-12-31 23:59(UTC)]）で指定されているかご確認ください。
6	Please enter [Start/End] date and time as yyyy-MM-dd HH:mm.	引数[sdate/edate]が適切な形式（yyyy-MM-dd HH:mm）で指定されているかご確認ください。
7	The Start date and time must be before the End date and time.	引数[edate]が引数[sdate]より過去の日付が指定されています。 引数[edate]は引数[sdate]より未来の日付を指定してください。

43.3　スタックリクエスト履歴出力コマンド

本機能は、各テナントの課金の元となるスタックリクエストの履歴情報をテナント、リクエストの期間を指定して CSV へ出力できる機能を提供します。

システム管理者のみが利用可能です。「テナント ID、UUID、リクエスト完了日時」の昇順で出力されます。

CSV ファイルには以下のリクエスト種別およびリクエスト状態のリクエストが出力されます。

表 43-14　出力対象リクエスト一覧

リクエスト種別	リクエスト種別名	リクエスト状態
1	サーバ作成	完了
101	論理ネットワーク作成	完了

CSV ファイル出力されるリソースタイプとそれに対応するリクエスト種別の対応は以下となります。

表 43-15　出力対象リソースタイプ一覧

リソースタイプ	リクエスト種別	リクエスト種別名	リクエスト状態
NEC::SSC::Server	1	サーバ作成	完了
NEC::SSC::Net	101	論理ネットワーク作成	完了

ヒント

スタックリクエスト履歴出力時の文字コードを指定したい場合は、以下の設定を実施してください。 文字コードは JAVA の文字コードが指定可能です。 未設定の場合は UTF-8（BOM 無し）が設定されます。

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開き、以下を設定します。

```
product.cloudportal.file.requesthistory.charset=文字コード
```

【設定例】

```
product.cloudportal.file.requesthistory.charset=UTF-8
```

上記を記載後、ファイルの文字コードを UTF-8(BOM 無し)で保存し、アプリケーションサーバ(Tomcat)を再起動します。 サーバーマネージャー の左側のパネルからローカルサーバーを選択し、サービスから「ServiceGovernor」を右クリックし、［サービスの再起動］を選択します。

スタックリクエスト履歴情報出力コマンドは以下です。

- 格納フォルダ

  C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\portal\bin\StackRequestHistory.bat

- 実行コマンド

```
StackRequestHistory.bat [-tid テナントID] [-sdate "開始日時"] [-edate "終了日時"] [-o 出力パス]
```

- 引数

表 43-16　スタックリクエスト履歴出力コマンドの引数

引数	説明
テナント ID（任意）	出力対象のテナント ID を指定。省略時は全テナントが対象。
開始日時（任意）	指定の開始日時以降に有効なリソースのリクエスト履歴を出力する [1970-01-01 00:00 (UTC) ～ 2999-12-31 23:59(UTC)]の範囲内で指定 指定日時はサーバ時間で指定する 終了日時より未来の日時指定はエラー 日時は以下の形式で指定 形式：yyyy-MM-dd hh:mm ※ダブルクォートで囲むこと 省略時は全範囲日時が対象（終了日時指定有の場合は終了日時までが対象）
終了日時（任意）	指定の終了日時まで有効なリソースのリクエスト履歴を出力する [1970-01-01 00:00 (UTC) ～ 2999-12-31 23:59 (UTC)]の範囲内で指定 指定日時はサーバ時間で指定する 開始日時より過去の日時指定はエラー 日時は以下の形式で指定 形式：yyyy-MM-dd hh:mm ※ダブルクォートで囲むこと 省略時は全範囲日時が対象（開始日時指定有の場合は開始日時からが対象）となります。
出力パス（任意）	出力 CSV ファイルのファイル名を含む、コマンドからの相対パス、または絶対パス付きで指定 出力パスのフォルダが存在しない場合はエラー 指定パスのファイルが既に存在した場合は上書き出力 省略時はリクエスト履歴結果を標準出力

- 出力結果

表 43-17　スタックリクエスト履歴コマンド出力結果

戻り値	メッセージ	説明
0	Command success.	正常終了
1	Command abnormal exits.	異常終了
2	Parameter error.	入力パラメータ不正

注

- vDCA SE ポータルインストール時に既定値(8080)以外の HTTP ポートを指定した場合、実行ファイルを編集する必要があります。

  C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\portal\bin\StackRequestHistory.bat を開き、以下の「8080」を指定した HTTP ポートに編集します。

```
SET BASEURL=http://localhost:8080/portal
```

- スタック作成、または削除リクエストの状態が実行中の状況下でスタックリクエスト履歴出力コマンドを実行した場合、稀に実行に失敗するおそれがあります。 失敗した場合には、再度同じ引数を指定してスタックリクエスト履歴出力コマンドを実行してください。

43.3.1　スタックリクエスト履歴ファイル

スタックリクエスト履歴出力コマンドで使用するファイル形式は以下です。

ファイル形式：CSV（カンマ区切り・ダブルクォート囲み）

文字コード：C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties にて以下を設定する。※設定されていない場合のデフォルト値は「UTF-8（BOM 無し）」とする。

```
product.cloudportal.file.requesthistory.charset=文字コード
    [例]product.cloudportal.file.requesthistory.charset=Shift_JIS
```

改行コード：CRLF

ヒント

ダブルクォーテーション及びカンマを値として含める場合は以下の通り出力します。

1. 対象値の前後をダブルクォーテーションで囲む
2. ダブルクォーテーションの場合は上記手順を行った上で値を重ねる

【例】「"ABC"DEF"」

```
"ABC""DEF"
```

また、接続 VLAN（論理ネットワーク名）にカンマを含む場合は、接続 VLAN の区切り文字と区別するためカンマを重ねて出力します。

【例】「VLAN,A」「VLAN,B」

```
"VLAN,,A,VLAN,,B"
```

＜ファイル例＞

```
"テナントID","UUID","リソース名","リクエスト種別","リクエスト申請日時","リクエスト完了日時","リクエスト有効期限日時","リソースプール名","サーバ名","テンプレート名","スペック名","CPU","Mem","ディスクサイズ","拡張ディスクサイズ","接続VLAN","備考","リソース情報更新フラグ","スタックID","リソースタイプ"
    Ex)
    "TenantA","42063994-5a4d-6115-d97b-94f5c2bbd06d","","1","2015-11-10 09:10:00","2015-11-10 09:10:00","2015-11-10 09:10:00","resourcepool1","","ServerA","TemplateA","SpecA","1","2","1024","1024","","","1","",""
    "TenantA","42063994-5a4d-6115-d97b-94f5c2bbd06d","","3","2015-11-10 09:10:00","2015-11-10 09:10:00","2015-11-10 09:10:00","resourcepool1","","ServerA","TemplateA","SpecA","1","2","1024","1024,1024","","","0","",""
```

表 43-18　ファイル出力項目一覧

項番	出力項目	説明
1	テナント ID	リクエストしたテナント ID
2	UUID	サーバの UUID ※サーバリクエストのみ出力
3	リソース名	論理ネットワーク名 ※ネットワークリクエストのみ出力
4	リクエスト種別	リクエスト種別 出力対象は「表 43-14 出力対象リクエスト一覧（401 ページ）」のリクエスト種別を参照
5	リクエスト申請日時	スタックリクエストが申請された日時 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
6	リクエスト完了日時	スタックリクエスト状態が完了となった日時 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
7	リクエスト有効期限日時	スタックリクエストの有効期限。 対象リクエストの後に実行されたリクエストのリクエスト完了日時。 実行されていない場合は空が設定される。 ※出力日時はサーバ時間 出力形式:yyyy-MM-dd hh:mm:ss
8	リソースプール	リソースプール名 ※vDCA ポータルの場合は、リソースプール識別子も含めて出力する。 ※サーバリクエストのみ出力
9	リソースグループ	未出力
10	サーバ名	サーバ名 ※サーバリクエストのみ出力
11	テンプレート名	サーバ作成に利用した VM テンプレート名 ※サーバリクエストのみ出力
12	スペック名	サーバ作成に利用したスペック名 ※サーバリクエストのみ出力
13	CPU	サーバ作成に利用した CPU（CPU 数） ※サーバリクエストのみ出力
14	Mem	サーバ作成に利用したメモリ（GB） ※サーバリクエストのみ出力
15	ディスクサイズ	サーバ作成に利用したディスクサイズ（GB） ※サーバリクエストのみ出力
16	拡張ディスクサイズ	サーバ作成に利用した拡張ディスクサイズ（GB） 複数存在する場合はカンマ区切りのダブルクォート囲みで出力する。 ※サーバリクエストのみ出力
17	接続 VLAN	未出力

項番	出力項目	説明
18	備考	未出力
19	リソース情報更新フラグ	リソース情報更新機能で更新リクエストかの判定フラグ 通常リクエスト：0
20	スタック ID	スタックリクエストリソースが所属するスタックの ID
21	リソースタイプ	スタックリクエストリソースのリソースタイプ

43.3.2　リクエスト履歴出力コマンドのエラー一覧

表 43-19　エラー一覧

項番	エラー	エラー内容
1	A parameter format is invalid.	リクエスト履歴出力コマンドに指定した引数が正しくありません。 usage に従って引数を指定してください。
2	The output path does not exist.	出力パスのフォルダが見つかりませんでした。 適切な出力パスを指定してください。
3	Failed to write on the output path.	出力パスに書き込みできませんでした。 適切な出力パスを指定してください。
4	Authentication failure.	正しいアクセスではありません。 リクエスト履歴出力コマンドから実行されているかご確認ください。
5	Please input [Start/End] date and time at the reach of 2999-12-31 23:59(UTC) from 1970-01-01 00:00(UTC).	引数[sdate/edate]が適切な範囲内（[1970-01-01 00:00 (UTC) ～ 2999-12-31 23:59(UTC)]）で指定されているかご確認ください。
6	Please enter [Start/End] date and time as yyyy-MM-dd HH:mm.	引数[sdate/edate]が適切な形式（yyyy-MM-dd HH:mm）で指定されているかご確認ください。
7	The Start date and time must be before the End date and time.	引数[edate]が引数[sdate]より過去の日付が指定されています。 引数[edate]は引数[sdate]より未来の日付を指定してください。

付録 A　カスタマイズ

本章では、以下のカスタマイズ方法について説明します。

- テンプレートへの付加情報表示
- 取り込まれたサーバの付加情報表示
- GUI 表示のカスタマイズ

A.1　テンプレートに付加情報を表示する

テンプレート毎に任意の付加情報を設定することが可能です。設定した付加情報はリクエスト画面、サーバ詳細画面の「付加情報」タブに表示されます。

以下に設定方法を示します。

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開き、以下を設定します。

```
product.cloudportal.template.additionalInfo.テンプレート名=付加情報
```

テンプレート 1 つに対し、付加情報 1 つを設定可能です。

入力規則は以下です。

1. 最大文字数は 255 文字（1 バイト、2 バイト、制御文字含む文字数）
2. 改行コードは\n で指定する。「\n」を文字列として指定したい場合は、\を重ねて指定することで設定可能（「\n」→「\\n」）

【設定例】

```
product.cloudportal.template.additionalInfo.Template-A =1000円/月額\n期間限定価格
product.cloudportal.template.additionalInfo.Template-B =100円/日額
```

上記を記載後、ファイルの文字コードを UTF-8 で保存します。画面を再読み込みすることで、アプリケーションサーバ(Tomcat)の再起動なしで反映されます。

A.2　取り込まれたサーバに付加情報を表示する

同期によって取り込まれたサーバに、テナントごとに任意の付加情報を設定することが可能です※。設定した付加情報はリクエスト画面、サーバ詳細画面の「付加情報」タブに表示されます。

以下に設定方法を示します。

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開き、以下を設定します。

vDCA SE ポータルに登録されているテナント共通の付加情報のデフォルト値は以下のように定義します。

```
product.cloudportal.template.additionalInfo.default.parameter=付加情報
```

また、テナント個別に付加情報を指定する場合は、以下のように定義します。

```
product.cloudportal.template.additionalInfo.default.parameter.Tenant name=付加情報
```

取り込まれたサーバ用の付加情報は、各テナントで一意です。

入力規則は以下です。

1. 最大文字数は 255 文字（1 バイト、2 バイト、制御文字含む文字数）
2. 改行コードは\n で指定する。「\n」を文字列として指定したい場合は、\を重ねて指定することで設定可能（「\n」→「\\n」）

【設定例】

```
product.cloudportal.template.additionalInfo.default.parameter=※取り込まれたサーバです
product.cloudportal.template.additionalInfo.default.parameter.TenantA= ※ .TenantAの取り込みサーバです
```

上記を記載後、ファイルの文字コードを UTF-8 で保存します。画面を再読み込みすることで、アプリケーションサーバ(Tomcat)の再起動なしで反映されます。

注

※取り込まれたサーバにテンプレートの設定がある場合、テンプレートの付加情報が反映されます。 テンプレートの付加情報については「A.1　テンプレートに付加情報を表示する（406 ページ）」を参照してください。

A.3　GUI 表示のカスタマイズ方法

設定ファイルを編集および作成することにより、GUI の表示をカスタマイズすることができます。

注

ファイルの文字コードを UTF-8 で保存してください。

絶対パスの\（バックスラッシュ）は、\でエスケープしてください。

変更できる表示は以下です。

- アイコン
- ロゴ

- タイトル
- コピーライト
- メニュー
- テンプレートのアイコンに用いる画像
- トポロジ

各設定ファイルの作成方法を以下に示します。

なお、vDCA SE ポータルのインストールパスを C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA として説明します。適宜読み替えて設定してください。

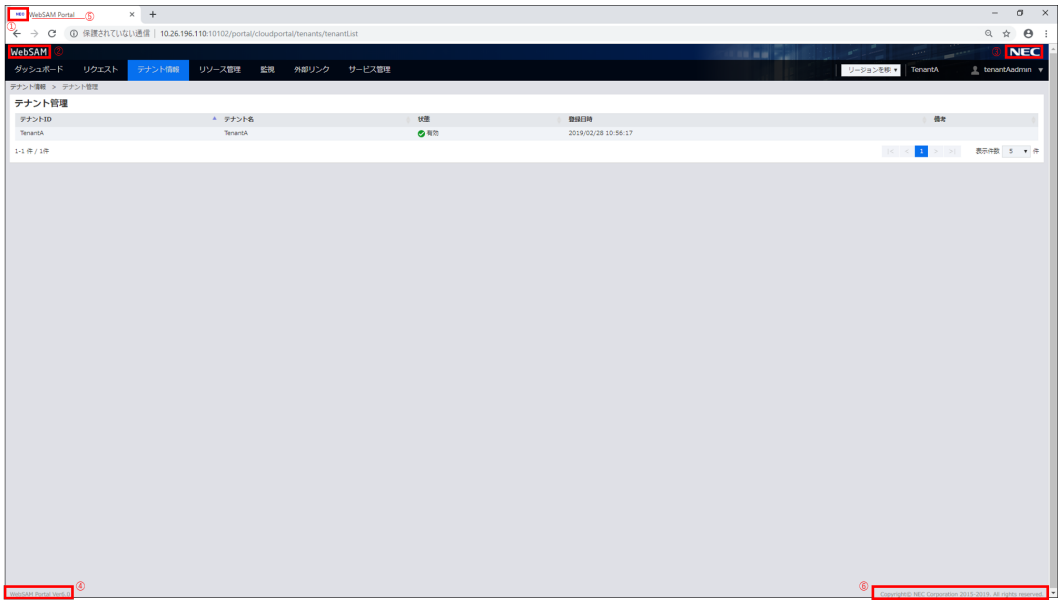

図 A-1　カスタマイズ可能箇所

- アイコン、ロゴを変更する場合

  画像ファイルへの絶対パスを設定ファイル（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties）に記載します。

  ①アイコン

  portal.favicon = C:\\Program Files (x86)\\NEC\\vDCA\\MoM\\FW\\Tomcat\\images\\favicon.ico（.ico 形式のみ）

  ②左ロゴ

  portal.header.logo.left = C:\\Program Files (x86)\\NEC\\vDCA\\MoM\\FW\\Tomcat\\images\\title.PNG（.PNG 形式のみ）

  ③右ロゴ

  portal.header.logo.right = C:\\Program Files (x86)\\NEC\\vDCA\\MoM\\FW\\Tomcat\\images\\logo.PNG（.PNG 形式のみ）

  ④フッターバージョン表示

portal.footer.version = *WebSAM Portal Ver6.0*

- タイトル、コピーライトを変更する場合

  設定ファイル（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties）の以下を修正します。

  ⑤タイトル

  portal.title = *WebSAM Portal*

  ⑥コピーライト

  portal.footer.copyright = *Copyright © NEC Corporation 2015. All rights reserved.*

注

- 極端に長い Copyrgiht や大きなロゴを指定した場合に、画面からはみ出ることがあります。その場合には、後述するユーザ定義 CSS ファイルを使用して調整を行ってください。
- アイコン、ロゴ画像に読み取り専用のファイルを指定しないでください。

- メニュー（⑦）に新しいメニューを追加する場合（外部リンクの追加）

  下記の方式でリンク先情報を作成し、 extlinks.json というファイル名で C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\配下に保存します。設定後はアプリケーションサーバ(Tomcat)の再起動を行ってください。

```
[
  {
    "name" : "menuName",      (表示名)
    "url" : "url",            (リンク先)
    "index" : "index",        (挿入位置)
    "icon" : "icon",          (クラス名)
    "roles" : [roleName]   (表示可能ロール)
  }
]
```

【例】

```
[
  {
    "name": "外部リンク",
    "index": "6",
    "roles": ["ROLE_SYSTEM_ADMIN", "ROLE_TENANT_ADMIN", "ROLE_TENANT_US
ER"]
  },
  {
    "name": "link1",
    "url": "http://link1.aaa.co.jp/index",
    "icon": "link1-icon",
    "parent": "外部リンク",
    "roles": ["ROLE_SYSTEM_ADMIN"]
  },
  {
    "name": "link2",
    "url": "http://link2.com/webgui",
```

```
    "icon": "link2-icon",
    "parent": "外部リンク",
    "roles": ["ROLE_SYSTEM_ADMIN", "ROLE_TENANT_ADMIN", "ROLE_TENANT_US
ER"]
  }
]
```

- "icon"に指定した値が HTML 要素のクラスとして設定されます。icon を省略した場合、external-link という既定のクラスが設定されます。

  アイコンファイルを以下のフォルダ配下に格納します。

  C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\webapps\images\

  - external-link.PNG

  - link1.ico

  - link2.ico

  ユーザ定義 CSS ファイル（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\userdefined.css）で以下のように指定することで、メニューにアイコンが表示されるようになります。

```
/* 外部リンクのデフォルトアイコン。icon を指定しない場合にこれが表示される*/
    .external-link {
        background-image: url(/images/external_link.PNG);
        height: 16px;
        width: 16px;
        background-size: 16px auto;
}

/* link1 用のアイコン */
    .link1 {
        background-image: url(/images/link1.ico);
        height: 16px;
        width: 16px;
        background-size: 16px auto;
}

/* link2 用のアイコン */
    .link2 {
        background-image: url(/images/link2.ico);
        height: 16px;
        width: 16px;
        background-size: 16px auto;
}
```

  ユーザ定義 CSS ファイルで指定しない場合、メニューはアイコン無しで表示されます。

- "index"は、外部リンクの挿入位置を指定します。ダッシュボードの下を "1" とし、位置を指定します。 例えばテナント情報のテナント管理の下に挿入する場合、"3.1" と指定します。

なお、外部リンクを同じメニューの下に並列に複数挿入する場合、同じ index を指定してください。表順序はこのファイルに記載した順序で表示されます。

- "parent" は、外部リンクを階層構造にする場合に、親要素となる外部リンクの名前を指定します。子要素を持つ外部リンク（"parent" により指定された外部リンク）は、メニューグループとして扱われ、クリックすると子要素の外部リンクが展開される動作になります。そのため"url" を指定する必要はありません。

  ※"index" を指定した場合、"parent" は指定できません (両方指定した場合、"parent" の指定が優先されます)。 "index" も "parent" も存在しないものは無視されます。 子要素を持たない外部リンクは "url" が必須です。

- "roles" にはユーザ種別を表す既定の文字列を記載します。[○, ○, ...]の形式で複数指定することができます。 指定したロールを持つユーザにのみ、その外部リンクが表示されるようになります。

  以下のロールが指定できます

  ROLE_SYSTEM_ADMIN
  → **システム管理者**

  ROLE_TENANT_ADMIN
  → **テナント管理者**

  ROLE_TENANT_USER
  → **テナントユーザ**

  ※テナント固有ロールおよびカスタムロールは指定できません。

- テンプレートのアイコンに用いる画像を設定する場合

  画像ファイルを以下のフォルダ配下に格納します。

  C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\webapps\images\

  画像ファイルへのパスを、ユーザ定義 CSS ファイル（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\userdefined.css）にて、以下のように指定します。

```
.templateName
*1 {
    background-image: url(/images/os_icon.PNG);
}
```

  ここで指定した画像は、以下の画面に適用されます。

  - ダッシュボードの未承認リクエスト一覧内のアイコン
  - リクエスト管理（一覧画面）の詳細情報内のアイコン

---

*1

プライベートクラウド用のカタログの場合、SigmaSystemCenterに登録されているVMテンプレートの名前（例：Template-WindowsServer2012R2STD）

Amazon EC2用のカタログの場合、Amazon Machine ImageのID

- リクエスト管理　サーバ作成・変更・削除のイメージ選択のアイコン、タイトルバーのアイコン、サーバ選択ダイアログのサーバ一覧内のアイコン、サーバ選択ダイアログのサーバ詳細情報内のアイコン
- サーバ管理（一覧画面）のサーバ一覧内のアイコン
- サーバ管理（一覧画面）の付加情報内のアイコン
- トポロジ―のサーバツールチップ内のアイコン

ユーザ定義 CSS ファイルに、上記のアイコン表示箇所を指し示す CSS セレクタと、それぞれに対する既定のスタイルが記載されています。それらのスタイル指定を変更することで、アイコンのサイズ等を調整することができます。

注

- CSS によるスタイル変更以外のカスタマイズを行った場合は、設定を反映させるため Tomcat サービスをサービス一覧から再起動してください。
- vDCA SE ポータルが使用している CSS クラス名とテンプレート名が重複している場合、意図しない箇所の背景画像が置き換わってしまいます。 その場合、CSS セレクタとしてテンプレート名のみを使用するのではなく、ユーザ定義 CSS ファイルに記載されているテンプレートアイコン用の CSS セレクタそれぞれに対して テンプレート名を付加した CSS セレクタを作成して背景画像を指定してください。

- トポロジを変更する場合

変更できる内容は以下です。

- サーバ選択時のハイライトの色、線の太さ
- ネットワーク選択時のハイライトの色、線の太さ
- ネットワークのデフォルト色
- ネットワーク毎の色（ネットワーク種別内での左から何本目かのネットワークの色。）

ユーザ定義 CSS ファイル（C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\userdefined.css）で以下のように指定することで、トポロジが変更されます。

＜設定例＞

```
/* サーバ選択時のハイライトの色、線の太さ　*/
svg#topology_canvas .plain_node_normal .frameline.active {
  fill: none;
  stroke: #f00;
  stroke-width: 4;
}

/* ネットワーク選択時のハイライトの色、線の太さ */
svg#topology_canvas .network-rect.active{
  stroke: yellow;
  stroke-width: 4;
}
```

```
/* ネットワークのデフォルト色 */
svg#topology_canvas .tenant_lan-rect .network-rect {
  fill: #e67e22;
}

svg#topology_canvas .tenant_lan-line .port_line {
  stroke: #e67e22;
}

svg#topology_canvas .business_vlan-rect .network-rect {
  fill: #2980b9;
}

svg#topology_canvas .business_vlan-line .port_line {
  stroke: #2980b9;
}

/* ネットワーク毎の色　一番左を0とし、採番する */
svg#topology_canvas .tenant_lan-rect-0 .network-rect {
  fill: pink;
}

svg#topology_canvas .tenant_lan-line-0 .port_line {
  stroke: pink;
}

svg#topology_canvas .business_vlan-rect-0 .network-rect {
  fill: cyan;
}

svg#topology_canvas .business_vlan-line-0 .port_line {
  stroke: cyan;
}
```

A.4　カスタムオペレーション実行時にテナントが所有するサーバで任意の処理を実行する

本節ではカスタムオペレーション実行時にテナントが所有するサーバで任意の処理を実行するための設定手順について説明します。 テナントが所有するサーバにおける任意の処理実行は JobCenter を利用して実現します。実行の流れを以下に説明します。

- vDC Automation Standard Edition では、JobCenter にて使用できる「SSH 接続部品」という拡張カスタムジョブ部品を用意しています。 システム管理者は JobCenter にてカスタムオペレーションとして実行するジョブネットワークを定義する際、 その SSH 接続部品を配置しテナントが所有するサーバにて実行させたい任意の処理を記述します。 また、その実行時パラメータとしてサーバへの接続情報が格納される環境変数を受け取る設定を行います。
- vDCA SE ポータルはカスタムオペレーションが実行されたことを契機に JobCenter に対してジョブネットワークの実行を指示し、その実行時パラメータとしてサーバへの接続

情報を渡します。 JobCenter はジョブネットワークの実行時パラメータを環境変数に展開し、SSH 接続部品に渡します。 SSH 接続部品は SSH プロトコルを使用して指定されたサーバに接続し、部品にて定義された任意の処理を実行します。

前述の流れを実現するにあたり、事前に必要となる設定手順の概要は以下の通りです。

1. 管理サーバに JobCenter をセットアップし、vDCA SE ポータルとの接続設定を行います。 詳細は「第 15 章　カスタムオペレーション設定（95 ページ）」を参照してください。
2. JobCenter に「SSH 接続部品」という拡張カスタムジョブ部品を配置し、ジョブネットワークを定義します。 詳細は「A.4.1　ジョブネットワークを定義する（414 ページ）」を参照してください。
3. 定義したジョブネットワークを実行できるようにカスタムオペレーションを定義します。 詳細は「A.4.2　カスタムオペレーション定義ファイルを設定する（416 ページ）」を参照してください。
4. テナントが所有するサーバ上に OpenSSH サービスをセットアップし、JobCenter からサーバに接続できるように設定します。 詳細は「A.4.3　OpenSSH をセットアップする（417 ページ）」を参照してください。

A.4.1　ジョブネットワークを定義する

以下の手順に従いジョブネットワークを定義します。

1. vDC Automation Standard Edition のインストールメディアに格納されている SSH 拡張部品の拡張カスタムジョブの定義ファイル(JPF ファイル)を JobCenter に適用します。 SSH 拡張部品は以下に格納されています。

```
script\SSH\customjob_templates_ssh_ja_1.8.jpf
```

拡張カスタムジョブの適用方法については、『JobCenter 拡張カスタムジョブ部品利用の手引き 』を参照してください。 SSH 接続部品は下記のように定義されています。

表 A-1　SSH 接続部品

格納パス	Root/System/Tools/SSH
定義名	ssh
表示アイコン	

SSH 接続部品にて受け取り可能なパラメータの一覧を以下に記載します。

表 A-2　SSH 接続部品変数一覧

必須	パラメータ名	説明	指定例	省略時の値
○	server	SSH サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。	server001 192.168.1.1	-
○	user	SSH サーバにログインするユーザを指定します。	user001	-
○	passphrase	SSH サーバにログインするユーザが使用するパスフレーズを指定します。	passwd	-
	character_code	SSH サーバで使用している文字コードを指定します。指定可能な文字コードは「UTF-8」、「Shift_JIS」、「EUC-JP」です。SSH サーバにスクリプトを送信する時に、script_dir に指定したパスとスクリプトの内容を、指定した文字コードに変換します。	UTF-8	Windows:「Shift_JIS」 Linux:「UTF-8」
	connect_timeout	SSH サーバに接続する際のタイムアウト時間を指定します。指定可能な数値は 1～600(秒)です。	60	20
	keep_alive	スクリプト実行中の keep alive の間隔を指定します。指定可能な数値は 2～3600(秒)です。値を指定しない場合は、keep alive を行いません。	60	–
○	script_dir	スクリプトファイルの転送先ディレクトリを絶対パスで指定します。なお、「user」変数で指定したユーザは、指定するディレクトリに対して「実行」と「書き込み」の権限を持つ必要があります。	/tmp/scriptfiles/	-
	port	SSH サーバ接続時のポート番号を指定します。	22	22

2. JobCenter に SSH 接続部品を含むジョブネットワークを定義します。 ジョブネットワークの定義の方法については『JobCenter 基本操作ガイド』や『JobCenter 運用構築ガイド』を参照してください。 ジョブネットワークを定義する際、SSH 接続部品の各パラメータに下記に示す値を設定します。 JobCenter ではジョブのパラメータの値の先頭と末尾に%を付加することで、ジョブネットワーク実行時に指定した値と同名の環境変数の値が展開されます。

表 A-3　SSH 接続部品の指定値

パラメータ名	値	備考
server	%CMTargetAddress%	※1
user	%SshUserName%	※1
passphrase	%SshPassPhrase%	※1

パラメータ名	値	備考
character_code	%CMCharset%	※2
connect_timeout	%CMConnectTimeout%	※2
keep_alive	%CMKeepAlive%	※2
script_dir	%SshScriptDir%	※1
port	%SshServerPort%	※2

注

※1 値の設定を省略することができません。必ず設定してください。

※2 値の設定を省略することが可能です。 省略した場合には、「表 A-2 SSH 接続部品変数一覧（415 ページ）」の省略時の値が設定されます。 省略時の値を変更したい場合には、「A.4.2　カスタムオペレーション定義ファイルを設定する（416 ページ）」を参照してください。

A.4.2　カスタムオペレーション定義ファイルを設定する

カスタムオペレーション定義ファイルにジョブネットワークを実行するカスタムオペレーションを定義します。 カスタムオペレーション定義ファイルの定義方法については「15.2　カスタムオペレーション定義ファイルの作成（96 ページ）」を参照してください。

1. カスタムオペレーションの GenericOperations[n].WorkFlowId の値にジョブネットワークの名前の値を設定します。

2. カスタムオペレーションの GenericOperations[n].Parameters[m].Key の値に 「表 A-3 SSH 接続部品の指定値（415 ページ）」で定義した省略できないパラメータの値と同値(ただし、先頭と末尾の%を除く)を設定します。 なお、CMTargetAddress は設定する必要はありません。 パスフレーズを示すパラメータは必ず GenericOperations[n].Parameters[m].isMasked を true に設定してください。設定例は以下の通りです。

【設定例】

```
"GenericOperations": [
 {
   "WorkFlowId": "backUp",
   "Parameters": [
     {
       "Key": "SshUserName",
       "Value": ""
     },
     {
       "Key": "SshPassPhrase",
       "Value": "",
       "isMasked": true
     },
     {
       "Key": "SshScriptDir",
       "Value": "/tmp"
     }
   ]
```

```
  }
]
```

3. 「表 A-3 SSH 接続部品の指定値（415 ページ）」で定義した省略可能なパラメータのデフォルト値を変更したい場合、以下の値を設定します。 デフォルト値を変更しない場合には、本手順の実施は不要です。 なお、SshServerPort に限り、デフォルト値を変更したい場合には GenericOperations[n].Parameters[m].Key に SshServerPort を追加し、Value に値を設定してください。

   - GenericOperations[n].ConnectTimeout
   - GenericOperations[n].Charset
   - GenericOperations[n].KeepAlive

   設定例は以下の通りです。

【設定例】

```
"GenericOperations": [
 {
   "WorkFlowId": "backUp",
   "ConnectTimeout": 600,
   "Charset": "EUC",
   "KeepAlive": 60,
   "Parameters": [
     {
       "Key": "SshUserName",
       "Value": ""
     },
     {
       "Key": "SshPassPhrase",
       "Value": "",
       "isMasked": true
     },
     {
       "Key": "SshScriptDir",
       "Value": "/tmp"
     },
     {
       "Key": "SshServerPort",
       "Value": "23"
     },
   ]
 }
]
```

A.4.3　OpenSSH をセットアップする

以下の手順に従い OpenSSH をセットアップします。

1. サーバに OpenSSH サービスをインストールし、SFTP を有効にします。 また、ジョブネットワークを実行する JobCenter MG から SSH プロトコルで接続できるようにファイアウォールを開放します。 OpenSSH サービスのインストールおよび設定方法については下記 URL を参照してください。

Linux

- Red Hat Enterprise Linux 7 の場合

  https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_enterprise_linux/7/html/system_administrators_guide/s1-ssh-configuration#s2-ssh-configuration-sshd

- Red Hat Enterprise Linux 6 の場合

  https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_enterprise_linux/6/html/deployment_guide/s2-ssh-configuration-sshd

Windows

- Windows Server 2019 の場合

  https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/openssh/openssh_install_firstuse

- Windows Server 2016 以前の場合

  https://github.com/PowerShell/Win32-OpenSSH/wiki/Install-Win32-OpenSSH (英語)

2. サーバに ssh でログインするユーザを作成します。 ログインするユーザは「uname」(Linux の場合)または「ver」(Windows の場合)が実行可能となるように設定を行ってください。

付録 B　権限

本付録では、vDCA SE ポータルにて扱う以下の権限について説明します。

- ビルトインロールが保有する権限
- カスタムロールにて使用可能な権限
- ロール管理にて扱う権限

B.1　ビルトインロールが保有する権限

ビルトインロールが保有する権限の一覧を以下に記載します。

表 B-1　システム管理者が保有する権限一覧

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
ダッシュボード	-	ROLE_DASHBOARD_MENU_SHOW	ダッシュボードメニューの表示
		ROLE_DASHBOARD_NOTIFY_SHOW	ダッシュボード中のお知らせの表示
リクエスト	-	ROLE_SERVER_SERVICE_MENU_SHOW	リクエストメニューの表示
	リクエスト管理	ROLE_REQUEST_MENU_SHOW	リクエスト管理サブメニューの表示
		ROLE_REQUEST_LIST_SHOW	リクエスト一覧の表示
		ROLE_REQUEST_DETAIL_SHOW	リクエスト詳細の表示
		ROLE_REQUEST_ERRORCLEAR	リクエストエラー状態解除
	承認フロー設定	ROLE_APPROVALFLOW_MENU_SHOW	承認フロー設定メニューの表示
		ROLE_APPROVALFLOW_LIST_SHOW	承認フロー一覧表示
		ROLE_APPROVALFLOW_EDIT	承認フロー設定変更
テナント情報	-	ROLE_TENANT_INFO_MENU_SHOW	テナント情報メニューの表示
	テナント管理	ROLE_TENANT_MENU_SHOW	テナント管理サブメニューの表示
		ROLE_TENANT_LIST_SHOW	テナント一覧の表示
		ROLE_TENANT_DETAIL_SHOW	テナント詳細表示
		ROLE_TENANT_CREATE	テナント登録
		ROLE_TENANT_EDIT	テナント変更

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
		ROLE_TENANT_DELETE	テナント削除
	ユーザ管理	ROLE_USER_MENU_SHOW	ユーザ管理メニューの表示
		ROLE_USER_LIST	ユーザ一覧表示
		ROLE_USER_DETAIL	ユーザ詳細表示
		ROLE_USER_CREATE	ユーザ登録
		ROLE_USER_EDIT	ユーザ変更
		ROLE_USER_DELETE	ユーザ削除
		ROLE_USER_SYNCHRONIZE	ユーザの同期権限
リソース管理	-	ROLE_RESOURCE_MENU_SHOW	リソース管理メニューの表示
	リソース状況	ROLE_RESOURCE_STATUS_MENU_SHOW	リソース状況サブメニューの表示
		ROLE_RESOURCE_STATUS_SHOW	リソース状況表示
	業務グループ管理	ROLE_WORKGROUP_MENU_SHOW	業務グループ管理サブメニューの表示
		ROLE_GROUP_DISPLAY	業務グループ表示
	サーバ管理	ROLE_SERVER_MENU_SHOW	サーバ管理サブメニューの表示
		ROLE_SERVER_LIST_SHOW	サーバ一覧表示
		ROLE_SERVER_DETAIL_SHOW	サーバ詳細表示
		ROLE_SERVER_PERFORM_SHOW	サーバ性能情報表示
		ROLE_SERVER_SCREENSHOT_SHOW	サーバスクリーンショット表示
	ネットワーク管理	ROLE_NETWORK_MENU_SHOW※3	ネットワーク管理サブメニューの表示
		ROLE_NETWORK_LIST_SHOW※3	ネットワーク一覧表示
		ROLE_NETWORK_DETAIL_SHOW※3	ネットワーク詳細表示
	運用作業履歴	ROLE_OPERATIONHISTORY_MENU_SHOW	運用作業履歴サブメニューの表示
		ROLE_OPERATIONHISTORY_LIST_SHOW	運用作業履歴一覧表示
		ROLE_OPERATIONHISTORY_DETAIL_SHOW	運用作業履歴詳細表示
スタック管理	-	ROLE_STACK_LIST_SHOW※1	スタック一覧表示

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
		ROLE_STACK_DETAIL_SHOW※1	スタック詳細表示
サービス管理	-	ROLE_SERVICE_MENU_SHOW	サービス管理メニューの表示
	メンテナンス管理	ROLE_MAINTENANCE_MENU_SHOW	メンテナンス管理サブメニューの表示
		ROLE_MAINTENANCE_LIST_SHOW	メンテナンス一覧表示
		ROLE_MAINTENANCE_DETAIL_SHOW	メンテナンス詳細表示
		ROLE_MAINTENANCE_CREATE	メンテナンス登録
		ROLE_MAINTENANCE_EDIT	メンテナンス変更
		ROLE_MAINTENANCE_DELETE	メンテナンス削除
		ROLE_MAINTENANCE_LOGIN	メンテナンス中のログイン許可
	お知らせ管理	ROLE_NOTICE_MENU_SHOW	お知らせ管理サブメニューの表示
		ROLE_NOTICE_LIST_SHOW	お知らせ一覧表示
		ROLE_NOTICE_DETAIL_SHOW	お知らせ詳細表示
		ROLE_NOTICE_CREATE	お知らせ登録
		ROLE_NOTICE_EDIT	お知らせ変更
		ROLE_NOTICE_DELETE	お知らせ削除
設定	-	ROLE_SETTING_MENU_SHOW	設定メニューの表示
	運用設定	ROLE_OPERATIONOPTION_MENU_SHOW	運用設定サブメニューの表示
		ROLE_OPERATIONOPTION_LIST_SHOW	運用設定一覧表示
		ROLE_OPERATIONOPTION_EDIT	運用設定変更
ログインユーザ操作	-	ROLE_LOGINUSER_DETAIL_SHOW	ログインユーザ詳細表示
		ROLE_LOGINUSER_EDIT	ログインユーザ変更
		ROLE_LOGINUSER_PASSWORD_EDIT	ログインパスワード変更
		ROLE_LOGINUSER_ACTFORTENANT	ログインユーザテナント代行
監視	-	ROLE_MONITORING_SHOW※2	監視設定参照

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
		ROLE_MONITORING_AGENT_MANAGEMENT ※2	エージェント管理
		ROLE_MONITORING_AGENT_DELETE※2	エージェント削除
		ROLE_MONITORING_SYSTEM_EDIT※2	監視設定変更
		ROLE_MONITORING_SYSTEM_DELETE※2	監視設定削除
		ROLE_MONITORING_SYSTEM_ALERT_SHOW ※2	システムメッセージ参照
		ROLE_MONITORING_SYSTEM_ALERT_OPERATE※2	システムメッセージ操作
ユーザ管理基盤	ロール管理	ROLE_SCOPEDROLE_MENU_SHOW	ロール管理画面表示
		ROLE_SCOPEDROLE_LIST	ロール一覧表示
		ROLE_SCOPEDROLE_SHOW	ロール参照
	スコープ管理	ROLE_SCOPE_SHOW	スコープ参照

表 B-2　テナント管理者が保有する権限一覧

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
ダッシュボード	-	ROLE_DASHBOARD_MENU_SHOW	ダッシュボードメニューの表示
		ROLE_DASHBOARD_NOTIFY_SHOW	ダッシュボード中のお知らせの表示
リクエスト	-	ROLE_SERVER_SERVICE_MENU_SHOW	リクエストメニューの表示
	リクエスト管理	ROLE_REQUEST_MENU_SHOW	リクエスト管理サブメニューの表示
		ROLE_REQUEST_LIST_SHOW	リクエスト一覧の表示
		ROLE_REQUEST_DETAIL_SHOW	リクエスト詳細の表示
		ROLE_REQUEST_CREATE	リクエストの作成
		ROLE_REQUEST_AGENCY_APPROVE	リクエストの代理承認
		ROLE_REQUEST_AGENCY_REJECT	リクエストの代理却下
		ROLE_REQUEST_REAPPLY	リクエスト再申請

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
		ROLE_REQUEST_EXECUTE	リクエストの実行
		ROLE_REQUEST_CANCEL	リクエストのキャンセル
		ROLE_REQUEST_GENERIC_OPERATION	カスタムオペレーション実行
		ROLE_REQUEST_SERVER_CREATE	サーバの作成
		ROLE_REQUEST_SERVER_EDIT	サーバの変更
		ROLE_REQUEST_SERVER_DELETE	サーバの削除
		ROLE_REQUEST_SERVER_REFER	サーバの引用
		ROLE_REQUEST_NETWORK_CREATE※3	ネットワークの作成
		ROLE_REQUEST_NETWORK_EDIT※3	ネットワークの変更
		ROLE_REQUEST_NETWORK_DELETE※3	ネットワークの削除
		ROLE_REQUEST_STACK_CREATE※1	スタック作成
		ROLE_REQUEST_STACK_DELETE※1	スタック削除
		ROLE_REQUEST_AGENCY_EDIT	リクエスト代理変更
	承認フロー設定	ROLE_APPROVALFLOW_MENU_SHOW	承認フロー設定メニューの表示
		ROLE_APPROVALFLOW_LIST_SHOW	承認フロー一覧表示
		ROLE_APPROVALFLOW_EDIT	承認フロー設定変更
	メール通知設定	ROLE_APPROVALFLOW_MENU_SHOW	メール通知設定メニューの表示
		ROLE_MAILNOTICE_LIST_SHOW	メール通知設定一覧表示
		ROLE_MAIL_NOTICE_EDIT	メール通知設定変更
テナント情報	-	ROLE_TENANT_INFO_MENU_SHOW	テナント情報メニューの表示
	テナント管理	ROLE_TENANT_MENU_SHOW	テナント管理サブメニューの表示
		ROLE_TENANT_LIST_SHOW	テナント一覧の表示
		ROLE_TENANT_DETAIL_SHOW	テナント詳細表示

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
		ROLE_TENANT_EDIT	テナント変更
	ユーザ管理	ROLE_USER_MENU_SHOW	ユーザ管理メニューの表示
		ROLE_USER_LIST	ユーザ一覧表示
		ROLE_USER_DETAIL	ユーザ詳細表示
		ROLE_USER_CREATE	ユーザ登録
		ROLE_USER_EDIT	ユーザ変更
		ROLE_USER_DELETE	ユーザ削除
	ロール管理	ROLE_SCOPEDROLE_LIST	ロール一覧表示
		ROLE_SCOPEDROLE_SHOW	ロール詳細表示
		ROLE_SCOPEDROLE_CREATE	ロール登録
		ROLE_SCOPEDROLE_DELETE	ロール削除
リソース管理	-	ROLE_RESOURCE_MENU_SHOW	リソース管理メニューの表示
	リソース状況	ROLE_RESOURCE_STATUS_MENU_SHOW	リソース状況サブメニューの表示
		ROLE_RESOURCE_STATUS_SHOW	リソース状況表示
	業務グループ管理	ROLE_WORKGROUP_MENU_SHOW	業務グループ管理サブメニューの表示
		ROLE_GROUP_DISPLAY	業務グループ表示
		ROLE_GROUP_CREATE	業務グループ追加
		ROLE_GROUP_EDIT	業務グループ編集
		ROLE_GROUP_DELETE	業務グループ削除
		ROLE_GROUP_MOVE	サーバの業務グループ変更
	トポロジー表示	ROLE_TOPOLOGY_SHOW	トポロジー表示サブメニューの表示
		ROLE_TOPOLOGY_NETWORK_NAME_EDIT	ネットワーク表示名変更
	サーバ管理	ROLE_SERVER_MENU_SHOW	サーバ管理サブメニューの表示
		ROLE_SERVER_LIST_SHOW	サーバ一覧表示
		ROLE_SERVER_DETAIL_SHOW	サーバ詳細表示
		ROLE_SERVER_PERFORM_SHOW	サーバ性能情報表示
		ROLE_SERVER_SCREENSHOT_SHOW	サーバスクリーンショット表示

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
		ROLE_SERVER_STARTUP	サーバ起動
		ROLE_SERVER_SHUTDOWN	サーバシャットダウン
		ROLE_SERVER_POWEROFF	サーバ電源オフ
		ROLE_SERVER_REBOOT	サーバ再起動
		ROLE_SERVER_GENERIC_OPERATION	サーバカスタムオペレーション
		ROLE_SERVER_VM_CONSOLE	VM コンソール
		ROLE_SERVER_SYNCHRONIZE	同期
	ネットワーク管理	ROLE_NETWORK_MENU_SHOW※3	ネットワーク管理サブメニューの表示
		ROLE_NETWORK_LIST_SHOW※3	ネットワーク一覧表示
		ROLE_NETWORK_DETAIL_SHOW※3	ネットワーク詳細表示
		ROLE_NETWORK_SYNCHRONIZE	同期実行
	運用作業履歴	ROLE_OPERATIONHISTORY_MENU_SHOW	運用作業履歴サブメニューの表示
		ROLE_OPERATIONHISTORY_LIST_SHOW	運用作業履歴一覧表示
		ROLE_OPERATIONHISTORY_DETAIL_SHOW	運用作業履歴詳細表示
スタック管理	-	ROLE_STACK_LIST_SHOW※1	スタック一覧表示
		ROLE_STACK_DETAIL_SHOW※1	スタック詳細表示
サービス管理	-	ROLE_SERVICE_MENU_SHOW	サービス管理メニューの表示
	お知らせ管理	ROLE_NOTICE_MENU_SHOW	お知らせ管理サブメニューの表示
		ROLE_NOTICE_LIST_SHOW	お知らせ一覧表示
		ROLE_NOTICE_DETAIL_SHOW	お知らせ詳細表示
		ROLE_NOTICE_CREATE	お知らせ登録
		ROLE_NOTICE_EDIT	お知らせ変更
		ROLE_NOTICE_DELETE	お知らせ削除
ログインユーザ操作	-	ROLE_LOGINUSER_DETAIL_SHOW	ログインユーザ詳細表示

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
		ROLE_LOGINUSER_EDIT	ログインユーザ変更
		ROLE_LOGINUSER_PASSWORD_EDIT	ログインパスワード変更
監視	-	ROLE_MONITORING_SHOW※2	監視設定参照
		ROLE_MONITORING_EDIT※2	監視設定変更
		ROLE_MONITORING_DELETE※2	監視設定削除
		ROLE_MONITORING_OPERATE※2	監視操作
		ROLE_MONITORING_ALERT_SHOW※2	メッセージ参照
		ROLE_MONITORING_ALERT_OPERATE※2	メッセージ操作
		ROLE_MONITORING_AGENT_DELETE※2	エージェント削除
ユーザ管理基盤	ロール管理	ROLE_SCOPEDROLE_MENU_SHOW	ロール管理画面表示
		ROLE_SCOPEDROLE_LIST	ロール一覧表示
		ROLE_SCOPEDROLE_SHOW	ロール参照
		ROLE_SCOPEDROLE_CREATE	ロール作成
		ROLE_SCOPEDROLE_UPDATE	ロール更新
		ROLE_SCOPEDROLE_DELETE	ロール削除
	スコープ管理	ROLE_SCOPE_SHOW	スコープ参照

表 B-3　テナントユーザが保有する権限一覧

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
ダッシュボード	-	ROLE_DASHBOARD_MENU_SHOW	ダッシュボードメニューの表示
		ROLE_DASHBOARD_NOTIFY_SHOW	ダッシュボード中のお知らせの表示
リクエスト	-	ROLE_SERVER_SERVICE_MENU_SHOW	リクエストメニューの表示
	リクエスト管理	ROLE_REQUEST_MENU_SHOW	リクエスト管理サブメニューの表示
		ROLE_REQUEST_LIST_SHOW	リクエスト一覧の表示
		ROLE_REQUEST_DETAIL_SHOW	リクエスト詳細の表示

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
		ROLE_REQUEST_CREATE	リクエストの作成
		ROLE_REQUEST_REAPPLY	リクエスト再申請
		ROLE_REQUEST_EXECUTE	リクエストの実行
		ROLE_REQUEST_CANCEL	リクエストのキャンセル
		ROLE_REQUEST_GENERIC_OPERATION	カスタムオペレーション実行
		ROLE_REQUEST_SERVER_CREATE	サーバの作成
		ROLE_REQUEST_SERVER_EDIT	サーバの変更
		ROLE_REQUEST_SERVER_DELETE	サーバの削除
		ROLE_REQUEST_SERVER_REFER	サーバの引用
		ROLE_REQUEST_NETWORK_CREATE※3	ネットワークの作成
		ROLE_REQUEST_NETWORK_EDIT※3	ネットワークの変更
		ROLE_REQUEST_NETWORK_DELETE※3	ネットワークの削除
		ROLE_REQUEST_STACK_CREATE※1	スタック作成
		ROLE_REQUEST_STACK_DELETE※1	スタック削除
テナント情報	-	ROLE_TENANT_INFO_MENU_SHOW	テナント情報メニューの表示
	ユーザ管理	ROLE_USER_MENU_SHOW	ユーザ管理メニューの表示
		ROLE_USER_LIST	ユーザ一覧表示
		ROLE_USER_DETAIL	ユーザ詳細表示
リソース管理	-	ROLE_RESOURCE_MENU_SHOW	リソース管理メニューの表示
	リソース状況	ROLE_RESOURCE_STATUS_MENU_SHOW	リソース状況サブメニューの表示
		ROLE_RESOURCE_STATUS_SHOW	リソース状況表示
	業務グループ管理	ROLE_WORKGROUP_MENU_SHOW	業務グループ管理サブメニューの表示
		ROLE_GROUP_DISPLAY	業務グループ表示
		ROLE_GROUP_CREATE	業務グループ追加
		ROLE_GROUP_EDIT	業務グループ編集

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
		ROLE_GROUP_DELETE	業務グループ削除
		ROLE_GROUP_MOVE	サーバの業務グループ変更
	トポロジー表示	ROLE_TOPOLOGY_SHOW	トポロジー表示サブメニューの表示
	サーバ管理	ROLE_SERVER_MENU_SHOW	サーバ管理サブメニューの表示
		ROLE_SERVER_LIST_SHOW	サーバ一覧表示
		ROLE_SERVER_DETAIL_SHOW	サーバ詳細表示
		ROLE_SERVER_PERFORM_SHOW	サーバ性能情報表示
		ROLE_SERVER_SCREENSHOT_SHOW	サーバスクリーンショット表示
		ROLE_SERVER_STARTUP	サーバ起動
		ROLE_SERVER_SHUTDOWN	サーバシャットダウン
		ROLE_SERVER_POWEROFF	サーバ電源オフ
		ROLE_SERVER_REBOOT	サーバ再起動
		ROLE_SERVER_GENERIC_OPERATION	サーバカスタムオペレーション
		ROLE_SERVER_VM_CONSOLE	VM コンソール
	ネットワーク管理	ROLE_NETWORK_MENU_SHOW※3	ネットワーク管理サブメニューの表示
		ROLE_NETWORK_LIST_SHOW※3	ネットワーク一覧表示
		ROLE_NETWORK_DETAIL_SHOW※3	ネットワーク詳細表示
	運用作業履歴	ROLE_OPERATIONHISTORY_MENU_SHOW	運用作業履歴サブメニューの表示
		ROLE_OPERATIONHISTORY_LIST_SHOW	運用作業履歴一覧表示
		ROLE_OPERATIONHISTORY_DETAIL_SHOW	運用作業履歴詳細表示
スタック管理	-	ROLE_STACK_LIST_SHOW※1	スタック一覧表示
		ROLE_STACK_DETAIL_SHOW※1	スタック詳細表示
ログインユーザ操作	-	ROLE_LOGINUSER_DETAIL_SHOW	ログインユーザ詳細表示

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
		ROLE_LOGINUSER_EDIT	ログインユーザ変更
		ROLE_LOGINUSER_PASSWORD_EDIT	ログインパスワード変更
監視	-	ROLE_MONITORING_SHOW※2	監視設定参照
		ROLE_MONITORING_EDIT※2	監視設定変更
		ROLE_MONITORING_DELETE※2	監視設定削除
		ROLE_MONITORING_OPERATE※2	監視操作
		ROLE_MONITORING_ALERT_SHOW※2	メッセージ参照
		ROLE_MONITORING_ALERT_OPERATE※2	メッセージ操作

表 B-4　リクエスト承認者が保有する権限一覧

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
リクエスト	リクエスト管理	ROLE_REQUEST_APPROVE	リクエストの承認
		ROLE_REQUEST_REJECT	リクエストの却下
		ROLE_DASHBOARD_UNAPPROVED_REQUEST_SHOW	ダッシュボード中の未承認リクエストの表示

表 B-5　基本ユーザが保有する権限一覧

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
ダッシュボード	-	ROLE_DASHBOARD_MENU_SHOW	ダッシュボードメニューの表示
ログインユーザ操作	-	ROLE_LOGINUSER_DETAIL_SHOW	ログインユーザ詳細表示
ユーザ管理基盤	ユーザ管理	ROLE_BASE_USER	基本ユーザ権限

ヒント

- ※1 トポロジーテンプレートオーケストレータオプションライセンス有効時のみ利用可能
- ※2 監視ライセンス有効時のみ利用可能
- ※3 ネットワークプロビジョニングライセンス有効時のみ利用可能

B.2　カスタムロールにて使用可能な権限

カスタムロールにて使用できる権限の一覧を以下に記載します。

表 B-6　権限の一覧

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
ダッシュボード	-	ROLE_DASHBOARD_MENU_SHOW	ダッシュボードメニューの表示
		ROLE_DASHBOARD_NOTIFY_SHOW	ダッシュボード中のお知らせの表示
リクエスト	-	ROLE_SERVER_SERVICE_MENU_SHOW	リクエストメニューの表示
	リクエスト管理	ROLE_REQUEST_MENU_SHOW	リクエスト管理サブメニューの表示
		ROLE_REQUEST_LIST_SHOW	リクエスト一覧の表示
		ROLE_REQUEST_DETAIL_SHOW	リクエスト詳細の表示
		ROLE_REQUEST_CREATE	リクエストの作成
		ROLE_REQUEST_APPROVE	リクエストの承認
		ROLE_REQUEST_AGENCY_APPROVE	リクエストの代理承認
		ROLE_REQUEST_REJECT	リクエストの却下
		ROLE_REQUEST_AGENCY_REJECT	リクエストの代理却下
		ROLE_REQUEST_REAPPLY	リクエスト再申請
		ROLE_REQUEST_EXECUTE	リクエストの実行
		ROLE_REQUEST_CANCEL	リクエストのキャンセル
		ROLE_REQUEST_SERVER_CREATE	サーバの作成
		ROLE_REQUEST_SERVER_EDIT	サーバの変更
		ROLE_REQUEST_SERVER_DELETE	サーバの削除
		ROLE_REQUEST_SERVER_REFER	サーバの引用
		ROLE_REQUEST_NETWORK_CREATE※3	ネットワークの作成
		ROLE_REQUEST_NETWORK_DELETE※3	ネットワークの削除
		ROLE_REQUEST_STACK_CREATE※1	スタック作成
		ROLE_REQUEST_STACK_DELETE※1	スタック削除

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
	ROLE_DASHBOARD_UNAPPROVED_REQUEST_SHOW	ダッシュボード中の未承認リクエストの表示	
	承認フロー設定	ROLE_APPROVALFLOW_MENU_SHOW	承認フロー設定メニューの表示
		ROLE_APPROVALFLOW_LIST_SHOW	承認フロー一覧表示
		ROLE_APPROVALFLOW_EDIT	承認フロー設定変更
	メール通知設定	-	メール通知設定メニューの表示
		ROLE_MAILNOTICE_LIST_SHOW	メール通知設定一覧表示
		ROLE_MAIL_NOTICE_EDIT	メール通知設定変更
テナント情報	-	ROLE_TENANT_INFO_MENU_SHOW	テナント情報メニューの表示
	テナント管理	ROLE_TENANT_MENU_SHOW	リクエスト管理サブメニューの表示
		ROLE_TENANT_LIST_SHOW	テナント一覧の表示
		ROLE_TENANT_DETAIL_SHOW	テナント詳細表示
		ROLE_TENANT_EDIT	テナント変更
	ユーザ管理	ROLE_USER_MENU_SHOW	ユーザ管理メニューの表示
		ROLE_USER_LIST	ユーザ一覧表示
		ROLE_USER_DETAIL	ユーザ詳細表示
		ROLE_USER_CREATE	ユーザ登録
		ROLE_USER_EDIT	ユーザ変更
		ROLE_USER_DELETE	ユーザ削除
リソース管理	-	ROLE_RESOURCE_MENU_SHOW	リソース管理メニューの表示
	リソース状況	ROLE_RESOURCE_STATUS_MENU_SHOW	リソース状況サブメニューの表示
		ROLE_RESOURCE_STATUS_SHOW	リソース状況表示
	業務グループ管理	ROLE_WORKGROUP_MENU_SHOW	業務グループ管理サブメニューの表示
		ROLE_GROUP_DISPLAY	業務グループ表示
		ROLE_GROUP_CREATE	業務グループ追加
		ROLE_GROUP_EDIT	業務グループ編集
		ROLE_GROUP_DELETE	業務グループ削除
		ROLE_GROUP_MOVE	サーバの業務グループ変更

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
	トポロジー表示	ROLE_TOPOLOGY_SHOW	トポロジー表示サブメニューの表示
		ROLE_TOPOLOGY_NETWORK_NAME_EDIT	ネットワーク表示名変更
	サーバ管理	ROLE_SERVER_MENU_SHOW	サーバ管理サブメニューの表示
		ROLE_SERVER_LIST_SHOW	サーバ一覧表示
		ROLE_SERVER_DETAIL_SHOW	サーバ詳細表示
		ROLE_SERVER_PERFORM_SHOW	サーバ性能情報表示
		ROLE_SERVER_SCREENSHOT_SHOW	サーバスクリーンショット表示
		ROLE_SERVER_STARTUP	サーバ起動
		ROLE_SERVER_SHUTDOWN	サーバシャットダウン
		ROLE_SERVER_POWEROFF	サーバ電源オフ
		ROLE_SERVER_REBOOT	サーバ再起動
		ROLE_SERVER_GENERIC_OPERATION	サーバカスタムオペレーション
		ROLE_SERVER_VM_CONSOLE	VM コンソール
		ROLE_SERVER_SYNCHRONIZE	同期
	ネットワーク管理	ROLE_NETWORK_MENU_SHOW※3	ネットワーク管理サブメニューの表示
		ROLE_NETWORK_LIST_SHOW※3	ネットワーク一覧表示
		ROLE_NETWORK_DETAIL_SHOW※3	ネットワーク詳細表示
		ROLE_NETWORK_SYNCHRONIZE	同期実行
	運用作業履歴	ROLE_OPERATIONHISTORY_MENU_SHOW	運用作業履歴サブメニューの表示
		ROLE_OPERATIONHISTORY_LIST_SHOW	運用作業履歴一覧表示
		ROLE_OPERATIONHISTORY_DETAIL_SHOW	運用作業履歴詳細表示
スタック管理	-	ROLE_STACK_LIST_SHOW※1	スタック一覧表示
		ROLE_STACK_DETAIL_SHOW※1	スタック詳細表示

大分類	小分類	権限名	利用可能になる機能
サービス管理	-	ROLE_SERVICE_MENU_SHOW	サービス管理メニューの表示
	お知らせ管理	ROLE_NOTICE_MENU_SHOW	お知らせ管理サブメニューの表示
		ROLE_NOTICE_LIST_SHOW	お知らせ一覧表示
		ROLE_NOTICE_DETAIL_SHOW	お知らせ詳細表示
		ROLE_NOTICE_CREATE	お知らせ登録
		ROLE_NOTICE_EDIT	お知らせ変更
		ROLE_NOTICE_DELETE	お知らせ削除
	設定	ROLE_SETTING_MENU_SHOW	設定メニューの表示
	ログインユーザ操作	ROLE_LOGINUSER_DETAIL_SHOW	ログインユーザ詳細表示
		ROLE_LOGINUSER_EDIT	ログインユーザ変更
		ROLE_LOGINUSER_PASSWORD_EDIT	ログインパスワード変更
	監視	ROLE_MONITORING_SHOW※2	監視設定、監視結果の参照
		ROLE_MONITORING_EDIT※2	監視設定変更
		ROLE_MONITORING_OPERATE※2	監視操作
		ROLE_MONITORING_ALERT_SHOW※2	メッセージ参照
		ROLE_MONITORING_AGENT_MANAGEMENT※2	エージェント管理
		ROLE_MONITORING_AGENT_DELETE※2	エージェント削除

ヒント

- ※1 トポロジーテンプレートオーケストレータオプションライセンス有効時のみ利用可能
- ※2 監視ライセンス有効時のみ利用可能
- ※3 ネットワークプロビジョニングライセンス有効時のみ利用可能

用語集

英文

■ I

■ IaaS 利用者

IaaS のサービスを利用する人や組織。提供された仮想コンピュータの管理者、利用者、運用者を含む。

■ ID 管理サーバ

サービスプロバイダのログインアカウント、テナントに払い出した NW 機器へのログインアカウントを統一して管理するサーバ。

■ R

■ RESTful API

URL/URI でリソースを一意に識別し、Web サーバとのやり取りがステートレスで実現された API

■ S

■ SigmaSystemCenter

WebSAM SigmaSystemCenter（SSC）。

仮想化マシンを操作する外部プロビジョニングプロバイダの一つ。

■ V

■ VM テンプレート

テナントがサーバサービスカタログから利用できる仮想マシンの雛形。

和文

■ あ

■ 運用作業履歴

仮想マシンに対しての操作履歴。

■ お知らせ

ユーザに対して通知する情報。

■ か

■ 権限

各種機能への操作許可を示したもの。

■ さ

■ サーバ

仮想マシンを示す。

■ サーバ情報

仮想マシンの情報(vCPU 数、メモリ、ハードディスク等)。

■ サービスプロバイダ

vDC Automation Standard Edition ポータルを運用してサービスを提供する事業者。

■ サーバサービスカタログ

サービスプロバイダがテナント向けに提供するサービスのリスト。

■ 削除済みサーバ

プロビジョニングプロバイダで既に削除済みのサーバだが、vDC Automation Standard Edition ポータル上は削除されていないサーバを示す。

■ システム管理者

システム管理権限が付与されたユーザ。

■ た

■ テナント

サービスプロバイダとの利用契約のもとでサービスを利用する組織、エンドユーザ

■ テナント管理者

テナント管理権限が付与されたユーザ。

■ テナント代行

システム管理者が一時的にあるテナントに所属することが可能な機能。

■ テナントユーザ

テナントユーザ権限が付与されたユーザ。

■ は

■ プロビジョニングプロバイダ

仮想マシンを操作する機能。

■ や

■ ユーザ

テナントに所属し、本システムを使用する。

■ ら

■ リクエスト承認者

リクエスト承認権限が付与されたユーザ。

■ リクエスト

仮想マシン、ネットワークの操作要求情報(作成、変更、削除)。

■ リソースプール

仮想マシンが使用するリソースをまとめたもの。

■ 論理ネットワーク

仮想マシン上で使用する論理的なネットワーク。